財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第３５５集

横壁中村遺跡（２）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第５集

２００５

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

横壁中村遺跡（2）

八ッ場ダム建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第５集

2005

国　土　交　通　省
財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

横壁中村遺跡遠景（北から）　手前を流れる吾妻川との比高差は30m以上ある。

20区34号住居全景（北東から）　炉の奥に黄色ローム質土の貼床が見える。

20区34号住居石囲い炉　左上隅に石棒が立つ。

20区34号住居　南西壁際の長方形配石と伏甕(5)

20区34号住居　柱穴と伏甕(2・9・13)

20区34号住居　東壁際床西の伏甕(1)

20区42号住居全景（南東から）　主柱穴内側に黄色ローム質土の貼り床を施す。

20区42号住居石囲い炉　左下隅に石棒が立つ。

20区42号住居　石囲い炉の隅に立てた石棒。

20区22号住居石囲い炉　上方隅部に石棒が立つ。

20区56号住居石囲い炉　中央に埋設土器を伴う。

20区８号住居－１

20区６号住居－７

20区34号住居－10

20区34号住居－14

20区５号住居－７

土偶（20区６号住居－42）

土偶（20区13号住居－11）

土偶（20区60号住居－13）

彩文土器（20区56号住居－36）

彩文土器（20区10号住居－29）

彩文土器（20区42号住居－74）

彩色土器（20区13号住居－10）

彩文土器（20区８号住居－115）

ヒスイ製大珠（20区42号住居－100）

序

八ツ場ダムは、首都圏の利水および治水を目的として計画され、現在は吾妻郡長野原町を中心に工事が進められています。

八ツ場ダムの建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、当事業団が平成６年度から実施し、本年度で11年目を迎えます。横壁中村遺跡は平成８年度から発掘調査が開始され、平成17年度以降も調査の継続が予定されており、長期にわたる大規模な調査となりました。また調査された遺構や遺物は本遺跡が縄文時代を中心とする、非常に大きく、また長く続いた集落であることを示しております。これら膨大な資料を整理し報告する作業は平成15年度から開始され、今回は縄文時代中期の住居跡49軒に関する報告を纏めることができました。本書は縄文時代の集落の構造を考える上で、また長野県、新潟県地域との広域な交流を考える上で重要な資料となると考えております。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、国土交通省八ツ場ダム工事事務所、群馬県教育委員会、および長野原町教育委員会をはじめとする関係機関や地元関係者のみなさまには、多大なるご尽力を賜りました。本報告書を上梓するにあたり、衷心より感謝申し上げます。

また本書が吾妻郡内、ひいては群馬県の歴史を解明する上で末永く活用されることを願い序といたします。

平成17年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小野　宇三郎

例言

1　本書は、八ツ場ダム建設工事に伴う事前調査として、平成８年度から実施されている「横壁中村遺跡」の発掘調査報告書である。横壁中村遺跡の発掘調査報告書は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第319集『久々戸遺跡・中棚Ⅱ遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡』として既に刊行されており、天明泥流堆積物下の遺構が報告されている。

本書は横壁中村遺跡20区で検出された縄文時代中期竪穴住居49軒を取り扱っており、横壁中村遺跡の発掘調査報告書２冊目である。

2　横壁中村遺跡は群馬県吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂530他に所在し、長野原町教育委員会と協議の結果、本遺跡名が決定された。

3　本発掘調査は、群馬県教育委員会の調整に基づき、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が国土交通省（平成13年１月までは建設省）の委託を受けて実施した。実際の調査において、平成14年度からは財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に八ツ場ダム地域埋蔵文化財調査を目的に設置された八ツ場ダム調査事務所が担当した。

4　調査期間は平成８年４月１日から平成17年７月31日であるが、平成17年度以降も調査は継続する見込みである。

5　発掘調査組織は下記の通りである。

（１）発掘調査担当者

平成８年度　主幹兼専門員　綿貫邦男、専門員　榛沢健二、主任調査研究員　関俊明

平成９年度　主幹兼専門員　小野和之、専門員　榛沢健二、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志

平成10年度　主幹兼専門員　小野和之、専門員　児島良昌、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志

平成11年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志、久保学、石田真

平成12年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、専門員　田村公夫、主任調査研究員　関俊明、調査研究員　松原孝志、久保学、石田真、小林大悟

平成13年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、主任調査研究員　渡辺弘幸、池田政志、調査研究員　石坂聡、諸田康成、斎藤幸男

平成14年度　主幹兼専門員　藤巻幸男、専門員　池田政志、主任調査研究員　岡部豊、松原孝志、阿久津聡、唐沢友之、調査研究員　石田真

平成15年度　専門員　藤巻幸男、廣津英一、渡辺弘幸、池田政志、主任調査研究員　阿久津聡、唐沢友之、調査研究員　石田真

平成16年度　専門員　渡辺弘幸、主任調査研究員　阿久津聡

（２）事務担当者

平成８年度　理事長　小寺弘之、常務理事　菅野清、事務局長　原田恒弘、管理部長　蜂巣実、調査研究第１部長　赤山容造、調査研究第２課長　岸田治男、総務課長　小渕淳、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　国定均、主任　須田朋子、吉田有光、柳

宏、主事　宮崎忠司

平成９年度　理事長　小寺弘之、常務理事　菅野清、事務局長　原田恒弘、副事務局長兼調査研究第１部長　赤山容造、管理部長　渡辺健、調査研究第２課長　能登健、総務課長　小渕淳、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　井上剛、主任　須田朋子、吉田有光、柳岡良宏、主事　岡島伸昌、宮崎忠司

平成10年度　理事長　菅野清、常務理事兼事務局長兼調査研究第１部長　赤山容造、管理部長　渡辺健、調査研究第２課長　能登健、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、主任　吉田有光、柳岡良宏、岡島伸昌、主事　宮崎忠司

平成11年度　理事長　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究第１部長　神保侑史、調査研究第１課長　能登健、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、主任　柳岡良宏、岡島伸昌、主事　片岡徳雄

平成12年度　理事長　小野宇三郎、常務理事兼事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究第２部長　能登健、調査研究第５課長　飯島義雄、総務課長　坂本敏夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、主任　柳岡良宏、森下弘美、主事　片岡徳雄

平成13年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　吉田豊、事務局長　赤山容造、管理部長　住谷進、調査研究部長　能登健、調査研究第４課長　下条正、総務課長　大島信夫、総務課総務係長　笠原秀樹、経理係長　小山建夫、係長代理　須田朋子、吉田有光、森下弘美、主事　片岡徳雄

平成14年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　吉田豊、事業局長　神保侑史、管理部長　萩原利通八ツ場ダム調査事務所長　水田稔、調査研究部長　津金澤吉茂、調査研究課長　下条正、庶務係長　野口富太郎、主事　矢嶋知恵子

平成15年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　住谷永市、事業局長　神保侑史、管理部長　萩原利通、八ツ場ダム調査事務所長　水田稔、調査研究部長　津金澤吉茂、調査研究課長　斎藤和之、庶務係長　野口富太郎、主事　丸山知恵子

平成16年度　理事長　小野宇三郎、常務理事　住谷永市、事業局長　神保侑史、管理部長　矢崎俊夫、八ツ場ダム調査事務所長　巾隆之、調査研究部長　佐藤明人、調査研究課長　斎藤和之、庶務係長　野口富太郎、主事　富沢よねこ

6　整理期間は平成15年４月１日から平成17年３月31日である。

7　整理組織は下記の通りである。

（１）整理担当者

平成15年度　専門員　藤巻幸男

平成16年度　専門員　池田政志

（２）事務担当者は発掘調査組織と同一である。

8　本報告書作成の担当

編集　藤巻幸男、池田政志

本文執筆　藤巻幸男（序章第５節、第１章第１節）、池田政志（前記以外）

遺構写真撮影　各調査担当者

遺物写真撮影　佐藤元彦

機械実測　富沢スミ江　伊東博子　岸弘子　廣津真希子

委託関係　遺構測量および空中写真　株式会社測研

遺構図デジタル編集　株式会社測研

整理補助　平成15年度　鈴木幹子　水出園江　吉澤新二郎　岡田隆行　茂木恵理子

平成16年度　水出園江　吉澤新二郎　岡田隆行　茂木恵理子　武藤裕子　霜田順子

9　本報告書では群馬・埼玉両県教育委員会教育長が取り交わした「埋蔵文化財保護の協力に関する協定書」に基づき、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が八ツ場ダム建設工事に伴う横壁中村遺跡埋蔵文化財整理事業を担当している。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団における担当者は、主席調査員　金子直行である。

10　出土遺物及び記録図・写真などの記録類は、すべて群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

11　発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の機関、諸氏から貴重なご教示やご指導をいただいた。記して感謝の意を表したい。（敬称省略、五十音順）

国土交通省関東地方建設局八ツ場ダム工事事務所　長野原町教育委員会

飯島義雄　石田真　大竹幸恵　金子直行　小池岳史　佐藤雅一　白石光男　寺内隆夫　富田孝彦

能登健　萩原昭朗　平林彰　福島永　松島榮治　綿田弘実　渡辺清志

凡例

- 挿図中に使用した方位は、座標北を表している。本書で使用する測量図の座標はすべて、2002年４月改正以前の日本測地系を用いている。
- 遺構図の縮尺については、住居の全体にかかる図は１/60、住居内の炉等、個別の図は１/30である。
- 遺構番号は、調査時の番号を用いている。今回の報告は、縄文時代中期の竪穴住居を対象としているため、遺構番号は連続しない。また、発掘調査中、整理作業中に住居と認定できないものもあり、これらも欠番としている。
- 遺構図面中における遺物番号は遺物実測図の番号と一致する。また、●は土器、▲は石器の出土位置を表しており、図示した遺物でこの表示のない遺物、遺構図中に番号のない遺物は出土位置を記録しなかったものである。
- 遺物図の縮尺は土器実測図は１/４、土器拓本は１/３、石器１/３を原則としたが、これ以外の縮尺を用いている場合も多い。その場合は各遺物実測図に記したので参照していただきたい。
- 写真図版中の遺物の縮尺は、概ね遺物実測図と同縮尺とした。
- 遺物観察表、石器計測表の記載方法は下記の通りである。
  （１）土器の計測値の単位は㎝である。
  （２）石器の計測値の単位は㎜である。
  （３）石器類の重量はすべて残存値であり、単位はｇである。
  （４）色調については、農林水産省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修の新版標準土色帖に基づいている。
- 石器実測図における白抜き部は、磨り面を表す。

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
図版目次
表目次

序章

第１節　発掘に至る経緯 …… 1
第２節　発掘調査の経過 …… 2
第３節　調査の方法 …… 4
第４節　周辺の環境
（１）地理的環境 …… 5
（２）歴史的環境 …… 5
第５節　遺跡の概要
遺構、遺物の概要 …… 11
第６節　遺跡の概要
基本層序 …… 12

第１章　発見された遺構と遺物

第１節　竪穴住居について …… 13
第２節　遺物観察表 …… 41
第３節　遺構図 …… 91
第４節　遺物実測図 …… 138

抄録

写真図版

挿図目次

第 1 図　年度別調査区　全体図
第 2 図　遺跡位置及び周辺遺跡図
第 3 図　遺構全体図
第 4 図　横壁中村遺跡基本土層
第 5 図　20区　中期住居出土土器分類グラフ
第 6 図　20区　中期住居出土石器総点数

図 1　20区　住居全体図
図 2　20区　2号、3号、4号住居
図 3　20区　5号住居
図 4　20区　5号住居遺物出土状況図
図 5　20区　6号、7号住居
図 6　20区　8号住居
図 7　20区　10号住居
図 8　20区　10号住居遺物出土状況図
図 9　20区　12号住居
図 10　20区　13号、14号住居
図 11　20区　13号、14号、15号住居
図 12　20区　16号、20号住居
図 13　20区　17号住居
図 14　20区　17号住居遺物出土状況図
図 15　20区　18号、21号住居
図 16　20区　22号住居
図 17　20区　23号住居
図 18　20区　24号住居
図 19　20区　25号住居
図 20　20区　30号、35号、36号住居
図 21　20区　34号住居
図 22　20区　34号住居遺物出土状況図
図 23　20区　34号住居炉
図 24　20区　34号住居配石と伏甕
図 25　20区　34号住居配石と柱
図 26　20区　37号、38号住居
図 27　20区　41号、42号、43号住居重複関係図
図 28　20区　41号住居
図 29　20区　42号住居
図 30　20区　42号住居(炉、埋甕)
図 31　20区　43号住居
図 32　20区　43号住居遺物出土状況図
図 33　20区　43号住居(掘り方)
図 34　20区　44号住居
図 35　20区　48号、49号住居
図 36　20区　50号住居
図 37　20区　51号住居
図 38　20区　51号住居遺物出土状況図
図 39　20区　53号、54号住居
図 40　20区　55号住居
図 41　20区　56号住居
図 42　20区　57号、58号住居
図 43　20区　60号住居
図 44　20区　60号、62号、64号住居
図 45　20区　66号、67号住居
図 46　20区　66号住居
図 47　20区　65号、69号、76号住居
図 48　20区　2号住居出土遺物
図 49　20区　2号、3号住居出土遺物
図 50　20区　3号、4号住居出土遺物
図 51　20区　5号住居出土遺物
図 52　20区　5号住居出土遺物
図 53　20区　5号住居出土遺物
図 54　20区　5号住居出土遺物
図 55　20区　5号住居出土遺物
図 56　20区　5号住居出土遺物
図 57　20区　5号住居出土遺物
図 58　20区　5号住居出土遺物
図 59　20区　5号住居出土遺物
図 60　20区　5号住居出土遺物
図 61　20区　6号住居出土遺物
図 62　20区　6号住居出土遺物
図 63　20区　6号住居出土遺物
図 64　20区　6号住居出土遺物
図 65　20区　8号住居出土遺物
図 66　20区　8号住居出土遺物
図 67　20区　8号住居出土遺物
図 68　20区　8号住居出土遺物
図 69　20区　8号住居出土遺物
図 70　20区　8号住居出土遺物
図 71　20区　8号、10号住居出土遺物
図 72　20区　10号住居出土遺物
図 73　20区　10号住居出土遺物
図 74　20区　10号、12号住居出土遺物
図 75　20区　12号住居出土遺物
図 76　20区　13号住居出土遺物
図 77　20区　14号、15号住居出土遺物
図 78　20区　16号、17号住居出土遺物
図 79　20区　17号住居出土遺物
図 80　20区　17号住居出土遺物
図 81　20区　17号住居出土遺物
図 82　20区　17号住居出土遺物
図 83　20区　17号住居出土遺物
図 84　20区　17号住居出土遺物
図 85　20区　18号住居出土遺物
図 86　20区　18号住居出土遺物
図 87　20区　20号、21号住居出土遺物
図 88　20区　22号住居出土遺物
図 89　20区　22号住居出土遺物
図 90　20区　23号住居出土遺物
図 91　20区　24号住居出土遺物
図 92　20区　24号住居出土遺物
図 93　20区　24号、25号住居出土遺物
図 94　20区　25号、30号、34号住居出土遺物
図 95　20区　34号住居出土遺物
図 96　20区　34号住居出土遺物
図 97　20区　34号住居出土遺物
図 98　20区　34号住居出土遺物
図 99　20区　35～37号住居出土遺物
図100　20区　37号、38号住居出土遺物
図101　20区　38号住居出土遺物
図102　20区　38号住居出土遺物
図103　20区　38号住居出土遺物
図104　20区　41号住居出土遺物
図105　20区　41号住居出土遺物
図106　20区　42号住居出土遺物
図107　20区　42号住居出土遺物
図108　20区　42号住居出土遺物
図109　20区　42号住居出土遺物
図110　20区　42号住居出土遺物
図111　20区　42号住居出土遺物
図112　20区　42号住居出土遺物
図113　20区　43号住居出土遺物
図114　20区　43号住居出土遺物
図115　20区　43号住居出土遺物

図116　20区　43号住居出土遺物
図117　20区　43号住居出土遺物
図118　20区　43号、44号住居出土遺物
図119　20区　44号、48号住居出土遺物
図120　20区　48号、49号住居出土遺物
図121　20区　50号、51号住居出土遺物
図122　20区　51号住居出土遺物
図123　20区　51号住居出土遺物
図124　20区　53号住居出土遺物
図125　20区　53号住居出土遺物
図126　20区　54～56号住居出土遺物
図127　20区　56号住居出土遺物
図128　20区　56号住居出土遺物
図129　20区　56～58号住居出土遺物
図130　20区　60号住居出土遺物
図131　20区　60号、62号、64号住居出土遺物
図132　20区　64号、65号住居出土遺物
図133　20区　65号、66号住居出土遺物
図134　20区　66号、67号住居出土遺物
図135　20区　67号、76号住居出土遺物

図版目次

ＰＬ１　1　横壁中村遺跡遠景（北から）
　　2　20区　近景（東から）
ＰＬ２　1　20区　近世石垣の調査（西から）
　　2　20区　縄文時代の調査状況（北西から）
ＰＬ３　1　20区　２号住居確認状況（北から）
　　2　20区　２号住居覆土上層の礫群（東から）
　　3　20区　２号住居覆土下層の礫群（東から）
　　4　20区　２号住居遺物出土状況（南東から）
　　5　20区　２号住居遺物出土状況（東から）
　　6　20区　２号住居炉の調査
　　7　20区　２号住居炉完掘（南西から）
　　8　20区　３号住居炉の残存状況（南から）
ＰＬ４　1　20区　４号住居遺物出土状況（北西から）
　　2　20区　４号住居全景（北から）
　　3　20区　４号住居炉掘り方全景（北から）
　　4　20区　５号住居覆土中の礫群の状況（西から）
　　5　20区　５号住居遺物出土状況（北から）
　　6　20区　５号住居埋没土の状況（北から）
　　7　20区　５号住居遺物出土状況（西から）
　　8　20区　５号住居炉の埋没状況（西から）
ＰＬ５　1　20区　５号住居炉全景（西から）
　　2　20区　５号住居石棒（83）出土状況
　　3　20区　６号住居確認状況（東から）
　　4　20区　６号住居覆土上層の礫群（東から）
　　5　20区　６号住居覆土上層の礫群（近接）
　　6　20区　６号住居覆土下層の礫群（東から）
　　7　20区　６号住居全景（北から）
　　8　20区　６号住居全景（南から）
ＰＬ６　1　20区　６号住居炉の埋没状況
　　2　20区　６号住居炉全景（東から）
　　3　20区　６号住居床面に伏せた浅鉢（６）
　　4　20区　６号住居石棒（48）出土状況
　　5　20区　７号住居炉全景
　　6　20区　８号住居確認状況（北東から）
　　7　20区　８号住居覆土中の遺物・礫
　　8　20区　８号住居遺物出土状況（南東から）
ＰＬ７　1　20区　10号住居確認状況（北から）
　　2　20区　10号住居全景（西から）
　　3　20区　10号住居遺物出土状況（北東から）
　　4　20区　10号住居遺物出土状況（東から）
　　5　20区　10号住居土器を伴う方形配石（北西から）
　　6　20区　10号住居方形配石内の土器
　　7　20区　10号住居遺物出土状況（近接）
　　8　20区　10号住居炉全景（北東から）
ＰＬ８　1　20区　12号住居炉確認状況
　　2　20区　12号住居炉全景（北東から）
　　3　20区　12号住居全景（北東から）
　　4　20区　13号住居全景（北から）
　　5　20区　13号住居遺物出土状況（北から）
　　6　20区　13号住居炉全景（北から）
　　7　20区　14号住居全景（北から）
　　8　20区　14号住居炉全景（北から）
ＰＬ９　1　20区　16号住居確認状況（西から）
　　2　20区　16号住居炉の埋没状況
　　3　20区　16号住居炉全景（北から）
　　4　20区　16号住居炉内埋設土器
　　5　20区　20号住居炉全景（西から）
　　6　20区　20号住居炉内埋設土器
　　7　20区　17号住居確認状況（南から）
　　8　20区　17号住居覆土上層の遺物出土状況（南から）
ＰＬ10　1　20区　17号住居覆土上層の遺物出土状況（近接）
　　2　20区　17号住居覆土下層の遺物出土状況（南から）
　　3　20区　17号住居出入口部埋甕に伴う蓋石の確認状況
　　4　20区　17号住居出入口部埋甕
　　5　20区　17号住居出入口部埋甕の埋設状況
　　6　20区　17号住居出入口部埋甕掘り方
　　7　20区　17号住居全景（南東から）
　　8　20区　17号住居炉全景（南東から）
ＰＬ11　1　20区　18号住居全景（東から）
　　2　20区　18号住居遺物出土状況（東から）
　　3　20区　21号住居全景（南東から）
　　4　20区　21号住居炉の埋没状況
　　5　20区　21号住居炉全景（南から）
　　6　20区　21号住居炉内埋設土器
　　7　20区　22号住居全景（南東から）
　　8　20区　22号住居炉の埋没状況（南東から）
ＰＬ12　1　20区　22号住居炉全景（西から）
　　2　20区　22号住居炉の掘り方と埋設土器
　　3　20区　22号住居炉内埋設土器（近接）
　　4　20区　23号住居確認状況（東から）
　　5　20区　23号住居奥壁の礫群（北から）
　　6　20区　23号住居全景（北東から）
　　7　20区　23号住居山側の床面敷石（北東から）
　　8　20区　23号住居柱穴確認状況（北東から）
ＰＬ13　1　20区　23号住居炉内埋設土器
　　2　20区　23号住居炉内埋設土器の断面
　　3　20区　23号住居炉内埋設土器（２号）
　　4　20区　23号住居炉内埋設土器（１号）
　　5　20区　24号住居遺物・礫の出土状況（南西から）
　　6　20区　24号住居遺物・礫の出土状況（南東から）
　　7　20区　24号住居炉周辺の遺物出土状況（東から）
　　8　20区　24号住居奥壁の遺物出土状況（南東から）
ＰＬ14　1　20区　24号住居出入り口部埋甕と石棒（北東から）
　　2　20区　24号住居全景（南西から）
　　3　20区　24号住居炉確認状況（南西から）
　　4　20区　24号住居炉（南西から）
　　5　20区　24号住居出入り口部埋甕（東から）
　　6　20区　24号住居出入り口部埋甕（東から）
　　7　20区　25号住居全景（北東から）
　　8　20区　25号住居柱穴確認状況（北東から）
ＰＬ15　1　20区　25号住居炉の埋没状況

	2	20区	25号住居炉（南から）
	3	20区	30号住居確認状況（南から）
	4	20区	30号住居掘り方調査（南から）
	5	20区	30号住居炉内埋設土器（南から）
	6	20区	30号住居炉内埋設土器
	7	20区	34号住居　住居東側遺物出土状況（北から）
	8	20区	34号住居伏甕確認状況（9・13）
ＰＬ16	1	20区	34号住居遺物出土状況（西から）
	2	20区	34号住居伏甕確認状況（9・13）
	3	20区	34号住居伏甕確認状況（9・13）
	4	20区	34号住居伏甕（2・9・13）と柱穴
	5	20区	34号住居伏甕確認状況（1）
ＰＬ17	1	20区	34号住居　住居西側遺物出土状況（北から）
	2	20区	34号住居主要土器（10・12）出土状況
	3	20区	34号住居主要土器（10）出土状況
	4	20区	34号住居主要土器（12）出土状況
	5	20区	34号住居全景（北東から）
ＰＬ18	1	20区	34号住居方形配石確認状況（北東から）
	2	20区	34号住居方形配石確認状況
	3	20区	34号住居１号方形配石（西から）
	4	20区	34号住居１号方形配石（北から）
	5	20区	34号住居伏甕（5）確認状況
	6	20区	34号住居貼り床面と伏甕（5）
	7	20区	34号住居主要土器（14）出土状況
	8	20区	34号住居１号方形配石と主要土器（14）
ＰＬ19	1	20区	34号住居貼り床面と方形配石（北から）
	2	20区	34号住居１号方形配石（北から）
	3	20区	34号住居１号方形配石（近接）
	4	20区	34号住居１号方形配石　石下の状況
	5	20区	34号住居２号方形配石（北から）
	6	20区	34号住居２号方形配石
	7	20区	34号住居２号方形配石（近接）
	8	20区	34号住居２号方形配石　石下の状況
ＰＬ20	1	20区	34号住居炉埋没状況
	2	20区	34号住居炉の大きさ
	3	20区	34号住居炉全景（上から）
	4	20区	34号住居炉全景（北東から）
	5	20区	34号住居炉の角に設置された石棒（北から）
	6	20区	34号住居石棒設置状況（南から）
	7	20区	34号住居２号炉（旧炉）確認状況（東から）
	8	20区	34号住居炉掘り方（南東から）
ＰＬ21	1	20区	35号住居確認状況（西から）
	2	20区	35号住居炉埋設土器の確認状況（南から）
	3	20区	35号住居炉埋設土器内の埋没土
	4	20区	35号住居炉埋設土器の埋設状況
	5	20区	36号住居炉周辺の状況（西から）
	6	20区	36号住居炉（西から）
	7	20区	37号住居全景（南西から）
	8	20区	37号住居炉周辺の遺物出土状況（南から）
ＰＬ22	1	20区	38号住居確認状況（南西から）
	2	20区	38号住居遺物出土状況（東から）
	3	20区	38号住居全景（東から）
	4	20区	38号住居掘り方（西から）
	5	20区	41号住居遺物・礫出土状況（北西から）
	6	20区	41号住居遺物・礫出土状況（南東から）
	7	20区	41号住居遺物・礫出土状況（近接）
	8	20区	41号住居炉（北東から）
ＰＬ23	1	20区	41、42、43号住居確認状況（南西山側から）
	2	20区	42号住居確認状況（西から）
	3	20区	42号住居南半部の遺物出土状況（西から）
	4	20区	42号住居43号住居との重複部（南から）
	5	20区	42号住居全景（南東から）
ＰＬ24	1	20区	42号住居全景（南西から）
	2	20区	42号住居貼り床状況（南西から）
	3	20区	42号住居炉辺の状況（北東から）
	4	20区	42号住居炉の埋没土
	5	20区	42号住居炉全景　手前左手角に石棒
ＰＬ25	1	20区	42号住居炉の東角に設置された石棒
	2	20区	42号住居炉内から石棒を見る
	3	20区	42号住居石棒設置状況
	4	20区	42号住居石棒設置状況
	5	20区	42号住居石棒設置状況
	6	20区	42号住居炉掘り方
	7	20区	42号住居南東壁際の出入り口部埋甕
	8	20区	42号住居埋甕の設置状況
ＰＬ26	1	20区	43号住居覆土中の礫の確認状況　炉は41住
	2	20区	43号住居全形確認状況（東から）
	3	20区	43号住居覆土中の礫
	4	20区	43号住居覆土中の礫（2面目）
	5	20区	43号住居全景（南東から）
	6	20区	43号住居炉（南東から）
	7	20区	43号住居炉（北東から）
	8	20区	43号住居掘り方（南東から）
ＰＬ27	1	20区	44号住居全景（北から）
	2	20区	44号住居全景（東から）
	3	20区	44号住居炉（北から）
	4	20区	44号住居炉（西から）
	5	20区	48号住居全景（北東から）
	6	20区	48号住居炉（北東から）
	7	20区	49号住居全景（北西から）
	8	20区	49号住居炉（北から）
ＰＬ28	1	20区	49号住居掘り方調査状況
	2	20区	50号住居全景（北東から）
	3	20区	50号住居炉確認状況　上の炉は48号住居
	4	20区	50号住居炉（北東から）
	5	20区	51号住居遺物出土状況（西から）
	6	20区	51号住居遺物出土状況（北西から）
	7	20区	51号住居遺物出土状況（10近接）
	8	20区	51号住居遺物出土状況（10近接）
ＰＬ29	1	20区	51号住居土器群の下の礫群
	2	20区	51号住居全景（南から）
	3	20区	51号住居　住居輪郭に並ぶ礫（北西から）
	4	20区	51号住居炉
	5	20区	51号住居石皿（20）出土状況
	6	20区	53号住居確認状況（北西から）手前は60住
	7	20区	53号住居遺物出土状況（北西から）
	8	20区	53号住居全景（北から）
ＰＬ30	1	20区	54号住居確認状況（北西から）
	2	20区	54号住居確認状況（近接）
	3	20区	54号住居調査状況（北西から）
	4	20区	54号住居全景（南から）
	5	20区	54号住居炉確認状況（南西から）
	6	20区	54号住居炉（南西から）
	7	20区	55号住居全景（南東から）
	8	20区	55号住居炉（南東から）
ＰＬ31	1	20区	56号住居確認状況（北西から）
	2	20区	56号住居遺物出土状況（北西から）
	3	20区	56号住居主要土器（7）出土状況
	4	20区	56号住居主要土器（1）出土状況
	5	20区	56号住居全景（北西から）
	6	20区	56号住居炉（北西から）
	7	20区	56号住居炉（南西から）
	8	20区	56号住居掘り方（北西から）
ＰＬ32	1	20区	57号住居確認状況（東から）

2　20区　57号住居炉確認状況（東から）
3　20区　57号住居炉全景（南から）
4　20区　58号住居炉確認状況（西から）
5　20区　60号住居全景（西から）
ＰＬ33　1　20区　60号住居貼り床の状況（西から）
2　20区　60号住居柱６と貼り床
3　20区　60号住居土偶（13）出土状況（東から）
4　20区　60号住居土偶（13）（近接）
5　20区　60号住居炉（東から）
6　20区　60号住居炉（東から）
7　20区　62号住居炉確認状況（西から）
8　20区　62号住居炉（近接）
ＰＬ34　1　20区　64号住居全景（北から）
2　20区　64号住居南壁と柱穴（西から）
3　20区　65号住居確認状況（北から）
4　20区　65号住居柱穴上の礫
5　20区　65号住居柱穴確認状況
6　20区　65号住居柱穴埋没土中の炭化材
7　20区　66号住居確認状況（北西から）
8　20区　66号住居確認状況（北から）
ＰＬ35　1　20区　66号住居全景（北から）
2　20区　66号住居全景（東から）
3　20区　66号住居北東隅の丸石（北から）
4　20区　66号住居西側の敷石面（東から）
5　20区　66号住居出入り口部埋甕周囲の敷石・丸石
6　20区　66号住居埋甕を囲う小石列
7　20区　66号住居炉
8　20区　67号住居全景（東から）
ＰＬ36　1　20区　67号住居掘り方全景（南東から）
2　20区　76号住居確認状況（北から）
3　20区　76号住居全景（北から）
4　20区　76号住居炉周囲の状況（北から）
5　20区　76号住居炉
6　20区　76号住居出入り口部埋甕周囲の状況（東から）
7　20区　76号住居埋甕確認状況（東から）
8　20区　76号住居埋甕（東から）
ＰＬ37　２号、３号住居出土遺物
ＰＬ38　３～５号住居出土遺物
ＰＬ39　５号住居出土遺物
ＰＬ40　５号住居出土遺物
ＰＬ41　５号住居出土遺物
ＰＬ42　５号住居出土遺物
ＰＬ43　５号住居出土遺物
ＰＬ44　６号住居出土遺物
ＰＬ45　６号住居出土遺物
ＰＬ46　６号、８号住居出土遺物
ＰＬ47　８号住居出土遺物
ＰＬ48　８号住居出土遺物
ＰＬ49　８号住居出土遺物
ＰＬ50　10号住居出土遺物
ＰＬ51　10号、12号住居出土遺物
ＰＬ52　12号、13号住居出土遺物
ＰＬ53　13～16号住居出土遺物
ＰＬ54　17号住居出土遺物
ＰＬ55　17号住居出土遺物
ＰＬ56　17号住居出土遺物
ＰＬ57　17号、18号住居出土遺物
ＰＬ58　18号住居出土遺物
ＰＬ59　20～22号住居出土遺物
ＰＬ60　22号、23号住居出土遺物
ＰＬ61　23号、24号住居出土遺物
ＰＬ62　24号住居出土遺物
ＰＬ63　25号、30号、34号住居出土遺物
ＰＬ64　34号住居出土遺物
ＰＬ65　34号住居出土遺物
ＰＬ66　35～37号住居出土遺物
ＰＬ67　38号住居出土遺物
ＰＬ68　38号、41号住居出土遺物
ＰＬ69　41号、42号住居出土遺物
ＰＬ70　42号住居出土遺物
ＰＬ71　42号住居出土遺物
ＰＬ72　42号住居出土遺物
ＰＬ73　42号、43号住居出土遺物
ＰＬ74　43号住居出土遺物
ＰＬ75　43号住居出土遺物
ＰＬ76　43号住居出土遺物
ＰＬ77　43号、44号住居出土遺物
ＰＬ78　44号、48号、49号住居出土遺物
ＰＬ79　50号、51号住居出土遺物
ＰＬ80　51号、53号住居出土遺物
ＰＬ81　53号、54号住居出土遺物
ＰＬ82　55号、56号住居出土遺物
ＰＬ83　56号住居出土遺物
ＰＬ84　57号、58号、60号住居出土遺物
ＰＬ85　60号、62号、64号住居出土遺物
ＰＬ86　64～66号住居出土遺物
ＰＬ87　66号、67号、76号住居出土遺物

序章

第１節　調査に至る経緯

八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査は、建設省関東地方建設局（当時。現在は国土交通省関東地方建設局）と群馬県教育委員会、長野原町教育委員会、吾妻町教育委員会が、その実施に関する協議を重ね、建設省関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長が、平成６年３月18日に「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定書」を締結し、八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の実施計画が決定されたことによって開始されることとなった。実施計画書に示された調査組織等の役割は、調査実施機関は群馬県教育委員会で、調査機関は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

この協定をふまえて、平成６年４月１日に関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長により発掘調査受託契約を、同日に群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長により発掘調査受委託契約を締結し、八ツ場ダム進入路関連遺跡を調査箇所とする八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業がスタートした。平成６年度から実施されている調査は、工事用進入路に関するものが主体となっている。これは、八ツ場ダム建設工事の大規模な工事を円滑に進めるため、機材や重機を搬入・搬出する進入路や仮設道路の整備が先行される状況にあったためである。

平成６年度に締結された協定によると、調査対象の遺跡は48遺跡であり、そのうち本遺跡の位置する長野原町横壁地区の遺跡は７遺跡であった。横壁地区でも工事用進入路を原因とする調査が先行され、平成６年度には協定対象遺跡である横壁勝沼遺跡の調査が実施された。

本遺跡も、平成６年度に締結された協定での対象遺跡であり、平成６、７年度に行われた横壁勝沼遺跡の調査が終了した後、平成８年度から調査が行われることになった。工事用進入路部分の調査は平成11年度に終了し、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分の調査に着手した。詳しくは次節「調査の経過」に譲る。

なお、関東地方建設局長と群馬県教育委員会教育長と群馬県埋蔵文化財調査事業団理事長は、平成11年４月１日に「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財調査の実施に関する協定の一部を変更する協定書」を締結し、平成11年４月以降は調査実施機関を財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に変更し、現在の調査体制に至っている。

また、協定書の対象遺跡で、横壁地区に位置する７遺跡のうち、上野Ⅳ遺跡と観音堂遺跡は、長野原町教委との協議の結果、本遺跡に統合されることとなった。

第２節　調査の経過

横壁中村遺跡の調査は平成８年度より行われた。平成８年度から11年度までは工事用進入路部分、平成12年度からは横壁地区護岸工事部分を中心とした調査であるが、これら工事は一体のもので、調査は継続して行われてきた。各年度ごとの調査範囲は、図示したとおりであるが、年度をまたいで調査された範囲もあるので、図示した範囲は調査の終わった年度を表している。各年度ごとの調査の経過を調査日誌を元に抜粋する。

平成８年度　調査事務所の設置、調査区への進入路等の造成工事等を行ったため、本調査は７月１日開始となった。担当者は３名による１班での調査である。本年度は、中グリッドの18区、28区を中心とする調査である。進入路が狭く重機を導入できなかったため、人力による掘削を強いられ調査は困難であった。11月23日に現地説明会を開催し、見学者は157名であった。

平成９年度　前年度の継続である18、28区の調査とともに、その西側に当たる19、20、29、30区の表土掘削を実施し、調査に着手した。担当者は４名の配

置であったが、7月から9月まで1名は久々戸遺跡の調査にまわっている。調査面積は約5,000㎡である。11月3、4日に当事業団主催の平成9年度出土文化財巡回展示会を八ツ場地区で実施にあたり、遺物・パネルを出展した。

平成10年度　平成8、9年度の継続調査である。担当者は年度当初4名の配置であったが、うち1名は林地区及び横壁西久保遺跡の調査を担当することになったため、実質3名による1班体制による調査となった。本年度の調査面積は約6,200㎡であった。

平成11年度　前年までの継続調査と20、30区で調査区を拡張した。担当者は5名、2班の体制であったがうち2名が長野原地区の調査を担当することになったため、10月末までは3名、1班での調査となった。4月29日に前年度に検出された大型敷石住居、環状柱穴列等を現地説明会で公開し、153名の見学者を集めた。さらに、本年度は調査区西側にあたる11区でも調査を行ったが、試掘の結果、遺構は確認できなかった。

また、平成11年8月13日からの豪雨により横壁地区が被災したため、8月22日まで調査を休止した。本年度で工事用進入路部分の調査はすべて終了した。調査面積は約6,200㎡である。

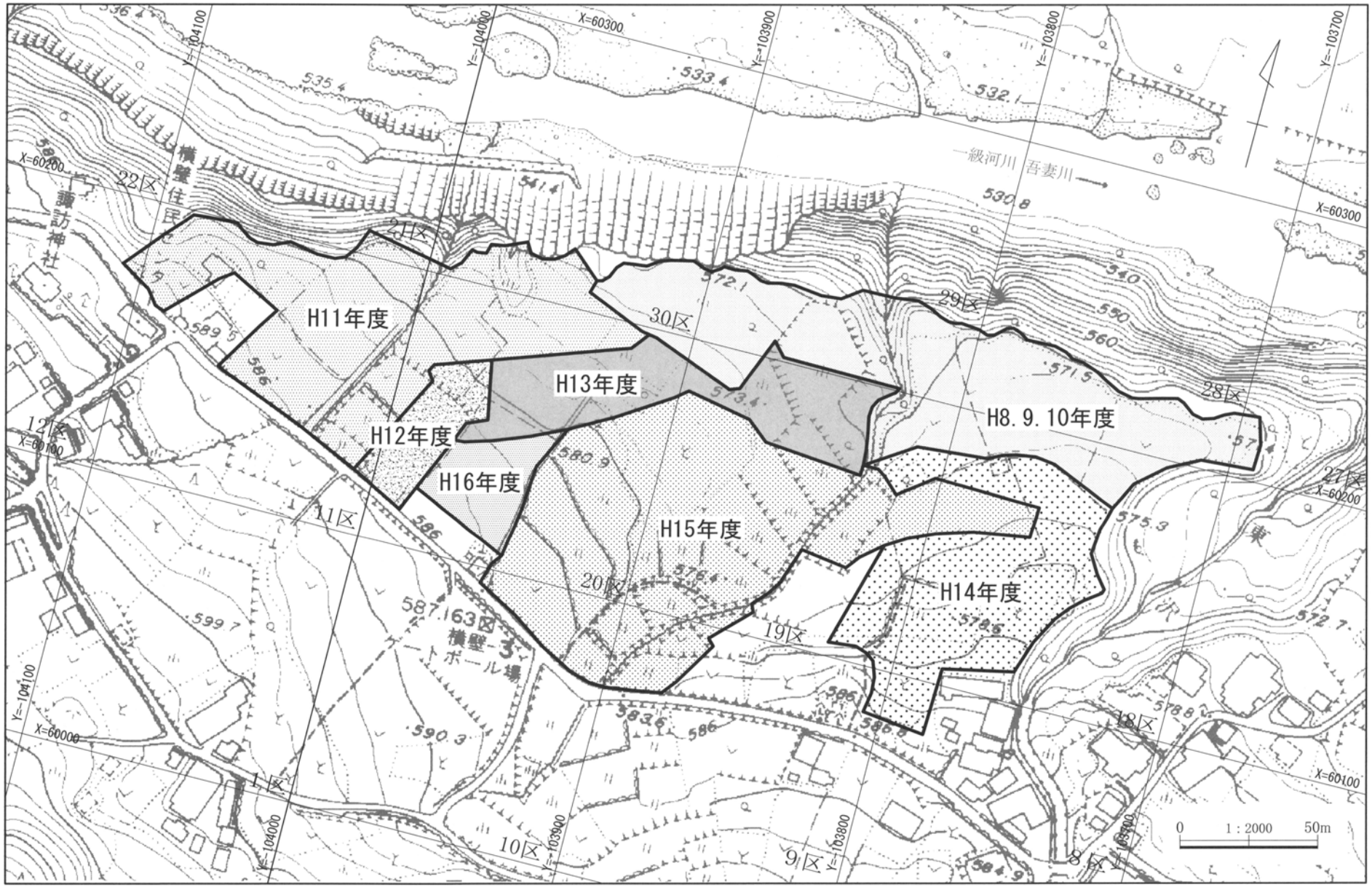
平成12年度　工事用進入路の調査が終了したため、この南側の代替地護岸工事部分の調査を担当者7名による2班体制で開始する予定であったが、1班は林地区の調査に対応することとなり、残る1班も横壁西久保遺跡との掛け持ちとなったため、調査対象面積は当初予定よりも大幅に減少した。本年度の調査は20区の調査が中心となり、一部18区の試掘調査を行った。また、本年度は調査区南側にあるゲートボール場の東側にパンザマスト（気象用観測マスト）設置に伴って42㎡も併せて調査を行い、縄文時代後期の住居、中世の土坑を検出している。本年度の調査面積は約1,800㎡であった。

平成13年度　発掘作業員の雇用システム変更に手間取り、調査開始が6月4日となった。本年度の調査対象地は遺跡の中央を流れる山根沢の両側にあたり、18、19、20区にあたる。工事が予定されている山根沢の西側地区は、工事工程にあわせて調査が終了した地区を順次、工事側に引き渡しながら進められた。11月に国土交通省より希少猛禽類の保護のため対策を講じてほしいとの要請があり、12月1日から調査体制を縮小したため調査の一部は次年度に継続となり、調査面積は年度当初予定の6,100㎡から約5,200㎡となった。

平成14年度　本年度より八ツ場ダム調査事務所が開所し、八ツ場地区の調査を管轄することになった。担当者は7名の2班体制での調査となり、前年度からの継続となった18区を中心に行った。本年度は6月から8月にかけて担当者2名が西ノ上遺跡へ、10月からは担当者4名が上郷岡原遺跡へ移動している。また、前年度と同様に11月下旬からは希少猛禽類保護のため調査体制を縮小しての調査となった。調査面積は約5,400㎡であった。

平成15年度　前年度の継続調査の18区と9、10、19、20区の調査を行った。担当者は年度当初6名の配置であったが、4～6月は担当者2名が久々戸遺跡の調査を行い、7月からは1名が整理事業に異動となった。また11月からは1名が増員となった。調査は前年度からの継続となった埋没河道の調査から開始して、その後19、20区の調査を行った。本年度は平成12、13年度に調査が終了した地区まで終了する予定であったが、用地買収が遅れ、次年度に継続となった。本年度の調査面積は約8,000㎡であった。

平成16年度　前年度に調査未了となった20区の調査を行った。担当者2名による1班体制である。本年度で代替地護岸工事部分の調査は終了の予定であったが、調査区南側の道路沿いの一部が用地買収と墓地移転の遅れにより調査が未了となり、次年度以降に継続となった。本年度の調査面積は約1,400㎡であった。



第１図　年度別調査区全体図

第3節　調査の方法

（1）調査の手順

調査は初めはバックフォーによる表土掘削を行い、順次作業員による遺構確認、遺構調査へと進んでいった。遺跡地の現況は畑、水田、道路であった。

出土遺物は遺構から出土したものは、その遺構番号を付し、さらに図面上に出土位置を記録したものについては番号を付し、標高を測定して取り上げた。遺構外から出土した遺物については後述するグリッド単位で取り上げた。さらに出土位置を記録したものは遺構出土のものと同様に取り上げた。遺構測量は作業員によるものと測量会社に委託して測量したものがある。縮尺については住居・土坑・配石等は1/20、炉・埋甕・埋設土器等は1/10、その他の遺構も1/20を原則としたが、溝・列石等規模の大きい遺構については1/40、全体図は1/100、1/200で作成した。また、列石の一部においては、バルーン撮影による空中写真測量も委託して実施した。

遺構の個別写真は、主に35㎜モノクローム及びリバーサル、6×7判モノクロームで撮影し、一部6×7判リバーサルも状況に応じて使用している。

（2）遺跡の名称

本遺跡は、吾妻郡長野原町大字横壁字観音堂に位置する。発掘調査時の遺跡名称は、群馬県埋蔵文化財調査事業団で行っている遺跡命名の慣例に従うと遺跡所在地の大字名＋小字名となり、「横壁観音堂遺跡」となるべきであるが、国土地理院1/25,000地形図「長野原」によると遺跡地には「中村」という小字名が記されているため、平成8年度の発掘調査開始時に「横壁中村遺跡」と命名した。しかし、この「中村」という小字名は行政的には用いられておらず、正確には前述の通り「観音堂」である。また、「長野原町の遺跡―町内遺跡詳細分布調査報告書―」（長野原町教委　1990）によると本遺跡は「観音堂遺跡」「上野Ⅳ遺跡」の範囲に入っている。さらに群馬県遺跡台帳には「横壁中村遺跡」が記載されているが、記述によるとこれは本遺跡の南西にあたり、位置がやや異なる。このように、本遺跡の遺跡名に関しては若干の問題を含んでいるが、長野原町教育委員会との協議により、「横壁中村遺跡」が本遺跡の正式名称として決定されている。

（3）調査区の設定

調査区の設定に関しては「八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集『長野原一本松遺跡(1)』」に詳しいので、詳細はそちらを参照していただきたい。

本遺跡の調査区は、地区（大グリッド）と呼称する、発掘調査対象地全域に設定した1㎞グリッドでは「27地区」、その地区を1辺100mの正方形で100分割した「区」（中グリッド）では「9・10・17・18・19・20・27・28・29・30区」に相当している。本遺跡の遺構名称は、区ごとに連続する番号を付し、区をまたぐ遺構の場合は遺構の主体と考えられる区の番号を付している。

第4節　遺跡の環境

八ツ場地区の遺跡の立地する環境については、既刊の(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第287集「『長野原一本松遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第1集」（諸田2002）および同第303集「『八ツ場ダム発掘調査集成』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第2集」（松原　2003）に詳細に記述されているのでそちらを参照していただきたい。ここでは、横壁中村遺跡の立地する地理的環境および今回報告する縄文時代に関しての歴史的環境について概観するにとどめたい。

（1）地理的環境

横壁中村遺跡の位置する長野原町は群馬県の北西部に位置し、草津町、嬬恋村、六合村、吾妻町と接するとともに、長野県とも県境をなしている。本遺跡はこの長野原町の北東に位置し、吾妻川の右岸の崖上に立地する。吾妻川は長野県境の鳥居峠付近に源を発し、東流して渋川市付近で利根川と合流する

全長76.2㎞の１級河川である。本遺跡はこの合流点から約43㎞遡った地点である。また、本遺跡から約６㎞下流には「関東の耶馬渓」の異名を取る国指定名勝である吾妻渓谷がある。

横壁中村遺跡の標高は約570ｍを測る。吾妻川との比高差は40ｍほどであり、急峻な崖により隔てられている。調査区は、西は深沢、東に東沢という２本の沢によって形成された扇状地形上に立地する。吾妻川に向かって北東に緩く傾斜しており、調査区内での比高差は約15ｍである。調査区のほぼ中央を山根沢が北流しており、小さな谷を形成している。南側には山が迫っており、調査区内にはこの山から押し出されたと思われる夥しい数の礫が存在し、縄文時代の遺構面はこの礫に覆われている。

本遺跡の環境を語る上で欠かせないのが丸岩の存在である。調査区の南南西約1.5㎞に位置する標高1,124ｍをはかる岩峰で、南側を除いた３方が100ｍにも達する垂直の崖に囲まれ、本遺跡から望むと巨大な円柱状にも見える特徴的な山容を呈している。この崖面には柱状節理による割れ目が顕著に現れており、山の形状と併せ見た独特の景観は、この遺跡に暮らした人々がランドマークとして仰ぎ見たであろうことを推測するに足る奇峰と言えよう。

また、浅間山も長野原町の自然を語る上で重要である。本遺跡の中心となる縄文時代中期から後期にかけては大きな活動はないと考えられているが、本遺跡の立地する吾妻川の段丘面は、浅間山の約２万年前の噴火によって発生した応桑泥流によって形成されたと考えられている。また、今後の報告になるが、本遺跡で検出された平安時代の住居の埋土の中には浅間山起源と思われる火山灰の堆積が認められるものも存在している。

（２）歴史的環境

横壁中村遺跡のある長野原町は明治22年の町村制実施の際に、川原畑、川原湯、横壁、林、長野原、大津、羽根尾、古森、与喜屋、応桑の旧十ヶ村を合併して成立した。町内での遺跡の調査は、昭和29年に行われた勘場木遺跡の調査を嚆矢とし、昭和38、47、48年には群馬県による分布調査が行われ、昭和53年には石畑岩陰遺跡が発掘調査された。昭和62年からは八ツ場ダム建設に先行して、町教委による埋蔵文化財詳細分布調査が実施され、183の遺跡が確認された。（調査が進み、平成17年３月現在では214遺跡に増加している。）これ以降、町教委による発掘調査が行われている。さらに平成６年からは八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査事業が当事業団によって進められている。これらの調査をもとに横壁中村遺跡の歴史的環境を概観してみる。

旧石器時代　現在までの調査では旧石器時代の遺跡は確認されていない。吾妻川流域は前述したように応桑泥流堆積物や浅間―草津黄色軽石（As-YPk）によって厚く覆われており、この下位を調査することは掘削方法や安全上の問題などから難しいのが現状である。従って山間部の遺跡などでこれらの堆積物の下位の調査が可能になれば、当該期の遺跡が確認される可能性は否定できない。

縄文時代　長野原町による埋蔵文化財詳細分布調査によれば現在までに214の遺跡が確認されており、このうち、約半数の105遺跡で縄文時代の遺構、遺物の存在が確認されている。

まず、草創期の遺跡としては石畑岩陰遺跡（10）があげられる。奥行４ｍ、幅40ｍを測るかなり大規模な岩陰遺跡であり、草創期から前期、そして晩期にわたる遺物、獣骨が出土している。旧石器の遺跡は確認されていないが、縄文時代草創期には長野原町域に人間が生活していたことを証明する遺跡である。早期では、楡木Ⅱ遺跡（20）で多くの撚糸文系土器、表裏縄文土器、スタンプ形石器とともに、竪穴住居が31軒検出されている。この住居の中には石囲炉を持つものがあるとともに、重複関係を示すものもあることから、同時期の集落における定住性について新たな視点を与えるものと思われる。また、立馬遺跡（18）でも撚糸文期の住居と田戸下層式期の住居が検出されている。この立馬遺跡では早期から晩期までのほぼ全ての時期の遺物が出土している。山間の狭隘な谷に位置するこの遺跡からこのように

長い時期にわたって遺物が出土していることはこの地域の縄文時代の環境を復元する上で興味深い事実である。さらに同時期の遺物は坪井遺跡（9）、長野原一本松遺跡（5）、幸神遺跡（6）でも出土が確認されている。

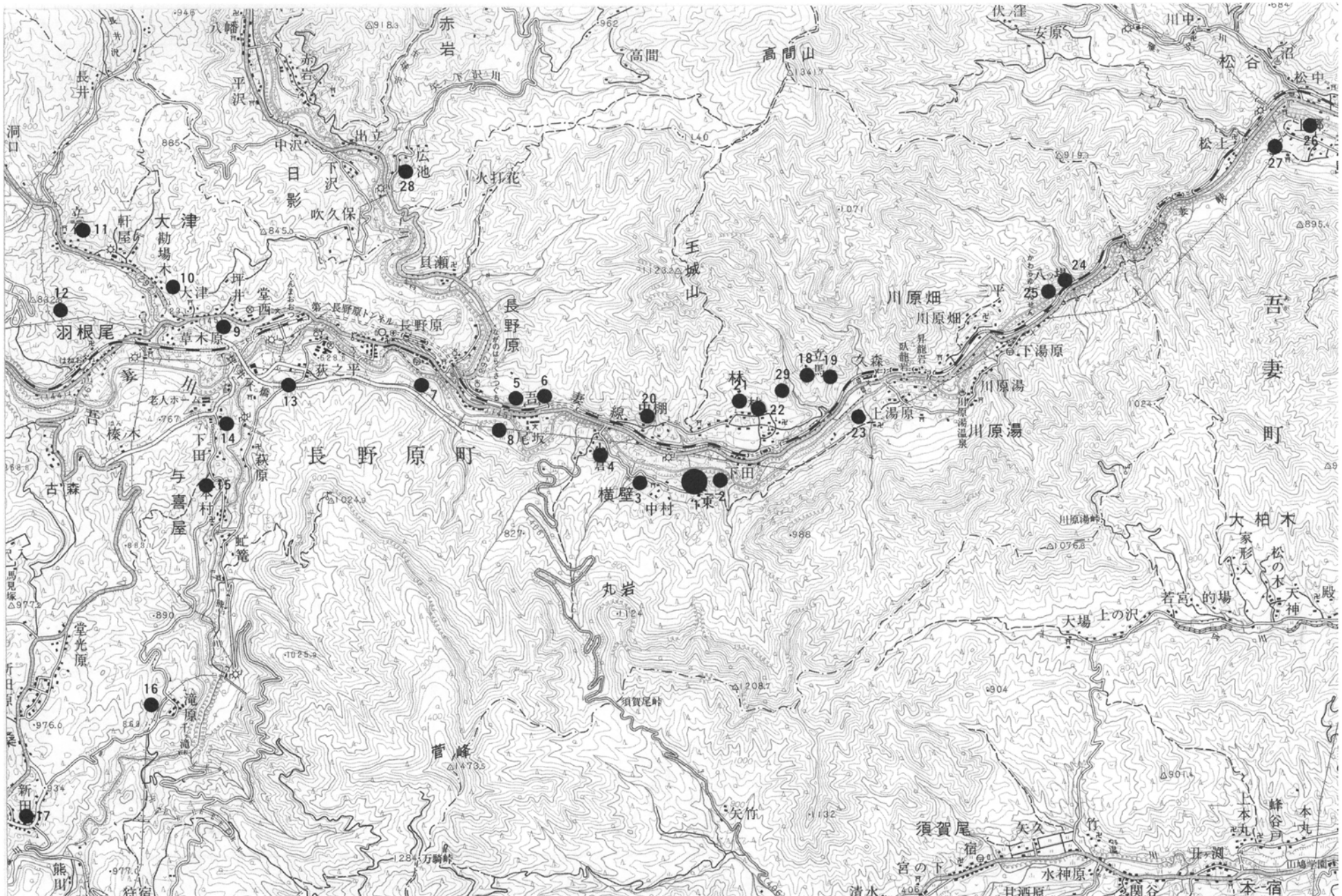
前期の遺跡は、坪井遺跡で花積下層式期の住居と土坑が検出されているほか、長野県域を主体とする塚田式、北陸地方の極楽寺式と関連すると思われる遺物が出土している。また、暮坪遺跡（12）では二ツ木式期の住居が検出されている。さらに長畝Ⅱ遺跡（13）では黒浜式期の住居が検出されている。本遺跡でも関山式、あるいは黒浜式期と思われる遺物が出土しているが、量は少なく、遺構も確認されていない。前期後半では、楡木Ⅱ遺跡で諸磯式期の住居が、川原湯勝沼遺跡（23）で同時期の土坑が検出されており、本遺跡でも同時期の土坑が確認されている。

中期になると遺跡数、遺構量とも大幅に増加する。本遺跡ではこれまでのところ、最も古い勝坂式期の住居から中期末までで150軒以上の住居が確認されている。長野原一本松遺跡でも本遺跡と同様に大集落が形成されている。ただ、その始まりは本遺跡よりも若干時期が下り、中期後半の加曽利Ｅ式期になってからと思われる。この時期の特徴としては他地域との密接な交流がうかがえる点である。本遺跡の出土遺物でも、関東系の土器とともに中部高地系、特に長野県東部との関連が強く感じられる土器が多く、さらに新潟県方面から持ち込まれたと思われる土器も少なくない。これは長野原一本松遺跡でも新潟県方面から伝播したと思われる大木系の土器が出土していることや、坪井遺跡でも新潟県域で主体的な「栃倉類型」などの資料が出土していることからも確認できよう。

後期になると長野原一本松遺跡の集落はやや縮小の傾向にあるが、本遺跡は加曽利Ｂ式期まで継続する。この時期の住居では、柄鏡形敷石住居の検出例が多く、本遺跡や長野原一本松遺跡の他、槲Ⅱ遺跡（11）、向原遺跡（7）、滝原Ⅲ遺跡（16）、古屋敷遺跡（17）、上原Ⅳ遺跡（21）、林中原Ⅰ遺跡（22）、上郷岡原遺跡（26）などで確認されている。

晩期になると遺跡数は減少する傾向にあり、前述した石畑岩陰遺跡以外ではほとんど確認されていなかったが、最近の調査により、検出例が増加している。本遺跡でも遺物は出土していたが、平成15年度の調査で晩期終末期から弥生時代初頭と思われる埋設土器、土坑が確認された。また川原湯勝沼遺跡では、氷Ⅱ式土器による再葬墓と思われる土坑が検出された。久々戸遺跡（8）では氷式土器の鉢形土器、立馬遺跡でも長野県北部を主体とする女鳥羽川式土器の浅鉢が出土している。

弥生時代になると、本遺跡では中期の遺物が少量出土しているほかは、立馬遺跡で前期から中期の住居と中期の甕棺墓が検出されている程度で、極めて希薄な状況を呈している。



第２図　遺跡位置及び周辺遺跡図（国土地理院　1/50000地形図「草津」使用）

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の内容	文献
1	横壁中村	長野原町横壁	本遺跡	
2	横壁勝沼	長野原町横壁	中期から後期の土器片、槍先形尖頭器が出土。事業団平成６、７年度調査。	1
3	山根Ⅲ	長野原町横壁	中期後半の住居、土坑。事業団平成10、13年度調査。	2
4	西久保Ⅰ	長野原町横壁	中期末葉の敷石住居、土坑。中期の水場遺構。事業団平成６、10、12年度調査。	1
5	長野原一本松	長野原町長野原	縄文時代中期後半から後期初頭にかけての拠点的集落。事業団平成６年度～調査中。	3
6	幸神	長野原町長野原	中期中葉から後半の住居。事業団平成８、９年度調査。	4
7	向原	長野原町長野原	中期後半から後期にかけての集落。敷石住居２軒。町教委平成５年度調査。	5
8	久々戸	長野原町長野原	晩期終末期（氷式期）の鉢形土器が出土。事業団平成15年度調査。	6
9	坪井	長野原町大津	前期前半、中期後半、中期末の住居。敷石住居３軒。町教委平成３、10年度調査。	7・8
10	勘場木石器時代住居	長野原町大津	中期後半の住居。昭和29年調査。	9
11	槲Ⅱ	長野原町大津	後期前半の敷石住居４軒。町教委昭和63年度調査。	10
12	暮坪	長野原町羽根尾	前期前半の住居。町教委平成12年度調査。	11
13	長畝Ⅱ	長野原町与喜屋	前期前半、中期後半の住居。町教委平成２年度調査。	7
14	外輪原Ⅰ	長野原町与喜屋	前期後半の土器出土。町教委平成７年度試掘調査。	12
15	上ノ平	長野原町与喜屋	中期・後期の土器、石器類出土。	12
16	滝原Ⅲ	長野原町応桑	中期後半の住居、中期末の敷石住居。町教委平成８年度調査。	13
17	古屋敷	長野原町応桑	後期前半の敷石住居。昭和34年発見。	12
18	立馬	長野原町林	早期初頭・晩期の住居。早期から晩期にかけての土器。事業団平成13、14年度調査。	2・14
19	立馬Ⅱ	長野原町林	中期初頭から中期後半の住居。中期中葉の土器。事業団平成14年度調査。	14
20	楡木Ⅱ	長野原町林	早期初頭の集落。前期前半、前期後半、中期初頭の住居。事業団平成12、13年度調査。	15・2
21	上原Ⅳ	長野原町林	後期前半の敷石住居。晩期後半の土器。事業団平成15年度調査。	16
22	林中原Ⅰ	長野原町林	後期前半の敷石住居。町教委平成15年度調査。	17
23	川原湯勝沼	長野原町川原湯	前期後半の土坑。晩期終末期の再葬墓。事業団平成９、16年度調査。	1・18
24	石畑Ⅰ岩陰	長野原町川原湯	草創期から晩期の遺物と獣骨が出土。県教委昭和53年度調査。	9
25	石畑	長野原町川原畑	前期後半の土坑。事業団平成９、10年度調査。	1
26	上郷岡原	吾妻町三島	中期後半の住居。後期前半の敷石住居。事業団平成14年度調査。	14
27	上郷Ａ	吾妻町三島	縄文時代のものと思われる陥穴。押形文土器片出土。事業団平成15年度調査。	6
28	広池	六合村赤岩	中期後半の住居。群馬大学昭和44年度調査。	19

参考文献

1．「『八ツ場ダム発掘調査集成』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第２集」 群埋文　2003
2．年報21　群埋文　2002
3．「『長野原一本松遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第１集」　群埋文　2002
4．年報17　群埋文　1998
5．「向原遺跡」　長野原町教育委員会　1996
6．「『久々戸遺跡（２）・中棚Ⅱ遺跡（２）・西ノ上遺跡・上郷Ａ遺跡』八ツ場ダム建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第４集」群埋文2005
7．「長畝Ⅱ遺跡・坪井遺跡」　長野原町教育委員会　1992
8．「坪井遺跡Ⅱ」　長野原町教育委員会　2000
9．「群馬県史　資料編」1　群馬県史編纂委員会　1988
10．「槲Ⅱ遺跡」　長野原町教育委員会　1990
11．「暮坪遺跡」　長野原町教育委員会　2001
12．「長野原町誌」上巻　長野原町　1976
13．「滝原Ⅲ遺跡」　長野原町教育委員会　1997
14．年報22　群埋文　2003
15．年報20　群埋文　2004
16．年報23　群埋文　2005
17．「町内遺跡Ⅳ」　長野原町教育委員会　2004
18．「遺跡は今」13　群埋文　2004
19．「六合村誌」　六合村　1973

第3図　遺構全体図

第５節　遺跡の概要

横壁中村遺跡は、縄文時代中期後半から後期後半を中心とする集落遺跡で、平成14年までの調査で竪穴住居190軒以上が確認されており、県内でも有数の大規模集落であることが判明しつつある。

遺跡は、その中央を流下する通称「山根沢」の両側に展開しており、東側は「丸岩」の足下から流れる「東沢」までを範囲としている。北側及び西側の範囲は今後の調査に負うところとなるが、冬には午後３時で日が山に入る北向きの台地に、これほどの大規模集落が維持されたのは、間近にこれらの沢があったからであろう。

この地で人々の生活が始まるのは縄文時代早期からで、19区の山根沢沿いで撚糸文土器が少量出土している。前期では、初頭の花積下層式から諸磯ｃ式までの土器が断続的に出土しているが、この時期の住居はまだ確認されていない。中期では、五領ヶ台式から勝坂式にかけての土器がかなり広範囲で出土しており、土坑はいくつか確認されているが、この時期も住居は未確認である。中期後半は集落が最大規模となり、その後も集落はやや規模を縮小しながら継続し、列石遺構や配石遺構、掘立柱建物等が伴う集落が後期前半まで認められる。後期後半になると、山根沢の西側に配石墓群が形成される。この時期の集落の構成はまだはっきりしない。後期後半以後の様子を示す材料はまだ少ないが、晩期終末期の遺物は多量に出土しており、本地域の主要遺跡の一つといって良いだろう。

弥生時代中期前半期の遺物も比較的多く出土しているが、県内で稲作農耕が始まる中期後半期になると、活動の痕跡は途絶えてしまう。この状況は本遺跡に限らず、西吾妻地域全体に認められる傾向であり、詳細は別稿に譲りたい。その後、本地域に集落が戻るのは約千年後の９世紀代からで、本遺跡でも平安時代の住居が数軒確認されている。

中世になると、本地域には海野一族が支配する「三原荘」が成立し、戦国時代にはその一系でもある真田氏が、甲斐武田氏の指示で本地域を掌握するようになる。本遺跡の南西には柳沢城と丸岩城があり、遺跡内では20区を中心に鍛冶場を伴う中世の館が確認されている。また、その他に中世～江戸期の墓や、天明３年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した畠も検出されている。

以上が本遺跡の概要であるが、遺跡の内容は多岐にわたるため、今回は平成14年度までに発掘調査された縄文時代の住居のうち、20区で確認された中期段階の住居49軒を対象とした報告であり、資料編的な内容と捉えて頂きたい。

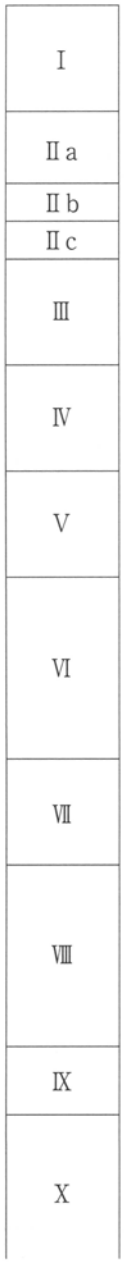
表１　横壁中村遺跡　縄文時代の調査遺構集計（平成８年度～平成14年度）

	10区	18区	19区	20区	28区	29区	30区	合　計
竪穴住居	1	29	39	70	20	23	13	195
土坑	4	291	140	441	16	38	204	1,134
掘立柱建物		2	1	8		1		12
埋没土器		25	3	16	6	1	11	62
配石遺構		51	9	20	17	53	22	172
列石遺構		7	1	4	13	5		30
集石遺構		1		4				5
柱穴列						1	1	2
埋没河道		1	1					2

第６節　基本土層（第４図）

本遺跡が乗る段丘面は、岩盤の上に吾妻川が運んだ段丘礫層を基盤としており、その上に南側の岩塊を核とする山地からの崩落土と礫が繰り返し堆積して形成された、北向きの緩傾斜地に遺跡は立地している。台地上の基本土層は、図に示したⅠ～Ⅹ層まで確認しているが、この10層が１箇所で全て揃う断面は今のところ認められない。また、各土層の層厚は地区によって異なっているため、敢えて記入していない。

今回の報告対象となる縄文時代中期の遺構は、土層としてはⅥ層に該当するが、第１章本文中で「地山の黄色砂質土」と呼んでいるのは、Ⅷ層に該当する。



Ⅰ層　表土（耕作土）

Ⅱａ層　浅間Ａ泥流
Ⅱｂ層　浅間Ａ軽石
Ⅱｃ層　浅間Ａ軽石下畠の耕作土

Ⅲ層　淡褐色土　軟質で炭化物を含む。中世に比定される土壌で、20区１号館付近では炭化物を多量に含み、黒土化していた。

Ⅳ層　灰黒褐色土　やや軟質で均質。古代に比定される土壌であるが、本遺跡では大半が混土化されて、層としてはほとんど残っていない。

Ⅴ層　黄褐色土　やや軟質。縄文時代後期後半頃の土壌で、加曽利Ｂ式期の遺構と関連する。今のところ、山根沢周囲に認められることから、Ⅷ層ないしはローム層の２次堆積の可能性が高い。

Ⅵ層　灰褐色土　締まりのある土壌で、黄色軽石や白色粒子を多く含む。縄文時代に比定される土壌で、中期から後期前半の遺構・遺物はこの土層中に含まれる。なお、下半部を中心に多量の礫（山石）を含む。

Ⅶ層　くすんだ黄褐色粘質土　黄・茶・灰の地山土粒（２～10㎜）を多量に含む。山根沢の西側縁辺に特有な土壌で、層位はⅧ層と同じであり、沢沿いに流れたものかもしれない。この土層の上層部には縄文時代前期前半の土器が包含され、この土層で埋没した土坑も確認されている。

Ⅷ層　黄褐色粘質土　崩落したローム層の２次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考える。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。

Ⅸ層　黒褐色粘質土　硬質で粘性が強く、黄色軽石と白色粒子を多量に含む。

Ⅹ層　黄色砂礫層　吾妻川が運んだ段丘砂礫層で、本遺跡北側の崖面では15ｍ以上の堆積が確認できる。この下層は基盤の岩塊となる。

第４図　横壁中村遺跡基本土層

第１章　発見された遺構と遺物

第１節　遺　構

先述のとおり、ここでは20区で確認された縄文時代中期の住居49軒を対象に報告する。報告は、発掘調査時に認定した遺構名を使用しているため、調査時あるいはその後の検討で欠番になったものも多く、また今回は中期以外の住居は扱わないため、遺構番号がとんでいる。表４に今回報告する住居の一覧を掲載したので、参照して頂きたい。

本遺跡での住居の認定は、基本的には炉の確認をもって決定した。幸い本遺跡では後期に至るまで石囲い炉が主流であったが、炉内に焼土が残っていない住居が多く、また地山の中にも組んだような状態の礫がかなり認められるため、炉石は水洗いし、変色・劣化・剥落・亀裂・煤付着等の被熱痕跡を確認した上で決定した。そのため、たとえ完形に近い土器等が出土しても、炉が確認できない場合はグリッド扱いにした。

また、本遺跡では地山の黒褐色土を切り込んで住居が構築されており、地山と住居覆土の見分けは困難であった。そのため、大半の住居は覆土上層がグリッド扱いになっており、整理作業で接合したものはその住居に帰属させた。

以下、住居毎に報告する。

２号住居

位　置　Ｖ－24グリッド

確　認　黒褐色土確認面で多量の礫が土器と共に一定範囲に集中することから、住居を想定した。礫は住居内に詰め込んだような状態でぎっしり入っており、床面付近まで及んでいた。

重　複　４号住居と重複し、これに切られる。

形　状　隅丸方形を呈する。谷側の壁は未検出だが、山側ではほぼ直立する壁が55㎝の高さで確認された。規模は長軸3.85ｍ、短軸3.80ｍである。

床　面　地山の黄色砂質土を床面とし、谷側にやや傾斜するが、ほぼ平坦な面を保っている。

炉　土器埋設方形石囲い炉で、住居中央に位置する。炉石は板状の大形礫４石を使用していたと見られるが、２石は抜き取られ、残る２石も上面が打ち欠かれていた。埋設土器は、小形深鉢の上半部を転用したもので、やや北西に寄った底面に正位に埋設されていた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石の内側と埋設土器の口縁部には、変色・劣化等の被熱痕跡が認められた。

柱　穴　南東側で２本を確認した。

遺　物　多量の礫に混在、あるいはその下部から、少量の土器破片・石器が出土した。

時　期　炉内埋設土器と出土土器から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

３号住居

位　置　Ｖ－24グリッド

確　認　地山付近まで下げた段階で、炉が確認された。本住居は炉のみの確認に止まった。

重　複　２号・４号住居の南側に隣接しており、本来は両住居の一部を切って構築されたのであろう。

炉　長軸1.5ｍほどの楕円形の浅い掘り込みに焼土が残り、その付近に被熱で変色・劣化して割れた板状の礫が散在していたことから、本来は石囲い炉だったと考えられる。

遺　物　炉内とその周囲から、少量の土器片・石器が出土している。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ４式期に比定する。

４号住居

位　置　Ｖ－23グリッド

確　認　２号住居の調査に伴って確認されたが、本住居は礫の量が少なく、南東側の壁面に沿って礫が集中していた。

重　複　２号住居と重複し、これを切る。

形　状　やや歪んだ円形を呈する。規模は長軸3.47ｍ、短軸3.25ｍで、山側では確認面からの深さ55㎝

である。

床　面　２号住居と同様に地山の黄色砂質土を床面とし、谷側にやや傾斜するが、ほぼ平坦な面を呈する。

炉　住居中央よりやや北東寄りに位置する。炉は一辺70㎝、深さ30㎝の方形状の掘り方のみで、底面にわずかに焼土が残っていた。炉石はすべて抜き取られていたが、２号住居とほぼ同規模の石囲い炉であったと想定される。

柱　穴　確認されていない。

遺　物　覆土中から少量の土器破片と石器が出土している。

時　期　出土土器から加曽利Ｅ３式期に比定する。

５号住居

位　置　Ｒ－18グリッド

確　認　黒褐色土確認面で礫と土器が一定範囲に集中することから、住居を想定した。遺物の集中箇所が広いため、当初は数軒の住居が重複しているものと想定したが、遺物の年代と出土レベルが揃っていること、同一レベルで確認された炉が１箇所で、しかもほぼ中央に位置することから、１軒の住居と認定するに至った。

重　複　10号・12号・16号・20号・42号・43号住居と重複し、これらを切る。このうち、16号・20号住居は、本住居の床下から炉が確認されている。ほかに、15号・18号・41号とも縁辺部を重複するが、切り合い関係ははっきりしない。

形　状　壁が明瞭に確認できた部分はないが、床面や出土遺物の状況から、長軸8.20ｍ、短軸7.90ｍのほぼ円形を呈するものと考える。

床　面　山側の一部は地山まで切り込んでいるが、大半は黒色土中に床面を構築しており、不明瞭な部分が多い。炉の南東側にはローム質土と焼土の貼り床が部分的に認められたが、このうち炉に隣接する直径１ｍほどの焼土は、16号住居の炉を埋めたものである。

全体としては、山側から谷側に向かって緩やかに傾斜しているため、図３では谷側縁辺の遺物が床面断面図の下方に入っている。

炉　大形の板状礫４石で組んだ方形石囲い炉と認定した。規模は、炉石の端部で幅90㎝、深さは35㎝である。

炉石は相対する２石以外は抜き取られており、その一部と見られる被熱した板石や板状礫の破片は炉の周囲にも認められた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、２石の炉石には煤の付着・変色・劣化・ひび割れなどの被熱痕跡が、明瞭に認められる。

柱　穴　確認できなかった。

遺　物　覆土上部は礫が主体であったが、床面付近を中心に多量の土器と石器が出土した。なかでも大形の礫石器の出土量が多く、磨面のある台石や多孔石が目立っている。また、炉の東側床面付近から、有頭石棒の欠損品が出土している。出土土器は地元の地域色を色濃く持っており、なかには越後地域の特徴を持つ土器も散見される。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

６号住居

位　置　Ｓ－20グリッド

確　認　黒褐色土確認面で多量の礫と遺物が一定範囲に集中することから、住居を想定した。礫は、山側から投げ込まれたような状態で中央部を中心に集中しており、中央部では床面付近までぎっしり入っていた。これを取り除くと、炉とその周囲の床面が直接確認できた。

また、山側の床面に、炭化材が混じる炭化物層が面的に散布していた。屋根材、あるいは床の敷物を想定して詳細に調査したが、依存状態が悪く確定はできなかった。

重　複　南側で18号住居と重複し、これを切る。また、西側で７号住居と接するが、重複関係は不明である。

形　状　長軸5.05ｍ、短軸4.90ｍのほぼ円形を呈する。壁がほぼ全周する稀な事例で、壁の高さは山側

で50㎝、谷側で５㎝である。

床　面　山側から谷側に向かって緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦な面に構築されている。床面は地山まで掘削されているが、硬化面は認められない。

炉　長方形石囲い炉で、住居中央よりやや北側に寄せて設置している。炉の主軸は南北方向に一致しており、住居の長軸線上とも一致した位置に設置されている。炉石は小さな板石や板状礫を縦位に並べて囲っているが、現況を留めているのは全体の３割ほどで、他の３割は押しつぶされ、その他は抜き取られている。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石には被熱痕跡が認められる。

柱　穴　確認できなかった。

遺　物　住居縁辺部を中心に、礫群の下から多量の土器が出土した。そのうち、住居西側の壁下から、浅鉢の完存品（６）が床面に伏せた状態で出土しており、注目しておきたい。特殊な遺物としては、土偶の胴部（42）が炉の南側床面付近から出土しており、また有頭石棒の欠損品（48）が炉の南側の礫群下から出土している。なお、土偶（42）は２点の接合資料であり、その一つは西側で一部を接する17号住居の覆土から出土した。

出土土器は曽利式の特徴が色濃く、土偶の出土もそれに合致しているように思える。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ２式期新段階に比定する。

７号住居

位　置　Ｕ－20グリッド

確　認　黒褐色土確認面で多量の土器と礫が一定範囲に集中することから、住居を想定した。覆土中の多量の土器を取り上げた段階で、扁平な礫と山石で方形に組んだ石組みが確認されたため、これを炉と認定し、床面や柱穴・壁の確認調査を実施したが、いずれも判然としなかった。

床面下から土器も出土することから、床下の調査に移行した段階で、直下から明瞭な石囲い炉、及び同一面で埋甕も確認された。当初は２軒の住居の重複と見てこれらを17号住居としたが、あらためて先に発見された炉を詳細に確認すると、炉内に焼土はなく、炉石に明瞭な被熱痕跡は認められない。また、今回の報告では扱っていないが、本遺跡28区の中期住居のなかには、柱穴の上面に方形の石組みを伴う事例が認められる。

以上の経過から、７号住居はいったん欠番として17号住居に一本化したが、７号住居の炉の下から柱穴が確認できないため、炉の石組みだけを７号住居の名称で報告しておく。

炉　板石２枚と扁平な礫２個を縦位に使って方形の石組みをつくり、その角部や周囲に丸みのある礫を組み合わせている。石組みの内側は１辺20㎝しかなく、他の住居の炉に比べて明らかに小さい。底面に焼土はなく、石組み内面に被熱痕跡は認められない。

８号住居

位　置　Ｕ－２２グリッド

確　認　一定範囲に多量の礫と土器が集中することから、住居を想定したが、炉をはじめ、床面や壁・柱などの各施設が確認できなかった。礫や土器の集積は５ｍほどの範囲にほぼおさまっており、その集積状況が他の住居の状態と一致すること、出土土器の時期が一致していることから、異例ではあるが住居と認定することにした。

重　複　北側の一部を13号・14号住居と重複し、これに切られる。

遺　物　土器の多くは、礫群下からまとまって出土した。出土土器は加曽利Ｅ１式期古段階を主体にしており、これに焼町系と越後系の土器が加わっている。それより古い段階の土器もいくつか見られるが、なかでも越後系と思われる浅鉢類は注目しておきたい。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ１式期古段階に比定する。

10号住居

位　置　R－19グリッド

確　認　地山面に近いレベルで石囲い炉が確認されたことから、住居と認定した。

重　複　南側の一部を５号・12号住居と重複し、北側の一部を21号住居と重複するが、切り合い関係は確認できていない。

形　状　明確な壁は確認できなかったが、山側の遺物出土状況と床面の状況から、直径6.50～6.60mの円形を呈するものと考える。

床　面　谷側の一部は失われているが、山側から谷側に緩やかに傾斜する、ほぼ平坦な床が認められた。なお、炉の周辺で一部に硬化面が認められた。

炉　土器埋設方形石囲い炉であるが、炉石の多くは抜き取られている。板石を縦位に組んだ炉石の一部が残っており、掘り方から１辺70cmの方形であったと想定される。炉内の埋設土器は、直径30cmほどの深鉢の上半部を転用したもので、炉の中央よりやや北東隅に寄せて設置している。炉内の底面に焼土が一部残っており、炉石の内面にも明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱　穴　依存状態の良い山側の床面で、５本の柱穴が確認できた。大きさはいずれも直径30cm前後、深さ30～40cmである。このうち、柱２～４の３本は、柱間が芯々で1.7mほどの間隔で揃っている。

遺　物　山側の縁辺に沿って、土器がまとまって出土した。これらの土器は、床面から浮いた状態で出土したものが多い。

一方、それとはまったく違った状態で出土した土器がある。本住居では地山の傾斜が、柱３と炉の中央を通したエレベーションAからA′の方向に傾斜しているが、柱３とその山側の壁との間に曽利系小形深鉢の上半部（４）を正位に置き、それを中心に長辺１m、短辺50cmの長方形の四隅に板状礫が配置されていた。土器と礫はいずれも床面に接している。当初はこれらが意図して配置されていたことに気付かなかったが、34号住居で同様の配置が確認され、一連の構造であることが判明した。

なお、炉内埋設土器は、その後所在が不明となってしまった。見つかった段階で補足したい。

時　期　出土遺物から、加曽利Ｅ２式期新段階に比定する。

12号住居

位　置　Q－18グリッド

確　認　５号・10号住居などの重複する住居の調査に伴って、炉が確認された。

重　複　５号・10号・42号住居と重複し、それらに切られる。

形　状　明確な壁は確認されていないが、床面・柱と出土遺物の状況から、4.50～4.70mの円形を呈するものと考える。

床　面　山側から谷側に向かって緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦な床面を呈する。硬化面は認められない。

炉　長辺50cm、短辺46cm、深さ17cmの長方形石囲い炉で、住居のほぼ中央に位置する。炉石は、小さな板状礫を数多く使用して縦位に並べて組んでおり、短軸の一方にあたる西側の炉石は抜き取られている。形態は６号住居の炉と近似しているが、本住居の炉は長軸を地山の傾斜に直行する方向で設置している。なお、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められる。

柱　穴　炉の南東側で３本の柱穴が確認された。規模は直径40～50cm、深さ30～45cmである。

遺　物　床面付近からまとまった状態で土器が出土した。舟形の釣り手土器（３）は、炉のすぐ東側の床面からまとまって出土している。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ１式期新段階に比定する。

13号住居

位　置　U－23グリッド

確　認　黒褐色土中の一定範囲に土器と礫が集中することから、住居を想定した。

重　複　８号・14号住居と重複し、これらを切る。

形　状　直径5.30mほどの円形を呈する。谷側の北

東部は確認できなかったが、その他はやや傾斜して立ち上がる壁が確認できた。高さは山側で20cmほどである。

床　面　ほぼ平坦な床面を呈する。14号住居とほとんどの部分が重複しているが、貼り床は施されていないため、硬化面は認められない。

炉　大きな板状礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に設置されている。炉石は谷側（北東側）の１石が抜き取られ、南東側の１石は打ち割られていた。炉内底面にわずかに焼土が残り、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。規模は１辺55cm、深さ22cmである。

柱　穴　確認できなかった。

遺　物　住居内の南東側を中心に、床面から浮いた状態で遺物が出土した。板状土偶の腕部と見られる11は、本住居の時期とは合わないものであり、あるいは南側で重複する８号住居からの混在かもしれない。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期新段階に比定する。

14号住居

位　置　Ｕ－23グリッド

確　認　13号住居の炉の掘り方調査に伴って、炉石の一部が確認された。

重　複　８号・13号住居と重複し、８号住居を切り、13号住居に切られる。

形　状　直径4.80ｍほどの円形であろう。谷側（北東側）の一部は確認できなかった。その他ではほぼ直立に立ち上がる壁がめぐり、高さは山側で30cmである。

床　面　ほぼ平坦な床で、硬化面は認められないが、炉辺を中心に炭化材の小片や炭化物の散布が認められた。

炉　大形の板状礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居のほぼ中央に設置されている。炉石は、上方がやや開いた状態で設置しており、各隅部には小礫で根詰めが施されている。炉石は使用時の状況をほぼ留めているが、北側の１石は抜けて反っており、意図的に変更されたのかもしれない。炉内底面に残る焼土はわずかだが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められる。規模は１辺80cm、深さ18cmである。

柱　穴　確認できなかった。

遺　物　覆土中から少量の土器片と石器が出土している。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

15号住居

位　置　Ｓ－19グリッド

確　認　５号住居の確認調査に伴って、覆土中出土遺物と同レベルで炉様の石組みが発見され、15号住居と命名した。その後、住居としての確認調査を実施したが、石組み以外は認められなかった。配石遺構の可能性もあるが、石組みの一部にわずかな被熱痕跡が認められることから、石組みだけを本住居として報告しておく。

重　複　石組みは、５号住居と18号住居の重複部分に位置しているが、両住居との切り合い関係は不明である。

炉　数個の板状礫が方形状に組まれており、周囲にも数個の礫が散乱していた。組まれた礫は１辺70cmほどであり、本遺跡の石囲い炉の規格内におさまっている。石組み内に焼土は認められないが、礫の一部に被熱痕跡がわずかに認められる。

遺　物　本遺構に伴う遺物は確認できないが、礫の一部に磨り面を伴うものが１つあった。

時　期　不明。

16号住居

位　置　Ｒ－18グリッド

確　認　５号住居の炉の南東側床面に、直径１ｍほどの焼土混じりのローム質土があり、これを断ち割ると、炉の掘り方が確認された。その後、床面や柱穴の調査を行ったが、確認できなかった。

重　複　５号住居と重複し、これに切られる。

炉　１辺70cmの方形で、深さ20cmの掘り方の底面に、中央よりやや南西に寄せて埋設土器が設置されていた。使われた土器は越後地域の小形深鉢で、胴下半を打ち欠いて正位に埋設されていた。打ち欠かれた胴部の欠け口を研磨し、口縁の波頂部も取り去った丁寧な扱いが施されていた。炉石は全て抜き取られ、炉内に焼土はほとんど残っていなかったが、埋設土器の口縁部には明瞭な被熱痕跡が認められた。

遺　物　炉内埋土中から少量の土器片と石器が出土した。

時　期　炉内埋設土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

17号住居

位　置　Ｔ－20グリッド

確　認　黒褐色土中の一定範囲に、多量の土器と礫が集中することから、住居を想定した。当初は７号住居として扱ったが、調査が進む中で炉と埋甕が同一面で確認され、混乱を避けるために17号住居とした。その後の整理作業で出土土器の接合関係や型式的検討、および各施設の位置関係などを検討した結果、当初７号住居として取り上げた遺物も17号住居で一本化することにした。

重　複　東側で６号・18号住居と接近するが、重複には至らない。

形　状　長軸5.95m、短軸5.10mの楕円形を呈する。調査時に確認された壁を前提にしたが、実際は不明瞭な部分も多く、６m前後の円形を呈する可能性もある。壁の高さは、山側で20cmほどである。

床　面　本地区は地山の黄色砂質土がなく、床面は黒褐色土になっている。そのため、炉と埋甕を基準に床面を検出した。

炉　大形の板状礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に設置されている。規模は１辺60cm、深さ22cmで、対向する南北の隅部には、小礫の根詰めが施されている。炉内に焼土はほとんど残されていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。

柱　穴　確認された柱穴は、埋甕の北側にある１本のみである。規模は直径30cm、深さ35cmであった。

埋　甕　炉の南東側の壁際に位置する。直径70cm、深さ24cmの円形の掘り方上位に、深鉢の上半部を逆位に埋設し、その上に板石が置かれていた。埋設土器内に内容物等は入っていない。

なお、この埋甕の位置が出入り口にあたると考えると、本住居は地山の傾斜に対して横方向に出入り口があったことになる。

遺　物　床面から浮いた状態で多量の土器が出土した。出土土器は関東系が主体であり、それに当地域の土器が加わっている。18・42～48は本住居より古式の土器群であり、18号住居の一部が混在した可能性が高い。

なお、埋甕に転用された土器は現在所在が不明である。確認した段階で補足したい。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期新段階に比定する。

18号住居

位　置　Ｓ－19グリッド

確　認　６号住居の調査に伴って確認された。出土遺物は少ないが、出土レベルと時期が揃っており、壁も低いながらもめぐることから、住居と認定した。

重　複　５号・６号住居と重複し、これらに切られる。

形　状　直径6.10mの円形を呈するであろう。６号住居に切られた部分以外は壁がめぐっており、山側で10～15cmの高さである。

床　面　掘り込みがやや浅く、黄色の地山まで達していないが、平坦な床面が確認できた。硬化面は確認されていない。

炉　住居中央部に炉石と見られる小さな礫が数個あり、この付近にあったと考えられるが、６号住居で削平されて残っていない。

柱　穴　確認できなかった。

遺　物　覆土上層の遺物は特定できなかったため、出土量は少ないが、同一個体の土器片が数カ所にまとまった状態で、床面付近から出土している。時期

的にもよくまとまった資料が得られている。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ１式期に比定する。

20号住居

位　置　Ｒ－18グリッド

確　認　５号住居の掘り方調査に伴って確認された。５号住居炉の下に本住居の炉が位置しており、16号住居炉と接近するが、本住居炉のほうがより下位で確認されている。

本住居も16号住居と同様に、炉のみの確認に止まった。

重　複　５号・16号住居と重複し、これらに切られる。

炉　長さ75㎝、幅30～35㎝の長方形状に焼土が確認され、その中央部より東側に寄った位置で埋設土器が検出された。埋設土器は、口縁部上半と胴部下半を打ち欠いた深鉢で、西側半分を焼土にかかった状態で確認されており、その周囲の焼土は強い被熱痕跡を示していることから、これらは原位置を保持していると言って良い。焼土の形状は長方形の石囲い炉を想定させるが、焼土と埋設土器の位置関係は、大形方形石囲い炉の東側がなんらかの理由で失われたことを示していると言えよう。その場合、本住居は５号住居と同じくらいに大形の住居だったことが想定される。

なお、埋設土器には口縁部上半と胴部下半を打ち欠いた、やや小型の深鉢が使用されていた。

遺　物　本住居に確実に伴う遺物は、炉内埋設土器１点のみである。本土器は口縁部の隆帯が剥落している。

時　期　炉内埋設土器から、加曽利Ｅ３式期古段階に比定する。

21号住居

位　置　Ｒ－20グリッド

確　認　覆土中の出土遺物は少なく、石囲い炉の確認により、住居と認定した。

重　複　南側で10号住居と重複し、同住居を切る。

形　状　床面や柱穴の位置などから、直径4.1ｍほどの円形と想定した。山側を中心に壁の確認を試みたが、明瞭な壁は検出できなかった。

床　面　山側を中心に平坦な床も部分的に確認できたが、全体に不明瞭であった。

炉　土器埋設円形石囲い炉とみられる。やや大形の埋設土器を取り囲むように板状礫を平坦面に平置きし、その内側に３つの小礫を縦位に置いて、五徳状に配置している。炉内に焼土はほとんどないが、炉石には微かに被熱痕跡が認められた。炉石は南側の一部をトレンチで失ったが、直径70㎝ほどの円形に配置されていたものと思う。

他の住居の炉とは礫の使い方が明らかに異なっており、埋設土器に伴う配石遺構の可能性も検討したが、炉石の被熱痕跡の確認をもって住居と判断した。

なお、炉内埋設土器には、口縁部と底部を打ち欠いたやや大形の深鉢（１）が使われ、炉石の一つに多孔石（７）が使用されていた。

柱　穴　合計９本を確認したが、主柱に該当するのは柱２・３・４・５・６の５本であろう。柱穴の大きさは直径15～25㎝、深さ10～30㎝である。

遺　物　ほぼ床面のレベルで確認したため、出土遺物は少ないが、炉の北側床面から少量の土器が出土した。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

22号住居

位　置　Ｖ－25グリッド

確　認　黒褐色土中の一定範囲から、多量の土器・礫がまとまって出土することから、住居を想定した。炉は30区側に位置しており、住居の南側の一部は調査区外にある。

重　複　なし。

形　状　明瞭な壁は確認できなかったが、炉の大きさ、柱穴の位置、遺物の出土状況などから、直径6.5ｍほどの円形を呈するものと思われる。

床　面　炉の周囲２ｍ前後の範囲では平坦な床が認

められたが、その外周部は不明瞭ではっきりしない。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、大きさは１辺90cmと大形である。炉石の４隅に礫を設置していたと見られるが、現状では３隅に礫が残っており、西隅に小円礫、南隅には棒状円礫を立て、東隅には石棒が立てられていた。北隅は乱されており、北西と北東の炉石の上端部は意図的に打ち欠かれていた。また、東隅に立てた石棒の頭部にも打ち欠いた痕が残っており、住居を廃絶する際に機能を停止させたのかもしれない。炉内底面には焼土が残っており、炉石内面にも被熱痕跡が明瞭で、劣化・ヒビ割れが認められる。

なお、炉の底面は突き固めたように硬化していたが、掘り方調査で硬化面の下から埋設土器が確認された。使われていた土器は、越後地方との交流が窺える小形深鉢の胴上半部で、炉の中央に正位に埋設されていた。以上の状況から、この炉は当初は埋設土器を伴っていたが、最終使用時には使われていなかったと判断した。

柱　穴　確認できたのは２本のみである。いずれも炉の西側1.5mほどの位置にあり、平坦な床面の確認できる範囲内にある。大きさは長軸60～70cm、短軸35～45cm、深さ40～50cmと大形であり、楕円形を呈する点に特徴がある。

遺　物　覆土上層は削平されており、覆土下層の土器が中心である。土器は加曽利Ｅ式が主体だが、炉内埋設土器は越後地方との交流を窺わせる地元の土器を使用している。

時　期　炉内埋設土器及び覆土出土土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

23号住居

位　置　Ｏ－22グリッド

確　認　敷石住居に使用される板石の集中と埋設土器との関連から、住居を想定した。覆土の大半は中世の館によって削平されており、現況を留めているのは山側の一部のみである。

重　複　南西側で25号住居と２号配石、東側で１号掘立柱建物が重複し、25号住居を切り、２号配石と１号掘立柱建物に切られる。

形　状　山側で数cmの壁をかろうじて確認したが、その他は中世館造成時に削平されていた。その後の掘り方調査で柱穴が確認され、炉内埋設土器と板石の配置等から、谷側に柄部が付く柄鏡形敷石住居を想定した。規模は長軸6.1m、短軸5.9mである。

床　面　山側の一部で、板石と小さな扁平円礫を敷いた敷石面を確認した。敷石に使用されていたと見られる礫のうち、人為的に運び込まれたと考えている板石と円礫について、スクリーントーンを替えて平面図に示した。

炉　住居の中央に埋設土器があり、その口縁部まで削平が及んでいた。埋設土器の口縁部は周囲に散らばっていたが、その一部を復元すると、炉の埋設土器としてはやや大きな深鉢に復元できた。この埋設土器の周囲には、炉石片と見られる被熱痕跡が認められる礫片も散らばっており、本来は土器埋設方形石囲い炉であったと思われる。

柱　穴　想定される住居範囲内から15本の柱穴を確認したが、このうち番号を付けた11本が本住居の主柱穴にあたるものと考える。規模は直径40～80cm、深さ30～60cmとまちまちで、そのうち５本の柱穴では、底面に直径20cm前後の柱痕様掘り込みを伴っていた。

遺　物　大半が掘り方からの出土であり、いたって少ない。

時　期　炉内埋設土器から、加曽利Ｅ４式期に比定する。

24号住居

位　置　Ｑ－23グリッド

確　認　礫と土器が一定範囲に集中することから、住居を想定した。中世館造成による削平は住居上層のみで免れたが、北側を崩落地で失っている。礫は覆土中に大量に投げ込まれており、床面付近まで達していた。

重　複　30号住居と重複し、これを切る。

形　状　直径4.6mの円形を呈する。壁は崩落地を除いて全周しており、壁高は山側で30cmである。炉から見て谷側にあたる北東方向に、出入り口部を示す埋甕と一対の柱穴があり、柄鏡形住居に特有の配置を示しているが、柄部は確認されていない。また、炉辺や埋甕の周囲に大形の扁平円礫や板石が散在しており、敷石住居であった可能性もある。

床　面　平坦な床面を呈するが、軟弱であり、やや荒れている。また、床面には山側を中心に多量の大形礫が散在していた。

炉　大形の扁平礫と板石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央よりやや山側に寄った位置にある。北東と北西の炉石は大半が抜き取られており、その部分に大形の扁平円礫が敷き詰めたような状態で置かれていた。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面は被熱痕跡を示す変色・劣化が著しく、ひび割れが生じていた。

柱　穴　東半部で4本の柱穴を確認したが、このうち、柱1と柱4は埋甕をはさむように並んでおり、出入り口部に伴う柱穴と考えてよいだろう。この2本の柱穴は規模も直径45cm前後、深さ40cm前後で揃っている。柱2は直径60cm、深さ40cm、柱3は直径75cm、深さ45cmである。

埋　甕　谷側にあたる住居の北東側で確認された。炉の主軸方向の延長上にあり、その先の壁までの距離は70cmである。その間に埋甕をはさむように柱1と柱4が位置し、その柱間は芯々で75cmである。埋甕は加曽利E3式期の大形深鉢の上半部（2）を逆さに伏せて埋設されていた。その上面には2つの小さな板石が置いてあり、蓋石があった可能性が高い。また、埋甕の南西20cmの床面から有頭の小形石棒（25）が出土している。

遺　物　土器の多くは、礫群中からその下部を中心に出土した。出土土器は加曽利E式系が主体である。

時　期　埋甕と覆土出土土器から、加曽利E3式期新段階に比定する。

25号住居

位　置　P－22グリッド

確　認　石囲い炉の確認により、住居と認定した。覆土上面と北側を中世館の造成で削平されており、館に伴う礫群を取り外した段階で石囲い炉が確認された。

重　複　北東側で23号住居及び2号配石と重複し、両遺構に切られる。

形　状　東西長4.6mの隅丸方形あるいは台形状を呈するものと思われる。山側では25cmほどの高さで壁が確認できたが、谷側では柱穴が2本の確認に止まった。

床　面　山側から谷側に緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦である。

炉　大きな厚手の板状礫数個で組んだ台形状の石囲い炉で、住居のほぼ中央に位置する。規模は長辺90cm、短辺70cm、幅80cmである。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。炉石は抜き取られていないが、炉内に大きな礫が数個投げ込まれていた。

柱　穴　5本の柱穴を確認した。規模は直径40～50cm、深さ35～50cmである。

遺　物　床面付近から少量の土器・石器が出土した。16は釣り手土器の一部であり、本住居の時期よりも古式になるであろう。

時　期　出土土器と重複関係等から、加曽利E3式期に比定する。

30号住居

位　置　P－23グリッド

確　認　24号住居の掘り方調査で埋設土器（1）が確認され、その周囲で柱穴も数本見つかったことから、住居を想定した。その後の調査で、埋設土器の北側から小形の埋設土器（2）がもう一つ確認された。いずれも掘り方状態での確認ではあるが、当初発見された埋設土器（1）の口縁部に被熱痕跡が認められることから、これを炉内埋設土器と想定すると、24号住居と同様に、谷側に埋甕（2）を埋設した住居を想定することができる。

重　複　24号住居と重複し、これに切られる。

形　状　不明。

床　面　不明。

炉　土器埋設石囲い炉と想定する。炉の掘り方は、長軸96㎝、短軸80㎝の隅丸方形状を呈し、そのほぼ中央に土器が埋設されていた。使われていた土器（１）は、やや大形の地元系深鉢の上半部で、掘り方に焼土は残っていないが、埋設土器の口縁部には被熱痕跡が認められる。大形の掘り方から、石囲いが存在したと思われる。

柱　穴　本住居に伴うものとして３本の柱穴を認定した。柱１は直径60㎝、柱２は直径30㎝、柱３は直径40㎝であるが、深さはいずれも40㎝ほどである。

埋　甕　炉の谷側にあたる北北東方向1.9ｍに位置する。炉と埋甕（２）の距離は２４号住居のそれよりやや長いが、炉の掘り方の大きさから、24号住居よりやや大きな住居形状を想定することができる。

遺　物　出土遺物は炉内埋設土器（１）に添えてあった２片の土器片（３・４）のみである。

時　期　炉内埋設土器と埋甕から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

34号住居

位　置　Ｕ－13グリッド

確　認　多量の礫と土器片が一定範囲に集中することから、住居を想定した。調査が進む中で、住居北側でほぼ完形の土器２個体（10・12）が、横倒し状態で出土した。さらに東側で逆位の埋設土器２個体（１・13）を確認した。当初は単独の埋設土器と判断したが、その後の調査で床面倒置の土器であることが判明した。

重　複　なし。

形　状　山側にあたる北西側の壁は未確認であるが、長軸推定6.4ｍ、短軸６ｍのほぼ円形を呈するものと考える。壁高は山側で40㎝である。

床　面　貼り床が施されており、ほぼ平坦な床面を呈する。貼り床は、黄色ローム質土と地山の黒褐色土を主体に使用しており、かなり硬化しているが、一部に地山の黄褐色土も使用されており、この部分はやや軟質になっている。貼り床の厚さは、黄色ローム質土の部分が２㎝前後、黒褐色土部分は不明瞭である。図21にそれぞれの分布状況を示したが、本来は柱穴の内側全面に黄色ローム質土を貼り床した住居だったと考えられる。

また、壁と床が確認できなかった谷側の北西部以外では、周溝が確認された。規模は幅15～25㎝、深さ８～12㎝で、これも本来は全周していたと見てよいだろう。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、規模は1.1ｍ×１ｍである。各隅部に礫を加えて固定しているが、そのうち南側隅部には有頭石棒（30）が立てられていた。石棒は体部直径12㎝、長さ28㎝の大きさのもので、欠損した下端面には調整痕が認められる。また、体部は全体に研磨を施して平滑に仕上げており、一部に砥石様の研磨面が認められる。炉内底面にはわずかに焼土が残っており、炉石内面にも明瞭な被熱痕跡が認められる。また、石棒も炉内に面する部分に明瞭な被熱痕跡が認められ、炉の使用時に設置されていたことを明示している。

なお、炉の掘り方調査の段階で、古い炉の掘り方が確認された。この炉は東西に軸を合わせており、埋土中から焼土と炉石の破片が確認された。土器の出土がないため、時期差の有無は明確ではないが、その位置関係から本住居の旧炉と見ておきたい。

柱　穴　本住居に伴うものとして15本の柱穴を確認した。このうち壁に沿って円形に並ぶ柱１～７の７本が主柱穴となるであろう。規模は直径50～60㎝、深さ40～60㎝である。この他に、住居の南東の壁際に大小７本の柱穴が集中しており、そのうちの大きな４本は台形状に配置されている。この４本の柱穴は炉の軸線とも一致しており、出入り口に伴う柱穴と考えられる。この想定が正しいとすれば、本住居は地山の傾斜に対して東側面に出入り口があったことになる。

遺　物　比較的多くの土器が礫と共に出土した。礫は、出入り口部を想定した南東側に集中する傾向が

窺え、土器片もこの地点から数多く出土している。また、本住居では完存品あるいはそれに近い状態の土器が、住居周縁部から数多く出土している。まず、住居北西縁辺から2個体の深鉢（10・12）が横倒しの状態で出土、西側縁辺では2箇所から床面伏甕（1・2・9・13）が出土、さらに山側にあたる南側縁辺から床面伏甕（5）と転倒した土器（14）が出土している。このうち、特異な出土状況を示す南側と東側の2箇所について、詳細な図を作成した。

図24は南側の出土状況図で、柱2と3の間の床面に大形の扁平礫4個（網掛けの礫）を長軸100㎝、短軸35㎝の長方形状に配置し、住居内面側の長辺上の中央の床面に伏甕が置かれていた。伏甕に使用された土器は曽利式系の小形深鉢（6）で、胴下半部は打ち欠かれていた。転倒した土器（14）は、この長方形配石の礫に口縁部が接し、底部を壁にもたせかけたような状態で出土している。この長方形配石と同様の配石は東側の柱1と2の間でも確認された。使用された礫（網掛け）はやや小さく、長方形の配置も長軸70㎝、短軸30㎝とやや小形になっており、伏甕は認められない。

図25は東側の出土状況で、出入り口部に近い柱7の掘り方に接して床面伏甕が設置されていた。伏甕に使用された土器は、曽利式系の大形深鉢2個体（9・13）と加曽利E式系の小形深鉢1個体（2）で、9と13は入れ子の状態で置かれ、それに接して2が置かれていた。いずれの土器も胴下半部は打ち欠かれており、9は口縁部も欠損している。

また、柱6と7の間の床面に伏甕1個体が置かれていた。伏甕に使用された土器は曽利系の小形深鉢（1）で、その左右には壁に沿って2つの扁平礫が床に置かれていた。その間の距離は90㎝である。伏甕と礫の位置はややずれているが、壁に沿って長軸をとる配置は長方形配石と一致している。

時　期　伏甕及び出土土器から、加曽利E3式期中段階に比定する。

35号住居

位　置　W－15グリッド

確　認　直径2mほどの範囲に礫と土器片が集中する箇所があり、礫を取り除くとその下から埋設土器が確認された。礫は埋設土器の直上に面的に集中しており、周囲ではなにも確認できなかったが、埋設土器の周囲に板石や扁平礫が散在しており、焼土粒と炭化物粒が認められることから、住居と認定した。

重　複　なし。

形　状　不明。

床　面　礫や土器はほぼ同一平坦面で出土したが、明瞭な床面は確認できない。

炉　埋設土器の周囲に散在する板石と扁平礫には、明瞭な被熱痕跡は認められないが、礫と共に焼土粒と炭化物粒が比較的多く散布しており、石囲い炉があった可能性もある。埋設土器は、加曽利E式系の大形深鉢の胴下半部を使用しており、これを正位に埋設していた。

柱　穴　確認できない。

遺　物　礫といっしょに少量の土器が出土している。

時　期　炉の埋設土器及び出土土器から、加曽利E2式期新段階に比定する。

36号住居

位　置　T－11グリッド

確　認　少量の礫と土器が散布する黒褐色土面の一角から、小さな石囲い炉を確認し、床面や柱穴の検出を試みたが、発見できなかった。

重　複　なし。

形　状　不明。

床　面　検出できない。

炉　やや小ぶりの礫数個で組んだ方形状の石囲い炉で、西側の一部は炉石が乱れていた。規模は1辺55㎝ほどと小さく、炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

柱　穴　確認できない。

遺　物　炉の周囲から少量の土器と石器が出土した。

時　期　出土土器から、加曽利E3式期に比定する。

37号住居

位　置　Ｔ－13グリッド

確　認　礫と土器破片が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重　複　東半部を38号住居・298号土坑と重複し、38号住居を切り、298号土坑に切られる。

形　状　直径3.5ｍほどの円形を呈する。谷側にあたる北東側の壁と床は不明瞭だが、掘り方調査で壁に相当する立ち上がりの一部が確認できた。壁高は山側で35㎝である。

床　面　山側にあたる南西部分では平坦な床面が残っていたが、北東側は不明瞭であった。硬化面は確認できない。

炉　大形の板石と扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。規模は１辺80㎝ほどである。炉石の組み方が歪んでいるのは、おそらく廃絶時に手が加えられたためだろう。炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められる。

柱　穴　住居南東壁際で１本確認した。規模は直径28㎝、深さ30㎝である。

遺　物　出土遺物は少ないが、炉内から深鉢の胴下半部（１）が１個体、炉の北側で床面からやや浮いた状態で半分に割れた鉢形土器（３）が１個体出土した。また、炉石に口縁部を掛けた状態で、口縁部と底部が欠損した小形深鉢が１個体出土しているが、所在が不明となっている。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

38号住居

位　置　Ｓ－13グリッド

確　認　重複する37号住居の掘り方調査で壁の一部を確認し、続いて貼り床が確認されたことから住居と認定した。

重　複　37号住居及び298号・299号土坑と重複し、これらに切られる。

形　状　東西に長軸をとる楕円形の住居で、規模は長軸4.35ｍ、短軸４ｍである。

床　面　ほぼ平坦で、中央部付近に黄色ローム質土による貼り床が施されていた。貼り床部分は硬化している。貼り床の残っている箇所は本住居でも柱穴の内側であり、34号住居の事例と共通している。

また、本住居では西側の一部を除いて壁が確認でき、壁に沿ってめぐる周溝も検出された。周溝は断続的にめぐっており、西側では確認できなかった。壁高は山側で40㎝、周溝は幅が15～25㎝、深さ５～10㎝である。周溝は掘り方調査でも確認され、その走行はやはり断続的であったが、床面の周溝とは途切れる位置が異なっており、本住居は改築をしている可能性が高い。

なお、谷側にあたる東壁の一部に礫を集積した箇所があり、この部分で周溝も途切れることから、出入り口部の可能性がある。

炉　住居中央より北東に寄った位置に楕円形を呈する濃密な焼土があり、これを炉としたが、この焼土には掘り込みがなく、貼り床の一部が面的に焼土化した状態にも見える。本遺跡ではこの時期の炉は大半が石囲い炉であり、これまでの調査で明確な地床炉は見あたらないことからも、疑問が残る。なお、掘り方調査で住居中央部付近から浅い掘り込みの土坑が確認されており、建て替え前の住居の炉であった可能性がある。

柱　穴　床面で５本、掘り方調査で７本、合計12本の柱穴を確認した。床面の５本はほぼ等間隔に配置されており、６本あるいは７本の主柱だったことが想定される。その場合、東側に想定した出入り口部には柱４が接近しており、柱穴配置から見れば、出入り口は柱１と５の間としたほうが妥当であろう。

遺　物　覆土中から比較的多くの遺物が出土している。土器は加曽利Ｅ式系が主体である。

時　期　覆土出土土器から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

41号住居

位　置　Ｒ－17グリッド

確　認　多量の礫と土器が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重　複　北側を大きく42号・43号住居と重複し、両住居を切る。また、重複関係は確認できないが、北側で５号住居、南側で57号住居と一部を重複する。

形　状　本住居は黒褐色土中にあり、また周囲を多くの住居と重複しているため、覆土と地山の見分けは困難を極めた。掘り方調査の所見では直径5.4mの円形と判断したが、主柱が４本柱と想定されることから、隅丸方形となる可能性もある。なお、壁高は山側で20cmである。

床　面　ほぼ平坦であるが、硬化面は確認できない。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央部に位置する。対向する南北の隅に礫を加えるが、南側ではそれに多孔石（21）が使用されていた。規模は１辺54cm、深さ12cmで、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

柱　穴　床面の調査では確認できなかったが、掘り方調査で３本の柱穴が確認できた。規模は直径65～80cm、深さ35～45cmで、いずれも石囲い炉の隅部に対応していることから、４本柱の主柱が想定される。

遺　物　覆土中から多量の礫と土器が出土したが、土器は小片が多く接合するものは少ない。礫は山側から流れ込んだような状態で大量に出土しており、大形のものや板状のものが多い。なお、炉の東側の床面から石棒の欠損品（18）が出土している。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期新段階に比定する。

42号住居

位　置　Ｑ－17グリッド

確　認　礫と土器が一定範囲に集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重　複　５号・12号・41号・43号・59号・60号住居と一部を重複し、12号・43号・60号住居を切り、５号・41号・59号住居に切られる。

形　状　本地区ではトップクラスの大形住居であり、貼り床が施されていることもあって、形状等の把握は容易であった。谷側の一部は壁の確認ができなかったが、長軸7.80m、短軸7.75mのほぼ円形を呈するものと推定する。壁高は山側で40cmである。

床　面　柱穴がめぐる内側の範囲に貼り床が確認された。貼り床には黄色ローム質土が使用されており、厚さは１～２cmほどで、34号住居に較べてやや軟質であった。

南東壁際の一部にも同様の貼り床を施した部分があり、貼り床の下から埋甕が確認された。埋甕に使用された土器は、口縁部と底部を打ち欠いた浅鉢（10）で、正位に埋設されていた。この位置は炉の主軸とも一致しており、出入り口にあたると考えてよいだろう。その場合、本住居でも34号住居と同様に、地山の傾斜に対して南東側の横方向に出入り口があったことになる。また、炉からこの出入り口に向かって１mのところに貼り床が焼土化した部分があり、その上に小さな板石が置かれていた。焼土は明瞭であり、この場所で火を焚くか「おき」を置いたものと思われる。

なお、南西側の壁際床面に小礫が集中する部分が２箇所あった。いずれも長さが３mほどで、１mの間隙を置いて対峙している。寝間等の施設の可能性を考えたい。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央部に位置する。１辺１mの大形の炉で、隅部には円礫や棒状礫が根詰めされており、東側隅部には有頭石棒（102）が立てられていた。使用された石棒は直径11cm、長さ19cmのもので、体部を欠損しているが、欠損面には研磨による調整が施されていた。また、頭部には炉の内面側を中心に被熱痕跡が明瞭に認められ、その一部は欠損していた。石棒の位置は、出入り口から見て手前右手にあたる。

炉の底面には焼土が残っており、炉石は被熱痕跡が著しく、亀裂が生じていた。なお、炉の掘り方調査で最終使用面の下から焼土面がもう１面見つかり、改修されていることが判明した。出入り口の埋甕の上に貼り床が施されていたことも加味すると、本住

居は一度改修が行われたと考えたほうがよいだろう。

柱　穴　柱穴は10本確認されたが、主柱穴は１～５・７の６本が該当するであろう。柱１と８、柱７と６が隣接しているのは、本住居が改修されていることを示していると考える。

遺　物　多量の礫とともに数多くの土器・石器が出土した。覆土の上層が失われているためか、土器の接合資料は少ないが、石鏃をはじめとする実用石器類がまとまって出土している。また、床面付近に板状礫や大形礫が数多く分布していたが、34号住居で確認された長方形配石と認定できるものはなかった。

なお、北東よりの床面付近から、数個の礫とともに翡翠製大珠（100）が出土している。出土位置は床面が不明瞭な部分にあたるが、本住居出土として扱っておきたい。

時　期　覆土中出土土器と出入り口部埋甕から、加曽利Ｅ３式期中段階に比定する。

43号住居

位　置　Ｒ－17グリッド

確　認　重複する41号・42号住居の調査時に、多量の礫が集積する箇所があり、土器も伴っていることから住居を想定した。

重　複　５号・41号・42号住居と重複し、これらに切られる。

形　状　床面確認の段階では円形状の形状を想定したが、掘り方調査で周溝が確認され、長軸5.8m、短軸5.25mの南北に長い楕円形の形状が判明した。

床　面　硬化した部分はないが、ほぼ平坦な床面を呈する。壁高は山側で35cmである。なお、掘り方調査で山側をめぐる周溝が確認された。

炉　石敷きを伴う石囲い炉で、住居の中央に位置する。南側以外の辺に小さな扁平礫を立てて方形状に組み、10～20cmほどの扁平礫を南側から炉の中央部に向かって傾斜するように敷き込んでいる。規模は長軸1.3m、短軸は石囲い部で90cm、石敷き部で１m、深さは20cmほどで、炉内に焼土はほとんど残っていないが、炉石の内面と石敷き面には被熱による変色と煤の付着が認められた。

このような炉は、本遺跡では今のところ例がないが、小さな礫を使用する点や石敷きの方法は、越後地方との関係を想定させる。

柱　穴　床面調査の段階では３本の柱穴の確認に止まったが、掘り方調査で８本の柱穴を確認し、合計11本となった。このうち柱１～７が主柱穴にあたり、柱８と９が出入り口部に伴う柱穴になるであろう。主柱穴は７本柱の亀甲形に配置され、出入り口部に１対の柱穴が伴うものと考える。

この場合、地山の傾斜に対して南東側の横方向に出入り口が付くことは34号住居及び42号住居とも共通しており、炉の石敷き部は出入り口部の正面にあたることになる。

遺　物　柱穴に囲まれた住居中央部に、大小多量の礫が詰め込まれたような状態で集積しており、その下部は石囲い炉を覆っていた。明らかに人為的に埋め戻された状況と判断する。土器等の遺物はその下から出土したものが多く、比較的まとまった資料が得られている。なお、破片資料では本住居より古い段階の土器も意図的に選定した。

時　期　覆土下層出土の土器から、加曽利Ｅ３式期古段階に比定する。

44号住居

位　置　Ｌ－18グリッド

確　認　本住居のあるグリッド18ラインには近世の石垣が位置しており、石垣を取り外した段階で石囲い炉の一部を確認し、住居と認定した。

重　複　縄文時代の遺構との重複関係はない。

形　状　谷側（北側）に柄が付く柄鏡形住居で、主体部は直径４mほどの円形状を呈する。

床　面　本来はほぼ全面に敷石が施されていたと思われるが、敷石の大半は近世の石垣の構築等により消失していた。ただし、床面をよく観察すると、敷石の一部と見られる板石（斜線で表示）と、敷石の根詰めに使われた小さな円礫（黒塗りで表示）が列状に残っており、ほぼ全面にわたる敷石の状況が想

定できた。なお、掘り方調査で南壁と東壁の内側をめぐる周溝が検出された。

炉　大形の扁平礫4石で組んだ方形の石囲い炉で、住居の中央に位置する。南側の炉石と他の一部を失っているのは、近世の石垣の構築による可能性が高い。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には明瞭な被熱痕跡が認められた。規模は1辺60㎝、深さは18㎝である。

柱　穴　床面の調査段階では確認できなかったが、掘り方調査で7本の柱穴が検出された。柱1～6は炉を中心に対峙する位置にあり、柱7は出入り口部の対柱となるであろう。

遺　物　出土遺物はいたって少なく、山側の床面付近から少量の土器片と石器が出土している。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利E4式期に比定する。

48号住居

位　置　O－16グリッド

確　認　礫や遺物の出土量は少なく、事前に想定する材料はなかったが、床面が高い位置にあるため、早期に石囲い炉が確認された。

重　複　42号・50号・52号・65号住居と重複し、42号・50号・65号住居を切り、52号住居に切られる。このうち、50号住居とはほとんどの部分が重なっており、切られる52号住居は縄文時代後期の住居である。

形　状　直径3.95mの円形を呈する。確認できた壁高は10㎝ほどであるが、全周にわたって検出することができた。

床　面　本住居の床は黒褐色土中にあり、不明瞭と言わざるを得ない。確認は炉と礫や遺物の底面を基準に精査したが、硬化面は確認できなかった。

炉　大形の扁平礫4石で組んだ方形の石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉内にわずかに焼土が残っており、炉石内面には被熱による変色・劣化及び煤の付着が認められた。規模は1辺60㎝、深さ15㎝である。

柱　穴　確認できない。

遺　物　床面付近から少量の遺物が出土している。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利E3式期中段階に比定する。

49号住居

位　置　O－15グリッド

確　認　重複する住居も含めて多量の礫が集積しており、その礫の下から石囲い炉が確認された。

重　複　51号・52号・65号住居と重複し、51号・65号住居を切り、後期の52号住居に切られる。

形　状　重複部分では明瞭な壁が確認できなかったが、山側では25㎝ほどの高さで壁が円形状にめぐっており、炉の位置関係や礫・遺物の分布状況などから、直径3.5mほどの円形を呈するものと想定した。

床　面　48号住居と同様。

炉　大形の扁平礫5石で組んだ5角形状の石囲い炉で、住居の中央に位置するものと想定する。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱による変色・劣化及び煤の付着が認められた。また、炉石の一部は意図的に打ち欠かれており、炉内には礫が数多く投げ込まれていた。規模は東西70㎝、南北60㎝、深さ10㎝である。

柱　穴　確認できない。

遺　物　床面及び炉内から少量の遺物が出土した。

時　期　出土土器から、加曽利E3式に比定する。

50号住居

位　置　Q－15グリッド

確　認　48号住居の掘り方調査で石囲い炉が確認された。

重　複　48号・52号・65号住居と重複し、48号・52号住居に切られる。65号住居との切り合い関係は不明。

形　状　壁の確認は一部に止まるが、覆土の状況や遺物の出土状況などから、長軸4.35m、短軸4.15mほどの円形状を呈するものと思われる。

床　面　床面は黒褐色土中にあり、特に硬化した部

部分は認められなかった。

炉　大形の板石と扁平礫数石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。規模は１辺60㎝前後、深さ７～10㎝である。炉の北西に48号住居の炉が重なっており、その部分の炉石を失っている。その他の炉石も傾いているものがあり、廃絶時に手を加えていると想定する。炉内に焼土が残り、炉石の内面には被熱による変色・亀裂が認められた。

柱　穴　３本確認された。直径は35～50㎝、深さは32～47㎝である。

遺　物　床面からわずかに浮いた状態で、少量の土器片と石器が出土した。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

51号住居

位　置　Ｎ－15グリッド

確　認　この地区は全面に大量の礫が集積しており、その下から一定範囲に集中した状態で多量の土器が出土した。土器は時期的にもまとまりが認められることから住居を想定し、炉の確認をもって確定した。

重　複　西側で49号住居と重複し、これに切られるが、床面レベルが異なるため、本住居周囲の地山礫は失われていない。

形　状　明瞭な壁は確認できなかったが、炉の位置と住居周囲の地山礫との関係から、長軸3.9ｍ、短軸3.6ｍ前後の楕円形あるいは隅丸方形状を呈するものと想定した。

床　面　判然としない。

炉　中央部に集積した土器の下から、焼土が残る楕円形の浅いくぼみが確認された。掘り方は長軸60㎝、短軸50㎝の楕円形状を呈する。本来は石囲い炉であった可能性が高い。

柱　穴　確認できない。

遺　物　住居覆土中に多量の礫が集積しており、その礫を取り除くと、中央部の床面付近に多量の土器が集積されていた。土器は接合率が高く、一括投棄されたものと解釈できる。土器では、台付土器の脚部（３）や浅鉢（９）が越後地域との関連で注目される。石器では、縁部に弧状文を施した足付石皿（20）が、炉の北側長軸線上の床面から出土している。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ１式期古段階に比定する。

53号住居

位　置　Ｏ－16グリッド

確　認　縄文時代後期の47号・52号住居の調査に伴って住居の存在が想定され、南側の壁と周溝の確認をもって認定した。

重　複　47号・52号・60号・65号住居と重複し、65号住居を切り、後期の47号・52号住居に切られる。65号住居との切り合い関係は不明である。

形　状　輪郭が確認できたのは南側の壁と周溝の一部だけだが、掘り方調査で検出した柱穴と炉の掘り方から、長軸6.7ｍ、短軸5.4ｍの楕円形の形状を想定した。確認された南壁は高さは35㎝で直立し、周溝は幅18～25㎝、深さ14～18㎝である。

床　面　南側の一部で、平坦な床面が明瞭に確認できた。本住居の床は、重複する60号住居の床より10㎝高く、隣接する51号住居の床より25㎝低い。

炉　重複する60号住居の調査で、本住居の炉と想定される楕円形の土坑が確認された。この土坑は長軸70㎝、短軸55㎝、深さ14㎝の楕円形状を呈するもので、焼土等は残っていないが、想定される本住居の形状と長軸が一致している。

柱　穴　重複する住居も含めて、本住居の柱穴と想定されるものが６本確認され、そのうち柱１～４が主柱穴にあたると想定した。亀甲形の配置は重複する60号住居を参考にした。柱穴の規模はいずれも直径40㎝前後、深さは32～38㎝である。

遺　物　覆土中から比較的まとまった量の土器が出土している。主体は本地域特有の樽形を呈する沈線文系の土器であり、加曽利Ｅ式は少ない。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期古段階に比定する。

54号住居

位　置　P－14グリッド

確　認　中世遺構の調査段階で、黒褐色土中から敷石面が確認され、住居と認定した。

形　状　敷石面は炉の周囲の一部だけが残っており、その他の手懸かりは掘り方調査でも得られなかった。なお、山側（南側）の高い位置に礫が集積しており、この位置が壁となる可能性もある。その場合、主体部の大きさは直径3.5m前後となる。

床　面　炉の周囲に板石と扁平礫を水平に敷き詰めるが、周囲の敷石は失われている。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉だが、南半部を中世掘立柱建物の柱穴で破壊されていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面は被熱による変色と煤の付着が認められた。

柱　穴　確認できない。

遺　物　出土遺物は数片の土器細片と使用痕が残る礫だけである。

時　期　本住居の時期認定が可能な土器の出土はないが、全面敷石の状況から、加曽利Ｅ４式期に比定しておきたい。

55号住居

位　置　Q－13グリッド

確　認　本住居は多量に礫を含む地山を掘り込んで構築しており、遺物の出土はほとんど見られなかったが、硬化した床面があり、それを追跡することで炉と壁を確認できた。

重　複　なし。

形　状　一辺4.3mほどの隅丸方形を呈する。山側の半分は壁が確認できたが、谷側では確認できない。壁高は山側で40cmである。

床　面　床の一部は地山の黄色砂質土に達しており、山側では硬化面が確認できた。

炉　大形の扁平礫で組んだ土器埋設方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉石は半数以上が抜き取られており、残っているものも端部が打ち欠かれていた。埋設土器は、口縁部と胴下半部を打ち欠いた樽形の小形深鉢（５）を使用し、炉内中央より北東隅にやや寄せて埋設されていた。転用された土器は53号住居の２・３と近似した形態のものであるが、劣化が著しく、大半が崩れてしまった。

炉内に焼土は残っていないが、炉石は被熱で劣化し、亀裂が生じている。

柱　穴　山側で４本の柱穴を確認した。

遺　物　本住居も出土遺物はいたって少ない。

時　期　出土遺物等から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

56号住居

位　置　R－12グリッド

確　認　本住居は地山に礫を多量に含む地区にあり、当初は全面が礫で覆われていたが、本住居の部分にだけ少量の土器が混在しており、数回にわたって礫を取り外したところ、一括状態の土器と石囲い炉の一部が確認された。覆土中には、床面付近までぎっしりと礫が詰め込まれていた。

重　複　なし。

形　状　長軸3.64m、短軸3.26mの楕円形の住居で、地山の傾斜に長軸を直行するように配置している。壁は全周にわたって確認できており、壁高は山側で60cmを計る。小形ではあるが、定形化した楕円形住居の代表例と言えよう。

床　面　ほぼ水平で、炉の周囲ではやや硬化した床が認められた。

炉　小ぶりで細長い扁平礫を立てて囲った楕円形の土器埋設石囲い炉で、住居の長軸線上北西寄りに位置する。炉の形状は住居形状とも一致しており、炉石の選び方やその作りにも端正さが窺える。規模は長軸65cm、短軸45cm、深さ７cmである。

炉の中央には胴上半部を打ち欠いた深鉢が正位に埋設されていた。使用された土器は、胴部下半がソロバン玉状に張る小形の深鉢（３）で、上端部には被熱痕跡が認められた。

炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱による変色・劣化と煤の付着が認められた。

柱　穴　床面で５本、掘り方で３本、合計８本の柱穴を検出した。主柱は判然としない。

遺　物　覆土中には礫がぎっしりと詰まっており、その中に少量の土器が混在して出土した。また、礫を取り除いた下からややまとまって土器が出土しており、床面付近では炉の上から大形の深鉢（７）、炉の南西側から深鉢（１）が出土している。

時　期　炉内埋設土器及び覆土出土の土器から、加曽利Ｅ１式期古段階に比定する。

57号住居

位　置　Ｒ－15グリッド

確　認　一定範囲に礫と土器が集中することから住居を想定し、炉の確認をもって認定した。

重　複　住居の中央部に297号土坑が重複し、これを切る。

形　状　直径3.4ｍほどの円形状を呈する。山側にあたる南半部では壁が確認できたが、谷側では確認できなかった。

床　面　ほぼ平坦だが、297号土坑の範囲では床が落ち込んでいた。

炉　大形の扁平礫４石で組んだ方形石囲い炉で、住居の中央に位置する。炉はちょうど297号土坑の部分にあたるため、落ち込んでやや傾いている。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。

柱　穴　確認できない。

遺　物　覆土中から少量の遺物が出土している。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

58号住居

位　置　Ｓ－16グリッド

確　認　遺構確認調査の最終段階で、石囲い炉が確認された。周囲を再確認したが、その他の施設は認められなかった。

重　複　なし。

炉　大形の扁平礫１つが縦位に設置してあり、その片側に数個の礫が敷いたように置かれていた。焼土は認められないが、礫の一部に被熱痕跡が認められたことから、炉と認定した。

遺　物　炉の確認調査時に数片の土器と石皿（３）が出土した。

時　期　出土土器から、加曽利Ｅ３式期に比定する。

60号住居

位　置　Ｏ－17グリッド

確　認　重複する住居の掘り方調査に伴って確認された。礫を多く含む地山を掘り込んで構築しており、覆土中にも多量の礫が認められた。

重　複　42号・47号（後期）・52号（後期）・53号住居と重複し、これらに切られる。また、掘り方調査で床下から356号土坑を確認した。

形　状　長軸5.38ｍ、短軸5.00ｍの楕円形で、長軸は地山の傾斜に直行する。

床　面　床は地山の黄色砂質土に達しており、一部に黄色砂質土を使って平坦面を構築しているが、34号住居の貼り床のような硬化面は見られない。また、山側では壁下をめぐる周溝が検出された。

炉　大形の扁平礫数個で囲った長方形石囲い炉で、住居中央の長軸線上やや西寄りに設置している。炉石は東側の１辺が抜き取られている。炉内に焼土がわずかに残り、炉石内面は被熱で変色・劣化し、亀裂が生じていた。

柱　穴　床面で亀甲形に配置された６本の主柱穴を確認した。また、掘り方調査で小さなピットが数本検出されたが、そのうち西側周溝内の２本は出入り口部に伴う柱穴と考えられる。

遺　物　覆土中には礫が多く認められたが、その下からややまとまった遺物と多量の焼骨（50ｇ）が出土している。なかでも、床面近くから出土した土偶（13）は注目される。また、８・10は後期の遺物であり、重複する47号・52号住居のいずれかに所属するであろう。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ２式期新段階に比定する。

62号住居

位　置　O－13グリッド

確　認　中世以降の構造物を調査中に石囲い炉が確認されたが、その他の施設は検出できなかった。

重　複　なし。

炉　大形の扁平礫で組んだ方形石囲い炉であるが、炉石の一部は失われていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

遺　物　炉の調査時に数片の土器が出土した。

時　期　時期判定に使用できる材料はないが、加曽利E式期の住居と想定する。

64号住居

位　置　L－16グリッド

確　認　中世以後の石垣等の造作を調査中に、土器が出土する平坦面が確認された。炉は検出できないが、大形の地山礫がめぐる楕円形の形状が判明したため、住居と認定した。

重　複　なし。

形　状　長軸4mほどの楕円形になると想定した。山側の壁には大形の地山礫が並んでおり、壁高は50cmを計る。谷側は中世以降の石垣等の造作で攪乱されている。

床　面　山側ではほぼ平坦な床が確認できた。

炉　確認できない。

柱　穴　山側の壁に沿って大小10本の柱穴を確認した。このうち、等間隔に並ぶ大きな柱穴が主柱になるであろう。

遺　物　床面近くから少量の遺物が出土している。2は越後地域の浅鉢で、混在の可能性がある。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利E1式期新段階に比定する。

65号住居

位　置　P－15グリッド

確　認　後期の52号住居の調査で、南側に重複する浅い掘り込みと柱穴が確認された。

重　複　48号・49号・50号・52号（後期）・53号住居と重複し、52号住居に切られる。その他の住居との切り合い関係は判然としない。

形　状　不明。

床　面　52号住居の南でわずかな平坦面が確認された。床面付近には多量の焼骨と炭化物が出土したが、硬化面は確認できない。壁は山側で15cmほどである。

炉　確認できない。

柱　穴　床面で重複する6本の柱穴を確認し、52号住居をはじめとする重複住居で確認した柱穴を合わせて検討し、6本柱亀甲形の配置を想定した。柱穴は重複するものが多く、建て替えを行った可能性が高い。

遺　物　覆土中から多量の焼骨（71g）のほかに、少量の土器・石器が出土している。

時　期　覆土出土の土器等から、加曽利E3式期に比定する。

66号住居

位　置　D－18グリッド

確　認　調査の早い段階で敷石の一部と炉が確認された。

重　複　67号・70号（後期）住居と重複し、67号住居を切り、70号住居に切られる。

形　状　谷側（北側）に柄部が付く柄鏡形敷石住居であるが、輪郭は判然としない。

床　面　西側の縁辺と出入り口部埋甕の付近に、板石と扁平礫を使用した敷石の一部が残るが、かなり乱されている。また、北側に付く柄部も攪乱を受けており、確認できなかった。なお、床面には住居北西隅に1個、出入り口部埋甕の西側に2個の大きな丸石が置かれていた。

炉　大形の板石と扁平礫4石で組んだ土器埋設方形石囲い炉で、住居中央部よりかなり出入り口部寄りに位置する。炉石は南東隅付近が抜き取られていた。埋設土器には口縁部を打ち欠いた小形の深鉢（2）が使われ、炉内南東隅に寄せて正位に埋設されていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が認められた。

柱　穴　敷石面に沿って７本の柱穴を調査したが、いずれも不明確であった。また、出入り口部埋甕の前に付く大きな対柱も確認できなかった。

埋　甕　炉の北側65cmに近接して埋甕が確認された。使用されていた土器は、底部を打ち欠いた樽形の両耳壺土器（１）で、正位に埋設され、口縁に沿って小さな円礫で縁取りし、その周囲には敷石が施されていた。また、埋甕のすぐ西側の床面には、大きな丸石が２つ置かれていた。なお、埋甕の中からは何も検出されなかった。

遺　物　出土遺物はいたって少ない。

時　期　炉内埋設土器及び埋甕から、加曽利Ｅ４式期に比定する。

67号住居

位　置　Ｄ－18グリッド

確　認　重複する66号住居の調査に伴って確認された。

重　複　66号・70号（後期）住居と重複し、これらに切られる。

形　状　山側の一部のみの確認であるが、円形状を呈するものと想定する。壁高は山側で20cmである。

床　面　不明瞭。

炉　確認できない。

柱　穴　床面では不明瞭であったが、掘り方調査で数多くの柱穴を確認した。主柱穴は６本柱亀甲形となる可能性が高い。

遺　物　覆土中から少量の遺物が出土した。

時　期　覆土出土の土器から、加曽利Ｅ３式期新段階に比定する。

69号住居

位　置　Ｍ－13グリッド

確　認　この地区は地山が高いために耕作が地山まで及んでおり、遺構が確認できない地区になっている。本住居は耕作土下で炉のみが確認された。

重　複　363号土坑と重複するが、切り合い関係は不明である。

炉　小さな礫数個で囲った楕円形状の石囲い炉で、規模は長軸50cm、短軸40cmである。炉内に焼土は残っていないが、炉石の内面には被熱による変色・劣化が認められた。

遺　物　炉の調査に伴って土器片が数個出土した。

時　期　時期判定の材料はないが、炉の状況等から加曽利Ｅ式期の住居と認定したい。

76号住居

位　置　Ｂ－19グリッド

確　認　図に掲載しなかったが、本住居の南側の一部に後期段階の列石遺構が重複しており、本住居は列石遺構の掘り方調査で敷石と炉が確認された。

重　複　４号列石（後期）と重複し、これに切られる。

形　状　谷側（北側）に柄部が付く柄鏡形敷石住居で、主体部は東西3.6m、南北3.5mの隅丸方形状を呈すると想定した。壁が確認できたのは山側の一部のみで、壁高は20cmである。

床　面　敷石には板石と扁平な円礫が使用されており、原位置で残っているのは炉の周辺のみであった。

炉　大形の板石で組んだ方形石囲い炉であるが、炉石の多くが失われていた。炉内に焼土は残っていないが、炉石内面には被熱痕跡が明瞭に認められた。

柱　穴　主軸線上の南側の１本のみ確認できた。また、埋甕の北側70cmのところで、直径80cm、深さ40cmの大きな円形土坑が確認された。出入り口に伴う施設と考えられる。

埋　甕　炉の南側50cmに近接する。使用されていた土器は胴下半部を打ち欠いた樽形の深鉢（１）で、正位に埋設されていた。土器の中からは何も検出されなかった。

遺　物　出土遺物はいたって少ない。

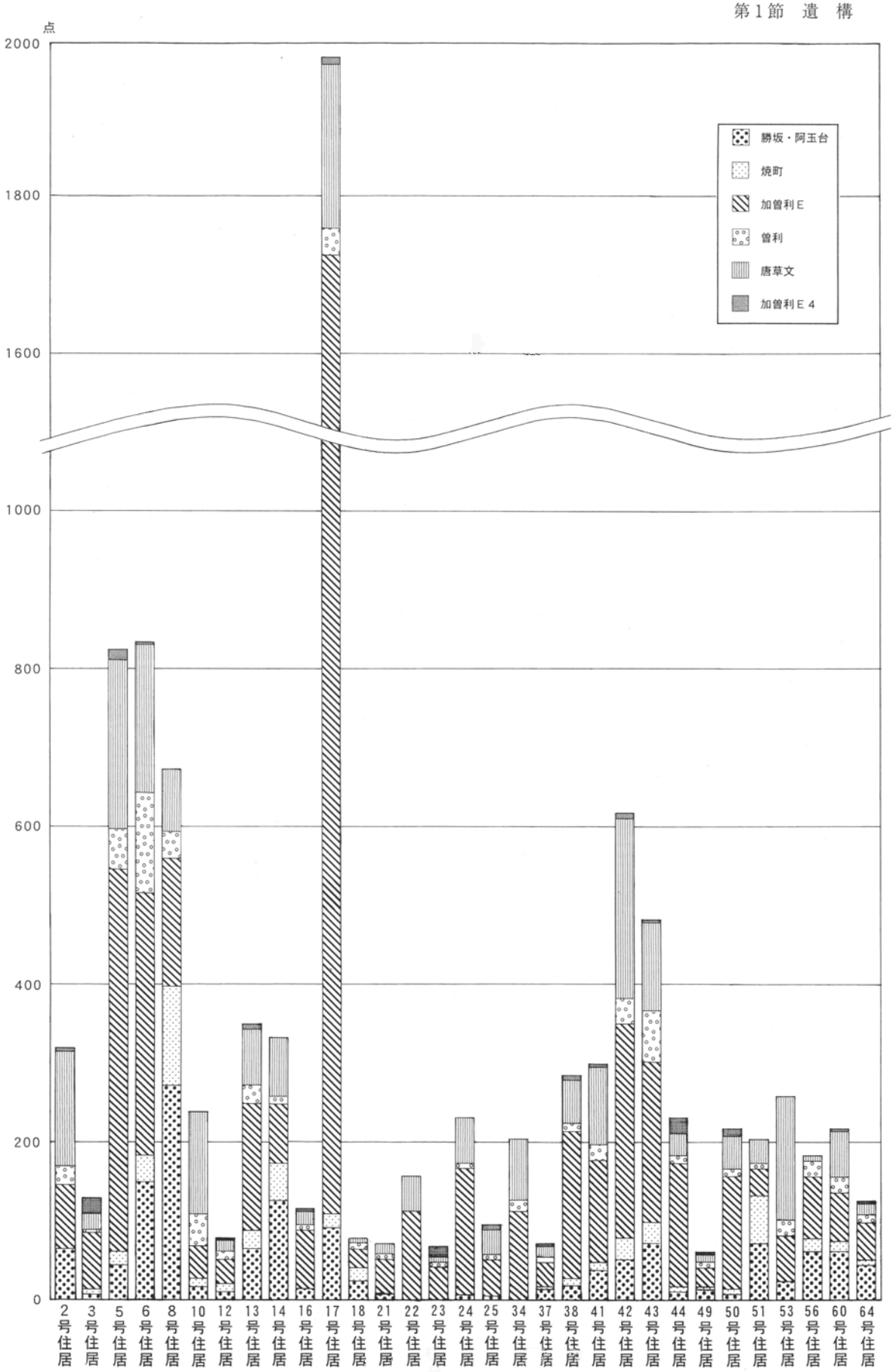
時　期　埋甕と出土土器から、加曽利Ｅ４式期古段階に比定する。

	中　期	五領ヶ台	勝　坂	阿玉台	焼　町	三原田	中　峠	加曽利E	E 1	E 2	E 3	曽　利	曽利　古	曽利　新	連弧文	唐草文	唐草文古	唐草文新	E 4	異系	後期	その他	合　計
2号住居	550	3	1	63	0	0	0	5	0	21	55	0	19	3	1	94	34	19	2	0	7	35	912
3号住居	313	0	4	4	2	0	0	0	1	5	75	0	0	1	0	17	1	0	18	0	4	10	455
4号住居	87	0	1	0	2	0	0	0	0	0	5	2	0	0	0	23	1	4	0	0	0	5	130
5号住居	977	0	34	11	15	0	0	5	33	41	405	9	12	30	0	95	17	105	11	0	6	101	1907
6号住居	1176	0	86	62	32	1	2	32	59	127	114	20	76	27	7	110	47	34	1	2	5	24	2044
8号住居	1197	4	175	96	124	1	34	58	30	8	16	14	13	3	1	62	27	8	0	23	8	42	1944
10号住居	302	1	13	1	12	0	0	2	3	28	11	8	23	5	0	77	29	22	0	2	2	25	566
12号住居	79	0	6	5	7	0	4	2	2	13	12	2	6	0	1	13	2	1	1	0	2	4	162
13号住居	525	0	50	19	20	0	16	14	8	8	112	7	2	11	1	44	8	23	3	1	0	19	891
14号住居	527	4	77	45	49	2	10	8	3	5	47	1	5	1	0	61	12	3	0	5	0	18	883
15号住居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
16号住居	143	1	5	7	0	0	1	0	0	9	65	0	3	0	1	17	3	1	1	4	1	2	264
17号住居	2564	0	68	23	15	0	0	9	6	40	1564	7	9	25	3	93	30	87	8	2	6	50	4609
18号住居	148	1	20	4	17	0	3	8	9	1	3	2	1	0	0	6	2	0	0	5	1	1	232
20号住居	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3	0	1	0	0	1	0	11
21号住居	72	0	5	1	0	0	0	0	0	0	49	1	0	0	0	13	1	0	0	0	3	0	145
22号住居	56	0	0	0	0	0	0	1	1	7	102	0	0	0	1	37	1	4	0	0	1	1	212
23号住居	92	0	0	0	0	0	0	1	0	4	35	2	1	0	0	9	0	0	15	0	1	5	165
24号住居	220	0	1	2	0	0	0	2	0	0	161	0	0	3	0	56	0	3	0	3	0	2	453
25号住居	158	0	1	1	0	0	0	0	0	7	47	0	1	1	0	32	0	0	3	0	1	16	268
30号住居	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	6
34号住居	283	0	0	0	0	0	0	5	0	14	92	2	9	0	0	62	4	12	0	4	0	15	502
35号住居	24	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	2	2	1	1	0	0	0	1	40
36号住居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	2	6
37号住居	88	0	5	9	1	0	0	0	0	3	30	1	0	5	0	11	2	2	1	52	9	2	221
38号住居	467	1	15	1	7	0	0	3	1	12	173	0	5	4	2	41	4	12	4	10	20	14	796
41号住居	429	0	24	10	10	0	0	1	1	37	95	0	10	8	1	72	18	9	1	5	5	12	748
42号住居	1050	0	32	20	23	0	0	1	6	55	212	6	9	16	3	175	13	40	6	9	3	27	1706
43号住居	877	0	40	27	24	1	4	7	10	126	58	32	21	9	1	88	19	8	1	3	5	21	1382
44号住居	473	0	6	2	6	1	0	4	0	4	149	0	3	2	0	29	0	2	19	0	28	27	755
48号住居																							未計測
49号住居	94	0	9	6	1	0	0	1	0	6	21	0	1	1	0	12	0	0	1	0	1	3	157
50号住居	382	0	10	3	3	0	3	1	1	7	129	0	5	1	0	40	0	1	8	1	0	11	606
51号住居	411	0	72	15	39	1	9	9	1	5	14	1	2	0	1	29	1	1	0	3	0	17	631
53号住居	335	0	23	1	0	0	0	2	2	24	30	0	16	1	0	134	1	20	0	1	1	13	604
54号住居	29	0	1	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	4	45
55号住居	13	0	3	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	0	12	0	0	0	0	0	1	35
56号住居	334	0	44	15	16	1	0	16	28	19	14	4	15	0	1	6	0	1	0	5	3	11	533
57号住居	12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	20
58号住居	13	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	7	26
59号住居	151	0	5	0	0	0	0	0	1	0	36	0	0	0	0	18	0	4	1	0	1	8	225
60号住居	556	0	44	14	15	0	0	12	4	29	20	3	11	2	2	49	5	3	2	2	2	50	825
62号住居																							未計測
64号住居	126	0	31	13	4	4	0	8	11	12	13	0	8	1	2	8	2	5	3	0	6	18	275
65号住居																							未計測
66号住居																							未計測
67号住居																							未計測
69号住居	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

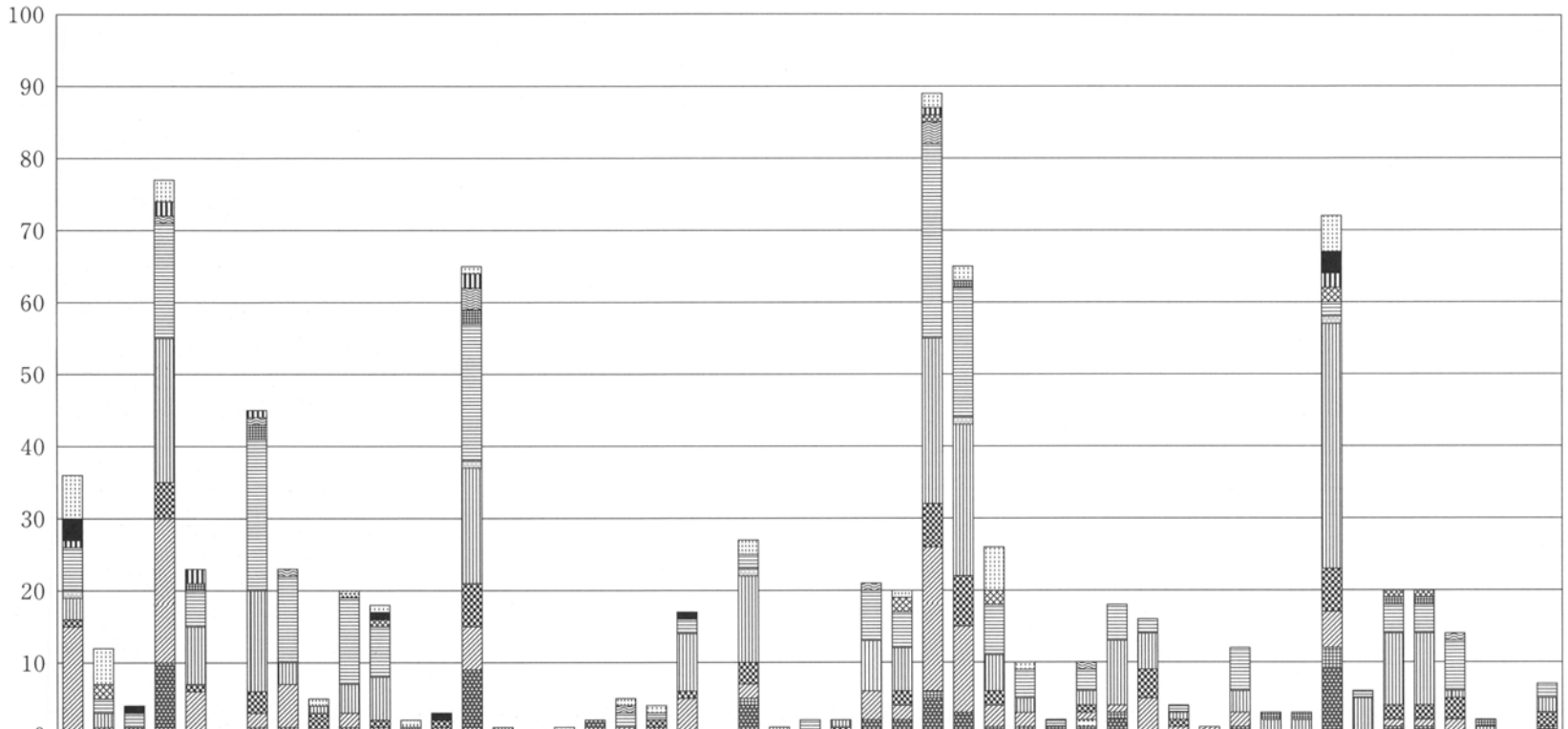
表2　20区中期住居出土土器総点数

	勝坂･阿玉台	焼　　町	加曽利Ｅ	曽　　利	唐 草 文	加曽利Ｅ４	合　　計
２号住居	64	0	81	22	147	2	316
３号住居	8	2	81	1	18	18	128
４号住居	1	2	5	2	28	0	38
５号住居	45	15	484	51	217	11	823
６号住居	148	32	335	123	191	1	830
８号住居	271	124	147	30	97	0	669
10号住居	14	12	44	36	128	0	234
12号住居	11	7	33	8	16	1	76
13号住居	69	20	158	20	75	3	345
14号住居	122	49	75	7	76	0	329
15号住居	0	0	0	0	0	0	0
16号住居	12	0	75	3	21	1	112
17号住居	91	15	1619	41	210	8	1984
18号住居	24	17	24	3	8	0	76
20号住居	1	0	2	1	4	0	8
21号住居	6	0	49	1	14	0	70
22号住居	0	0	111	0	42	0	153
23号住居	0	0	40	3	9	15	67
24号住居	3	0	163	3	59	0	228
25号住居	2	0	54	2	32	3	93
30号住居	0	0	0	0	3	0	3
34号住居	0	0	111	11	78	0	200
35号住居	0	0	9	0	4	0	13
36号住居	0	0	0	0	4	0	4
37号住居	14	1	33	6	15	1	70
38号住居	16	7	189	9	57	4	282
41号住居	34	10	134	18	99	1	296
42号住居	52	23	274	31	228	6	614
43号住居	67	24	206	62	115	1	475
44号住居	8	6	158	5	31	19	227
48号住居	0	0	0	0	0	0	0
49号住居	15	1	28	2	12	1	59
50号住居	13	3	141	6	41	8	212
51号住居	87	39	39	3	31	0	199
53号住居	24	0	58	17	155	0	254
54号住居	1	0	5	1	5	0	12
55号住居	3	0	5	1	12	0	21
56号住居	59	16	78	19	7	0	179
57号住居	0	0	2	1	2	0	5
58号住居	0	2	1	0	3	0	6
59号住居	5	0	37	0	22	1	65
60号住居	58	15	65	16	57	2	213
62号住居	0	0	0	0	0	0	0
64号住居	44	4	48	9	15	3	123
65号住居	0	0	0	0	0	0	0
66号住居	0	0	0	0	0	0	0
67号住居	0	0	0	0	0	0	0
69号住居	0	0	0	0	0	0	0

表３　20区中期住居出土土器分類表



第5図　20区中期住居出土土器分数グラフ



	2号住	3号住	4号住	5号住	6号住	7号住	8号住	10号住	12号住	13号住	14号住	15号住	16号住	17号住	18号住	20号住	21号住	22号住	23号住	24号住	25号住	30号住	34号住	35号住	36号住	37号住	38号住	41号住	42号住	43号住	44号住	48号住	49号住	50号住	51号住	53号住	54号住	55号住	56号住	57号住	58号住	60号住	62号住	64号住	65号住	66号住	67号住	69号住	76号住
その他	6	5	0	3	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	1	2	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0
自然石	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
石核	1	0	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
石製品	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0
磨斧	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
砥石	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石皿	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0
磨石類	6	2	2	16	5	0	21	12	0	12	7	0	0	19	0	0	0	0	2	1	2	0	2	0	2	0	7	5	27	18	7	4	1	3	5	2	1	0	6	0	0	2	1	4	4	7	0	0	2
スタンプ形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
礫器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
剥片・砕片	3	2	0	20	8	0	14	3	1	4	6	0	0	16	1	0	0	0	0	0	8	0	12	1	0	1	7	6	23	21	5	2	0	2	9	5	1	0	3	2	2	34	5	10	10	1	1	0	2
掻器・削器	1	0	0	5	1	0	3	0	3	0	1	0	1	6	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	1	0	2	6	7	2	0	0	1	0	4	1	0	0	0	0	6	0	2	2	3	0	0	2
打斧	15	1	0	20	6	0	2	6	0	2	1	0	0	6	0	0	0	0	1	0	5	0	2	0	0	0	4	2	20	12	3	2	0	1	1	5	1	1	2	0	0	5	0	1	1	2	0	0	0
石匙	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
石錐	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
石鏃	0	0	1	10	0	0	1	1	0	1	0	0	1	9	0	0	0	2	0	1	0	0	4	0	0	0	2	2	5	3	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	9	0	1	1	0	0	0	1

第6図　20区中期住居出土石器総点数

表４　横壁中村遺跡20区縄文時代中期の住居一覧

・欠番と中期以外の住居は網掛けで表示した。
・長軸、短軸の単位はcmである。〈　〉内の数字は推定値を表す。
・確認面から床までの深さは、山側の最深部で測った数値を示す。
・柱穴のうち、＊本は確認した柱数、＊本柱は確定できた柱数を示した。
・切合関係の（古）はその住居が切っているもの、（新）は切られていることを示す。

住居番号	グリッド	時　期	焼骨(g)	形　状	長　軸	短　軸	深　さ	炉	柱	切合関係（古）	切合関係（新）	備　　考
１号住居	欠番											
２号住居	Ｖ－24	加Ｅ３式		円形	385	380	55	土器埋設方形石囲い炉	３本	４号住居		
３号住居	Ｖ－24	加Ｅ４式		－				石囲炉か	－			
４号住居	Ｖ－23	加Ｅ３式		円形	347	325	55	石囲炉か	－		２号住居	
５号住居	Ｒ－18	加Ｅ３式中	4	－	〈820〉	〈790〉		方形石囲炉	－	10･12･16･20･42･43号住居		石棒出土。
６号住居	Ｓ－20	加Ｅ２式新		円形	505	490	50	長方形石囲炉	－	18号住居	37号・40～43号土坑	北西壁際に浅鉢の伏甕。土偶・石棒出土。
７号住居	Ｕ－20	中期後半		－				方形状石囲炉	－	17号住居		
８号住居	Ｕ－22	加Ｅ１式古	20	－				不明	－		13号・14号住居	
９号住居	欠番											
10号住居	Ｒ－19	加Ｅ２式新		－	〈660〉	〈650〉		土器埋設方形石囲炉	５本		５号住居	山側に長方形配石を伴う伏甕。
11号住居	Ｕ－21	称名寺１式						土器埋設方形石囲炉			22号土坑	
12号住居	Ｑ－18	加Ｅ１式新		－	〈480〉	〈440〉		長方形石囲炉	３本		5号･10号･42号･43号住居	
13号住居	Ｕ－23	加Ｅ３式新	13	円形	〈535〉	〈525〉	20	方形石囲炉	－	４号・８号・14号住居		土偶出土。
14号住居	Ｕ－23	加Ｅ３中	10	円形	〈510〉	470	30	方形石囲炉	－	８号住居	13号住居	
15号住居	Ｓ－19	中期後半		－				方形石囲炉か	－	５号・18号住居		
16号住居	Ｒ－18	加Ｅ３式新		－				土器埋設方形石囲炉	－		５号住居	
17号住居	Ｔ－20	加Ｅ３式新	2	楕円形	〈595〉	510	20	方形石囲炉	１本		７号住居	南東出入り口部に蓋石を伴う埋甕。
18号住居	Ｓ－19	加Ｅ１式		円形	510		20	不明	－		6･15号住居、42･43･49･54号土杭	
19号住居	Ｕ－21	堀之内２式										
20号住居	Ｒ－18	加Ｅ３式古		－				土器埋設石囲炉か	－		５号住居	
21号住居	Ｒ－20	加Ｅ３式中	1	－	〈410〉	〈410〉		土器埋設円形石囲炉	９本			
22号住居	Ｖ－25	加Ｅ３式中	2	－	〈650〉	〈640〉		土器埋設方形石囲炉	２本			石囲い炉に石棒を立てる。
23号住居	Ｏ－22	加Ｅ４式	1	－	〈610〉	〈590〉	55	土器埋設石囲炉か	11本	25号住居	２号配石、１号掘立	柄鏡形敷石住居。
24号住居	Ｑ－23	加Ｅ３式新	4	円形	460		30	方形石囲炉	４本	30号住居		北東出入り口部に埋甕。石棒出土。
25号住居	Ｐ－22	加Ｅ３式		隅丸方形	〈460〉		30	台形状石囲炉	５本		23号住居、２号配石	
26～29号住居	欠番											
30号住居	Ｐ－23	加Ｅ３式中	1	－				土器埋設石囲炉か	３本		24号住居	
31～33号住居	欠番											
34号住居	Ｕ－13	加Ｅ３式古		円形	〈640〉	〈600〉	40	方形石囲炉	７本柱		９号焼土	貼り床。石囲い炉に石棒を立てる。長方形配石3カ所。伏甕3カ所。
35号住居	Ｗ－15	加Ｅ２式新		－				土器埋設炉か	－			
36号住居	Ｔ－11	加Ｅ３式		－				方形状石囲炉	－			
37号住居	Ｔ－13	加Ｅ３式		円形	〈350〉	〈340〉	45	方形石囲炉	－	38号住居		
38号住居	Ｓ－13	加Ｅ３式		楕円形	435	400	33	不明	12本		37号住居、298号･299号土杭	
39号住居	欠番											
40号住居	Ｍ－18	堀之内１式	2									

住居番号	グリッド	時　期	焼骨(g)	形　状	長　軸	短　軸	深　さ	炉	柱	切合関係（古）	切合関係（新）	備　　考
41号住居	R－17	加E３式新	2	円形	545	540	35	方形石囲炉	３本	42号・43号住居		石棒出土。
42号住居	Q－17	加E３式中	20	円形	780	〈775〉	40	方形石囲炉	10本	12号・43号・60号住居	５号・41号・59号住居	貼り床。石囲い炉に石棒を立てる。南東出入り口部に埋甕。ヒスイ大珠出土。
43号住居	R－17	加E３式古	14	円形	〈580〉	〈525〉	35	馬蹄形石囲炉	７本柱		５号・41号・42号住居	
44号住居	L－18	加 E ４ 式	5	円形	400	400	35	方形石囲炉	７本			柄鏡形敷石住居。
45号住居	欠番											
46号住居	欠番											
47号住居	O－17	堀之内１式	30							60号住居		
48号住居	O－16	加 E ３ 式		円形	395	395	16	方形石囲炉	－	50号・59号・65号住居	52号住居	
49号住居	O－15	加 E ３ 式	2	円形	〈350〉	〈345〉		五角形石囲炉	－	51号・53号・65号住居	52号住居	
50号住居	Q－15	加 E ３ 式	6	－	435	415	20	方形石囲炉	３本		48号・52号・65号住居	
51号住居	N－15	加E１式古	9	－	〈390〉	〈360〉	40	楕円形石囲炉か	５本		49号住居	
52号住居	P－16	称名寺１式	48									
53号住居	O－16	加E３式古	10	楕円形	〈665〉	〈540〉	35	不明	６本	60号住居	49号・65号住居	
54号住居	P－14	加E４式か	1	－			60	方形石囲炉	－			柄鏡形敷石住居。
55号住居	Q－13	加 E ３ 式		隅丸方形	〈435〉	〈420〉	40	土器埋設方形石囲炉	４本			
56号住居	R－12	加 E １ 式		楕円形	364	326	60	土器埋設楕円形石囲炉	８本			
57号住居	R－15	加E３式新		－		340	25	五角形石囲炉か	－	297号土坑		
58号住居	S－16	加　E　式		－				石囲炉	－			
59号住居	欠番											
60号住居	O－17	加E２式新	50	円形	538	〈500〉	27	長方形石囲炉	６本柱		42号・53号・65号住居	貼り床。土偶出土。
61号住居	L－18	堀之内２式	2									
62号住居	O－14	加E３式か		－				方形石囲炉	－			
63号住居	欠番											
64号住居	L－16	加E１式古	2	隅丸方形	〈400〉		50	不明	９本			
65号住居	P－15	加 E ３ 式	71	－				不明	６本柱	50号・53住居	48号・49号・52号住居	
66号住居	D－18	加E４式古	6	－	〈380〉	〈320〉	35	土器埋設方形石囲炉	－	67号住居	70号住居	柄鏡形敷石住居。南出入口部に埋甕。
67号住居	D－18	加E３式中	2	－			20	不明	－		66号住居	
68号住居	欠番											
69号住居	M－13	中　　期		－				楕円形状石囲炉	－			
70号住居	C－19	加 B １ 式	1									
71号住居	A－17	加 B ２ 式	2									
72号住居	I－15	加 E １ 式		調査中				方形石囲炉				
73号住居	欠番											
74号住居	A－20	晩　　期										
75号住居	C－17	後　　期	1									
76号住居	B－19	加E４式古		隅丸方形	〈360〉	〈350〉	20	方形石囲炉	２本		70号住居、４号列石	柄鏡形敷石住居。南出入口部に埋甕。

第２節　遺物観察表

20区２号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半 口径15.5	黒雲母を含む砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	４単位の波状口縁。波頂部には渦巻状の文様と縦Ｓ字状の文様を隆帯で交互に描出する。口縁部には篦状工具による刺突文を羽状に施す。胴部には隆帯を垂下させるとともに、蛇行する沈線も１条垂下させる。その間はやや彎曲する短沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁～胴部１/４	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	４単位の波状口縁か。一つの波頂部からは橋状把手が付すものと思われる。口縁部の下位には円環状の突起が付き、端部が蕨手状を呈する隆帯を垂下させる。その後、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	
3	深鉢	口縁突起	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁に付く剣先状の突起。側面に沈線で文様を描出する。	
4	深鉢	口縁突起	白色軽石をやや多く含む。普通。明赤褐色。	口縁に付く両角状の突起。側面と上面に沈線文を施し、中央に径８㎜ほどの孔をうがつ。	
5	鉢形土器	頸部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	屈曲部の下位を肥厚させ、頸部に段を作り出す。沈線で∩字状の区画をなし、区画内に原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。やや不良。橙色。	断面半円の隆帯で櫛形の文様帯を区画し、内部に細い沈線を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	口唇部下位に断面半円の隆帯を１条巡らし、その下位に楕円形の文様帯を区画する。区画内には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿った沈線を施文する。	
8	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面三角の隆帯を弧状に施文し、そこから隆帯を１条垂下させる。	
9	深鉢	胴部片	黒雲母、石英をわずかに含む砂粒を多く含む。普通。明褐色。	断面半円の隆帯２条を∩字形に施文した後、棒状工具による斜沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	浅い沈線を縦位に施文した後、３条の沈線を弧状に施文し、蛇行する沈線を垂下させる。	
11	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部は内外に肥厚する。無文で内面に赤色塗彩の痕跡。	
12	浅鉢か	口縁部片	石英、黒雲母をわずかに含む。良好。橙色。	口唇部は内折する。隆帯で渦巻き状の文様を描出し、外面に赤色塗彩の痕跡。	

20区２号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
13	石鏃	先端部欠	21	18	3	0.9	黒曜石	
14	ドリル	先端部欠	20	7	4	0.4	黒曜石	
15	打斧	完	122	59	19	67.5	細粒輝石安山岩	
16	打斧	完	89	55	16	80.0	細粒輝石安山岩	刃部摩滅
17	打斧	完	91	54	10	48.4	細粒輝石安山岩	
18	打斧	完	110	47	17	78.9	細粒輝石安山岩	
19	打斧	基部欠	96	50	16	90.5	黒色頁岩	
20	打斧	基部欠	105	57	25	166.0	細粒輝石安山岩	
21	打斧	基部欠	111	47	20	137.1	細粒輝石安山岩	
22	打斧	完	116	54	21	149.5	細粒輝石安山岩	
23	凹石	完	105	70	46	457.8	粗粒輝石安山岩	一方の端部に敲打痕
24	凹石	一部欠	106	70	57	551.7	粗粒輝石安山岩	一方の端部に敲打痕

20区３号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	小礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁はやや強く外反する。頸部に断面三角の低い隆帯で文様を区画し、その中には原体不明の縄文を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	波状口縁を呈すると思われる。波頂部に向けて橋状把手が付くものと思われる。無文の口縁の下位に沈線と断面三角の低い隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
3	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を弧状に施す。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
5	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	低い隆帯で文様を区画し、区画内に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	波状口縁の波頂部。口唇部に沿った沈線を施文後、波頂部から開く沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部は外折する。その下位に向かい合う弧状の沈線を施文し、それらをつなぐ短沈線を横位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	篦状工具による刺突文を山形に施文した後、隆帯を貼付したものと思われるが、隆帯は剥落している。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	沈線を∧字状に施文後、篦状工具によるものと思われる細沈線を施文する。	
11	深鉢か	環状突起	砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	「の」字状を呈する環状突起。内面に段を持つ。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。灰褐色。	口唇部内面はやや肥厚し、外面は内傾する。その稜から下位に原体不明の縄文を施文した後、沈線を１条垂下させる。	
13	深鉢	頸部片	細砂粒少量含む。普通。浅黄橙色。	円形の刺突文を弧状に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。やや不良。黄橙色。	無文の口縁部の下位に断面三角に隆帯で文様を区画する。区画内は器面が荒れて文様は不明である。	

20区３号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
15	磨石	完	134	71.0	58.0	808.6	粗粒輝石安山岩	一方の端部に敲打痕
16	石製品	一部欠か	65	30.0	21.5	13.1	軽石	
17	石製品	完か	38	44.5	23.5	10.5	軽石	

20区４号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半 1/4 推定口径１４.４	黒雲母をわずかに含む。普通。赤褐色。	隆帯で口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内は棒状工具による縦位の沈線。区画する隆帯の波頂部には隆帯による渦巻き文。そこから１条の隆帯を垂下させる。地文は沈線を斜位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部は内外にやや肥厚する。隆帯によって口縁部文様帯を区画するものとも思われる。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて、羽状に施文する。	
4	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頂部。隆帯で渦巻き状の文様を描出し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。普通。橙色。	隆帯で渦巻き状の文様を描出し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	棒状工具による沈線で渦巻き状の文様を描出する。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	断面三角の隆帯で渦巻き状の文様を描出する。	
8	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	口唇部から蛇行する隆帯を貼付し、その後棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
9	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	波状口縁に沿った隆帯と∩字状の隆帯を貼付する。その後棒状工具による沈線を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
10	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい橙色。	口唇部は内側に肥厚する。口縁に沿った沈線の下位に２条の隆帯を巡らす。その下位に交互刺突文と縦位の沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面半円の隆帯を２条垂下させた後、棒状工具による綾杉文を施す。	

20区４号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
12	石鏃	完	17	14	3	0.5	黒曜石	
13	磨石	一部欠	105	65	59	427.8	粗粒輝石安山岩	

20区５号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～底部２/３ 推定口径40.3 器高57.9	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	緩いキャリパー状の器形を呈する。口縁部は無文で、そこから弧状に断面三角の隆帯を貼付し渦巻き状の区画をなす。区画内には沈線を放射状に施文する。胴部は棒状工具による浅い沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	底部 底径5.0	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	２条１単位の隆帯と１条の隆帯を交互に垂下させた後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
3	深鉢	口縁部１/４ 推定口径19.5	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部に隆帯を１条巡らせ、渦巻き状の突起を貼付し、平行沈線を６条巡らす。平行沈線上には交互刺突文を２条施す。その下位には棒状工具による押し引き文と平行沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部１/４ 推定最大径24.8	白色軽石粒を含む砂粒をやや多く含む。やや不良。赤褐色。	胴上位に断面台形の隆帯を貼付して文様を区画し、区画内には原体ＲＬＲの複節斜状文を縦位に施文する。その下位には隆帯を弧状に貼付する。	
5	浅鉢	頸部１/３ 推定最大径44.5	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	屈曲部の上位には渦巻き文が付属する楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。その後、区画に沿って沈線を施文する。屈曲部の下位は無文で磨きを施す。	
6	深鉢	口縁～底部１/４ 推定口径43.0　推定高44.0　底径7.0	砂粒、小礫を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	底部から直線的に開く器形。口縁部には櫛形の文様帯が区画されるものと思われる。胴部は櫛歯状工具による条痕文を縦位あるいは斜位に施文し、沈線を２条垂下させる。	
7	深鉢	口縁～胴部 口径22.2	黒雲母をわずかに含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	Ｓ字状の隆帯から２条の隆帯を垂下させるモチーフと、円形の刺突文が施された隆帯から２条の隆帯を垂下させるモチーフを交互に配する。その後、棒状工具による斜沈線を鱗状に施文する。	
8	深鉢	口縁～胴部１/３ 推定口径44.4	砂粒を多く含む。普通。暗灰褐色。	４単位の波状口縁。口縁部には渦巻き文を持つ２条の隆帯で半円形の区画をなす。区画内には斜沈線を充填する。胴部は縦位、斜位および蛇行する沈線文を施す。	
9	深鉢	口縁～胴部１/３ 推定口径23.5	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を大きく蛇行させて貼付した後、棒状工具による沈線を横位に施文し、隆帯に沿った沈線を施す。	
10	深鉢	口縁～胴部１/３ 推定口径32.8	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	４単位の波状口縁と思われる。波頂部には楕円形の透かし穴を持つ。口縁部文様帯は渦巻き文を含み、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、縄文の上には蛇行する沈線を垂下させる。	
11	深鉢	口縁～胴上半 口径14.0	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	４単位の波状口縁を呈するが、すべての波頂部を人為的に打ち欠いているものと思われる。口縁部文様帯は長楕円形で渦巻き状文と瘤状の突起を持つ。区画内は無文である。胴部は原体ＲＬＲの複節斜状文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
12	台付鉢	接合部片　推定接合部径7.6	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	６単位の透かし穴を持つものと思われる。２条１単位の隆帯を垂下させ、隆帯の間は沈線文か。	
13	浅鉢	口縁～胴部１/４ 推定口径39.2	細砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	無文で口唇部下位に浅い沈線が１条巡る。内外面とも丁寧な磨きとともに赤色塗彩の痕跡が認められる。特に内面には赤色塗彩による渦巻き状の文様が看取できる。	
14	台付鉢	台部片 推定台径9.5	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	裾部がわずかに広がる器形。４単位の透かし穴を持つものと思われる。	
15	深鉢	口縁把手	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	頂部から橋状の把手が伸びるものと思われる。口縁部には楕円形の区画がなされ、区画内にＲＬの単節斜縄文が施文されるものと、無文のものがある。	
16	浅鉢	口縁部１/４ 推定口径38.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁はやや内彎し、角頭状を呈する。外面は棒状工具によるものと思われる整形痕が横位、斜位に認められる。	
17	深鉢	口縁把手	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	鍔状の平縁から伸びる橋状の把手。背割り状にＳ字形の沈線が施される。胴部には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で磨り消し。赤色塗彩の痕跡が認められ、鍔状の部分にφ３㎜ほどの孔が空けられていることから、有孔鍔付の鉢形土器と思われる。	
18	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。黒褐色。	断面台形の隆帯で楕円形と方形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は同様の縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
19	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口縁に１条の沈線を巡らし、胴部には端部が蕨手状を呈する沈線と∩字形の沈線を垂下させ、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。	
20	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体Ｌの無節斜縄文を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
21	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	緩やかな波状口縁。口縁部に沈線を１条巡らし、原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文する。その後∩字状の沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線による∩字状の区画と磨り消し文を施文する。	
23	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	口縁部に隆帯を１条巡らせ、そこから隆帯を１条垂下させる。原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
24	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、縄文の上には蛇行する沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付して文様を描出した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
26	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、同心円状と∩字状の沈線を施文し、中を磨り消す。	
27	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
28	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	弧状の沈線で文様を描出し、その下位には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
29	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を施文する。	
30	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、隆帯を貼付して背割り状の沈線によって楕円形のモチーフを描出する。	
31	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	０段多条ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
32	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して腕骨文状の文様を描出した後、口縁部には浅い沈線で文様帯を区画し、区画内には緩やかに彎曲する沈線を充填する。胴部にも彎曲する沈線と弧状の沈線を施文する。	
33	深鉢	口縁部片	黒雲母、白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	断面台形の隆帯を貼付して、文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。胴部は彎曲する沈線と垂下する沈線を施文する。	
34	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯で櫛形の文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿って磨り消し。区画外は斜位の沈線を施文する。	
35	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	斜位の沈線と垂下する沈線を施文する。	
36	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯で文様を描出する。口唇部上面に沈線が１条巡る。	
37	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、２条１単位の隆帯を楕円状に貼付する。口唇部は角頭状を呈し、隆帯が１条巡る。	
38	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。原体不明の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を施文する。	
39	深鉢	口縁部片	粒のやや大きい白色鉱物をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して、その上に棒状工具による刻みを付す。やや雑な作り。	
40	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	原体不明の縄文を施文した後、沈線で文様を区画する。	
41	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	波状口縁。原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、口縁に沿った沈線と、∩字形の沈線を施文する。	
42	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯を貼付して蕨手状の文様を描出し、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
43	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を巡らし、その間に沈線と斜位の短沈線を施文する。胴部は沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
44	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を描出した後、隆帯に沿って沈線と刺突文を施文する。	
45	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	低い隆帯で楕円形の区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。区画の下位にも原体不明の縄文を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備等
46	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出した後、縦位の短沈線と斜位の沈線を施文する。	
47	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出した後、沈線を横位に施文する。口唇部内面に断面三角の隆帯を貼付する。	
48	有孔鍔付土器	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	鍔は断面三角でやや低い。口縁部外面は丁寧な磨き。	
49	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、押し引文、沈線を横位に施文する。	
50	深鉢	口縁突起	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	沈線による渦巻き文を内外面とも施文する。	
51	深鉢	口縁突起	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	内外面とも断面三角の隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。	
52	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	頸部に鋸歯状の沈線文を巡らし、刺突文を交互に付す。胴部は櫛歯状工具による沈線を斜位に施文し、蛇行する沈線を施文する。	
53	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	波頂部あるいは口縁突起と思われる。隆帯を貼付して渦巻き文を描出し、そこから２条の隆帯を垂下させる。	
54	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	２条１単位の横位の隆帯から、３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
55	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。	瘤状の突起から彎曲する半隆起線を垂下させる。	
56	深鉢	胴部片	黒雲母、小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して文様を描出した後、彎曲する沈線を施文する。	
57	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面台形の隆帯をT形に貼付し、交点付近には刻みを付す。隆帯の外に三角除刻文を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
58	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	棒状工具による沈線を横位、縦位に施文して文様を描出する。右下には三叉文か。	
59	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を巡らした後、沈線を垂下させ、斜沈線、綾杉状の沈線を施文する。	
60	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	３条１単位の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
61	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を貼付してＳ字状の文様を描出した後、箆状工具による沈線を斜位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
62	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。良好。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を描出した後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
63	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を２条垂下させた後、箆状工具による沈線を斜位に施文する。	
64	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	刻みを付した隆帯を２条垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
65	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条の沈線と磨り消し文を垂下させる。	
66	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	櫛歯状工具による沈線を斜位に施文する。	
67	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出した後、彎曲する沈線を施文する。	
68	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	彎曲する浅い沈線と、大きく蛇行する浅い沈線を施文する。	

20区５号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
69	石鏃	完	18.0	14	3	0.8	黒曜石	
70	石鏃	基部欠	17.5	13	4	0.5	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
71	石鏃	完	19	13	2.5	0.4	黒曜石	
72	石鏃	完	14	12	3	0.3	黒曜石	
73	ドリル	先端部欠	20.5	22	5.5	0.9	黒曜石	
74	スクレイパーか	完	13	12	5	0.7	黒曜石	
75	打斧	完	125	57	26	175.6	細粒輝石安山岩	
76	打斧	完	115	57	16	93.7	黒色頁岩	
77	打斧	基部欠	109	53	17	122.7	細粒輝石安山岩	
78	打斧	基部欠	78	65	24	149.1	灰色安山岩	
79	打斧	基部欠	137	57	19	225.1	細粒輝石安山岩	
80	磨斧	基部欠	64	44	14.5	79.1	蛇紋岩	
81	磨石	完	117	68	40	488.9	変質安山岩	
82	磨石	3/4	180	205	78	4453	粗粒輝石安山岩	凹みあり
83	石棒	基部欠	240	115	100	3530	緑泥片岩	
84	多孔石	完か	315	224	100	9000	粗粒輝石安山岩	
85	磨石	完	422	339	117	24590	石英閃緑岩	
86	磨石	完	214	241	118	8400	粗粒輝石安山岩	
87	磨石	完	303	296	117	15600	石英閃緑岩	
88	磨石	完	375	258	92	12250	石英閃緑岩	
89	磨石	完	536	220	166	28120	粗粒輝石安山岩	
90	多孔石	完	297	205.5	189	11420	粗粒輝石安山岩	
91	多孔石	完	222	173	146	6370	粗粒輝石安山岩	
92	多孔石	完	167	181	120	3400	粗粒輝石安山岩	
93	多孔石	完	376	275	135	17150	粗粒輝石安山岩	

20区６号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴下半2/3 口径30.8 残存高41.0	雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側にやや肥厚する。口縁部は斜位の沈線を施文する。胴部は断面半円の２条の隆帯で渦巻き文を施した後、上部に剣先文を持つ蛇行する隆帯を垂下させる。その後、地文の沈線文を縦位に施す。	
2	深鉢	一部欠　口径15.2 器高20.5　底径7.0	黒雲母、白色軽石粒を少量含む。普通。赤褐色。	ゆるやかなキャリパー型の器形。口縁部には２条の隆帯によって弧状の文様帯を５単位に区画する。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を一部に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、Ｕ字状になる沈線を５単位垂下させるとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
3	深鉢	頸部1/4	黒雲母と白色軽石粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、頸部には２条の沈線を巡らし、胴部は弧状の文様を描出した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部1/4 推定口径19.3	石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部上面に沈線を１条巡らす。口縁部下位に背割り状に沈線を持つ隆帯で区画をなす。区画内は弧状の隆帯、縦位の渦巻き文、横位の剣先文を施す。その後、短沈線で横位の綾杉文を施す。	
5	深鉢	胴部1/2	石英を少量と軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	やや崩れたＸ字状把手を持つ。隆帯で弧状の腕骨文をはじめ、文様を描出するとともに、円環状突起を胴部に貼付する。その後、やや弧状を呈する短沈線を充填する。	
6	浅鉢	ほぼ完　口径26.2 器高12.9　底径8.0	小礫、白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。一部に黒斑。	断面台形の隆帯による連弧文を５単位貼付するが、１つは弧をなさない。内外面とも磨きを施す。	
7	深鉢	口縁～胴下半 口径42.4 残存高47.3	砂粒を多く含む。良好。暗黄褐色	キャリパー形の器形で口縁はやや内彎する。口縁部胴部とも地文には縦位の沈線が施されるが、口縁部の沈線の方が太く深い。口縁部は隆帯で半円形に区画をなす。また区画の間に短い腕骨文を施す。頸部に２本の沈線を巡らす。胴部は断面台形の低い隆帯で渦巻き文を描出し、さらに腕骨文を垂下する。隆帯の間には細長い楕円形の沈線文を配置する。	
8	深鉢	胴下半～底部 底径8.0	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	細い沈線を縦位に施文した後、２条１単位の隆帯と蛇行する隆帯をそれぞれ３単位垂下させる。	
9	台付鉢か	接合部片	砂粒を多く含む。やや不良。明赤褐色。	台付鉢の接合部と思われる。体部は隆帯でＵ字状の文様を描出し、台部は隆帯を垂下させる。	
10	台付鉢	台部片 底径10.5	砂粒をわずかに含む。良好。橙色。	φ13㎜の円形の透かし穴を持つ。表面は無文で磨きを施す。	
11	浅鉢	口縁部片	黒雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で、渦巻き文を持つ楕円形の区画をなす。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	口縁部に２本の隆帯で連弧状の区画をなし、区画内は短沈線を縦位に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、蕨手状の沈線を垂下。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
13	深鉢	一部欠　口径21.0 器高32.6　底径9.0	金雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁が内彎するキャリパー形の器形。口縁部は沈線を斜位に施文する。頸部には隆帯を貼付後、２条の沈線を巡らす。胴部には上面に２条の沈線が施される隆帯によって、円形あるいは渦巻き状の文様を描出する。その後、縦位の沈線および蛇行する沈線を垂下させる。	
14	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の沈線によって文様を描出する。	
15	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、平行沈線を縦位あるいは蛇行して施文する。	
16	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。黒褐色。	隆帯および沈線で文様を描出した後、原体ＲＬの単節斜縄文を隆帯の間に充填する。	
17	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を縦位に施文する。	
18	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出する。その下位には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
19	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	浅い沈線を縦位に施文した後、２条の隆帯で文様を描出するとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
20	深鉢	口縁部片	金雲母を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	口唇部は外側に折り返す。細い沈線を縦位に施文した後、２条の沈線を巡らす。その後、断面半円の隆帯を∩字形に貼付する。	
21	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を少量含む。良好。明赤褐色。	波状口縁を呈する。口縁部に断面半円の隆帯で文様帯を区画する。区画内には半截竹管状工具による平行沈線を充填する。胴部にも平行沈線を施文する。	
22	深鉢	口縁部片	軽石粒を少量含み、石英をわずかに含む。普通。にぶい黄橙色。	口縁は内側にわずかに肥厚する。断面三角の隆帯で渦巻き文と口縁部文様帯をなす。区画内は浅い沈線を斜位に施文する。	
23	深鉢	口縁部片	黒雲母を少量含む。普通。にぶい橙色。	断面台形の低い隆帯で文様を描出する。沈線でＳ字文を施す。	
24	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色	口縁部は内折し内側に弱い稜を持つ。２条の隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内には短沈線による綾杉文を充填する。	
25	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	口唇部は内側に稜を持つ。口縁部には刺突文によって半円形の文様を描出する。有刻隆帯を貼付するとともに、短沈線による横位の綾杉文を施す。	
26	深鉢	口縁部片	石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内折し、ゆるい稜を持つ。沈線による半円状の文様を描出し、頸部には棒状工具による刺突文を巡らす。	
27	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	波状口縁を呈すると思われる。断面半円の隆帯を巡らし、その上位には刺突文、下位には沈線文を施す。	
28	深鉢	口縁部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい褐色。	内彎する口縁。無文で内外面とも磨きを施す。	
29	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	半隆起線を斜位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付し、それに沿って沈線を施す。	
30	深鉢	頸部片	砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	頸部には３条の沈線を巡らす。胴部は縦位および弧状の沈線文を施す。	
31	浅鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	屈曲部上位は沈線と隆帯で文様帯をなし、区画内には沈線を縦位に施文した後、隆帯に沿って磨り消し。屈曲部下位は無文でていねいな磨き。	
32	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	渦巻き文を持つ隆帯を貼付した後、縦位の沈線とＵ字状の沈線文を施す。	
33	深鉢	頸部片	金雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を３条垂下させる。細い沈線を縦位に施文する。	
34	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。普通。明赤褐色。	３条の隆帯による腕骨文を垂下させた後、沈線を斜位に施文する。	
35	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含み、黒雲母と石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	３条の隆帯による腕骨文を垂下させるとともに、横位に施文した後、沈線を斜位に施文する。	
36	深鉢	胴部片	砂粒、小礫を少量含む。普通。明赤褐色。	隆帯で波状あるいは蕨手状の文様を描出した後、沈線文を充填する。	
37	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	細い条痕文を施文した後、沈線で文様を描出する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
38	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	沈線を横位あるいは弧状に施文する。	
39	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	２条の隆帯で渦巻き文を施した後、沈線を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
40	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	２条の隆帯による腕骨文を施す。隆帯に沿って刺突文を施し、沈線文を斜位に施す。	
41	深鉢	胴部片	石英をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を２条巡らし、それに沿って爪形の連続刺突文を施す。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を垂下させる。	
42	土偶	体部　残存高6.7 最大幅6.1 最大厚3.0	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐灰色。	沈線で文様を描出する。体部前面には臍の位置に剥落の痕跡あり。 脚部の折損部は折損後に磨きを施している。脚部と胴部に径２㎜ほどの細い穴が焼成前に空けられているが、貫通していない。	
43	深鉢か	口縁突起	金雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁に付く円環状の突起。外面には沈線を垂下させる。	

20区６号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
44	打斧	完	100	41	16	88.9	粗粒輝石安山岩	
45	打斧	完	99	42	18	83.3	黒色頁岩	
46	凹石	完	128	87	39	564.8	粗粒輝石安山岩	
47	凹石	完	126	86	63	810.7	粗粒輝石安山岩	
48	石棒	基部欠	191	134	112	3880	粗粒輝石安山岩	

20区８号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴下半２/３ 口径39.2 残存高45.5	軽石粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	口唇部は内折し、内側に稜を持つ。口縁部は無文。頸部に沈線と交互刺突文を施す。胴部は上半部で屈曲する。屈曲部の上位は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線で区画をなし、断面半円の隆帯で横位のＳ字状文を描出する。この隆帯の上にも撚糸文が施される。このＳ字の凹部が半円形に磨り消され周囲に爪形の刺突文が巡る。胴下半部は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、隆帯で∩字形とＪ字状の文様を描出する。隆帯に沿って平行沈線が施文される。	
2	深鉢	胴部１/２	白色軽石粒をやや多く含む。普通。橙色。	円筒状の器形。断面半円の隆帯で斜位に区画をなし、区画内にはペン先状工具、半截竹管状工具による刺突文を施す。胴下位には隆帯を１条巡らし、隆帯上にも刻みを付す。	
3	深鉢	口縁～胴下半２/３ 推定口径16.4 残存高23.3	金雲母、黒雲母を少量含む。良好。淡赤橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、刻みと背割り状の沈線を持つ蛇行する隆帯を貼付する。	
4	深鉢	胴部１/２	白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の細い隆帯およびそれに沿った磨り消しによって∧字形の文様を描出する。	
5	深鉢	口縁部１/３ 推定口径17.2	砂粒をやや多く含み、黒雲母を少量含む。普通。にぶい橙色。	環状の突起を持つ。断面台形の隆帯によって方形ないし半円形の区画をなす。区画内にはキャタピラ文、ペン先状工具による連続刺突文を施す。その内部には三叉文を除刻する。	
6	深鉢	胴部１/４	砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色	頸部に３条の沈線を巡らせた後、その沈線を長楕円に区画。地文は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文。	
7	深鉢	胴部１/３	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	頸部に背割り状の沈線を施す隆帯を貼付。地文は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文。	
8	深鉢	胴部１/２	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を多方向に施文した後、頸部に隆帯を１条巡らす。そこから圧痕隆帯を垂下させる。	
9	深鉢	胴部１/３	砂粒を含む。普通。にぶい橙色。	地文に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条の沈線を垂下する。上部には断面三角の隆帯を巡らし、この隆帯と沈線に沿って刺突文を施す。胴下半は無文で、地文との境界に幅広で低い隆帯を巡らす。この隆帯の上には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
10	深鉢	頸部１/２ 推定径27.7 残存高8.5	雲母を少量含む。普通。明赤褐色	沈線で同心円とＵ字形の文様を描出し、外周に篦状工具で刻みを付す。	
11	深鉢	口縁部片	雲母をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は緩やかに内彎し、口唇部上には沈線が巡る。地文には原体Ｌの撚糸文を縦位に施文し、低い隆帯で文様を描出する。頸部にも低い隆帯を巡らす。	
12	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。普通。褐灰色。	口縁部はやや内彎する。地文に原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で渦巻き状の文様を描出する。頸部には沈線文を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
13	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。黒褐色。	口唇部は内折し、内側に稜を持つ。口唇部直下に沈線を１条巡らす。断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文。	
14	深鉢	口縁部片	石英粒を含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部下に沈線を１条巡らす。地文、及び口縁部文様帯の中は原体不明の撚糸文。	
15	深鉢	口縁部片	大きめの砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部は内折し、内面に稜を持つ。口唇部直下に断面半円の隆帯を巡らし、地文は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文。	
16	深鉢	口縁部片	雲母をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。口唇部下位に半截竹管状工具による平行沈線を巡らした後、交互刺突文を施文。地文に原体Ｒの撚糸文を施文した後、半截竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	
17	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	わずかに内彎する口縁。口唇部は角頭状。口唇部下位に浅い沈線を２条巡らした後、ごく浅い沈線を縦位に施文。	
18	深鉢	口縁部片	石英粒を含む。普通。明赤褐色。	波状口縁を呈す。隆帯による渦巻き状の文様を描出する。地文には原体不明の撚糸文を縦位に施文。	
19	深鉢	口縁部片	雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	内彎する口縁。断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には原体Ｒの撚糸文を横位に施文。	
20	深鉢	口縁部片	雲母､砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部直下に隆帯を巡らす。地文に結節沈線を施文した後、断面半円の隆帯を貼付し、文様を描出する。	
21	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	口唇部は内接し、内面にゆるい稜を持つ。断面半円の流体で文様を区画し、区画内は原体不明の縄文を施文。	
22	深鉢	胴部片	砂粒を含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出し、ゆるやかな稜の下位には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文。	
23	深鉢	口縁部片	φ２～５㎜の小礫を含む砂をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体Ｒの撚糸文を横位あるいは斜位に施文した後、２条の隆帯によって文様を区画する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
24	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。頸部の下位は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
25	深鉢	口縁部片	軽石粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	口唇部は外側に折り返す。２条の隆帯によって楕円形の区画を描出する。区画内は無文か。	
26	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯とそれに連続する渦巻き状の突起で口縁部文様帯を区画し、区画内には横位の沈線文を充填する。	
27	深鉢	口縁部片	砂粒を含む。良好。明赤褐色。	口唇部はやや内折する。半截竹管状工具による平行沈線を２条巡らす。	
28	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	口唇部は内側に肥厚する。交互刺突文と沈線を交互に施文する。地文は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
29	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の沈線が並び、中段には交互刺突文が施される。区画する隆帯には箆状工具による刻みが付される。緩やかな稜の下位には原体不明の撚糸文を縦位に施文。	
30	深鉢	胴部片	石英を含む。普通。明赤褐色。	棒状工具による沈線を横位に施文。	
31	深鉢	胴部片	石英を含む。普通。明赤褐色。	棒状工具による沈線を横位に施文。30と同一個体と思われる。	
32	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	頸部に有刻隆帯を巡らす。地文は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
33	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の低い隆帯に沿って２条の沈線が巡る。その上下には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文。	
34	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。普通。にぶい赤褐色。	頸部に断面台形の隆帯を巡らす。地文は原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	
35	深鉢	胴部片	砂粒を含む。良好。明赤褐色。	頸部に棒状工具による沈線を３条巡らす。地文は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
36	深鉢	胴部片	雲母、石英を少量含む。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を巡らす。	
37	深鉢	胴部片	雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	地文に原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、棒状工具による沈線を４条巡らす。山形の細沈線を施文する。	
38	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。普通。にぶい橙色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、波状沈線を２条、横位に施文する。	
39	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、一部屈曲する隆帯を垂下させる。隆帯に沿って沈線を施す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
40	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出した後、原体Ｒの撚糸文を施文する。さらに隆帯に沿って沈線を施す。	
41	深鉢	胴部片	石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、棒状工具による沈線で、同心円状の文様を描出する。	
42	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で文様を描出する。	
43	深鉢	胴部片	細砂粒を含む。普通。黒褐色。	地文に原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯を垂下させ、それに沿って沈線が３条垂下する。	
44	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、頸部に半截竹管状工具による平行沈線を３条巡らすとともに、胴部に文様を描出する。波状沈線を垂下する。	
45	深鉢	胴部片	砂粒、石英を含む。普通。にぶい橙色。	原体不明の撚糸文を斜位に施文した後、沈線を垂下させ、その間を弧状の沈線でつなぐ。	
46	深鉢	胴部片	石英、大きめの砂粒を含む。普通。橙色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で大柄な渦巻き文を施文する。	
47	深鉢	口縁把手	石英を少量含む。普通。褐灰色。	「の」字状の把手。背割り状に有刻隆帯を付す。	
48	深鉢	口縁突起	雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	三角形状の突起。頂部から隆帯が垂下し、環状突起が続く。その下位には圧痕文の施された隆帯で文様を描出する。	
49	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	口唇部は内側に肥厚し、口唇部上に沈線を巡らす。外面はペン先状工具で刻みを横位に施し、それに沿って沈線を巡らす。	外面に炭化物付着。
50	深鉢	口縁部片	石英を少量含む。普通。褐灰色。	口唇部の下位に沈線を３条巡らし、それに沿ってペン先状工具による刻みを付す。	
51	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁は内側に屈曲し、その上面には隆帯を貼付していたものと思われる。口縁部には平行沈線を縦位に施文する。	
52	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を描出した後、沈線を縦位に施文する。	
53	深鉢	胴部片	砂粒を多く含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を横位に巡らせた後、２条の隆帯を垂下。隆帯の間に沈線文を施文。	
54	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内折し、内側に稜を持つ。隆帯とそれに沿った沈線で文様を描出する。	
55	深鉢	胴部片	石英をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面半円の隆帯およびそれに沿った沈線で同心円、渦巻き状の文様を描出する。	
56	深鉢	口縁部片	黒雲母をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	背割り状の沈線を持つ隆帯と有刻隆帯で文様を描出する。無文の部分は磨きを施す。	
57	深鉢	口縁部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい褐色。	内彎する口縁。断面台形の隆帯を３条貼付する。	
58	深鉢	口縁部片	雲母を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部はやや外側に肥厚し、角頭状を呈す。有刻隆帯の間は沈線で施文し、中には三叉文。	
59	深鉢	口縁部片	石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	角頭状の口縁。無文で頸部にはペン先状工具による刺突文を巡らす。	
60	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	有刻隆帯で口縁部に文様帯を区画する。区画内には短沈線を縦位に充填する。	
61	深鉢	胴部片	金雲母を少量含む。にぶい黄橙色。良好。	断面半円の隆帯で区画し、区画内には沈線でおそらく三叉文と思われる文様を描出する。	
62	深鉢	頸部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	頸部下に蛇行する断面楕円形の隆帯を貼付する。	
63	深鉢	胴部片	砂粒を多く含み、黒雲母・石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	隆帯を３条巡らし、腕骨文を垂下させる。横位の隆帯の一部が剣先状に屈曲する。	
64	深鉢	胴部片	雲母、石英をやや多く含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を横位に巡らせた後、沈線で文様を描出する。	
65	深鉢	胴部片	軽石粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、沈線をそれに沿わす。その内側には綾杉状の短沈線文。地文は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
66	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含み、黒雲母を少量含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文し、その間に短沈線を充填する。	
67	深鉢	胴部片	石英を含む。普通。橙色。	断面台形の隆帯で円形の文様を貼付した後、箆状工具による沈線で文様を描出する。その後、ペン先状工具による刻みを付す。	
68	深鉢	胴部片	石英を少量含む。普通。褐灰色。	断面台形の低い隆帯で文様を区画する。弧状の隆帯の上には棒状工具による押圧文を施文する。区画内には沈線文および三叉文を充填する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
69	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を垂下させ、それに沿って沈線を２条と鋸歯状の沈線を垂下させる。地文は棒状工具による刺突文。	
70	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線で文様を描出する。	
71	深鉢	胴部片	雲母を少量含む。普通。赤灰色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で文様を描出する。	
72	深鉢	口縁部片	石英、白色鉱物粒を含む。普通。明赤褐色。	口唇部は鋸歯状を呈し、外反する。隆帯による文様を描出した後、頸部に沈線を３条巡らす。地文は原体Ｒの撚糸文。	
73	深鉢	口縁部片	雲母、石英を含む。普通。にぶい橙色。	口唇部は鋸歯状を呈し、外反する。口唇部下に凹線が１条巡る。その下位には篦状工具による沈線が３条巡る。	
74	深鉢	口縁部片	雲母、石英を含む。普通。暗赤褐色。	折り返し口縁で、口唇部は鋸歯状を呈し、外反する。口唇部下位から篦状工具による沈線を横位に施文。	
75	深鉢	口縁部片	石英をやや多く含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯で渦巻き文を描出し、それに沿って弧状に沈線文を施す。渦巻き文の中には円形の刺突文を充填する。	
76	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。橙色。	円形の透かし穴を持つ突起が付すと思われる。波頂部から隆帯が環状の突起を形成する。半隆起線を縦位、あるいは横位に施文する。	
77	深鉢	口縁突起	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁に付く環状の突起。その下位に橋状の把手が付く。断面三角の高い隆帯によって文様が区画され、区画内には半隆起線が縦位あるいは斜位に施文される。突起上端の内外面にも半隆起線が縦位に施文される。口縁内側には隆帯が巡り、この隆帯が突起の透かし穴の周囲に連続する。	
78	深鉢	口縁部片	雲母、石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	半隆起線による文様を施文し、環状突起を付す。口唇部は内側に隆帯が巡る。	
79	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	有刻隆帯と断面半円の隆帯およびそれに沿った沈線で文様を描出する。	
80	深鉢	胴部片	雲母、石英を少量含む。良好。褐灰色。	半隆起線で文様を描出する。その内部に三角陰刻文と思われる文様を施す。	
81	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	半隆起線で楕円形、あるいは弧状の文様を描出する。楕円の中に三叉文を施す。	
82	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	半隆起線を弧状に施文する。81と同一個体か。	
83	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	環状突起を持ち、その周囲を浅い沈線で囲む。突起の上位に刺突文を巡らす。	
84	深鉢	胴部片	金雲母を少量含む。良好。橙色。	つまみ状の突起から半隆起線を垂下させる。81、82と似る。	
85	深鉢	胴部片	砂粒、黒雲母を少量含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯とそれに沿った沈線を弧状に施文する。	
86	深鉢	口縁部片	雲母、石英を含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出した後、棒状工具による沈線文を施文する。	
87	深鉢	胴部片	雲母、石英を少量含む。普通。明赤褐色。	断面三角の隆帯の一部が突起状になり、上面に短沈線を施文する。その上位には横位および斜位の沈線を施文する。沈線の一部が連続刺突文になる。	
88	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。明赤褐色。	87と同一個体と思われる。	
89	深鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含み、石英を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体不明の撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線と浅い沈線で文様を描出する。	
90	深鉢	胴部片	石英を多く含む。普通。灰褐色。	地文に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯で文様を区画する。区画の下位には半截竹管状工具による平行沈線を施す。	
91	深鉢	胴部片	石英を多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の平行沈線を垂下させる。	
92	深鉢	胴部片	石英を多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、平行沈線で弧状の文様を描出する。91と同一個体か。	
93	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	有刻隆帯と断面半円の隆帯を施文した後、沈線で渦巻き状の文様を描出する。	
94	深鉢	胴部片	雲母、石英を含む。普通。灰褐色。	断面半円の隆帯による円形の区画内に、沈線による渦巻き状の文様を描出する。	
95	深鉢	胴部片	細かい軽石粒を多く含む。普通。明赤褐色。	断面台形の隆帯で渦巻き状の文様を描出する。隆帯の一部には篦状工具による刻みを付す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
96	深鉢	胴部片	石英を少量含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の隆帯で渦巻き文を描出する。	
97	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	有刻隆帯で文様を描出した後、沈線文と刺突文を施す。下半部はていねいな磨き。	
98	深鉢	口縁把手	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内側に稜を持つ。橋状把手を持ち、その上面に隆帯による文様を施す。	
99	深鉢	口縁部片	雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	口唇部は内折し、内側に沈線を１条巡らす。外面には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
100	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。やや不良。明赤褐色。	直立する口縁。口唇部は無文。その下位に原体Ｒの撚糸文か？	
101	台付鉢	台部片	雲母を含む。良好。にぶい赤褐色。	丸い透かし穴を持つ。地文には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
102	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	口縁は屈曲して外反する。波状口縁か。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
103	深鉢	口縁部片	石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁部に付く渦巻き状の突起か。沈線で文様を描出する。	
104	浅鉢	口縁部片	石英をやや多く含む。良好。灰白色。	角頭状の口縁。半隆起線を横位あるいは縦位に施文する。	新潟系か
105	浅鉢	胴部片	金雲母を少量含む。良好。灰白色。	浅鉢の屈曲部か。沈線が１条巡り、胴下半には原体不明の単節斜縄文を施文する。	新潟系か
106	浅鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁はわずかに外反する。口唇部上面には沈線を１条巡らす。胴部は横位の沈線文を施す。ていねいな磨き。	
107	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。橙色。	浅い沈線を横位に施文し、ペン先状工具による刻みを巡らす。	
108	浅鉢	胴部片	石英をやや多く含み、金雲母を少量含む。良好。灰白色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	新潟系か
109	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面台形の低い隆帯でドーナツ状の文様を描出し、これに沿って沈線を巡らす。隆帯の左右には波状の沈線。	
110	深鉢	把手	砂粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	環状の把手。把手上に細い隆帯で渦巻き文、波状文を施文する。赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	
111	深鉢	口縁部片	石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は内接し、内面にゆるい稜を持つ。沈線を１条巡らす。	
112	浅鉢	口縁部片	石英をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	内側に肥厚し、外側には稜を持つ。ていねいな磨きで、内面と外面の一部、口唇部上面に赤色塗彩の痕跡あり。	
113	浅鉢	口縁部片	雲母を含む。良好。黒褐色。	口縁はやや内彎し、口唇部は内側にわずかに肥厚する。口縁部には浅い凹線による楕円形の区画を施文。	
114	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	内側に肥厚し、外側には稜を持つ。ていねいな磨きで、内面と外面の一部、口唇部上面に赤色塗彩の痕跡あり。	
115	浅鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	わずかに外反する角頭状の口縁。ていねいな磨きで、内外面に赤色塗彩の痕跡あり。	
116	浅鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に肥厚する。無文の口唇部の下位にごく浅い凹部が巡る。	

20区８号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
117	石鏃	完	15.5	13	3	0.5	黒曜石	
118	磨斧	刃部片	52	59	26	111.1	変質玄武岩	
119	石皿	1/4	172	180	71	2800.0	粗粒輝石安山岩	
120	凹石	完	112	72	45	401.1	粗粒輝石安山岩	
121	磨石	完	192	194	178	3000.0	粗粒輝石安山岩	
122	多孔石	一部欠か	234	209	125	6000.0	粗粒輝石安山岩	
123	多孔石	完	277	196	129	9580.0	粗粒輝石安山岩	

20区10号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部1/2	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	渦巻状の突起が付く隆帯を２条、弧状に巡らす。胴部には２条の隆帯による腕骨文を施文した後、縦位の沈線と棒状工具による刺突文を施文する。	
2	深鉢	胴部1/2	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	口縁は緩やかな波状口縁。１あるいは２単位の波頂部に突起が付すものと思われる。口唇部に沿って隆帯を貼付する。そこからＳ字状に隆帯を貼付し、その下部から２条の隆帯を垂下させる。その後、沈線を縦位に施文し、隆帯をつなぐように弧状の沈線を施す。	
3	深鉢	口縁～胴上半1/2 推定口径39.8	金雲母、砂粒を含む。良好。暗褐色。	口唇部は内側に屈曲し上面が平らになる。口縁部には斜位の半隆起線が口唇部まで施文される。頸部は３条の半隆起線を巡らせた後、蛇行する隆帯と４単位と思われる環状突起を貼付する。胴部は細い沈線文を垂下させた後、蛇行する沈線文を貼付し、２条の隆帯で渦巻き文を施文する。	
4	深鉢	口縁～胴上半 口径18.6	砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	内彎する口縁には、棒状工具による沈線を斜位に施文した後、沈線で渦巻状の文様を描出する。胴部に原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、頸部には５単位の輪積状の突起を付し、これをつなぐように蛇行する粘土紐を貼付する。突起からは隆帯を１条垂下させ、この間には蛇行する沈線を１条施文する。	
5	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。橙色。	３条の隆帯による腕骨文を垂下させ、その間には２条の沈線による腕骨文を垂下させる。地文は棒状工具による斜沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片	金雲母を少量含む。良好。橙色。	３条の隆帯による腕骨文を垂下させ、棒状工具による沈線で綾杉文と剣先文を施す。	
7	台付鉢か	台部か	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	両面に３条の隆帯を施文する。底部は上げ底を呈する。	
8	深鉢	胴部片	黒雲母、石英をわずかに含む。普通。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	
9	深鉢	胴部片	金雲母、石英をわずかに含む。普通。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	
10	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒、黒雲母をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	無文でやや外反する口縁で、口唇部は外折する。頸部に細い沈線を巡らす。内外面とも磨き。	
11	浅鉢	口縁部片	黒雲母をわずかに含む。良好。赤褐色。	口唇部はわずかに外反する。口縁部には沈線で楕円形の文様帯を区画し、内部には沈線を縦位に施文する。屈曲部外面には隆帯を貼付し、稜を作り出す。胴下位外面、及び内面は磨き。	
12	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は外折する。そこから３条の沈線を垂下させる。	
13	深鉢	口縁部片	石英、白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内側に肥厚し、口唇部上には沈線を１条巡らす。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と２条の沈線を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を少量含む。良好。橙色。	口唇部は外側に肥厚し、上部に沈線を１条巡らす。２条の隆帯による腕骨文を貼付した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を少量含む。良好。橙色。	文様の構成は１４に近似する。同一個体と思われる。	
16	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内外に肥厚する。沈線で渦巻き状、弧状の文様を描出した後、縦位に沈線を施文し、棒状工具による刺突文を施す。	
17	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を少量含む。良好。褐色。	無文の口縁で、口唇部は内側に肥厚する。頸部に隆帯が巡るものと思われる。	
18	深鉢	胴部片	黒雲母をわずかに含む。良好。橙色。	断面半円の隆帯を巡らし、そこから半隆起線を垂下させる。一部に棒状工具による刺突文を施文。	
19	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯を３条垂下させた後、浅い沈線文を縦位に施す。その後、中に横線の入る楕円形と三角形の文様を沈線で描出する。	
20	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	文様の構成は19に近似するが、垂下する隆帯が２条で、断面が半円である。	
21	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の太い隆帯を施文した後、棒状工具による刺突文と沈線で文様を描出する。	
22	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	文様の構成は21に近似する。同一個体と思われる。	
23	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯を弧状に施文した後、緩やかに彎曲する斜沈線を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
24	深鉢	頸部～胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	頸部には横位の腕骨文を施文する。胴部は３条の隆帯を弧状に施文した後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
25	深鉢	胴部片	石英、金雲母をやや多く含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を３条、横位あるいは弧状に施文し、棒状工具による沈線で綾杉文を施文する。その後隆帯に沿って沈線を施文する。	
26	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面台形の低い隆帯とそれに沿った平行沈線を施文した後、浅い沈線と隆帯上に刻みを施す。	
27	深鉢	胴部片	黒雲母、石英をわずかに含む。良好。橙色。	篦状工具による沈線を平行に施文した後、その間にペン先状工具による刺突文を充填する。	
28	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。良好。明赤褐色。	篦状工具による沈線を縦位に施文した後、蛇行する隆帯と渦巻き状の隆帯を貼付する。渦巻き状の隆帯に沿って沈線を施す。	
29	浅鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は外側に肥厚し、角頭状を呈する。内面と口唇部外面に赤色塗彩の痕跡が認められ、特に内面は弧状の文様が看取できる。	

20区10号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
30	石鏃	完	16	12	3	0.5	黒曜石	
31	磨斧	破片	69	32	22	63.8	変質安山岩	
32	打斧	完	104	43	15	64.8	黒色頁岩	
33	凹石	完	116	79	37	521.9	細粒輝石安山岩	
34	打斧	完	96	46	25	123.8	粗粒輝石安山岩	
35	凹石	完か	107	72	35	447.4	粗粒輝石安山岩	
36	凹石	完	109	89	52	770.1	粗粒輝石安山岩	
37	凹石	完	122	75	54	726.5	粗粒輝石安山岩	
38	台石か	完	191	222	90	5000	粗粒輝石安山岩	

20区12号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
2	深鉢	頸部～底部１/２	砂粒を僅かに含む。良好。赤褐色。	やや胴のはる円筒状の器形。頸部には刺突文の施された隆帯が巡っていたものと思われる。胴部には原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
3	釣手土器	口縁部２/３ 推定　短径19.0 推定　長径26.0	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口縁には隆帯による渦巻き文と棒状工具による沈線を施文する。釣手の接合部は橋状を呈する。内面の残存部には炭化物の付着は見られない。	
4	深鉢	口縁～胴下半 推定　口径15.5	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	平口縁に円形の突起が付くものと思われる。口縁部は２条の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。頸部は磨り消しによって無文。その下位には沈線を３条巡らす。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条の沈線によって「田」字状区画をなす。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、頸部に沈線を巡らす。	
6	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	波状口縁の波頂部。隆帯を貼付して区画をなす。区画内は無文。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線と縦位の沈線で方形の区画をなす。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	斜位の沈線と隆帯を貼付して籠目文を描出した後、横位の隆帯を貼付する。胴部は棒状工具による沈線を斜位に施文した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
9	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線を巡らす。	
10	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、半截竹管状工具で文様を描出するとともに、隆帯に刺突文を付す。	
11	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	断面半円の隆帯を貼付した後、平行沈線と交互刺突文を施文する。口縁は内折し、突起が付していたものと思われる。	
12	深鉢	底部　底径10.5	砂粒をやや多く含む。良好。	無文の底部。磨きが施され、底面にも磨きの痕跡。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
13	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	内外面とも丁寧な磨きを施し、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
14	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	屈曲部の上位には棒状工具による沈線を施文した後、角頭状の工具による刺突文を施文する。屈曲部には棒状工具による刺突文を巡らす。	

20区12号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
15	石製品	完	37	34	16	7	軽石	

20区13号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	両耳壺	口縁～胴部片　推定口径36.0	細砂粒をやや多く含む。普通。浅黄橙色。	橋状把手は２単位と思われる。頸部には橋状把手とつながる隆帯を巡らす。胴部は器面が荒れるが、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩字形の沈線と磨り消し文を施文しているものと思われる。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	無文の口縁部の下位に沈線を縦位に施文した後、沈線を１条巡らす。無文部と内面は磨き。	
3	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	棒状工具による浅い沈線を弧状あるいは同心円状に施文する。	
4	深鉢	頸部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	太い隆帯と沈線で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	口縁部片	白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	波状口縁の波頂部から太い沈線を左右に施文する。その下位には文様帯が区画され、区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。明黄褐色。	刻みを付した隆帯を渦巻き状に貼付し、その周りを沈線で施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	棒状工具による浅い沈線を渦巻き状あるいは波状に施文する。	
8	深鉢	口縁部1/3 推定　口径24.5	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口唇部の下位に波状の沈線と交互刺突文を施文する。頸部には２条の沈線を巡らす。	
9	深鉢	口縁把手	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	透かし穴を縦方向、横方向に３カ所穿つ。外面に太い沈線。	
10	深鉢か	胴部片	石英、黒雲母をわずかに含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	隆帯と沈線で文様を描出し、外面の隆帯部分と内面の一部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
11	土偶	腕部	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	土偶の腕と思われる。沈線で文様が描出され、φ３㎜の孔があけられる。	

20区13号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
12	磨石	完	155	240	83	3800	粗粒輝石安山岩	

20区14号住居石器計測表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	中央に円形の透かし穴を持つ口縁部突起。頂部から隆帯を垂下させ、渦巻き状に施文。それに沿った沈線も端部が蕨手状を呈する。口縁部に隆帯で楕円形と思われる区画をなし、区画内に交互刺突文と沈線を施文する。文様帯からは刻みを付した隆帯を垂下させる。地文には棒状工具による斜沈線を施文する。	
2	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。灰赤色。	弧状に施文した沈線から２条１単位の沈線を垂下する。沈線間は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を２条垂下させた後、浅い斜沈線を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面半円の隆帯の下位に棒状工具による綾杉文を施文する。	
7	深鉢	胴部片	石英、金雲母を少量含む。普通。赤褐色。	細い沈線を４条垂下させる。地文には縄文を施文していると思われるが不明である。	
8	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	櫛歯状工具による条痕文を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
9	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	無文の口唇部の下位に隆帯を１条巡らし、そこから隆帯を垂下させる。その後斜沈線を施文する。（綾杉文か。）	

20区14号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備　考
10	打斧	完	113	51	18	101.1	細粒輝石安山岩	
11	凹石	一部欠	114	75	63	673.9	粗粒輝石安山岩	
12	凹石	完	109	94	50	678.8	粗粒輝石安山岩	
13	敲石	完	105	35	24	141.7	粗粒輝石安山岩	
14	敲石	完	168	62	54	750.1	粗粒輝石安山岩	
15	石製品	完	51.5	61	19	16.1	軽石	

20区15号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備　考
1	磨石	完か	240	328	115	12800	粗粒輝石安山岩	

20区16号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴下半 口径12.8	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	緩やかな４単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯を貼付して、胴部にはＵ形の、口縁部には楕円形の区画をなす。口縁部の区画内には交互刺突文を施文し、胴部には棒状工具による沈線を横位の綾杉状に施文する。胴部の区画は大小の差を付けて正面を意識しているものと思われる。正面の区画内には綾杉文の上に蛇行する沈線を施文している。口縁部は２次的な比熱。	
2	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の隆帯で文様帯を区画し、区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁の破片。沈線で口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文。区画の上位に「の」字状の沈線文。	
4	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口唇部は内側に肥厚する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内は沈線による綾杉文。区画外に隆帯で文様を描出する。	
5	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文の口縁部の下位に沈線を１条巡らす。その下位に斜沈線と円形の刺突文を施文する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面台形の低く幅広の隆帯で文様を区画する。	
7	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を垂下させ、隆帯の間は沈線による綾杉文を施す。	
8	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。やや不良。橙色。	口縁部文様帯の破片と思われる。区画内には原体不明の縄文を施文する。	

20区16号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(mm)	②幅(mm)	③厚さ(mm)	④重量(g)	石材	備　考
9	石鏃	完	20.5	17	2.5	0.6	黒曜石	

20区17号住居石器計測表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴部１/３ 推定口径48.2	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	口縁部に浅い沈線で楕円形の文様帯を区画する。区画内及び胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。橙色。	断面台形の隆帯を弧状に貼付した後、棒状工具による浅い沈線を弧状あるいは斜位に施文する。	
3	台付鉢	台部接合部	細砂粒を少量含む。普通。橙色。	透かし穴が開くため、４脚状の台部を呈すると思われる。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	台付鉢	台部接合部	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。橙色。	４単位の透かし穴が開くものと思われる。胴部には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	口縁～胴部１/２ 口径30.5 残存高30.1	砂粒、小礫を少量含む。良好。暗赤褐色。	５単位の波状口縁。口縁部は断面三角の隆帯で円形の区画を含む半径の文様帯を区画する。区画内には原体ＬＲＬの複節斜縄文を充填する。胴部は断面三角の低い隆帯で渦巻き文を施した後、原体ＬＲＬの複節斜縄文を縦位に施す。	
6	深鉢	口縁部　口径20.7	砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	４単位の波状口縁と思われる。波頂部はわずかに外反する。口唇部まで原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、∩字状の沈線と垂下する沈線を施文する。	
7	深鉢	口縁～胴部１/２ 推定　口径13.0	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	蛇行する沈線を巡らすとともに、∩字状および垂下する沈線を施文し、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
8	深鉢	口縁～胴部１/２ 口径24.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を口唇部は横位に施文し、それよりも下位は縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。磨り消し部には端部が蕨手状を呈する沈線を施文する。	
9	台付鉢	一部欠　口径16.0 器高24.6　底径5.6	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	直線的に開く器形に、径の小さい台が付く。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線で５単位に分割する。そこから∩字状の沈線を垂下させる。分割された１単位部のみ沈線が垂下される。	
10	深鉢	口縁～胴部２/３ 口径30.5 残存高30.2	砂粒をやや多く含む。普通。灰黄褐色。	口唇部には円形の刺突文と沈線を１条巡らす。口縁部は無節の斜縄文を施文した後、２条の沈線で大きく蛇行する横位の沈線を巡らし、その間には蛇行する沈線を垂下させる。頸部には沈線を２条巡らし、その間に円形の刺突文を施す。胴部は無節の斜縄文を施文した後、磨り消し文と蛇行する沈線文を垂下させる。	
11	深鉢	口縁～胴上半１/３ 推定口径38.5 残存高19.5	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部は沈線で楕円形の文様帯を区画する。胴部も同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
12	深鉢	底部　底径7.0	砂粒、小礫を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、浅い沈線を３条垂下させ、間を磨り消す。	
13	浅鉢	底部　推定底径8.2	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
14	鉢形土器	口縁～胴下半１/４ 推定口径35.0 推定最大径39.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	口縁部は無文で横位の整形痕が認められる。隆帯で楕円形の区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。区画の下位には篦状工具による沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩字形の沈線と端部が蕨手状を呈する沈線と磨り消し文を垂下させる。	
16	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線を巡らすとともに、端部が蕨手状を呈する沈線を垂下させる。口唇部の縄文は横位に施文され、一部羽状を呈する。	
17	深鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。普通。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を口唇部は横位に、その下位は縦位に施文した後、口唇部に棒状工具による刺突文を巡らし、その下位に沈線を１条巡らす。胴部には蛇行する沈線を巡らすとともに、端部が蕨手状を呈する沈線を垂下させる。	
18	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は内傾し、口唇部上に沈線を巡らす。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部に沿って平行沈線を巡らす。内面は磨きを施す。	
19	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って磨り消し。	
20	深鉢	口縁～胴下半１/２ 口径33.5 残存高43.9	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	底部からやや直線的に開く器形。口縁は緩やかな波状口縁を呈すると思われる。断面半円の隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画する。文様帯の内部は原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて充填する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、垂下する沈線と鍵の手状に曲がる文様を施文する。	
21	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁の波頂部。内外面ともに隆帯で渦巻き状の文様を描出する。口縁部文様帯の中には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
22	深鉢	口縁突起	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	円形の口縁突起。内外面に隆帯で渦巻き状の文様を描出する。隆帯の間に原体不明の縄文を施文する。	
23	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。その後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
24	深鉢	口縁突起	白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	内外面と両側面ともに隆帯で渦巻き状の文様を描出する。内面の一部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
25	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面台形の隆帯で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。隆帯の交点に円形の刺突文。	
26	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯で口縁部に櫛形の文様帯を区画し、区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。その後口縁に沿った沈線で磨り消し。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに口縁部文様帯に沿った沈線でも磨り消す。この沈線が延長して渦巻き状の文様を描出する。	
27	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	断面三角の隆帯を貼付して区画をなした後、原体ＬＲの単節斜縄文を施文し、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
28	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	口縁部には沈線で楕形の文様を描出する。その下位には円形の文様を描出し、その中には沈線を放射状に施文する。	
29	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	無文の口縁部の下位に沈線で楕円形の文様を描出し、内部には斜沈線を施文する。その下位にも沈線を施文する。	
30	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	垂下する沈線と渦巻き状の沈線を施文した後、彎曲する短沈線を斜位に施文する。	
31	深鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	渦巻き状の円環状突起が付く。交互刺突文と斜沈線を交互に施文する。	
32	深鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	文様の構成が31に似る。同一個体と思われる。	
33	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	沈線を斜位に施文した下位に沈線を１条巡らし、円形の沈線文内部に彎曲する沈線と蛇行する沈線を施文する。	
34	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	沈線を２条垂下させた後、綾杉状の沈線を施文する。	
35	深鉢	胴部片	黒雲母、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面台形の隆帯を貼付した後、篦状工具による短沈線を綾杉状に施文する。	
36	深鉢	胴部片	黒雲母をわずかに含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、浅い沈線で渦巻き状の文様を描出する。	
37	深鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。やや不良。にぶい赤褐色。	口唇部の下位に細沈線と円形の刺突文を巡らす。	
38	深鉢	口縁部片	白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯を弧状に貼付する。	
39	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	沈線を横位に巡らし、その間に棒状工具による刺突文を巡らす。	
40	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。灰黄色。	隆帯の上位に篦状工具による刺突文を蛇行させて施文する。	
41	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	やや外反する無文の口縁。口唇部に補修孔を持つ。	
42	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。	断面三角の隆帯を貼付し、それに沿った平行沈線と、渦巻き状の平行沈線を施文する。	
43	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を描出した後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
44	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	沈線を斜位に施文した後、棒状工具による沈線で文様を描出する。	
45	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。普通。橙色。	棒状工具による沈線で三叉文を含む文様を描出する。	
46	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	端部が蕨手状を呈する隆帯を貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
47	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を弧状に貼付した後、沈線で文様を描出し、隆帯に刻みを付す。	
48	深鉢か	口縁突起か	金雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	推定径３㎝ほどの透かし穴を持ち、頂部は角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きを施す。	

20区17号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
49	石鏃	基部欠	31	19	8.5	3.3	黒曜石	
50	石鏃	基部欠	24	18	3	0.8	黒曜石	
51	石鏃	基部欠	24.5	15	6	1.5	黒曜石	
52	石鏃	完	15	12	3	0.4	黒曜石	
53	石鏃	基部欠	20	11.5	3	0.5	黒曜石	
54	ドリル	先端部欠	21	14	3	0.8	黒曜石	
55	スクレイパーか	完	28	46.5	12	11.8	黒色安山岩	
56	打斧	完	102	44	19	92.1	デイサイト	
57	打斧	完	115.5	44.5	20	114.1	細粒輝石安山岩	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石材	備　考
58	打斧	完	138	58	24	246.9	細粒輝石安山岩	中央付近で折損
59	打斧	基部欠	123	49	13	107.1	細粒輝石安山岩	刃部摩滅
60	磨斧	刃部のみ	60	64	25	138.9	変質安山岩	
61	石製品	完	29	41	18	5.6	軽石	
62	磨斧	ほぼ完	122	46	21	198.7	変質玄武岩	
63	凹石	完	95	70	34	343.1	粗粒輝石安山岩	
64	凹石	完	99	69	49	422.1	粗粒輝石安山岩	
65	多孔石	完	305	162	115	5800	粗粒輝石安山岩	磨り面あり
66	石皿	破片	86.5	64	27.5	138.8	粗粒輝石安山岩	
67	多孔石	完か	233	265	89	5800	粗粒輝石安山岩	
68	磨石	一部欠	174	126	45	1400	粗粒輝石安山岩	
69	多孔石	完	202	261	125	7000	粗粒輝石安山岩	

20区18号住居石器計測表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上部 口径19.0 残存高11.9	白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	キャリパー形の器形。４単位の波状口縁を呈すると思われる。口唇部はこの波頂部をつなぐように隆帯を貼付する。口縁部から胴部にかけては原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、口縁部に２条１単位の隆帯で横Ｓ字状の文様を４単位貼付する。頸部には沈線で長楕円の文様を描出する。	
2	深鉢	口縁～底部 1/3 推定口径11.8 残存高19.5 底径8.0	黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	樽形の器形で口縁には突起が１単位付くと思われる。突起の下位には有刻隆帯で渦巻き状の突起をなし、そこから左右に弧状の沈線を配する。その沈線から連続するように口唇部には２条の沈線が巡るとともに、半円形の文様帯を区画する。胴部には棒状工具による沈線を斜位に施文した後、沈線によって、∩字形あるいは腕状の文様を描出する。	
3	深鉢	口縁～胴上部 推定口径13.4	砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁は内彎し、無文で磨きを施す。頸部に断面三角の隆帯を４条巡らし、上の３条の間に粘土紐を波状に貼付する。下の１条からは連続して２条が垂下する。この垂下する隆帯の上には連続刺突文が施される。隆帯を垂下した後、沈線を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁部 1/3 推定口径16.6	石英を少量含む。普通。明赤褐色。	口唇部上面に沈線を１条巡らす。原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯で口縁部に文様を区画し、区画内には２条の隆帯による渦巻き文と渦巻き状の突起を描出する。頸部には沈線を１条巡らしていると思われる。口縁部の沈線内に赤色塗彩の痕跡あり。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を２条１単位で２段にわたって巡らす。隆帯の間には断面台形の低い隆帯を蛇行して貼付する。この隆帯の上には円形の刺突文を施す。	
6	深鉢	胴上部～胴下部	黒雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	直線的な器形で、上部でわずかに開く。原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、２条１単位の隆帯で、眼鏡状の文様を貼付する。この文様に沿って沈線を施す。	
7	深鉢	胴部片	石英、白色軽石粒をやや多く含む。普通。明褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯を垂下させた後、条痕文を縦位に施す。	
8	深鉢	底部　底径10.0	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の沈線を８単位垂下させる。この沈線の間には蛇行する沈線を垂下させていると思われる。底面にＲＬの単節斜縄文の圧痕文。	
9	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線で∩字状の文様を描出する。	
10	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線で弧状の文様を描出する。	
11	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。普通。黒褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線を横位、あるいは弧状に施文する。	
12	深鉢	胴部片	石英を少量含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を弧状に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
13	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を少量含む。普通。暗赤褐色。	刻みを付した隆帯を１条巡らし、その上位には原体Ｒのゆるい撚糸文を縦位に施文する。	
14	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を少量含む。普通。褐色。	刻みを付した隆帯を１条巡らし、その下位には原体Ｒのゆるい撚糸文を縦位に施文する。13と近似。	
15	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を少量含む。普通。明赤褐色。	刻みを付した隆帯を１条巡らし、その上位には原体Ｒのゆるい撚糸文を縦位に施文する。	
16	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を弧状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
17	深鉢	胴部片	石英を少量含み、砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線で弧状あるいは同心円状の文様を描出する。	
18	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。暗褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、平行沈線を横位、あるいは弧状に施文する。	
19	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｌの撚糸文と棒状工具による沈線文が混じって施文される。	
20	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、頸部に平行沈線を横位に施文する。その後、平行沈線を弧状に施文し、これと頸部の沈線をつなぐように沈線を縦位に施文する。	
21	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。一部が同様の工具による連続刺突文になる。	
22	深鉢	胴部片	白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	連続刺突文の施された隆帯をＵ字状に貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
23	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文した後、棒状工具による圧痕を施した隆帯を２条垂下させる。	
24	浅鉢	口縁部片	赤色軽石粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	口唇部上面に沈線を１条巡らす。口縁直下に平行沈線を横位に施文する。内外面とも磨きを施す。	
25	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は一旦内傾し、小さく外反する。頸部に断面半円の隆帯が巡ると思われる。無文で、外面は磨きを施す。	
26	浅鉢	口縁部片	黒雲母、石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	無文で、器面はやや荒れるが磨きが施されていたものと思われる。	
27	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。暗褐色。	平行沈線を横位に施文する。一部に交互刺突文を施す。	
28	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	隆帯で口縁部に文様帯が区画されているものと思われる。区画の端部は渦巻き状の突起になり、区画内には沈線と連続刺突文が横位に施文される。胴部は原体Ｒの非常に細い撚糸文を縦位に施文する。	
29	深鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。無文で断面半円の太い隆帯を蛇行して貼付する。	
30	深鉢	口縁部片	石英をやや多く含む。良好。暗褐色。	刻みを付した隆帯を弧状に施文し、それに沿って沈線を施す。さらに４条の沈線を垂下させる。	
31	深鉢	口縁部片	石英をやや多く含む。良好。褐色。	刻みを付した隆帯を弧状、横位、縦位に施文し、その間に沈線を充填する。30と同一個体か。	
32	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。普通。赤褐色。	沈線で三角状の文様を描出する。内側に三叉文。	
33	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。普通。赤褐色。	沈線で渦巻き状の文様を描出し、端部でＸ字状の突起をなす。	
34	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。明褐色。	隆帯を弧状に施文し、その間に沈線文を施す。	
35	深鉢	胴部片	石英、黒雲母をやや多く含む。良好。橙色。	断面半円の太い隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
36	深鉢	胴部片	金雲母をわずかに含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯がＹ字状に貼付され、そこから沈線が横位に施文される。一部にはキャタピラ文を呈する。	
37	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。やや不良。黒褐色。	沈線を横位、Ｌ字状に施文する。	
38	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	隆帯を弧状に施文し、それに沿った沈線で文様を描出し、その間には三叉文を施す。	
39	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を４条巡らし、上３条の間に蛇行する粘土紐を貼付する。内面は磨きを施す。	
40	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	断面三角の隆帯で区画をなし、区画内には半隆起線と粘土紐による籠目文を施す。区画の間には撚紐状の突起。その下位には小さな橋状の把手が付く。	
41	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面半円の隆帯で区画をなし、区画内には半隆起線と粘土紐による籠目文を施す。それに被さるように撚紐状の把手を貼付する。胴部は沈線を斜位に施文し、その後、把手から２条の隆帯を垂下させる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
42	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	中央の突起から断面半円の隆帯を弧状、あるいは横位に施文する。	
43	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。眼鏡状の環状突起が付き、その周囲には沈線を縦位に施文する。	
44	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	眼鏡状の環状突起が付き、その下位には蝦蟇口状の突起。沈線を縦位に施文した後、刻みを付した隆帯を弧状に施文し、それに沿って沈線を施す。縦位の沈線との間には三叉文を施す。	

20区20号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	口縁部には楕円形、あるいは弧状に沈線を施文し、中には原体不明の縄文を施文する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で方形の６単位に区画する。上部は２次的な被熱。	

20区21号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原体合撚ＬＲ－ＲＲを縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	無文の口縁部と思われる。口唇部は内湾するのであろう。断面台形の２条の隆帯で蕨手状の文様を描出し、一方の隆帯には刻みを付す。そこから、刻みを付した隆帯を１条垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	低い隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体不明の縄文を施文する。胴部も同様の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	鉢形土器	胴部片	石英、黒雲母をわずかに含む砂粒を少量含む。良好。黒色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を区画した後、原体ＲＬの単節斜縄文を施文し、隆帯に沿って磨り消し。	

20区21号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
6	石製品	完か	36.5	32	27.5	8	軽石	
7	多孔石	完	210	239	106	6550	粗粒輝石安山岩	

20区22号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴部１/２ 推定口径33.0	砂粒、小礫をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	４単位の波状口縁を呈する。波頂部には隆帯で渦巻き状の文様を描出し、横には円形の刺突文を２単位施す。口縁部は楕円形の文様帯を区画し、原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。胴部も同じ原体を縦位に施文した後、２条の沈線と蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁部１/３ 推定口径20.0	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。隆帯と沈線で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部も同じ原体を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁～胴部１/２ 最大径19.4	砂粒をやや多く含む。やや不良。にぶい橙色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。無文の口唇部の下位に楕円形の口縁部文様帯を区画する。断面半円の隆帯をＳ字状に貼付した後、直線的に垂下する２条の隆帯と蛇行する隆帯を貼付する。その後、緩やかに彎曲する短沈線を施文する。	
4	深鉢	口縁～胴部１/５ 推定口径33.5	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口縁部には隆帯と沈線で渦巻き文と文様帯を区画する。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、２条の沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施文する。	
5	深鉢	口縁～胴部１/４ 推定口径12.0	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口唇部に隆帯が鍔状に巡る。胴部は沈線を２条垂下させた後、彎曲する沈線を鱗状に施文する。	
6	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	屈曲部に隆帯を貼付して渦巻き文を描出するとともに、文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
7	深鉢	胴部突起	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	橋状の把手の接合部と思われる。隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。	
8	深鉢	胴部１/３	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
9	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施文する。	
10	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。口縁は外側に肥厚し、その下位には円形の刺突文が施文される。	
11	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。黄褐色。	断面三角の隆帯を貼付して楕円形の区画をなす。区画内には篦状工具による沈線を斜位に施文する。	
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁の波頂部付近。断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
13	鉢形土器	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面三角の隆帯を貼付して渦巻き文を描出するとともに楕円形の区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
14	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	隆帯を貼付して区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。区画の外は浅い沈線を乱雑に施文する。	
15	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体Ｌの撚糸文を横位に施文した後、隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。	
16	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
17	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	背割り状の沈線が施文された隆帯を巡らせ、棒状工具による沈線を縦位に施文した後、蛇行する沈線と楕円形のモチーフを描出する。	
18	深鉢	口縁突起	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	角形の突起。外面は半隆起線で渦巻き文を描出し、内面には断面三角の隆帯を山形に貼付する。	

20区22号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
19	石棒	1/2？	328	120	108	6260	ひん岩	

20区23号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～底部2/3 推定口径23.2　器高34.5　底径5.0	白色鉱物粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	４単位の波状口縁。波頂部をつなぐように沈線を施す。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線でU字状、∩字状に区画し、間を磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。無文の口唇部の下位に断面三角の隆帯を貼付するとともに、胴部には弧状に貼付する。その後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部の下位に沈線を１条巡らす。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を弧状に施文する。	
4	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明褐色。	断面半円の隆帯を１条垂下させた後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	石英、黒雲母をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
6	深鉢	胴部片	黒雲母、石英をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で∩字形の文様を描出するとともに、楕円形の刺突文を施す。	
7	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文し、断面三角の低い隆帯を横位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
8	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	無文の口縁部。口唇部の下位にごく浅い沈線を巡らす。	
9	浅鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は角頭状を呈する。屈曲部に交互刺突文を巡らす。刺突文の施された隆帯を垂下させる。	
10	深鉢か	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	ペン先状工具による刺突文を施す。その下位に沈線による文様帯を区画しているものと思われる。区画内は斜位の沈線文か。	
11	深鉢	口縁把手	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁に付く円環状の突起。上部から橋状の把手が付くものと思われる。	
12	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して楕円形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。区画する隆帯の一部には棒状工具による圧痕文。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
13	深鉢	胴部片	石英、黒雲母をわずかに含む。良好。明赤褐色。	浅い沈線を弧状に施文する。	
14	深鉢	胴部片	白色軽石粒を少量含む。良好。褐色。	浅い沈線を∩字形に施文する。無文部は磨き。	
15	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の低い隆帯を２条巡らす。	

20区23号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
16	磨斧	刃部のみ	32	36.5	14.5	25.9	砂岩	
17	打斧	完	118	54	18	110.7	細粒輝石安山岩	
18	凹石	完	125	110	48	991.1	粗粒輝石安山岩	敲き痕か

20区24号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴部1/3 推定口径34.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、大きく蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。胴部には∩字形の沈線を施文する。口唇部の縄文は方向変えて施文している。	
2	深鉢	口縁～胴部1/3 口径38.0	小礫、砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色	口縁部に断面半円の隆帯で、渦巻き状文を含む楕円形の文様を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文と２条の沈線を垂下。	
3	深鉢	口縁～胴部1/2 推定口径37.8 残存高26.0	小礫、砂粒を少量含む。普通。暗灰黄褐色。	キャリパー形の器形。口縁部には断面三角の隆帯で楕円形および円形の文様を区画する。区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯にそった沈線で磨り消す。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を施文した後、磨り消し文と沈線を垂下。	
4	台付鉢	台部片　底径6.0	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	径約２㎝の透かし穴を３カ所に空ける。	
5	浅鉢か	胴部片	砂粒を少量含む。普通。浅黄橙色。	隆帯を貼付して大柄な渦巻き文を描出した後、櫛歯状工具による条痕文と原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	
6	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線文と磨り消し文を施文する。	
7	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して口縁部に文様帯を区画する。区画内には原体不明の縄文を施文する。胴部には∩字形の沈線を垂下させる。	
8	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部に１条の沈線を巡らす。胴部には２条１単位の沈線を∩字形に施文する。内面に篦状工具による磨きが施される。	
9	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線でＵ字形の区画をなし、区画外は磨り消し。	
10	深鉢	胴部1/3	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を垂下させる。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線を∩字形に施文する。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面三角の隆帯と磨り消し文を垂下させる。	
13	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で区画し、区画外は磨り消し。	
14	深鉢	底部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	低い波状口縁を呈する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
16	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	浅い沈線で文様を描出する。	
17	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	断面半円の隆帯を貼付して区画をなした後、沈線を横位に施文し、隆帯に沿って磨り消し。	
18	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	波状口縁を呈する。波頂部から２条の隆帯を垂下させ、間は磨り消し。口縁に沿って沈線を１条巡らし、その下位には棒状工具による刺突文を施文する。	
19	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。浅黄色。	波状口縁を呈するものと思われる。口縁に沿って沈線を巡らし、その下位には沈線を弧状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
20	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	端部が蕨手状を呈する沈線を施文する。	
21	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して渦巻き状の文様と区画をなした後、浅く緩やかに彎曲する沈線を斜位に施文する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	浅い沈線を２条垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	

20区24号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
23	石棒	基部欠	171	54	45	611	緑泥片岩	
24	石鏃	基部、先端部欠	18	17.5	4.5	1.2	黒曜石	
25	スクレイパー	完か	19	20.5	4	1.1	黒曜石	
26	石製品	完か	65	60	33	21.9	軽石	一部に磨り面

20区25号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	石英をわずかに含む。普通。橙色。	無文の口縁部の下位に沈線を１条巡らし、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	沈線で∩字状の区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	幅広の隆帯を弧状に施文した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	黒雲母、石英をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯で三角形の区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。	
5	鉢形土器	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を１条巡らし、そこから径２㎜ほどの孔をあけた突起が付く。	
6	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させ、さらに蕨手状の沈線文を施す。	
8	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
9	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片	金雲母、石英を多く含む。普通。赤褐色。	棒状工具による沈線を斜方向に乱雑に施文する。	
11	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で渦巻き状の文様を描出した後、棒状工具による短沈線、および刺突文を施文する。	
12	深鉢	口縁突起	石英、金雲母を含む砂粒を多く含む。普通。黄褐色。	外面に短沈線を横位、縦位に施文し、頂部と基部に渦巻き状の沈線を施文する。	
13	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	細い沈線を斜位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を弧状に施文する。	
14	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。灰褐色。	刻みを付した隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文の押捺文と亀甲状の沈線を施文する。	
15	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	断面台形の隆帯の上に刺突文を施し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
16	釣手土器か	釣手部	砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	剥落している部分が多いが、残存部には断面半円の隆帯とそれに沿った沈線で文様が描出される。	

20区25号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
17	打斧	基部欠	124	54	17	56.3	細粒輝石安山岩	
18	打斧	完	149	65	25	294.7	細粒輝石安山岩	
19	打斧	基部破片	60	44	11	36.4	細粒輝石安山岩	

20区30号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴部 推定口径23.0 残存高24.0	砂粒を多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁を僅かに欠く。口唇部に波状の沈線を１条巡らす。胴部には断面半円の隆帯をＵ字状に連続させ、頂部に蕨手状文を付す。地文は棒状工具によるやや湾曲する沈線を施文する。	
2	深鉢	口縁～胴部１/２ 推定口径16.3	石英、黒雲母を少量含む。普通。暗赤褐色。	口縁部に渦巻き状文を含む楕円形の区画をなす。区画内と胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	浅い沈線を横位に巡らし、櫛歯状工具による沈線を縦位に施文する。沈線の上位と内面に赤色塗彩の痕跡あり。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文する。内外面ともに赤色塗彩の痕跡あり。３と同一個体と思われる。	

20区34号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半 口径22.5	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	頸部に２条の隆帯を貼付して、そこから２条１単位の隆帯を垂下させて胴部を７単位に区画する。頸部の隆帯との交点には輪積み上の突起を付す。垂下する隆帯は左右に分かれ渦巻き文を描出し、これらをつなぐように剣先上に隆帯を貼付する。これらの後、口縁には沈線を斜位に施文し、胴部は沈線を縦位に施文した後、横位の沈線を施文する。剣先状文の中には沈線を斜位に施文する。	
2	深鉢	口縁～胴上半 口径19.1	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	口縁には瘤状の突起が５単位付く。隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、弧状の沈線を施文する。	
3	深鉢	底部　底径8.8	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を２条垂下させる。	
4	深鉢	口縁部１/２ 推定口径29.0	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐灰色。	口縁部に沈線で櫛形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を口縁付近は横位に、その下位は縦位に施文する。胴部は沈線と磨り消し文を施文する。	
5	深鉢	口縁～胴部１/３ 推定口径34.0 残存高27.6	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の低い隆帯で口縁部に円形、あるいは楕円形の文様帯を区画する。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を充填し隆帯に沿って磨り消す。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、縦位に磨り消し。内面は磨き。	
6	深鉢	口縁～胴上半 口径15.7 残存高12.6	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口唇部には棒状工具による刺突文が巡る。頸部に断面台形の隆帯を巡らした後、∩字形の隆帯と１条の隆帯を３単位垂下させる。その後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
7	浅鉢か	口縁～底部 推定口径13.5 器高8.6 底径11.5	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁は波状口縁、ないしは突起が付すものと思われる。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部に半截竹管状工具による平行沈線を施文する。	
8	深鉢	口縁部１/２ 口径37.9	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	無文の口縁部。口唇部は内折する。頸部に断面台形の隆帯を１条巡らす。	
9	深鉢	胴部１/４ 推定最大径42.0	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	２条１単位の隆帯を貼付して渦巻き文を描出し、その内部には放射状に沈線を施文する。その後、３条１単位の隆帯と２条１単位の隆帯を貼付し、浅い沈線を胴部には縦位に、頸部には横位に施文する。Ｘ字状の隆帯が剥落しているものと思われる。	
10	深鉢	ほぼ完 口径22.8 底径6.4 器高29.7	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	緩いキャリパー形の器形。口縁部には断面三角の隆帯で櫛形の文様帯を区画する。隆帯の端部は渦巻状。区画の内部は沈線で文様を描出する。胴部は圧痕を付した隆帯を１条垂下させるとともに、上部が蕨手状をなす蛇行する隆帯を垂下させる。その後、緩やかに彎曲する短沈線を斜位に施文する。	
11	浅鉢	口縁～底部１/５ 底径8.2	石英、黒雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	原体Ｒの細い撚糸文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文で文様を描出する。内面は丁寧な磨きを施す。	
12	深鉢	口縁～底部 推定口径23.2 底径5.8 器高27.7	石英をやや多く含み、金雲母を少量含む。普通。赤褐色。	口縁の橋状の突起は２単位と思われる。無文の口唇部に沿って円形の刺突文が連続する。そこから２条１単位の隆帯を垂下させた後、やや彎曲する短沈線を斜位に施文する。その後隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
13	深鉢	口縁～胴上半 口径39.0 残存高31.7	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	無文の口縁部の下位に隆帯を２条巡らせ、それをつなぐように組紐状の隆帯を貼付する。隆帯の間には篦状工具による沈線を横位の綾杉状に施文する。胴部は３条１単位の隆帯による腕骨文を貼付した後、半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
14	深鉢	口縁～底部	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は楕円形を呈する。大突起と小突起が２単位ずつ付き、口縁に沿って棒状工具による刻みと隆帯を施文する。大突起からは刺突文を施した隆帯と断面三角の隆帯を垂下させ、小突起からは刺突文を施した隆帯のみを垂下させる。口縁部には２条１単位の隆帯によって櫛形のモチーフを描出し、この区画内は無文にする。胴部は刺突文の施された隆帯を垂下させた後、棒状工具による短沈線を綾杉状に施文する。	
15	浅鉢	胴部片	白色軽石粒、φ２～５㎜の小礫を含む。良好。暗赤褐色。	浅鉢の屈曲部。上位は沈線で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。下位は無文。赤色塗彩の痕跡あり。	
16	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位あるいは縦位に施文した後、沈線で蕨手状の懸垂文を描出する。	
17	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面台形の幅広で低い隆帯で渦巻き文を施文し、その隆帯上に沈線を施文する。隆帯の間には原体ＲＬの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿って沈線で磨り消す。	
18	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	口縁は内側に折り返し。口縁上部に渦巻き文を作り、ここから２条の隆帯を垂下させる。	
19	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。やや不良。にぶい橙色。	無文の口縁の下位に沈線で区画をなすと思われる。区画内は浅い沈線を縦位に充填する。	
20	深鉢	口縁部片	金雲母、石英を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部はわずかに外反する。沈線を斜位に施文する。	
21	深鉢	口縁～胴部１/５ 推定口径17.0	砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯で口縁部に区画をなす。区画内は円形の刺突文を充填する。胴部は隆帯で∩字形の区画をなすとともに沈線で蕨手状文を描出する。区画内には口縁と同様、円形の刺突文を充填。	
22	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。やや不良。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に区画をなす。区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。	
23	深鉢	胴部片	石英をやや多く含む。普通。橙色。	２条の隆帯を垂下させるとともに渦巻き文を描出した後、斜沈線を施文する。	
24	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出した後、沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部１/２	砂粒をやや多く含む。やや不良。暗赤褐色。	断面三角の隆帯で口縁部に文様を区画し、区画内は木っ端による条痕文を充填する。	

20区34号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
26	石鏃	基部欠	20	13	3	0.6	黒曜石	
27	石鏃	完	14.5	12	3	0.3	黒曜石	
28	石鏃	先端部欠	18	15.5	4	0.7	黒曜石	
29	スクレイパー	完	78	104	35	348.4	細粒輝石安山岩	
30	石棒	基部欠か	282	162	130	7400		

20区35号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部～底部 底径12.0 残存高27.0	軽石粒、砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を施文した後、３条１単位の沈線を垂下させ、その間に緩く蛇行する沈線を垂下させる。	
2	深鉢	口縁～胴部 口径17.0	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。口唇部には背割り状の沈線を持つ隆帯を貼付する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯で櫛形の口縁部文様帯を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。隆帯が剥離している。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	波状口縁。断面三角の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には沈線を綾杉状に施文する。	
6	深鉢	底部片	石英を含む砂粒を多く含む。良好。明赤褐色。	２条１組の隆帯を垂下させた後、沈線を綾杉状に施文する。	
7	深鉢	底部片	黒雲母をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	無文で、丁寧な磨きを施す。	

20区36号住居石器計測表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴上半～底部 底径6.5	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	浅い沈線で渦巻き状の文様を施した後、３条の沈線を垂下させる。地文には浅い沈線による綾杉文。	
2	深鉢	胴部1/3	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	蛇行する隆帯、Ｓ字状の隆帯を貼付した後、彎曲する沈線を交互の斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	縦位の沈線を施文した後、沈線を巡らす。	
4	深鉢	胴部片	石英、金雲母を少量含む。良好。黒褐色。	浅い沈線を綾杉状に施文する。上位には剥離したと思われる隆帯の痕跡あり。	

20区36号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
5	凹石	完	129	90	50	767	粗粒輝石安山岩	

20区37号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴上半～底部 底径7.0 残存高20.4	白色鉱物粒を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	緩やかに彎曲する沈線を疎らな鱗状に施文した後、２条１単位の沈線を垂下させ、鋸歯状の沈線を施文する。	
2	深鉢	胴部1/4	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、刻みを付した嘴状の突起を持つ隆帯を弧状に貼付し、その隆帯に沿って半截竹管状工具による平行沈線を施文する。	
3	浅鉢	口縁～底部2/3 口径21.0　底径8.0 器高12.4	砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	無文の口唇部。胴部に原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、口唇部下位に沈線を１条巡らす。口唇部と沈線内に赤色塗彩の痕跡。	
4	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、沈線を綾杉状に施文し、蛇行する沈線、Ｕ字状の沈線を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施文する。	
5	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	２条１単位の隆帯で腕骨文を施文した後、沈線を綾杉状に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
6	深鉢	口縁突起	細砂粒をわずかに含む。良好。暗褐色。	円環状の口縁突起。橋状把手に背割り状に沈線を施し、内面から孔をあける。丁寧な磨きを施す。	
7	深鉢	胴部片	白色軽石粒を少量含む。良好。黒褐色。	刻みを付した断面台形の隆帯で三角形に文様を区画し、区画内には三叉文を施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	沈線を渦巻き状、弧状、斜状に施文する。	

20区37号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
9	磨斧	基部片	29	47	21	44.3	蛇紋岩	
10	打斧	完	124	47	23	182	粗粒輝石安山岩	
11	多孔石	完	220	255	116	8600	粗粒輝石安山岩	

20区38号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部1/5	赤色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は無文。頸部に断面台形の隆帯を１条巡らす。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を∩字状に施文する。	
2	深鉢	胴部～底部 底径７.４	石英を少量含む。良好。明赤褐色。	底部から直線的に開く。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１組の沈線を垂下させるとともに、蛇行する隆帯を貼付する。	
3	深鉢	口縁部1/3 推定口径27.0	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯で口縁部に楕円形の文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、区画に沿って沈線を施す。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部1/2	黒雲母をわずかに含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部には楕形の文様帯を区画し、胴部には∩字状の沈線と垂下する沈線を施す。	
5	両耳壺	胴部1/3	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	背割り状に沈線を施文した大きな橋状把手が付く。胴部には沈線による渦巻き状の文様を施す。	
6	深鉢	口縁部1/3 推定口径16.0	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、口縁部には沈線で楕円形の文様帯を区画し、胴部には∩字状の沈線と磨り消し文を垂下させる。口縁部文様帯の間には円形の圧痕文。	
7	深鉢	胴上半～底部 底径6.0	小礫をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で４単位の大きなＵ字状の区画をなし、その区画内をさらに４単位に区画する。区画内と区画間には棒状工具による斜沈線を充填する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
8	深鉢か	把手か	石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	粘土紐を貼り合わせたような橋状把手に円形の把手が付いているものと思われる。内面を除く面に平行沈線を施文する。	
9	台付鉢	台部片 推定底径10.5	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	器面が荒れるが、原体不明の縄文を施文しているものと思われる。端部は角頭状を呈し、透かし穴を持つ。	
10	鉢形土器	口縁部1/4	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	やや内彎する口縁は無文。断面半円の高い隆帯で円形及び長方形の文様帯を区画し、区画内には円形の刺突文を施す。胴部は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を、口縁部には横位に、胴部には縦位に施文した後、口縁部は沈線で楕円形の文様帯を区画する。胴部は沈線を∩字状に施文する。	
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	波状口縁の波頂部付近。隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には原体不明の縄文を施文する。	
13	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	隆帯と刺突文を巡らした後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
14	深鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	角頭状の口唇部から原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、一部に櫛歯状工具による条痕文を施文する。	
15	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文した後、幅広の沈線で文様を描出する。	
16	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を、口縁部には横位に、胴部には縦位に施文した後、口縁部は沈線で楕円形の文様帯を区画する。	
17	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を渦巻き状に貼付した後、原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	
18	浅鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	口縁は屈曲して外反する。断面台形の隆帯を弧状に貼付する。口唇部内面と隆帯上に赤色塗彩の痕跡あり。	
19	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	口唇部上には沈線が１条巡る。口縁部には隆帯で文様帯が区画され、区画内には斜沈線を施文した後、沈線で磨り消す。胴部も斜沈線を施文した後、沈線で文様を描出する。	
20	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面半円の隆帯を∩字状に貼付した後、沈線を縦位に施文し、隆帯に沿った沈線を施す。	
21	深鉢	胴部片	金雲母を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状の文様を描出した後、棒状工具による沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	浅い沈線で綾杉文を施した後、沈線を垂下させる。内面は剥離。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	隆帯を垂下させた後、緩やかに彎曲する沈線を施文する。	
24	深鉢	口縁突起	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	波状口縁の波頂部から隆帯をＳ字状に貼付した後、篦状工具による刺突文を施す。	
25	鉢形土器	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	鍔状の隆帯にφ３㎜程の孔を穿つ。内外面とも赤色塗彩の痕跡が有る。	

20区38号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
26	石鏃	完	19	13.5	3	0.4	黒曜石	
27	石鏃	完	14	12.5	3	0.4	黒曜石	
28	打斧	完	113	34	15	59.9	黒色安山岩	
29	多孔石	完	184	200	124	5665	粗粒輝石安山岩	
30	打斧	完	118	50	33	145.1	黒色頁岩	
31	磨斧	刃部欠	138	56	25	266	変質玄武岩	
32	磨斧	基部欠	93	64	22	204.7	デイサイト	
33	凹石	完	122	82	54	694.9	粗粒輝石安山岩	
34	凹石	完	133	73	37	437.6	粗粒輝石安山岩	
35	凹石	一部欠	114.1	63.2	33	355.7	粗粒輝石安山岩	
36	磨石	完	170	156	128	4820	石英閃緑岩	
37	石皿	一部欠	176	212	92	4910	粗粒輝石安山岩	

20区41号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部１/４ 推定口径34.0	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口縁部は原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、浅い沈線によって文様帯を区画する。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、∩字形及び蛇行する沈線と磨り消し文を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	橋状の把手が伸びると思われる。隆帯と沈線で渦巻き状の文様を描出し、原体ＬＲの単節斜縄文を施文する。	
3	深鉢	口縁から胴下半 口径17.5	石英を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	４単位の波状口縁で、正面と裏面の波頂部には円環状の突起が付す。それぞれの波頂部には、隆帯を貼付した後、背割り状に沈線を施してＪ字形のモチーフを描出する。そこから口縁にそって断面三角の隆帯を貼付する。胴部は磨きを施した後、櫛歯状工具による整形の痕跡。内面には炭化物が付着する。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を施文する。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤灰色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と蕨手状の沈線を施文する。その上位には横位の沈線と円形の刺突文を巡らす。	
7	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	隆帯を貼付して渦巻き状文を描出するとともに、楕円形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	彎曲する沈線と縦位の沈線で文様を描出する。	
9	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線と円形の刺突文を施文し、その間に彎曲する沈線を施文する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	２条の隆帯を垂下させた後、そこから延びる２条の沈線を施文し、縦位の沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明褐色。	３条の隆帯による腕骨文を垂下させる。	
12	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	横位の圧痕隆帯文の下位には彎曲する沈線を施文する。	
13	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	２条の隆帯による腕骨文を垂下させる。	
14	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	細い沈線を弧状に施文した後、強く蛇行する沈線と斜位の短沈線を施文する。	
15	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	２条の沈線を垂下させた後、やや彎曲する沈線を綾杉状に施文する。	

20区41号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
16	石鏃	先端部欠	22	16.5	4	1	凝灰岩	
17	凹石	一部欠	133	92	48	716.3	粗粒輝石安山岩	
18	石棒	基部・先端部欠	191.5	84	70.5	1812.1	緑色片岩	
19	多孔石	完	172.5	216	93.5	4401.7	石英閃緑岩	
20	多孔石	一部欠	402	242	185	13110	粗粒輝石安山岩	
21	多孔石	完	193	248	123	6390	粗粒輝石安山岩	

20区42号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部１/３ 推定口径30.6	黒雲母を少量含む。良好。暗赤褐色。	４単位の波状口縁か。幅広の沈線と断面台形の低い隆帯で口縁部文様帯を区画する。区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿って磨り消す。胴部は同じ原体を縦位に施文した後、磨り消し、沈線を垂下させる。磨り消しの間には蛇行する沈線を垂下させていると思われる。	
2	深鉢	口縁部１/３ 推定口径20.4	白色軽石粒をやや多く含む。普通。褐色。	円環状の突起と半円の区画が口縁部に交互に８単位配される。突起と突起は断面半円の隆帯で連続される。半円の区画内には棒状工具による沈線で横位の綾杉文が充填される。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、３条１単位の沈線と蛇行する沈線を交互に垂下させる。	
3	深鉢	胴部１/４	φ２～５㎜の小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。沈線の間は磨り消し。これが８単位施文されると思われる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
4	深鉢	口縁～胴上半１/３ 推定口径16.7	砂粒を少量含む。やや不良。にぶい橙色。	緩やかな４単位の波状口縁。断面半円の隆帯で半楕円形の口縁部文様帯を区画する。区画の端部は隆帯による渦巻き文。区画内は沈線を斜位に施文する。胴部は沈線で綾杉文を施文した後、２条１単位の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線を弧状に施文する。	
6	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。赤褐色。	棒状工具による沈線で綾杉文を施文する。２条１単位の隆帯でＵ字状の区画をなし、区画内には同様の隆帯による渦巻き文を施文し、ここから隆帯を垂下させる。	
7	鉢形土器	口縁部１/４ 推定口径33.5	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	無文の口縁はやや外反する。断面半円の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。胴部には櫛歯状工具による条痕文を施す。	
8	鉢形土器	口縁部１/４ 推定口径19.0	砂粒をやや多く含む。良好。灰黄褐色。	無文の口縁は直立気味に立ち上がる。胴部には浅い沈線で文様を描出する。通し穴は６単位か。	
9	鉢形土器	胴下半部１/３	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	沈線で渦巻き状の文様を描出し、そこに円形の刺突文を充填する。	
10	浅鉢	胴部２/３ 最大径39.8 残存高17.9	砂粒やや多く含む。良好。にぶい橙色。黒斑多い。	胴上半で屈曲する。胴上半には断面台形の隆帯で渦巻き文と楕円形の区画が成される。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り消す。胴下半は無文だが、ていねいな磨き。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。黒褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
12	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。灰褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、２条の沈線を垂下させる。	
13	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	口唇部が内側に肥厚する。原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、２条の沈線を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩字状の沈線を垂下させる。	
15	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の隆帯で文様を描出する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
16	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯で口縁部に文様を区画した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
17	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい黄褐色。	口縁部文様帯の中に原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
18	深鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。その後隆帯に沿って磨り消し。	
19	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
20	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
21	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
22	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。内面に炭化物付着。	
23	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線を１条巡らす。	
24	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と蛇行する沈線を施文する。	
25	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、櫛歯状工具による条痕文を施文し、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
26	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	低い隆帯を貼付して文様を描出した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
27	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。褐色。	隆帯で口縁部に櫛形の文様帯を区画し、区画内には縦位の短沈線を充填する。文様帯の下位は無文。	
28	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に１条の隆帯を巡らし、その下位に２条の隆帯による横位の腕骨文を施文する。その間には沈線を斜位に施文する。腕骨文の下位には原体不明の縄文を施文する。	
29	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
30	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を２条貼付して、口縁部に文様帯を区画する。区画内には縦位の沈線を充填する。隆帯の下位には櫛歯状工具による条痕文を施文する。	
31	深鉢	口縁部片	石英、金雲母をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	２条１単位の隆帯を巡らし、その下位には隆帯を貼付して剣先文に似たモチーフを描出する。巡らした隆帯と剣先文に沿って刺突文を施す。その後沈線で梯子状の文様を描出する。	
32	深鉢	口縁部片	白色軽石を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画し、区画内には沈線を縦位に施文する。	
33	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	波状口縁を呈するものと思われる。口唇部内側に断面三角の隆帯を貼付する。外面は隆帯を２条巡らし、その上位に刺突文を施文する。	
34	深鉢	口縁部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内折する。無文の口唇部の下位に隆帯を２条巡らし、それに沿って刺突文を施文する。	
35	深鉢	口縁部片	白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	やや彎曲する口縁。棒状工具による沈線を縦位、あるいは斜位に施文する。口唇部は内側に肥厚する。	
36	深鉢	口縁部片	白色軽石粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	やや彎曲する口縁。棒状工具による沈線を縦位、あるいは斜位に施文する。口唇部は内側に肥厚し、上端が平になる。	
37	深鉢	口縁部片 推定口径18.9	白色軽石粒をやや多く含む。良好。褐色。	口唇部は内折し屈曲する口縁。外面は棒状工具による沈線を縦位に施文する。	
38	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	口唇部の内外面に断面三角の隆帯を貼付する。その下位に沈線を横位に施文する。	
39	深鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部は内折する。口縁部に沈線で櫛形の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
40	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	口唇部に沈線を１条巡らせ、その下位に沈線を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文する。	
41	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内折する。２条の隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には沈線を横位の綾杉状に施文する。隆帯の下位には弧状の沈線を施文する。	
42	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	波状口縁を呈するか、突起が付すものと思われる。断面半円の隆帯を巡らした後、沈線および原体不明の縄文を施文する。	
43	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	隆帯による渦巻き文を貼付した後、口縁部に３条の沈線を巡らせ、篦状工具による綾杉状文を横位に施文する。	
44	深鉢	口縁部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。極暗赤褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。沈線文を斜位に施文した後、半隆起線で渦巻き状の文様を描出する。	
45	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。極暗赤褐色。	波状口縁の波頂部と思われる。断面三角の隆帯で渦巻き状文を描出し、そこから沈線を１条巡らす。	
46	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	２条１単位の隆帯で櫛形の文様帯を区画し、区画内には沈線を斜位に施文する。区画の下位には沈線による綾杉状文を施文する。	
47	浅鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は内側に稜を持ち、外面はごくわずかに肥厚する。内外面とも磨きを施す。	
48	深鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	無文の口縁部。やや内傾する。内外面とも丁寧な磨きを施す。	
49	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	波状口縁の波頂部。沈線で渦巻き状文を施文し、口縁部に文様帯を区画する。区画内には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。区画の下位は無文。	
50	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	隆帯で剣先文状の文様を描出した後、棒状工具による浅い沈線を施文する。	
51	深鉢	胴部片	黒雲母をわずかに含む細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	断面半円の隆帯を貼付して弧状の文様を描出した後、棒状工具による沈線を施文し、隆帯に沿って磨り消す。	
52	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して楕円形の文様を区画し、区画内には彎曲する沈線を施文する。区画する横位の沈線には棒状工具による刻みを付す。隆帯の下位は無文。	
53	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	横位の２条の沈線の下位に、篦状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
54	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	棒状工具による浅い沈線を綾杉状に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
55	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	隆帯を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
56	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
57	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	沈線を横位に施文した後、その間をつなぐように縦位の沈線を施文する。	
58	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	棒状工具による短沈線を斜位に施文し、その間に横位の沈線を巡らす。	
59	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。内面は黒色。	無文で丁寧な磨きを施す。外面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
60	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	浅い沈線が１条巡る。内外面とも丁寧な磨きを施す。	
61	鉢形土器	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	屈曲部には隆帯を貼付し、楕円形あるいは「の」字状の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を施文する。その後磨り消し。	
62	深鉢か	把手	白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	太い橋状の把手。背割り状にＳ字形の沈線が施される。	
63	深鉢	口縁突起	白色軽石粒をやや多く含む。普通。明褐色。	角状の突起。沈線と隆帯で渦巻き状の文様を描出する。中央にφ２㎝ほどの透かし穴を持つ。内面は口唇部に沿って隆帯を貼付する。	
64	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。明褐色。	隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線、三叉文を施文する。	焼町か
65	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	半隆起線で楕円形の文様を区画し、区画内には円形の刺突文を充填する。	焼町か
66	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	内外に肥厚する口唇部の下位には原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
67	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線と磨り消し文を施す。	
68	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を宕符貼付し、磨り消し文を施す。	
69	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の低い隆帯と磨り消し文を垂下させる。	
70	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯を宕符貼付し、磨り消し文を垂下させる。	
71	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行す隆帯と磨り消し文を施す。	
72	浅鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。黒色。	口唇部下位に段を持つ。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。口唇部上端は特に良好に残る。	彩色土器
73	浅鉢	胴部片	白色鉱物粒をわずかに含む。良好。黒褐色。	内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	彩色土器
74	浅鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面台形の隆帯を弧状に貼付する。隆帯の上面に赤色塗彩の痕跡があり、隆帯の間は黒色塗彩か。内面も赤色塗彩の痕跡が認められる。	彩色土器
75	深鉢か	把手	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	環状の突起。内外面とも赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	

20区42号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
76	石鏃	完	28	20	7	2.7	珪質変質岩	
77	石鏃	完	23	17	3	0.9	黒曜石	
78	石鏃	完	18.5	15	3.5	0.7	黒曜石	
79	石鏃	完	13	15	4	0.7	黒曜石	
80	石鏃	先端部欠	23	18	5	1.6	珪質頁岩	
81	石鏃	完	17	15	3	0.6	黒曜石	
82	石鏃	先端部欠	19	17	6	1.1	黒曜石	
83	石鏃	基部欠	20	14	3	0.7	黒曜石	
84	石鏃	完	18	12	3	0.4	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
85	石鏃	基部欠	18.5	14.5	4	0.4	流紋岩	
86	石鏃	基部欠	13	14.5	4.5	0.6	黒曜石	
87	石鏃	先端部欠	22	18	5	1.5	黒曜石	
88	石鏃	先端部欠	18	18	4	0.7	黒曜石	
89	石鏃	先端部欠	14	13	5	0.6	黒曜石	
90	石鏃	完	18	11	4	0.6	黒曜石	
91	ドリル	先端部欠	24	11	4	0.8	黒曜石	
92	石鏃	先端部欠	23	17	5	1.4	黒曜石	
93	打斧	完	111.5	54	21	138.6	細粒輝石安山岩	
94	打斧	完	107	50	17	104.9	細粒輝石安山岩	
95	打斧	基部欠	109.5	52.5	29.5	182.3	細粒輝石安山岩	
96	磨斧	ほぼ完	73	54	24	158.8	黒色安山岩	
97	磨斧	完か	80	41	22	160.5	輝緑岩	
98	磨斧	完	45	15	5	6.9	軟玉	
99	磨斧	基部・先端部欠	124	62.5	39.5	504.6	輝緑岩	
100	錘飾	完	53	35	22	67.8	ヒスイ	
101	石棒	先端部欠	180	105	109	3070	デイサイト	
102	磨石	完	45	42.5	32.5	68.1	粗粒輝石安山岩	
103	磨石	完	115	59	37	361.7	粗粒輝石安山岩	
104	石製品	完	102.5	71	65.5	94.1	軽石	
105	石製品	完	75	51	32	32.9	軽石	
106	凹石	完	117	84	44	566.9	粗粒輝石安山岩	
107	凹石	完	113	67	47	472	粗粒輝石安山岩	
108	多孔石	完	298	229	113	7900	粗粒輝石安山岩	
109	石皿	1/2	201	230	97	3296	粗粒輝石安山岩	
110	多孔石	完	292	296	80	10680	粗粒輝石安山岩	
111	磨石	完	201	175	61.5	3209.7	粗粒輝石安山岩	
112	磨石	完	178	209	51.5	2742.4	粗粒輝石安山岩	
113	打斧	基部欠	114	40	14	63.2	変質安山岩	

20区43号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半2/3 推定口径32.8 残存高22.9	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	渦巻状の突起が付く２条の隆帯で、口縁部に櫛形の文様帯を区画する。区画内には短沈線を羽状に施文する。頸部は無文で、胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で剣先文と渦巻き文を描出する。	
2	深鉢	口縁～胴上半1/3	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	３条１単位の隆帯を貼付して渦巻き文を描出する。隆帯によって区画された口縁部には沈線文と棒状工具による連続刺突文を施文する。胴部は箆状工具による沈線を横位の綾杉状に施文する。	
3	深鉢	口縁部1/4 推定口径37.0	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	隆帯を貼付して口縁部に長楕円形の文様帯を区画する。区画の端部には渦巻き文。区画内には棒状工具による沈線を横位の綾杉状に施文する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
4	深鉢	口縁～胴上半1/4 推定口径22.2	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯を貼付して、渦巻き文を含む文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部は原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する沈線と∩字形の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	底部、胴部一部欠 口径29.3 器高36.2 底径9.8	砂粒、小礫を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁は無文で外反し、口唇部は内側に肥厚する。頸部には２条の沈線を巡らし、突起を付す。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を垂下させる。	
6	台付鉢	接合部破片 推定接合部径7.0	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	台部は貼り付け。透かし穴を持つが単位は不明。蛇行する沈線の痕跡がわずかに認められる。	
7	深鉢	底部 推定底径6.5	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	底部欠 口径17.1 残存高18.4	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	円形の刺突を付した断面台形の隆帯を４単位、垂下させた後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、磨り消し。その後、箆状工具による沈線を２条１単位で４単位垂下させる。口縁にも箆状工具による沈線と円形の刺突文を巡らす。	
9	深鉢	口縁～胴下半	白色鉱物粒、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	垂下する隆帯と楕円形のモチーフを持つ２条１単位の隆帯を貼付した後、横位の沈線を施文し、その間をつなぐように縦位の沈線を施文する。	
10	浅鉢か	胴部1/4	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	内外面とも丁寧な磨きを施す。表面の１カ所に縄文の圧痕文。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
11	深鉢	口縁～胴部	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁に４単位の小突起が付す。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１単位の沈線と３条１単位の沈線を交互に垂下させる。	
12	浅鉢	胴下部1/3	石英、金雲母を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	内外面とも丁寧な磨きを施す。内面に赤色塗彩による文様の痕跡が認められる。	
13	深鉢	口縁～胴下半1/3	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。橋状把手と思われる接合部痕が認められる。	
14	浅鉢	口縁部1/3 推定口径37.4	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁は外折する。内外面とも丁寧な磨きが施され、外面に赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
15	釣手土器	釣手部	金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。明赤褐色。	側面には沈線で渦巻き文、楕円形のモチーフを描出する。背面には背割り状に紐通しを作り出し、６単位の紐通し孔が付くものと思われる。	
16	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を貼付した後、沈線で文様を描出し、隆帯には棒状工具による刻みを付す。	
17	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	同心円状の沈線、三叉文、円形の刺突文を施文する。	
18	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を弧状に貼付した後、沈線で文様を描出するとともに、隆帯に沿って刺突文を施文する。	
19	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。つまみだしたような小突起が口縁に付く。	
20	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。灰褐色。	断面半円の隆帯を垂下させた後、沈線で文様を描出する。	
21	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	隆帯を貼付して円環状の突起を作り出した後、ごく浅い沈線で文様を描出する。	
22	深鉢	胴部片	細砂粒をわずかに含む。良好。灰褐色。	頸部の隆帯から弧状に隆帯を貼付した後、渦巻き状の沈線を施文する。頸部の隆帯には交互刺突文を施文する。	
23	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を貼付して、∩字形の区画をなし、区画内には彎曲する浅い沈線を横位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
24	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	波状口縁を呈するものと思われる。口縁に沿って交互刺突文を施文する。	
25	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	深い平行沈線を横位に施文する。	
26	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	平行沈線を縦位、横位に施文した後、横位の平行沈線に沿って沈線を施文する。	
27	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、横位の平行沈線を施文し、撚糸文の上に斜位と縦位の沈線を施文する。	
28	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい褐色。	原体Ｌの撚糸文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
29	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、垂下する平行沈線と弧状の平行沈線を施文する。	
30	釣手土器か	把手	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	側面、外面とも隆帯を貼付して文様を描出する。	
31	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
32	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	隆帯を垂下させた後、原体ＲＬの単節斜縄文を乱雑に施文した後、細い沈線を垂下させる。	
33	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を乱雑に施文した後、太い隆帯に沈線を引いて３条の隆帯を描出する。縄文の上には沈線で文様を描出する。	
34	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	太い隆帯を貼付して、その上に沈線を施文することで２条の隆帯を描出する。その後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、沈線を２条垂下させる。	
35	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	刻みを付した隆帯を巡らした後、原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
36	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、隆帯を貼付して楕円形の区画をなす。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
37	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	隆帯を貼付して渦巻き文とともに文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。内外面とも赤色塗彩の痕跡が認められる。	
38	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の隆帯で区画をなし、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
39	深鉢	口縁部片	小礫を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	隆帯を貼付して文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
40	深鉢	口縁突起	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	背割り状の沈線をはじめ、沈線で文様を描出し、頂部にも沈線で渦巻き文を描出する。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
41	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯を貼付して櫛形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後隆帯に沿って沈線を施す。	
42	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。縄文の上には鋸歯状の沈線を施文する。	
43	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、鋸歯状の沈線を垂下させる。	
44	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	原体不明の縄文を乱雑に施文した後、３条１単位の沈線と大きく蛇行する沈線を垂下させる。	
45	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で蕨手状の文様を描出した後、蛇行する沈線を施文する。	
46	深鉢	胴部片	金雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	３条１単位の隆帯を貼付して腕骨文を垂下させる。頸部には隆帯が２条巡る。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を垂下させる。	
47	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部上面に沈線が１条巡る。胴部には沈線を弧状に施文する。	
48	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	浅い沈線を巡らせ、その下位に∩字形の沈線を施文する。	
49	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐色。	平行沈線を斜位に施文する。	
50	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は内折する。隆帯を縦位に貼付した後、横位の隆帯を貼付する。	
51	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	50と同様。同一個体の可能性が高い。	
52	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	隆帯を貼付して籠目文を描出する。	
53	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して籠目文を描出するとともに、渦巻き状の突起をなす。籠目文の上下には半截竹管状工具による刺突文を巡らす。	
54	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して籠目文を描出するとともに、楕円形の区画をなし、区画内には半截竹管状工具による刺突文を施文する。その下位には縦位の沈線を施文する。	
55	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	頸部には隆帯を斜位に貼付する。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、蛇行する隆帯を貼付するとともに沈線で文様を描出する。	
56	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	渦巻き状の隆帯から２条の隆帯を垂下させた後、箆状工具による沈線を垂下させる。	
57	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	２条の隆帯を垂下させた後、箆状工具による沈線を垂下させる。56と同一個体と思われる。	
58	浅鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に隆帯を１条巡らせ、その上位に棒状工具による刺突文を巡らす。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
59	浅鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁は内折する。外面は丁寧な磨きを施す。	
60	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	棒状工具による沈線を斜位に施文した後、口縁に沿って浅い沈線を１条巡らす。	
61	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	隆帯を貼付して楕形の区画をなし、区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文する。胴部も斜沈線を施文した後、隆帯に沿って沈線を施す。	
62	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	隆帯を貼付して腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
63	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	沈線でＵ字形の区画をなし、区画の内外には縦位の沈線を施文する。	
64	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁の内外面に隆帯を貼付する。その下位には交互刺突文とキャタピラ文を縦位に施文する。	
65	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	隆帯を１条巡らした後、棒状工具による沈線を鋸歯状に施文し、その後、沈線を１条巡らす。	
66	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	２条の隆帯による腕骨文を垂下させた後、箆状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
67	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	２条の隆帯による腕骨文を垂下させた後、棒状工具による沈線を綾杉状に施文する。	
68	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。橙色。	断面台形の低い隆帯を頸部に巡らせ、その下位には沈線を垂下させる。沈線の間に交互に刻みを付す。隆帯の上位も斜位の沈線の間に刻みを付す。	
69	有孔鍔付土器	口縁部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁はやや外湾する。φ５㎜の孔がやや下方に向けて空けられる。	
70	鉢形土器	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部下位に隆帯と沈線を巡らす。その下位には原体ＲＬの単節斜縄文を施文する。沈線の内部と口唇部内面に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
71	有孔鍔付土器	鍔部破片	白色鉱物粒を含む細砂粒を少量含む。普通。橙色。	鍔は薄く、端部は角頭状を呈する。鍔の上位は無文。下位は原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。鍔部と孔内部に赤色塗彩の痕跡が認められる。	
72	有孔鍔付土器	鍔部～胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で文様を区画する。鍔部と胴部の一部に赤色塗彩の痕跡が認められる。孔の径は約３㎜。	
73	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。橙色。	口唇部は角頭状を呈する。断面台形の隆帯で文様を描出する。	
74	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	屈曲部の上位には沈線で文様を描出する。沈線内に赤色塗彩の痕跡がわずかに認められる。	
75	浅鉢	口縁部片	細砂粒をわずかに含む。良好。灰褐色。	口唇部は外側に肥厚する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
76	浅鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。橙色に黒斑。	口縁は外反し、角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
77	浅鉢	口縁部 1/2	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	口縁は角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	

20区43号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
78	石鏃	完	17	10	3	0.3	黒曜石	
79	石鏃	ほぼ完	22.5	14	5	1	黒曜石	
80	石鏃	完	30.5	19	7	2.1	玉髄	
81	打斧	基部欠	116	57	18	119.5	粗粒輝石安山岩	
82	スクレイパー	完	84	69	20	111.8	細粒輝石安山岩	
83	凹石	完	79	71	47	280.6	粗粒輝石安山岩	
84	石製品	完	91.5	80	59	142.4	軽石	
85	石皿	1/3	184	281	80	4604.7	粗粒輝石安山岩	

20区44号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	台付鉢	接合部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	外面に縦方向の撫で。体部の底部が極めて薄い。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒を僅かに含む。普通。にぶい黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	φ２～５㎜の小礫を含む。普通。灰黄褐色。	波状口縁と思われる。原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文し、口唇部に沿って円形の刺突文を施す。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒を僅かに含む。良好。にぶい黄橙色。	口縁は内彎する。原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文し、口縁に沿った沈線と胴部の沈線で磨り消す。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	やや内彎する口縁。口唇部下には崩れた交互刺突文を巡らす。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文後、沈線を施文する。	
6	深鉢	口縁部片	黒雲母、石英を少量含む。良好。灰オリーブ色。	波状口縁と思われる。口縁と胴部を断面三角の隆帯で区画し、胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、沈線と磨り消しで∩字文を描出する。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で∩字状の文様を描出する。	
8	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。やや不良。にぶい黄色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で三角の文様を描出。	
9	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で弧状の文様を描出。	
10	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で縦位の区画。	
11	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線で弧状の文様を描出。	
12	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、断面三角の隆帯を２条垂下。隆帯に沿って磨り消し。	
13	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	外面はていねいな磨き。断面三角のごく低い隆帯を垂下。隆帯の右側に赤色塗彩の痕跡あり。	
14	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。断面三角の低い隆帯を垂下。	
15	深鉢	胴部片	赤色軽石粒を含む。普通。黄褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、断面三角の隆帯を２条垂下。隆帯に沿って磨り消し。	
16	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。やや不良。にぶい黄橙色。	断面三角の低い隆帯を２条垂下。	
17	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。やや不良。灰色。	原体不明の単節斜縄文を施文した後、磨り消し。細い沈線で縦位の区画。	
18	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	原体ＬＲ－ＬＬの反撚の縄文を縦位に施文する。	
19	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＬＲ－ＬＬの反撚の縄文を縦位に施文する。18と同一個体か。	
20	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。黄褐色。	無文の口縁。口唇部上面に爪形の刺突文を施す。外面は縦方向の撫で。内面は横方向の撫で。	
21	浅鉢	口縁部片	石英をわずかに含む。普通。明黄褐色。	無文の口縁。口唇部は内側に丸く肥厚する。	
22	浅鉢か	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は角頭状を呈する。内外面とも磨き。口縁部下位に沈線が１条巡る。	
23	鉢形土器	胴部片	砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	断面三角の隆帯を１条巡らし、断面台形の隆帯で弧状の文様を描出する。	
24	浅鉢	胴部片	石英を僅かに含み、砂粒をやや多く含む。良好。明褐色。	断面半円の隆帯で文様を区画していると思われる。区画内には細い沈線を充填し、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	
25	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。明黄褐色。	棒状工具による沈線で綾杉文を描出する。	
26	有孔鍔付土器	鍔部破片	黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	孔の直径は約４㎜。内外面ともていねいな磨き。	
27	浅鉢	口縁部片	白色軽石粒を少量含む。普通。橙色。	無文の口縁。口唇部には沈線が１条巡り、その下位には緩やかな稜を持つ。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
28	深鉢	胴部片	φ２～５㎜の小礫を含む。普通。にぶい橙色。	上位に円形の刺突文が縦に並ぶ。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で弧状の文様を描出する。	
29	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、磨り消し。沈線でＵ字あるいは∩字状の文様を描出する。	
30	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。暗オリーブ色	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、磨り消し。沈線で文様を描出する。29と同一個体か。	
31	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	沈線を垂下、あるいは弧状の文様を描出する。	
32	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰オリーブ色。	圧痕を持つ隆帯で文様を描出する。	

20区44号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
33	ドリル	完	35	16	5	2.7	細粒輝石安山岩	
34	打斧	完	110	45	15	79.6	珪質頁岩	
35	打斧	完	109	60	27	177.1	細粒輝石安山岩	
36	スクレイパー	完	124	83	34	435.5	細粒輝石安山岩	
37	凹石	完	77	53	29	173.2	変質安山岩	

20区48号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。普通。灰黄色。	口唇部はやや丸みを持ち、内側に肥厚する。断面台形の幅広の隆帯で楕円形と思われる口縁部文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に充填する。その後、隆帯に沿った浅い沈線で磨り消す。	
2	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文、沈線を垂下させる。一部の沈線の端部は蕨手状になる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒を含み、φ２～５㎜の小礫を含む。普通。褐色。	低い隆帯で口縁部文様帯を区画するものと思われる。区画内は原体ＬＲの太い単節斜縄文を充填し、隆帯に沿って磨り消す。区画間の隆帯上には円形の押圧文と縄文を施す。胴部は原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文後、沈線を垂下。沈線端部は蕨手状。	
4	深鉢	口縁部突起	砂粒をわずかに含む。良好。灰オリーブ色。	口縁に付く円環状の突起。突起上面には沈線文とφ13㎜、深さ21㎜の孔を施す。突起頸部には沈線を１条巡らす。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、山形の沈線で磨り消し。上段には沈線に沿って刺突文を施す。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい橙色。	幅広の隆帯で文様を区画する。区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を斜位に施文した後、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒、小礫を少量含む。普通。明黄褐色。	幅広の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内は原体ＲＬの単節斜縄文を充填する。その後、隆帯に沿って磨り消し。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文後、磨り消し。	
7	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	棒状工具による短沈線で、綾杉文を描出する。	
8	台付鉢	接合部	砂粒を少量含む。普通。橙色。	４単位の透かし穴を持つと思われる。台部には∩字状の文様を垂下。	
9	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	木っ端と思われる工具による細い条線文を地文とする。	

20区48号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
10	石鏃	基部欠	26	18.5	3.5	1	黒曜石	
11	石製品	完	64	48	34	18.8	軽石	

20区49号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。灰黄褐色。	波状口縁を呈する。断面三角の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に原体ＬＲの単節斜縄文を充填する。その後、隆帯に沿って磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。褐色。	波状口縁を呈する。口唇部は内側に大きく肥厚する。低い隆帯を背割り状にして文様を描出する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下させる。地文の上には蛇行する沈線を垂下させる。	
4	深鉢	口縁部片	石英、雲母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で文様を描出し、隆帯の一部に沿って刺突文を施す。隆帯の間には隆帯に沿った沈線と波状の沈線で文様を描出する。	
5	深鉢	口縁部突起	砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	隆帯で渦巻き状の突起をなす。刻みを付した隆帯を垂下させ、沈線で横位の蕨手状の文様を描出する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の隆帯で文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線文を充填する。その後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
7	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	浅い沈線で、綾杉文を施す。	

20区49号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
8	ドリル	完	19.5	9.5	4	0.6	黒曜石	
9	凹石	完	242	128	120	5400	粗粒輝石安山岩	

20区50号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、沈線で磨り消し。	
2	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	幅の広い隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内に原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、隆帯に沿った沈線で磨り消し。隆帯の交点に直径15㎜の円形文。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む精製された胎土。良好。にぶい黄褐色。	波状口縁を呈すると思われる。原体ＬＲの単節斜縄文を方向を変えて施文した後、沈線で渦巻き状の文様を描出する。口唇部に赤色塗彩の痕跡。	
4	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で磨り消し。蕨手状の沈線を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、つまみ出した断面三角の隆帯に沿って磨り消し文を垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。やや不良。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下、それに沿って沈線を２条垂下させる。	
8	深鉢	胴部片	黒雲母をわずかに含む。良好。黒褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、入念な磨り消し。沈線を磨り消し部に沿って施文する。	
9	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。褐灰色。	波状口縁を呈すると思われる。幅広の隆帯と沈線で口縁部文様帯を区画するものと思われる。	
10	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	断面半円の隆帯で口縁部文様帯を区画し、区画内には斜沈線を充填する。隆帯に沿って磨り消し。	
11	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の低い隆帯をつまみ出した後、丁寧な磨り消し。	
12	深鉢	胴部片	石英をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	低い隆帯で上下に区画され、上段には沈線文を垂下させ、下段には縦位と横位の沈線文を施す。	
13	深鉢	口縁部把手	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい褐色。	波状口縁頂部に付く橋状の把手。背割り状に幅広の沈線が蛇行する。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し文を垂下させる。	
14	深鉢	口縁部把手	φ３～４㎜の砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部に付く２段の橋状把手。	

20区50号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
15	ドリル	完	22.5	15.5	4.5	0.9	チャート	
16	石匙	完	15	23	7.5	1.7	玉髄	
17	凹石	一部欠	123	85	52	737.4	変質安山岩	

20区51号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部1/3 推定口径19.7 残存高10.4	砂粒と少量の石英を含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部は刻みを持つ。無文の口縁部の下位に隆帯で楕円形の文様を区画し、区画内には半隆起線の連続文。地文は沈線を垂下させる。	
2	深鉢	胴部1/4 推定径13.2	雲母、石英を少量含む。普通。赤褐色。	地文には原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。半截竹管状工具による平行沈線で方形の文様を描出する。	内面に炭化物付着。
3	台付鉢	台部1/2 推定径15.0	砂粒をわずかに含む。良好。黄褐色。	端部は屈曲して開き、角頭状を呈する。内面には強い稜を持つ。屈曲部には刺突文と平行沈線を巡らす。また、平行沈線で三角形、あるいは方形の区画をなし、区画に沿って刺突文を施す。区画内には三叉文。	
4	深鉢	口縁部片	雲母、石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口縁はやや内彎し、口唇部内側に断面三角の隆帯を貼付する。外面は半隆起線による平行、及び同心円状の文様を描出する。同心円内には刺突文。	
5	深鉢	胴部片	軽石粒を少量含む。良好。灰オリーブ色。	幅広の低い隆帯で区画をなし、区画内には沈線を垂下、あるいは渦巻き状の文様を描出する。隆帯の一部には刺突文を施す。	
6	深鉢	胴部片	石英を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で楕円形の文様を区画した後、半隆起線で文様を描出する。半隆起線上に刺突文を施し、その間には三叉文を入れる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
7	深鉢	口縁～胴下半 口径46.4 推定底径15.0 器高76.3（突起を除く）	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	平口縁で蛇状突起を持つ。口縁部は環状突起を持つ隆帯で横位に区画される。区画内は無文。環状突起の間には捻り紐状の突起が付く。胴部は３段に区画される。上位は横位の隆帯と刻みの付く垂下する隆帯で方形に区画され、区画内は半隆起線による渦巻き文と垂下する沈線を充填する。中段は区画内に垂下する沈線と蛇行する沈線を充填する。下段は無文。上段と中段の間に捻り紐状の突起が付く。	
8	深鉢	口縁部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	外反する口縁部は無文。口唇部は内側にやや肥厚する。頸部には沈線を巡らし、胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
9	浅鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。良好。黄灰色。	浅鉢の屈曲部。胴部には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。屈曲部には半截竹管状工具による刺突文を施し、その上位には沈線文が施される。	
10	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	角頭状の口縁で、内側にわずかに肥厚する。口唇部直下に交互刺突文と沈線を交互に巡らす。胴部には原体不明の縄文を施文する。	
11	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	篦状工具による刻みの付いた隆帯を垂下し、一部は環状をなす。隆帯の間は半隆起線による文様を充填する。	
12	深鉢	胴部片	石英をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には棒状工具による沈線で文様を描出する。	
13	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい橙色。	浅い沈線で渦巻き状の文様を施す。	
14	深鉢	口縁部突起	金雲母をやや多く含む。良好。明褐色。	口縁に付く環状の突起と思われる。環状の部分の一部には短沈線を施文する。周りには深い沈線文を施す。	
15	浅鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	角頭状の口縁で内側に肥厚する。口唇部外面には低い隆帯を巡らし、この隆帯の一部が環状にさがる。内外面ともよく磨かれ、両面とも赤色塗彩が施される。	
16	浅鉢	口縁～底部１/３ 推定口径40.8 推定高21.2	砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	胴上位で屈曲し、内湾した後口縁は外反する。口唇部は角頭状を呈する。内外面とも無文で、丁寧な磨きが施され、内外面とも赤色塗彩の痕跡が残る。	

20区51号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
17	石鏃	完	14.5	12.5	4	0.4	玉髄	
18	ドリル	完	30	11.5	7	1.9	黒曜石	
19	スクレイパー	完	81	81	23	163	細粒輝石安山岩	
20	石皿	1/3	217	225	68	2600	粗粒輝石安山岩	裏面凹み穴

20区53号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半　口径26.4	砂粒をやや多く含む。良好。暗褐色。	無文の口唇部の下位に断面三角の隆帯で横Ｓ字状文を連続する。地文は原体１の無節斜縄文を縦位に施文する。沈線と磨り消し文を垂下。	
2	深鉢	口縁～胴上半１/３	白色軽石粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に隆帯で楕円形の文様帯を区画し、区画内には棒状工具による刺突文を充填する。口唇部から隆帯をＳ字状に貼付し、その後、沈線による綾杉文を施文する。	
3	深鉢	口縁～胴上半１/３	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口縁部に隆帯を２条巡らし、その間を楕円形に区画する。区画内には沈線を斜位に施文した後、横位に２条の沈線を施す。平行する隆帯をつなぐように組紐状の突起を貼付する。口縁部からＳ字状に隆帯を貼付し、そこから隆帯を１条垂下させる。また蛇行する隆帯も貼付させ、隆帯施文後に沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部１/３	白色軽石粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	断面半円の隆帯を横位の腕骨文状に貼付し、櫛形の文様を区画する。区画内、および隆帯の間には刺突文と縦位の沈線を施文する。	
5	深鉢	口縁～胴下半	石英、金雲母を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は内外に折り返す。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、２条１組の沈線を垂下させる。	
6	深鉢	口縁～胴部１/５ 推定口径12.0	細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は内側にわずかに肥厚する。撚りが緩く短い原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
7	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線を施文する。	
8	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯を弧状に貼付し、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。隆帯と縄文の新旧は不明。	
9	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母をわずかに含む。良好。明黄褐色。	断面半円の隆帯を貼付し、櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文し、その後口唇部に沿った沈線を施す。	
10	深鉢	口縁部片	白色鉱物粒を含む砂粒を少量含む。良好。暗褐色。	口唇部は内接する。口唇部から断面半円の隆帯を貼付し、櫛形の文様帯を区画する。区画内には棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
11	深鉢	口縁部片	砂粒を多く含む。普通。褐色。	波状口縁と思われる。口唇部下位に沈線を１条巡らし、その下位に沈線で渦巻き状の文様を描出する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
12	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	強く屈曲し外反する口縁。屈曲部から半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。	
13	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	波状口縁か。無文の口縁部の下位に沈線を斜位に施文し、口縁部に沿って沈線を施す。	
14	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	高い隆帯を渦巻き状に貼付し、交互刺突文を横位に巡らすとともに、沈線を縦位、横位に施文する。	
15	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。普通。暗褐色。	口唇部外面に隆帯を貼付して肥厚させる。無文で磨きの痕跡が残る。	
16	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯で渦巻き状の文様を描出するとともに、隆帯を垂下させる。その後、浅い沈線を綾杉状に施文する。	
17	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	沈線による腕骨文を垂下させた後、沈線による綾杉文を施文する。	
18	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。褐色。	隆帯を２条貼付した後、棒状工具による沈線を斜位に施文し、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
19	浅鉢か	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯で文様帯を区画し、区画内には棒状工具による沈線を充填する。その後、隆帯に沿って沈線を施す。	
20	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯による剣先文を貼付する。その後、横位の沈線を２条巡らし、縦位に沈線を施文する。	
21	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	台付鉢の接合部か。垂下する沈線と斜位の沈線を施文する。	
22	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、沈線と刺突文を弧状に施文する。その後、沈線を斜位に施文し、隆帯に沿った沈線を施す。	
23	深鉢	胴部片	石英をわずかに含む。良好。暗赤褐色。	文様の構成は２２に近似するが、刺突文が小さく、胎土が異なる。	
24	深鉢	頸部片か	白色軽石粒を少量含む。良好。暗褐色。	沈線を同心円状に施文し、屈曲部には棒状工具による刺突文を巡らす。	
25	深鉢	胴部片	金雲母をやや多く含む。良好。黒褐色。	断面三角の隆帯を∧字状に貼付し、それに沿って円形の刺突文を施文する。	
26	深鉢	胴部片	砂粒をわずかに含む。良好。明赤褐色。	断面半円の隆帯で山形の区画をなし、区画内を垂下する隆帯でさらに区画する。区画内には棒状工具による沈線で綾杉文を施文する。	
27	深鉢	胴部片	金雲母、石英をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	隆帯で文様を区画し、区画内に交互刺突文を施す。外面に炭化物が付着する。	

20区53号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
28	スクレイパー	完	17	18	8	2.2	黒曜石	
29	打斧	完	98	40	20	63.3	黒色頁岩	
30	打斧	完	106	46	21	119.1	細粒輝石安山岩	
31	打斧	基部欠	97	45	23	123.7	細粒輝石安山岩	
32	磨石	完	286	253	141	14200	粗粒輝石安山岩	
33	凹石	完	114	74	42	573.9	粗粒輝石安山岩	

20区54号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、棒状工具による沈線で磨り消し。	
2	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、磨り消し。沈線を２条垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。灰オリーブ色。	やや内彎する口縁。幅広の隆帯で口縁部文様帯を区画すると思われる。	
4	台付鉢	台部破片	砂粒を少量含む。普通。にぶい黄色。	内外面とも赤色塗彩。	

20区54号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
5	磨石	完	168	265	73	5000	石英閃緑岩	

20区55号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
2	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯で文様を描出した後、棒状工具による斜沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。橙色。	棒状工具による浅い沈線を垂下させ、綾杉文を施す。	
4	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。普通。淡黄色。	棒状工具による浅い沈線を垂下させ、綾杉文を施す。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。不良。淡黄色。	断面半円の隆帯を１条巡らし、「の」字状の文様を描出する。隆帯の下位に沿って刺突文を施し、上位には沈線文を施す。	
6	深鉢	底部片	砂粒を少量含む。普通。浅黄色。	器面が荒れるが、低い隆帯が垂下する。底面は網代痕か。	

20区55号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(ｇ)				石材	備　考
7	打斧	基部欠	119	49	19	112.6	変質安山岩	

20区56号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	頸部～胴下半 底径7.8	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を２条巡らす。	
2	深鉢	口縁部 1/3 推定口径25.4	砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁部は内彎し、口唇部は内側に肥厚する。断面半円の隆帯で口縁部に文様帯を区画する。内部には渦巻き状の突起を付すとともに、隆帯で弧状、あるいは十字の文様を描出する。一部に撚糸文を施文。	
3	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
4	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を２条巡らす。	
5	深鉢	胴下半部 底径8.8 最大径17.2	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	組紐状の突起を貼付するとともに、横Ｓ字状の隆帯、刻みを付したＵ字状の隆帯を貼付した後、原体Ｌの撚糸文を縦位に施文する。	
6	深鉢	口縁～胴下半 推定口径28.0 残存高34.9	石英を少量含む。良好。赤褐色。	４単位の波状口縁を呈する。原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、隆帯で口縁部の文様帯及び頸部に文様を描出する。	
7	深鉢	口縁～胴上半 推定口径36.8 残存高32.8	軽石粒、黒雲母を少量含む。普通。暗褐色。	４単位と思われる小さい波状口縁を呈する。波頂部の下に逆Ｔ字形に刺突文が施される。口縁部は原体Ｒの撚糸文を横位あるいは斜位に施文した後、隆帯を貼付して文様を描出する。胴部は原体Ｒの撚糸文を縦位に施文する。	
8	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を弧状に施文した後、沈線と磨り消し文を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線で方形の区画をなし、区画内にも平行沈線を垂下させる。	
10	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい褐色。	断面半円の隆帯を渦巻き状に貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を施文し、隆帯に沿って沈線を施文する。	
11	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＬＲＬの複節斜縄文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付し、それに沿って沈線、刻みを付した隆帯を施文する。	
12	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	原体Ｒの撚糸文を横位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付して文様を描出する。	
13	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	原体Ｒの撚糸文を斜位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付して文様を描出する。12と同一個体と思われる。	
14	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面台形の隆帯を貼付し、隆帯上に篦状工具による刻みを付す。	
15	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、２条の隆帯を長楕円に貼付する。隆帯の間には押し引き文を施文する。	
16	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	原体Ｒの撚糸文を縦位に施文した後、断面半円の隆帯を貼付して文様を描出する。	
17	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	断面半円の隆帯を２条巡らした後、棒状工具による沈線を縦位に施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
18	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	断面三角の隆帯を「ハ」字状に貼付した後、半截竹管状工具による平行沈線を施文する。	
19	深鉢	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口縁部に沈線を１条巡らし、その下位に沈線で文様を描出する。	
20	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄褐色。	外反する口縁で、内面に屈曲の稜を持つ。半截竹管状工具による平行沈線を巡らした後、棒状工具による沈線でU字状の文様を描出する。	
21	浅鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	口唇部は外折する。その下位から原体Rの撚糸文を縦位に施文する。	
22	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	口縁部に半截竹管状工具による平行沈線を巡らす。屈曲部の頂部に隆帯を１条貼付し、その下位には沈線による文様を描出する。	
23	深鉢	口縁部片	石英、金雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	円環状の突起から２条の隆帯が弧状に貼付され、櫛形の文様帯を区画する。区画の内外には棒状工具による沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って端部が蕨手状の沈線を施す。	
24	浅鉢	口縁部片	金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	無文の口縁部に断面台形の隆帯が巡る。	
25	浅鉢	口縁部片	石英、黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	外反する無文の口縁部。内外面とも磨き。	
26	浅鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は内折する。外面の突起が剥落しているものと思われる。内外面とも磨き。	
27	深鉢	口縁部片	細砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	内側に屈曲する深鉢の口縁部と思われる。突起か波状口縁の痕跡が看取できる。細い沈線が垂下している他は無文で、外面は磨きが施される。	
28	深鉢か	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	口唇部は内側に稜を持ち、外側にわずかに肥厚する。外面は磨き。	
29	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。	
30	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	櫛歯状工具による沈線を縦位に施文した後、半截竹管状工具による平行沈線を横位に施文する。２９と同一個体と思われる。	
31	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	棒状工具による沈線を縦位に施文した後、沈線を横位に施文する。	
32	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	キャタピラ文を施文した後、沈線を施文する。	
33	深鉢	胴部片	石英をやや多く含む。良好。赤褐色。	沈線で方形の区画をなし、区画内には沈線で三叉文状の文様を描出する。	
34	深鉢	胴部片	石英と黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄褐色。	沈線を横位に巡らした後、縦位に施文し、それぞれの沈線の間に棒状工具による刻みを付す。	
35	深鉢	胴部片	白色軽石粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	沈線を縦位に施文するとともに、楕円形のモチーフを描出し、沈線の間は刻みを付す。	
36	浅鉢	口縁部片	細かい金雲母を少量含む。非常に良好。にぶい黄橙色。	口唇部は角頭状を呈する。内外面とも丁寧な磨きを施し、赤色塗彩の痕跡が残る。特に外面には渦巻き状の塗彩の痕跡が認められる。	
37	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	横位の隆帯から放射状に隆帯を貼付し、その下位に隆帯で円形の区画をなす。区画内には円形の刺突文を施文する。	
38	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	平行沈線で楕円形の区画をなし、区画内には半截竹管状工具による交互刺突文で蛇行するモチーフを表現する。区画の外側にはキャタピラ文を施文する。	
39	深鉢	胴部片	黒雲母と石英をわずかに含む。良好。にぶい赤褐色。	平行沈線を横位に巡らし、乱雑な交互刺突文を施文する。	
40	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が認められる。	
41	深鉢	頸部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	頸部に巡らす隆帯とそれに垂下する隆帯を貼付する。隆帯の下位には細沈線を斜位に施文する。	
42	浅鉢	胴部片	黒雲母をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	隆帯で同心円状の文様を描出する。この隆帯の間には赤色塗彩の痕跡が残る。無文の部分及び内面は磨きを施す。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
43	浅鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。赤褐色。	断面台形の幅広の隆帯を貼付し、その上に沈線と交互刺突文を施文する。口唇部は内外にわずかに肥厚する。口唇部外面と隆帯上に赤色塗彩の痕跡が認められる。	

20区56号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
44	石鏃	完	21.5	13	4.5	0.7	黒曜石	
45	スクレイパー	完	103	50	14	75	珪質頁岩	
46	磨石	完	86	78	34	295.4	粗粒輝石安山岩	
47	石棒か	一部欠	403	133	110	10210	細粒輝石安山岩	磨り面を持つ

20区57号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴下半	白色鉱物粒を含む砂粒をやや多く含む。普通。暗赤褐色。	口縁にはやや波状を呈する隆帯を１条貼付し、そこからＳ字状及び蛇行する隆帯を垂下させ、それらをつなぐＵ字状の隆帯を貼付する。その後、やや彎曲する沈線を鱗状に施文する。口縁の隆帯に沿って棒状工具による刺突文を施文する。	
2	深鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。褐色。	隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。隆帯は剥落。	
3	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	外反する無文の口縁部。頸部に断面台形の隆帯を貼付する。	
4	深鉢	口縁部 1/4 推定口径32.5	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。明褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、∩字状の沈線と磨り消し文を施文する。口縁部に沈線を１条巡らす。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	断面三角の隆帯を弧状に貼付し、沈線を綾杉状に施文する。内面は磨き。	
6	深鉢	胴部片	石英を少量含む。良好。暗赤褐色。	棒状工具による沈線を斜位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	断面台形の隆帯を垂下させた後、沈線を綾杉状に施文する。	
8	浅鉢	口縁～底部 口径21.2 底径7.0 器高10.5	軽石粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	口唇部は外折し、内側にはわずかに肥厚する。胴部は無文。器面がやや荒れるが、磨きを施していたものと思われる。	

20区58号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明黄橙色。	断面半円の隆帯を２条貼付し、その間には篦状工具による沈線を充填する。その後、彎曲する沈線を斜位に施文する。	

20区58号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(g)	石材	備　考
3	石皿	1/4	194	250	85	2800	粗粒輝石安山岩	裏面に凹穴

20区60号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部 1/4	金雲母、石英を含む。普通。橙色。	隆帯２条と隆帯３条の腕骨文を交互に垂下させた後、棒状工具による綾杉文を施文する。	
2	深鉢	胴部1/4	砂粒を含む。普通。橙色。	２条の隆帯による腕骨文と浅い沈線を２条垂下させた後、綾杉文を施文する。その後、２条の隆帯を横位に貼付する。	
3	浅鉢か	口縁部片	砂粒を少量含む。良好。明赤褐色。	内彎する口縁。断面三角の隆帯で文様を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文し、その後、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
4	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。普通。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線で文様を描出する。	
5	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	内彎する口縁。口唇部直下に沈線を１条巡らし、これと隆帯によって口縁部文様帯を区画する。区画内には刺突文。	
6	深鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。良好。にぶい褐色。	口唇部上面に沈線を１条巡らす。隆帯で楕円形の口縁部文様帯を区画し、区画内には短沈線を充填する。その後、隆帯に沿った沈線で磨り消す。	
7	浅鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む。精製された胎土。良好。橙色。	丸くふくらむ胴部から屈曲して口縁は外反する。屈曲部外面には１条の沈線が巡り、内面には強い稜を持つ。内外面とも赤色、黒色の塗彩がなされ、文様が描出されていたと思われる。	
8	深鉢	頸部片	黒雲母をわずかに含む。良好。明赤褐色。	半截竹管状工具による刺突文を連続させ、波形の文様を横位に施す。それを３段重ねる。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
9	浅鉢	口縁部片	砂粒をわずかに含む、精製された胎土。良好。にぶい黄橙色。	角頭状の口唇部で、内外面に肥厚する。両面ともよく磨かれ、両面とも赤色塗彩が施される。	
10	蓋形土器	1/5 推定径9.8 器高2.9	砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	端部上位に緩やかな稜を持つ。径２㎜の補修孔が穿孔される。内面に赤色塗彩の痕跡。	
11	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	隆帯３条による腕骨文と沈線による腕骨文を垂下させた後、綾杉文を充填する。	
12	鉢形土器	胴部片	砂粒を少量含む。良好。暗赤褐色。	屈曲部にはやや強めの稜を持つ。沈線を垂下、あるいは環状の文様を描出する。内外面とも赤色塗彩。	
13	土偶	体部 残存高4.3 胴幅4.6 最大厚1.9	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	板状を呈する土偶。篦状工具による沈線で文様を描出する。瘤状の粘土を貼付して乳房を表現する。右手折損部に径２㎝ほどの細い穴が認められる。	

20区60号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
14	石鏃	完	16	14	3	0.5	黒曜石	
15	石鏃	完	15.5	15.5	4.5	0.7	黒曜石	
16	石鏃	完	24	15	5.5	1.4	黒色安山岩	
17	石鏃	完	16.5	10	2.5	0.4	黒曜石	
18	石鏃	基部欠	36	15	9.5	3.7	流紋岩	
19	ドリル	先端部欠	58	21	8	12	黒色安山岩	
20	ドリル	完	24	20	6.5	2.2	黒曜石	
21	ドリル	基部欠	23.5	6	4.5	0.5	黒曜石	
22	打斧	基部欠	95	53	25	143.1	細粒輝石安山岩	
23	磨石	完	326.5	290	85.5	10250	粗粒輝石安山岩	
24	石製品	完	39	52.5	19	7.7	軽石	

20区62号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて羽状に施文した後、浅い沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英、小礫を含む砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文した後、篦状工具による沈線と磨り消し文を弧状に施文する。	
4	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	棒状工具による沈線で綾杉文を施文する。	
5	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。普通。浅黄橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。内面は黒色。	外面は無文。内面は丁寧な磨きで、緩い稜を持つ。	

20区64号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴下半 1/3 推定口径12.2	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	口唇部に剣先状の小突起が付く。無文の口縁部の下位に平行沈線を縦位に施文した後、５条１単位の平行沈線を２段巡らす。	
2	浅鉢	口縁部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	口縁部は沈線を４条巡らした後、半截竹管状工具による刺突文とペン先状工具による刺突文を交互に巡らす。屈曲部より下位は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文する。	
3	鉢形土器	口縁～胴上半 推定口径36.5 残存高12.7	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	角頭状を呈する無文の口縁部。その下位の屈曲部には崩れた交互刺突文を施文し、その間に半截竹管状工具による刺突文を施文する。そこから断面三角の隆帯を弧状に貼付し、隆帯上には篦状工具による刻みを付す。隆帯の間には渦巻き状の突起を付し、その後、沈線で文様を描出する。	
4	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。非常に良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を貼付して文様を区画した後、原体ＲＬの単節斜縄文を施文し、隆帯に沿って沈線を施す。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を施文する。	

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
6	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を横位に施文する。	
7	深鉢	胴部片	黒雲母、石英を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線を縦位に施文する。	
8	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。	口唇部は内側に肥厚する。原体Ｒの撚糸文を施文した後、沈線を弧状に施文する。	
9	深鉢	胴部片	金雲母、石英を少量含む。良好。にぶい橙色。	棒状工具による沈線を斜位に施文した後、それよりも太い沈線で弧状に施文する。	
10	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	断面台形の隆帯を１条巡らした後、沈線を縦位に施文する。	
11	深鉢	胴部片	白色鉱物粒を少量含む精製された胎土。良好。にぶい褐色。	有刻隆帯を弧状に貼付した後、弧状の沈線を連続して施文する。それらの下位には沈線を巡らす。丁寧な作り。	
12	深鉢	胴部片	黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	平行する隆帯の間に縦位の沈線文を施した後、隆帯に沿って磨り消し。	
13	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。普通。にぶい橙色。	断面半円の隆帯を巡らした後、半截竹管状工具による平行沈線を縦位に施文する。その後、隆帯に沿って平行沈線を巡らす。	
14	深鉢	胴部片	白色軽石粒を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面半円の隆帯をＵ字形に貼付した後、沈線を縦位に施文する。	
15	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。橙色。	刻みを付した隆帯を貼付し、区画内に隆帯に沿った沈線とキャタピラ文を施文。	
16	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。良好。浅黄橙色。	刻みを付した断面台形の隆帯を２条巡らす。	

20区64号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
17	石鏃	先端部欠	15	14	3	0.5	黒曜石	
18	磨石	ほぼ完	123	113	52	853.1	粗粒輝石安山岩	
19	磨石	一部欠	105	83	40	552.7	粗粒輝石安山岩	
20	石皿	1/3	187	265	59	2880	粗粒輝石安山岩	

20区65号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。浅黄色。	断面台形の隆帯で文様帯を区画し、区画内には原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
2	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒を少量含む。良好。灰褐色。	断面台形の低い隆帯を貼付した後、原体ＲＬの単節斜縄文を方向を変えて施文する。その後、沈線で区画をなす。	
3	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。明赤褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原体ＬＲＬの複節斜縄文を縦位に施文し、蛇行する沈線を施文する。	
4	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。赤褐色。	垂下する２条の隆帯と弧状の隆帯を貼付した後、細い沈線を綾杉状に施文する。	
5	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。暗赤褐色。	交差する斜位の沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。にぶい黄橙色。	櫛歯状工具による沈線を弧状に施文する。	
7	浅鉢	口縁部片	細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	内外面とも丁寧な磨きが施され、赤色塗彩の痕跡が良好に残る。	

20区65号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
8	石鏃	基部欠	35	24	7	3.6	黒曜石	
9	石鏃	基部欠	28	22	4	1.6	黒色安山岩	
10	石鏃	基部欠	24	71	6.5	2.9	玉髄	
11	石鏃	基部・先端部欠	9.5	8	2.5	0.2	黒曜石	
12	スクレイパー	完	15.5	14.5	7	1.4	黒曜石	

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石材	備　考
13	石核か	－	43	64	24	65.6	黒色安山岩	

20区66号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	両耳壺	推定口径16.0　口縁部、底部欠	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい赤褐。	２単位の橋状把手を持つ。口縁は外反気味に立ち上がり、無文で磨き。頸部に断面三角の隆帯が巡る。胴部は原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、浅い沈線で文様を描出する。	
2	深鉢	胴上半～底部 底径5.5 残存高23.1	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	４単位の波状口縁を呈するものと思われる。原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を∩字状、あるいはＪ字状に施文する。	
3	深鉢	胴部片	石英を含む細砂粒を少量含む。良好。暗赤灰色。	原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文するが、一部方向を変えて施文している。	
4	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。にぶい黄橙色。	弧状の沈線を施文する。底部に近い胴部片と思われる。	
5	深鉢	胴部片	細砂粒をやや多く含む。普通。黄褐色。	原体Ｌの無節斜縄文を縦位に施文した後、弧状の沈線を施文する。	
6	深鉢	胴部片	砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	低い隆帯を２条垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい橙色。	断面台形の隆帯を貼付する。	
8	深鉢	胴部片	石英、金雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。にぶい赤褐色。	断面三角の隆帯を垂下させた後、原体ＬＲの単節斜縄文を縦位に施文する。	
9	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	垂下する２条の沈線と弧状の沈線を施文した後、彎曲する沈線を鱗状に施文する。	

20区66号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石材	備　考
10	磨斧	刃部欠	102	68	39	481.5	閃緑岩	再利用か
11	磨石	完	114	64.5	46	516.7	粗粒輝石安山岩	１面に凹穴
12	磨石	完	218	185	73	4211.9	石英閃緑岩	
13	多孔石	一部欠	153.5	167	72	1598.7	粗粒輝石安山岩	

20区67号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	胴下半～底部 底径9.0 残存高23.0	砂粒を少量含む。良好。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
2	深鉢	胴上半	石英、小礫を含む砂粒を少量含む。良好。赤褐色。	１単位の橋状把手が付く。原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
3	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。普通。にぶい褐色。	口縁端部に楕円形の刺突文。その下位から原体ＲＬの単節斜縄文を横位に施文する。	
4	深鉢	口縁部片	砂粒をやや多く含む。良好。橙色。	太い隆帯で口縁部に文様帯を区画する。口唇部には原体ＬＲの単節斜縄文を横位に施文する。	
5	深鉢	胴部片	砂粒をやや多く含む。良好。褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
6	深鉢	胴部片	石英を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させるとともに、蛇行する沈線を施文する。	
7	深鉢	胴部片	石英を多く含む。良好。にぶい赤褐色。	断面半円の隆帯で腕骨文を描出する。	
8	深鉢	胴部片	石英、金雲母をやや多く含む。良好。褐色。	腕骨文の下位に横位の隆帯を施文した後、棒状工具による刺突文を施文する。	
9	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒を少量含む。良好。黒褐色。	低い隆帯を２条垂下させる。外面には赤色塗彩跡が良好に残る。内面にも赤色の痕跡あり。	

20区67号住居石器計測表

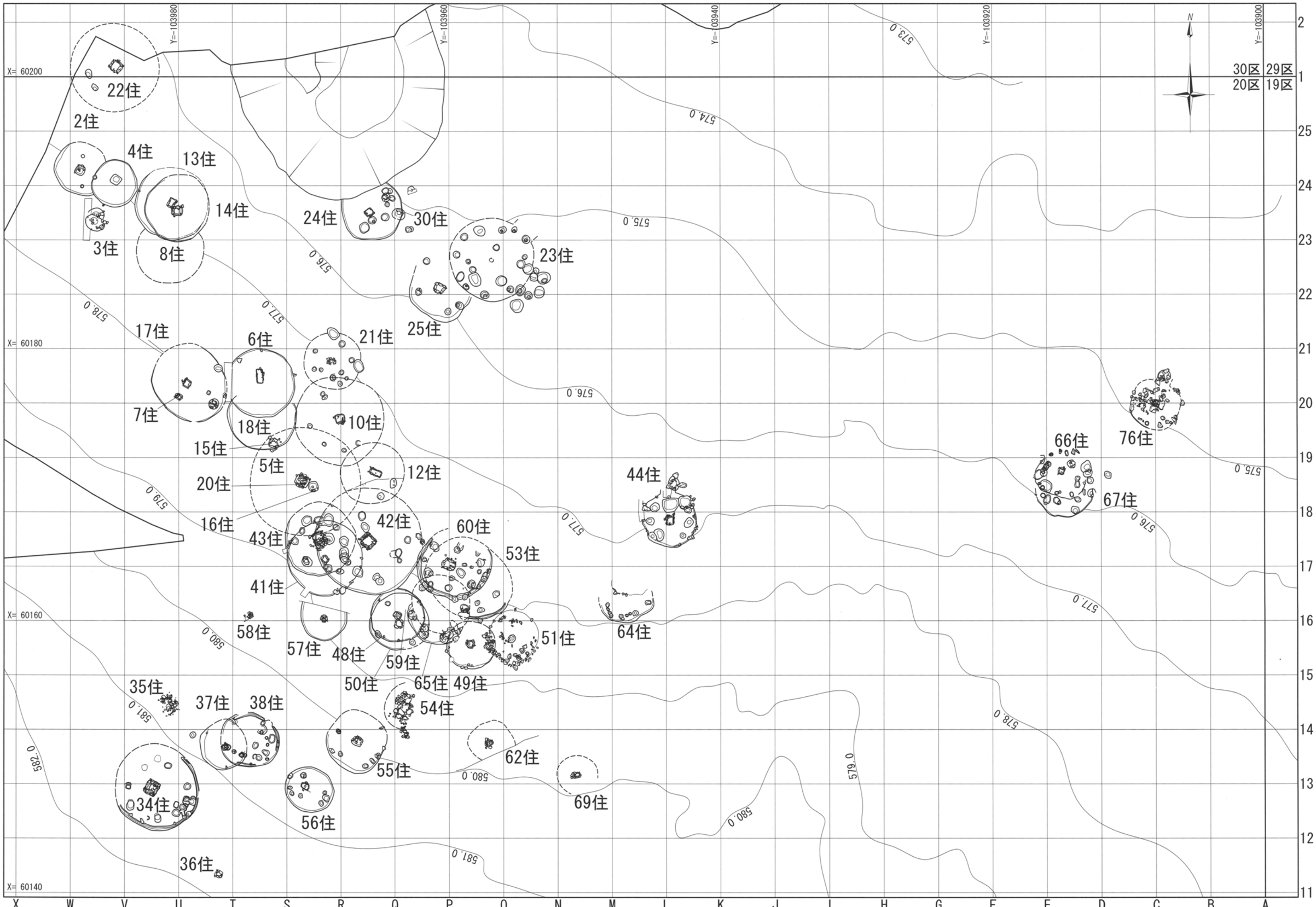
番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)②幅(㎜)③厚さ(㎜)④重量(g)				石材	備　考
10	石皿	1/2	173.5	140.5	67	2233.7	粗粒輝石安山岩	

20区76号住居土器観察表

番号	器種	残存状態　計測値	胎土･焼成･色調	器形・文様の特徴等	時期･備考
1	深鉢	口縁～胴上半１/３ 推定口径20.0	砂粒をやや多く含む。普通。暗褐色。	樽形の器形。２条の沈線で大柄な渦巻き文を描出した後、箆状工具による沈線を縦位に施文する。	
2	深鉢	口縁部片	石英、黒雲母を含む砂粒をやや多く含む。良好。にぶい赤褐色。	原体ＬＲの単節斜縄文を口縁部は横位に、胴部は縦位に施文した後、口唇部に巡る沈線と∩字形の沈線を施文する。	
3	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。良好。暗赤褐色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
4	深鉢	胴部片	石英、黒雲母を含む細砂粒を少量含む。普通。にぶい橙色。	原体ＲＬの単節斜縄文を縦位に施文した後、沈線と磨り消し文を垂下させる。	
5	深鉢	胴部片	黒雲母を含む細砂粒をやや多く含む。良好。黒褐色。	無文だが、縦方向に磨り消しの痕跡が認められる。	
6	深鉢	胴部片	細砂粒を少量含む。普通。明赤褐色。	断面三角の隆帯を２条垂下させる。	
7	深鉢	胴部片	小礫を含む砂粒をやや多く含む。普通。赤褐色。	器面が荒れるが、原体不明の縄文を施文した後、沈線と磨り消し文を垂下しているものと思われる。	

20区76号住居石器計測表

番号	器種	残存	計測値①長さ(㎜)	②幅(㎜)	③厚さ(㎜)	④重量(ｇ)	石材	備　考
8	スクレイパー	完	18	14	4.5	1.1	黒曜石	
9	磨石	完	100.5	75	35	393.2	粗粒輝石安山岩	



横壁中村遺跡２０区住居全体図

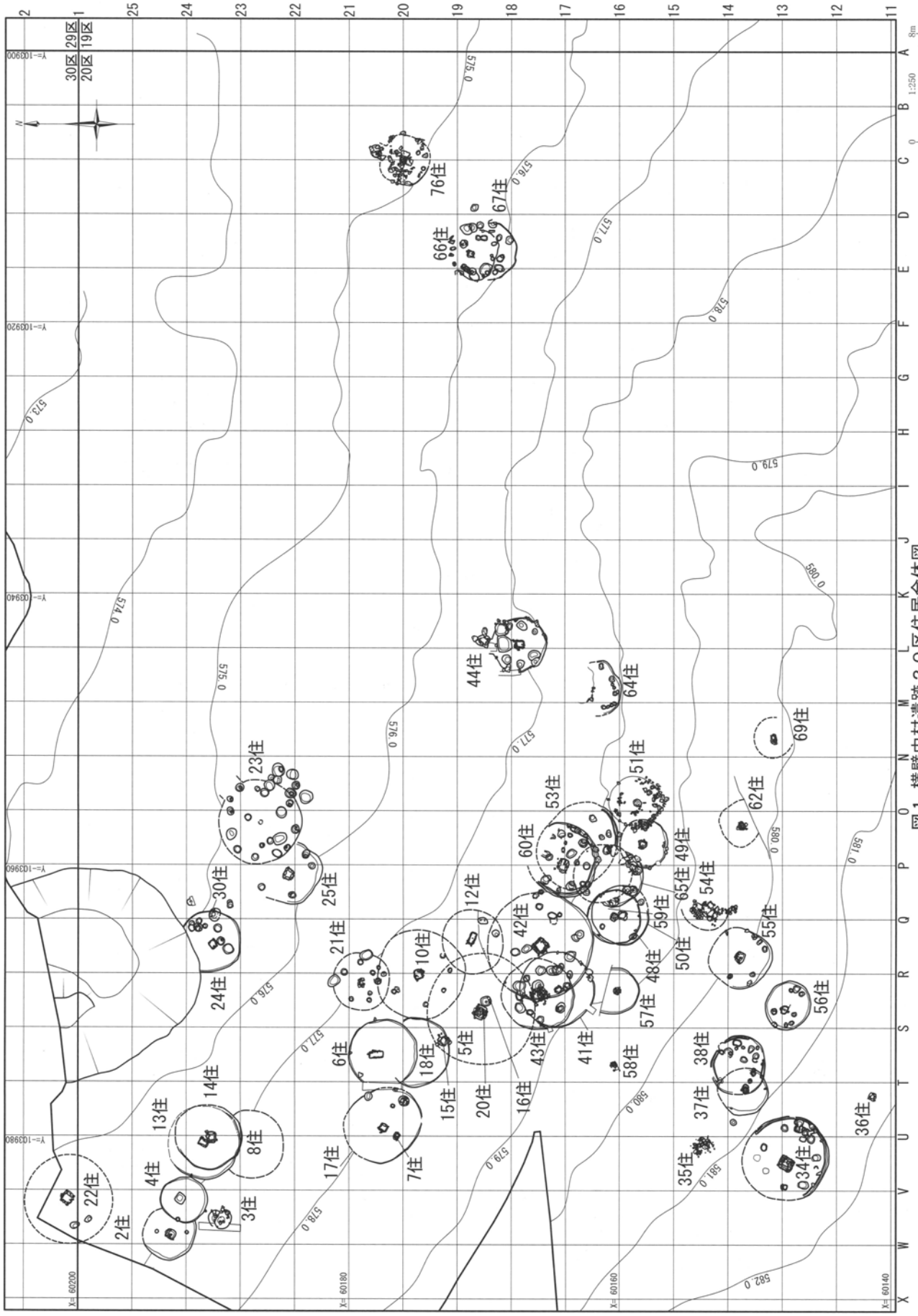


図１　横壁中村遺跡２０区住居全体図

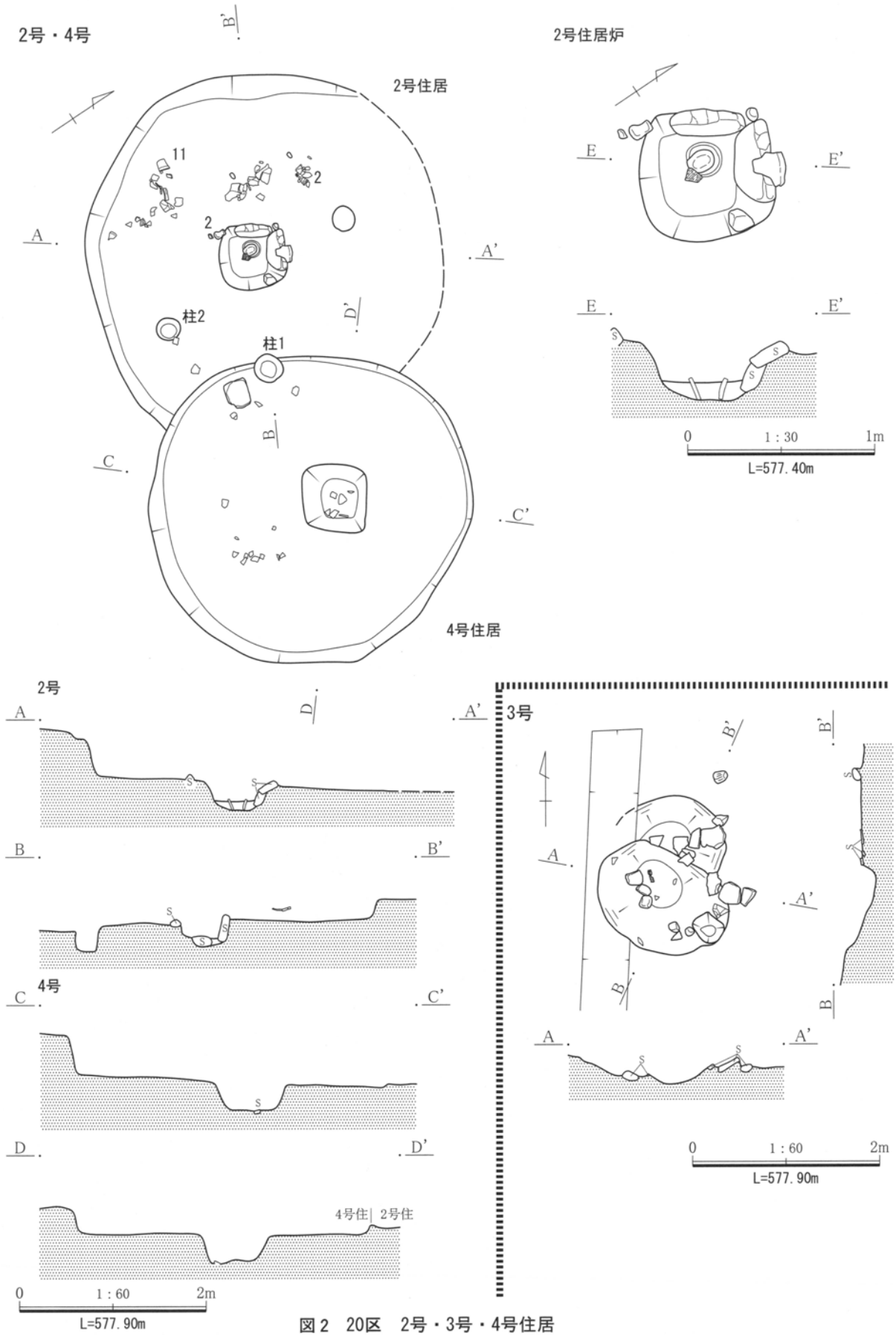


図２　20区　2号・3号・4号住居

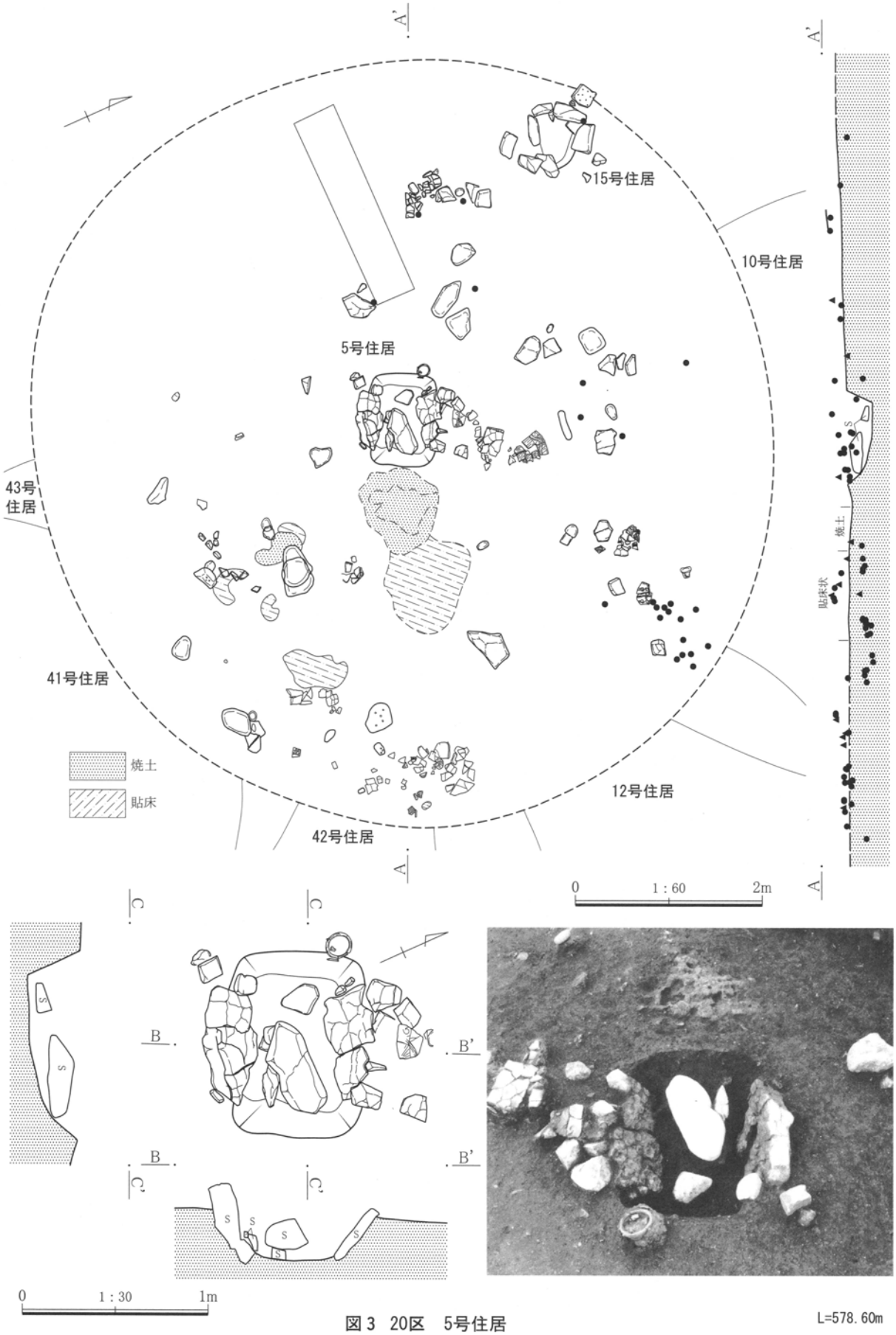


図３　20区　5号住居

L=578.60m

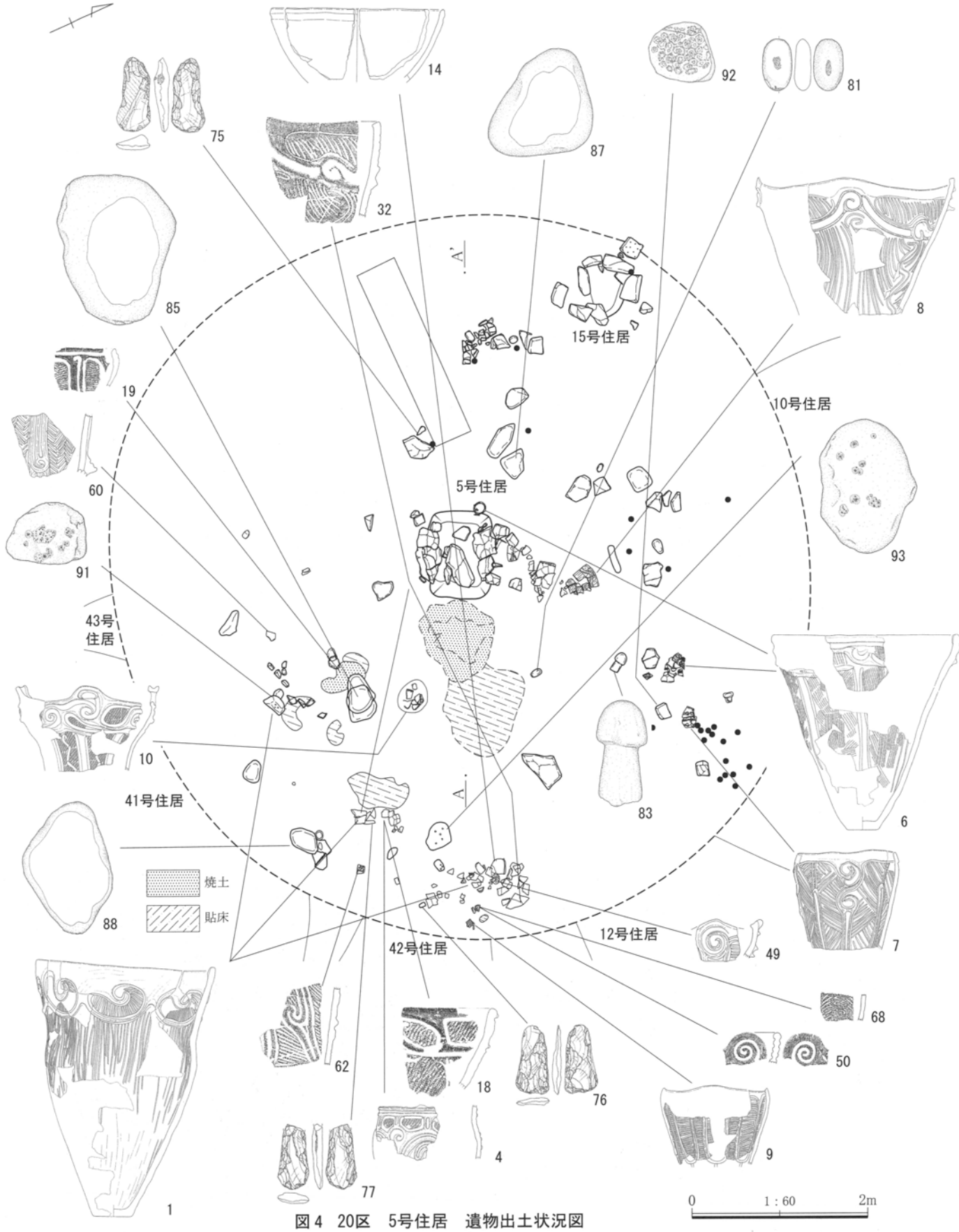


図４　20区　5号住居　遺物出土状況図

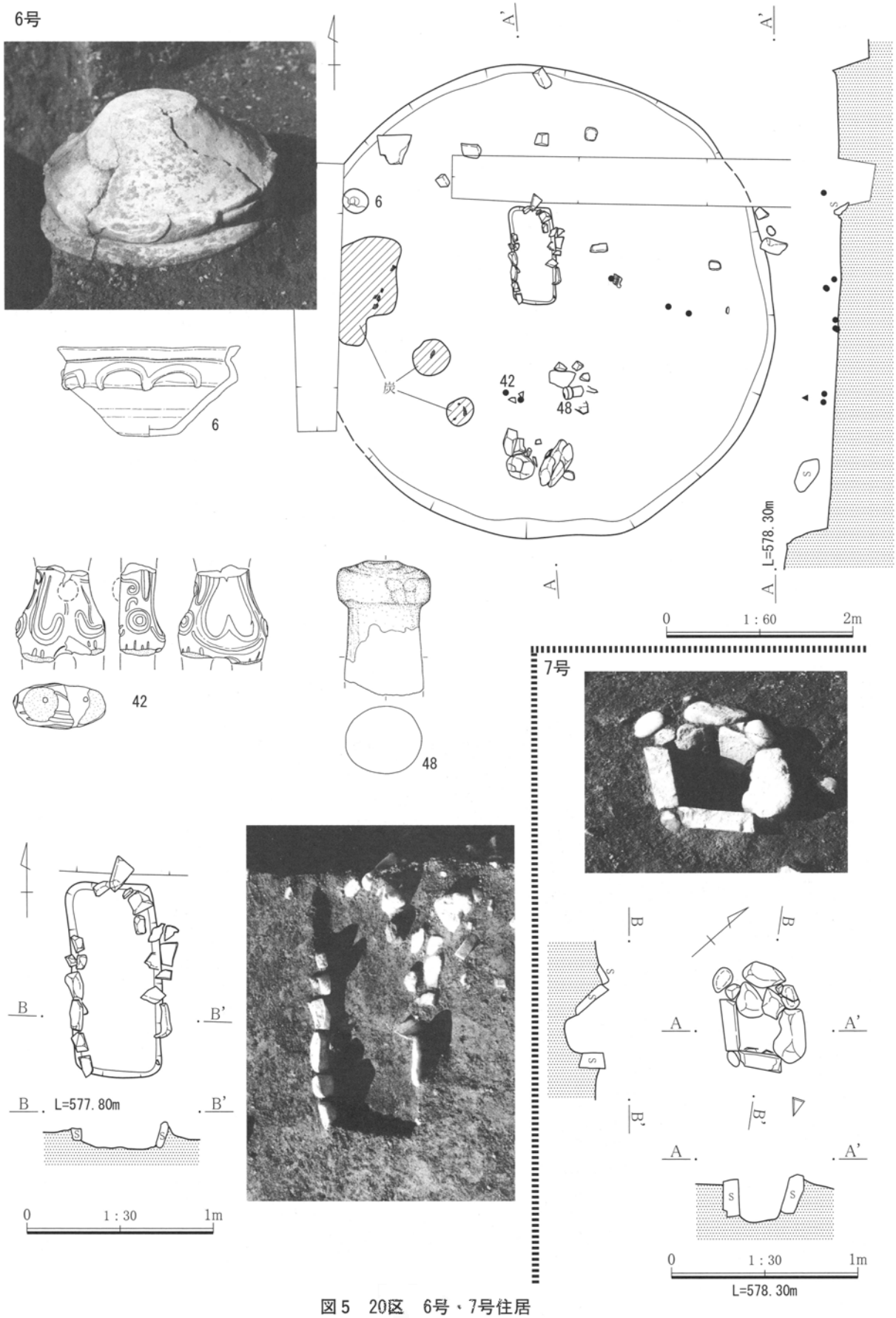


図５　20区　6号・7号住居

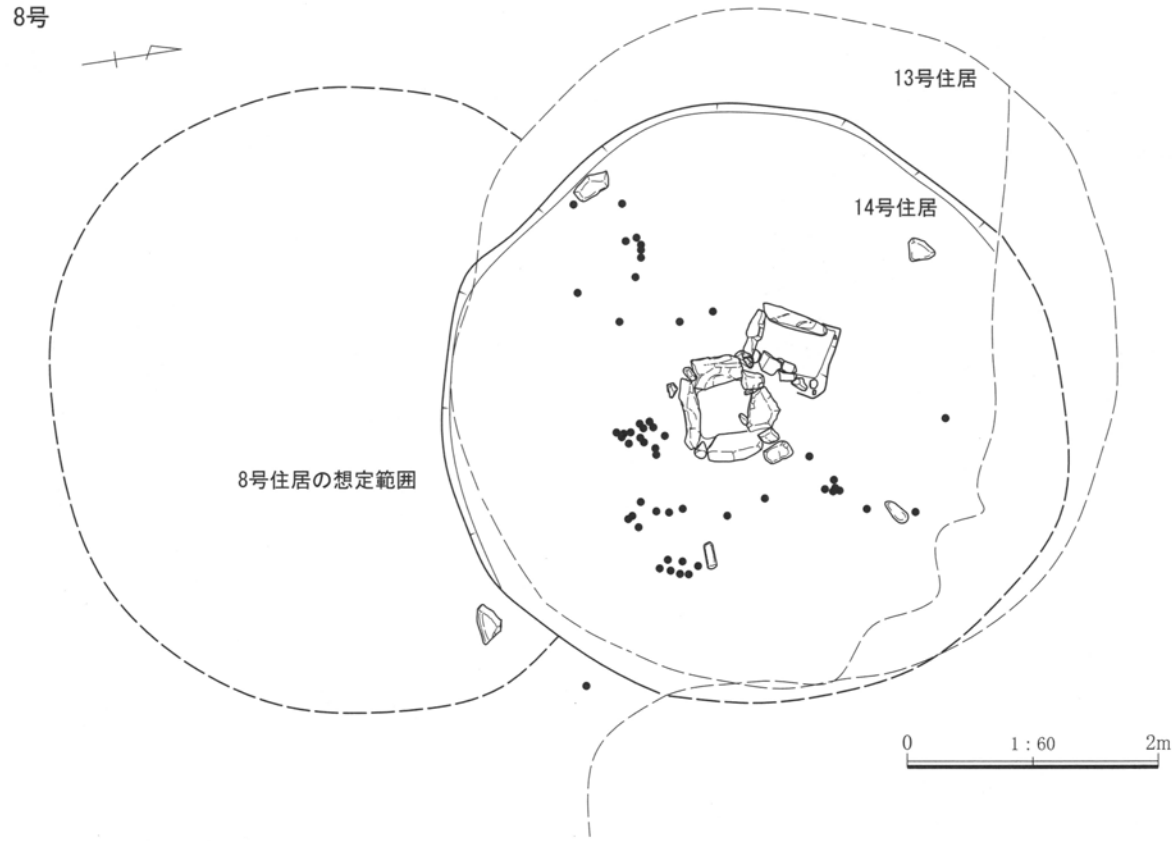


図６　20区　8号住居

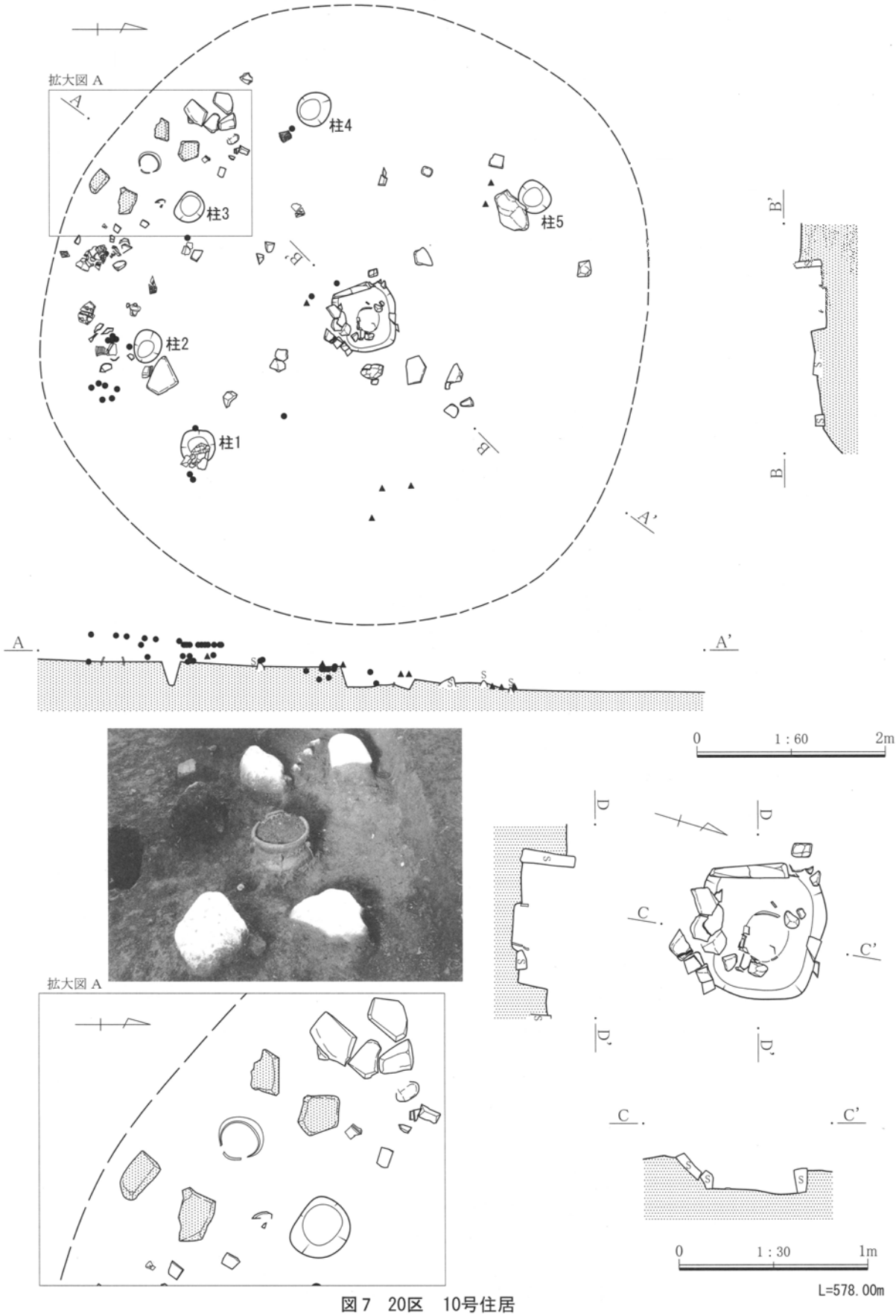
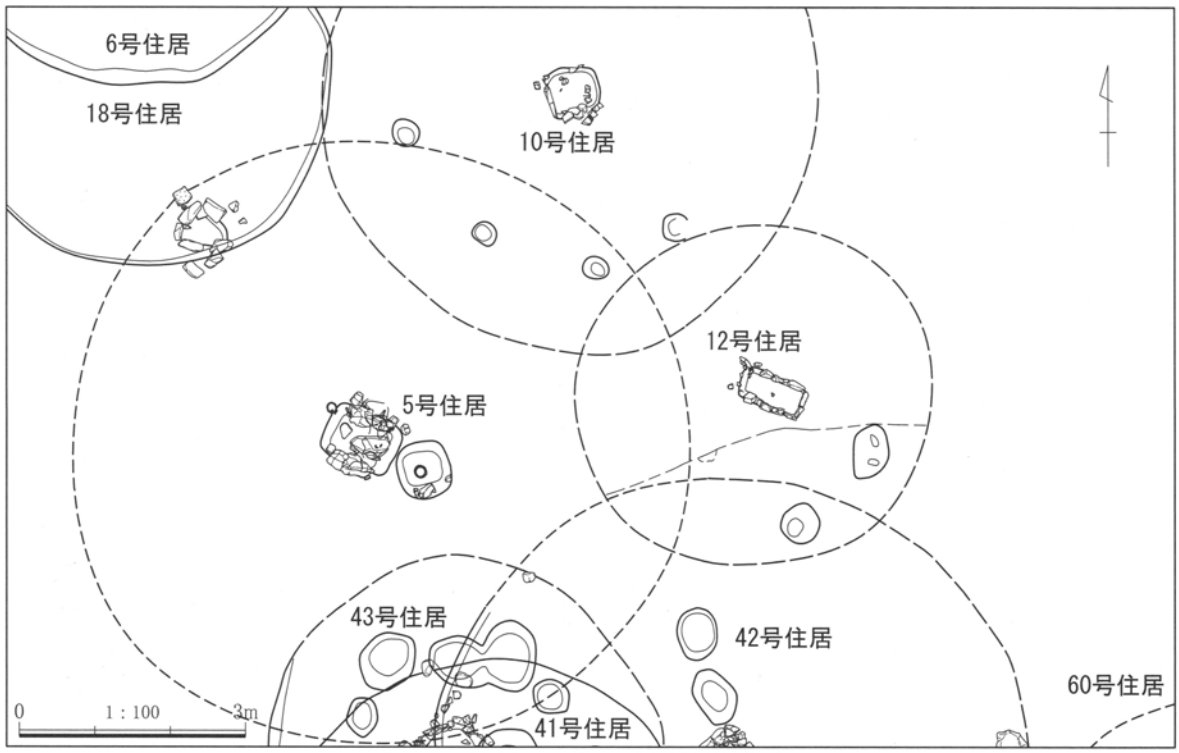


図７　20区　10号住居

図８　20区　10号住居　遺物出土状況図



20区　12号住居周辺の住居重複関係図

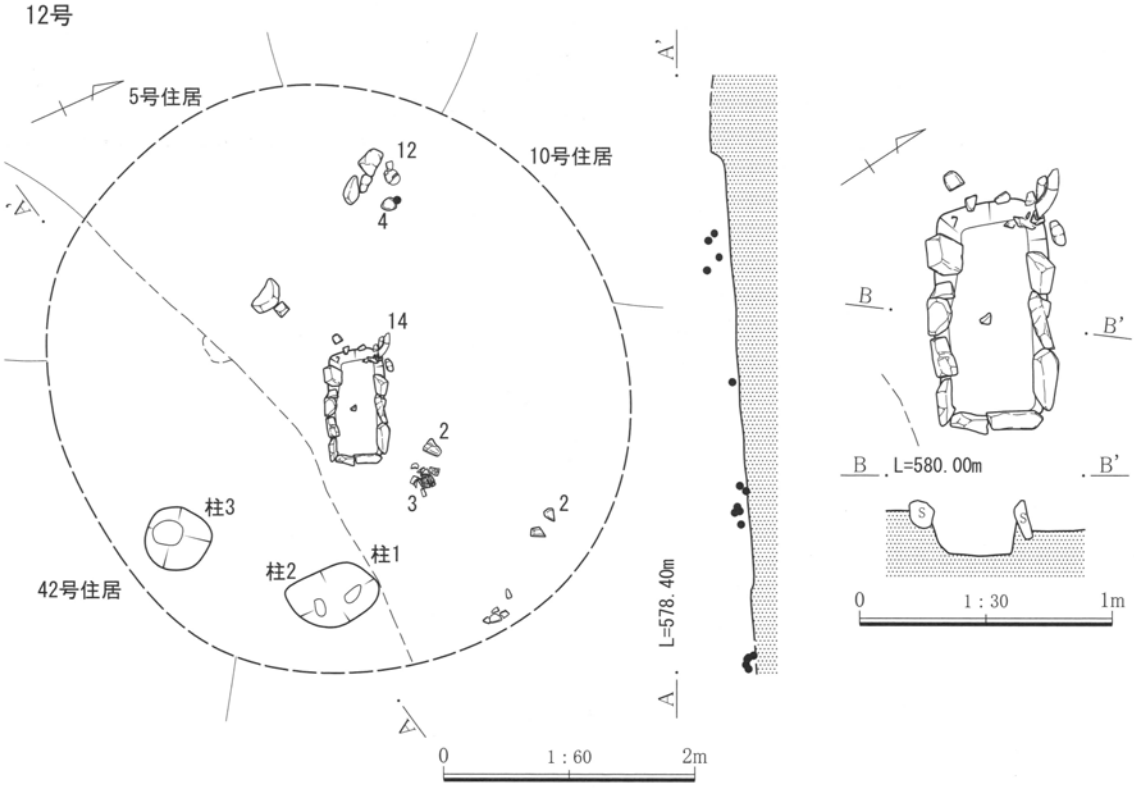


図９　20区　12号住居

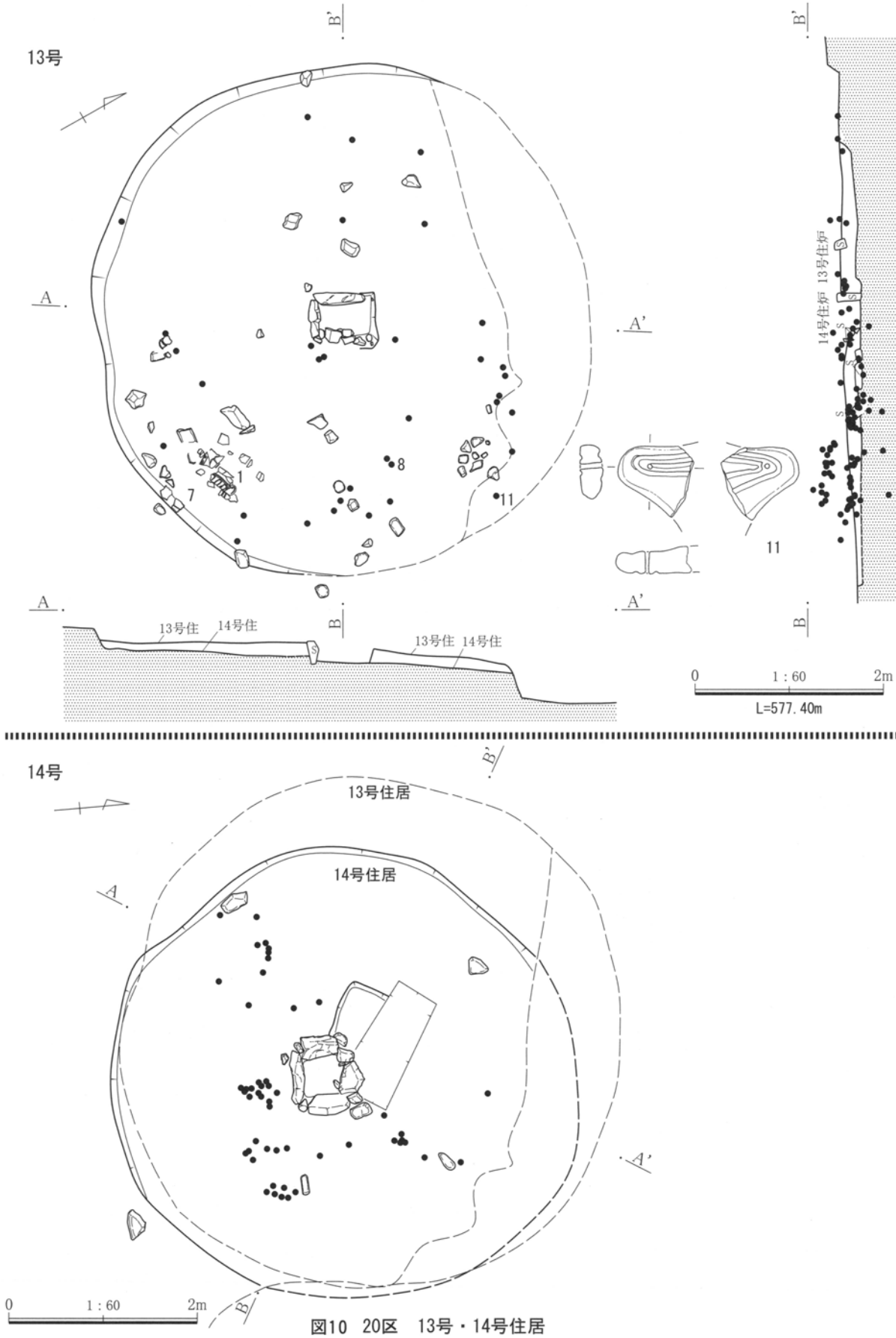


図10　20区　13号・14号住居

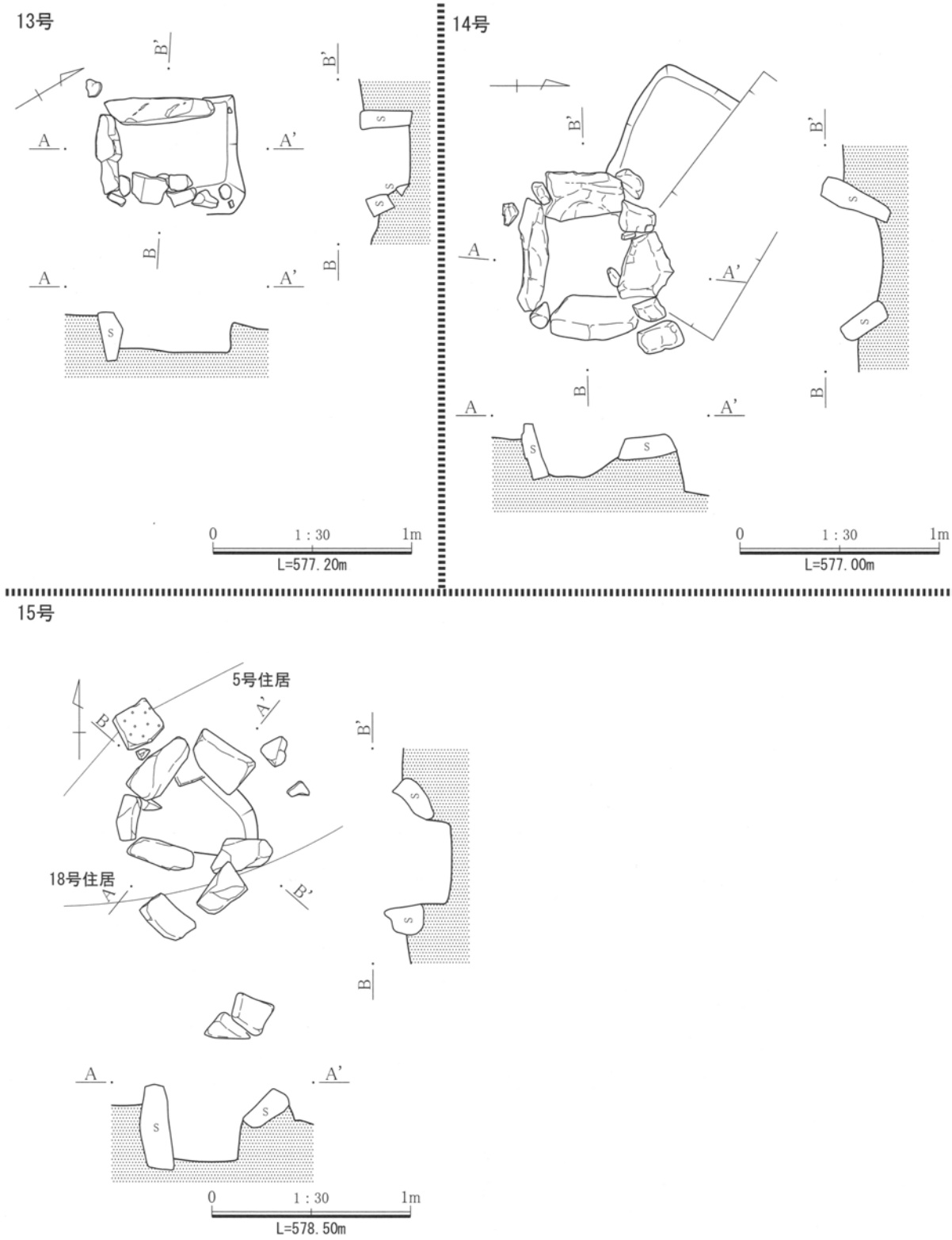
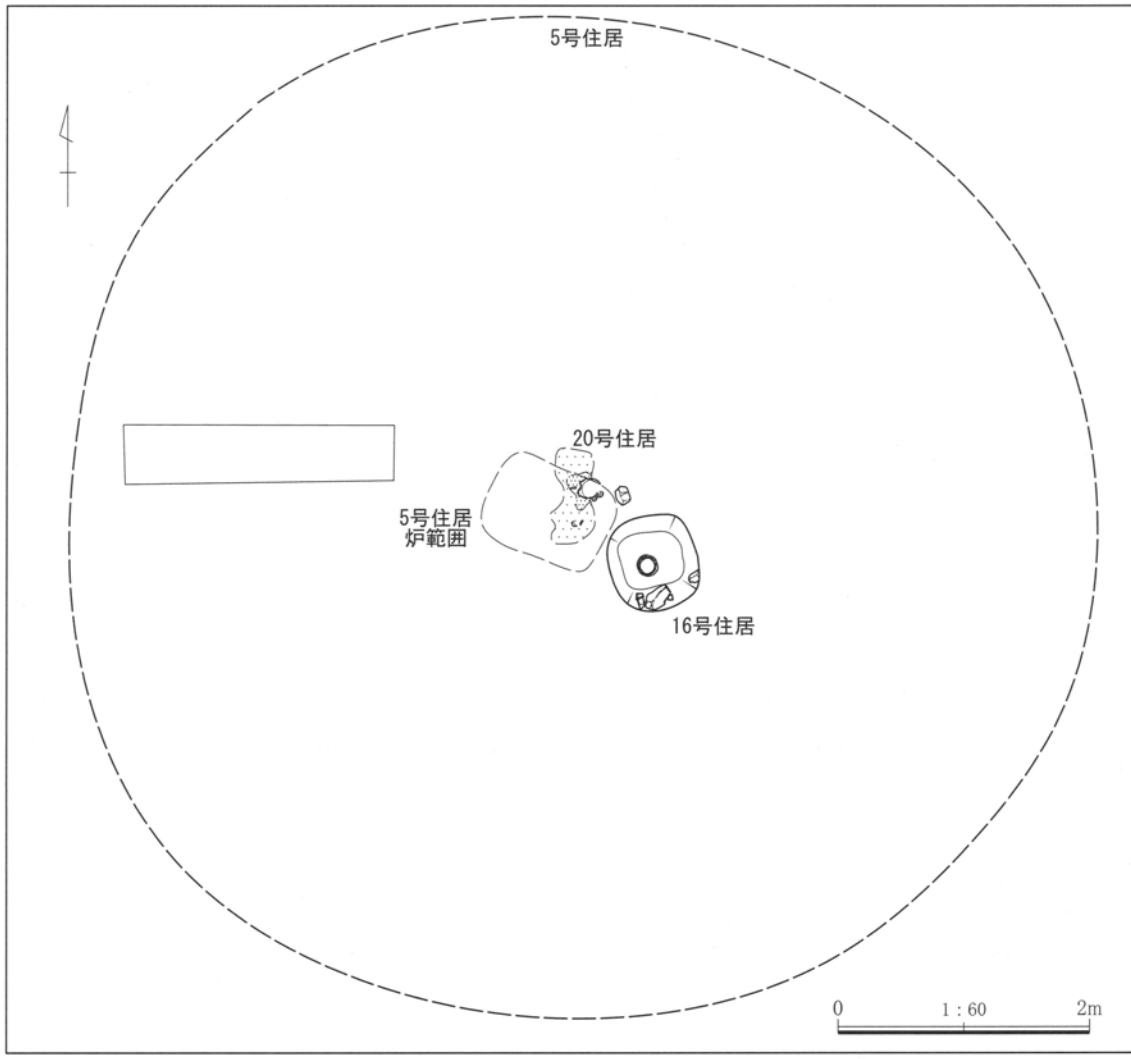


図11　20区　13号・14号・15号住居



20区　5号・16号・20号住居の重複関係

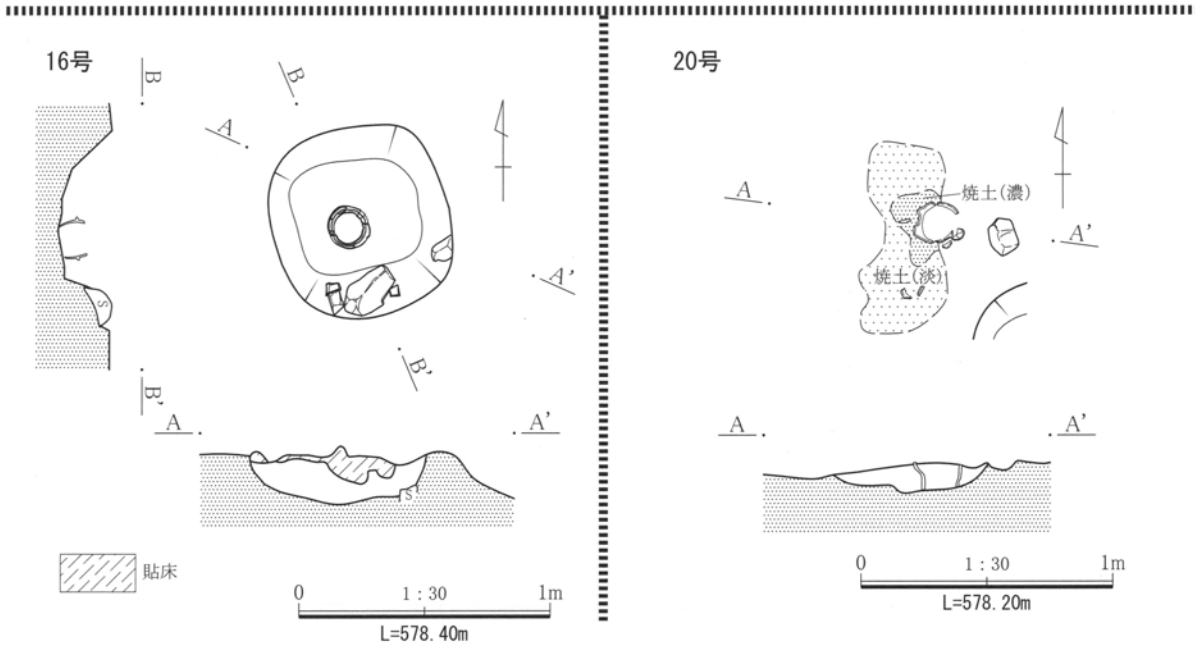


図12　20区　16号・20号住居

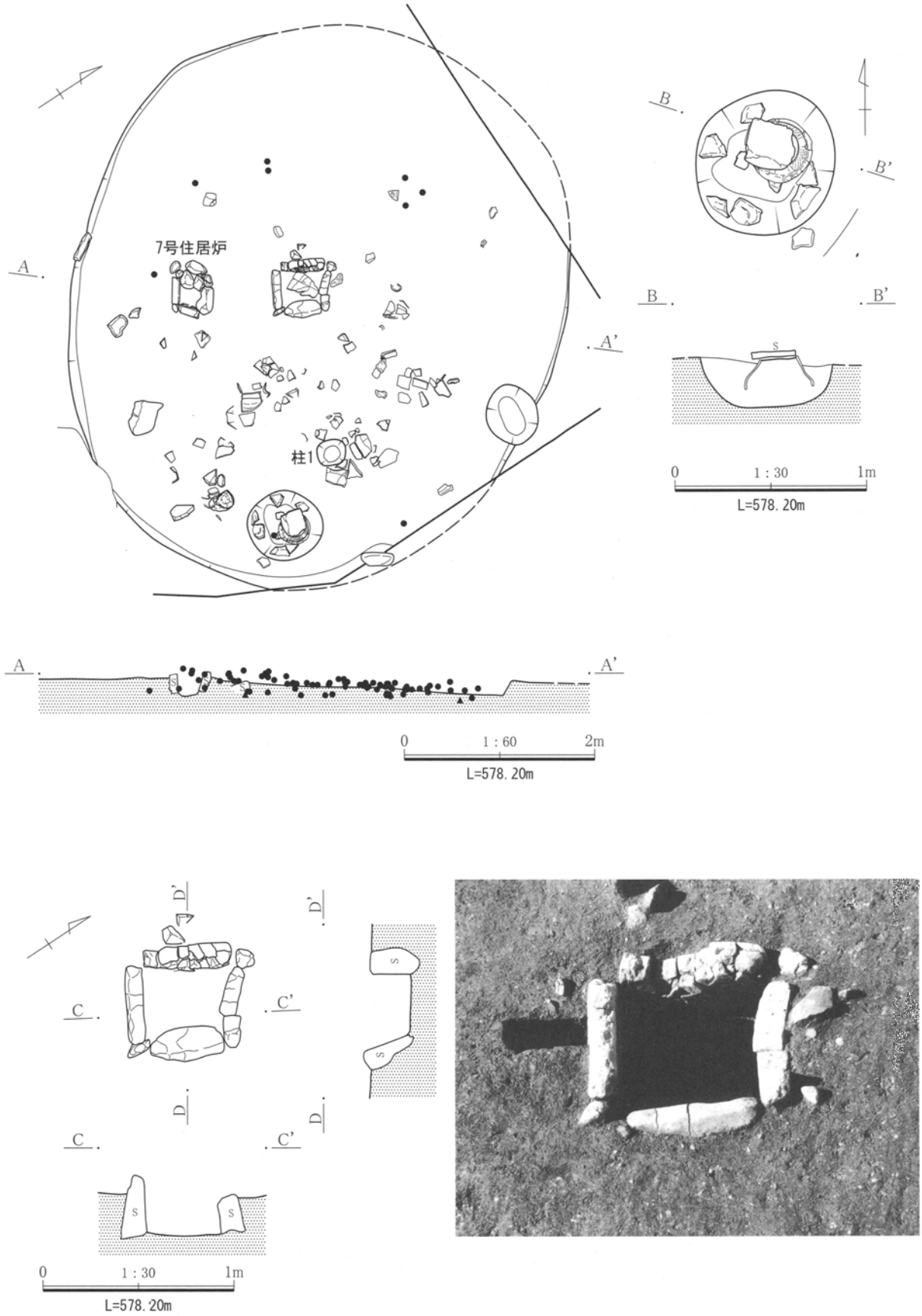


図13　20区　17号住居

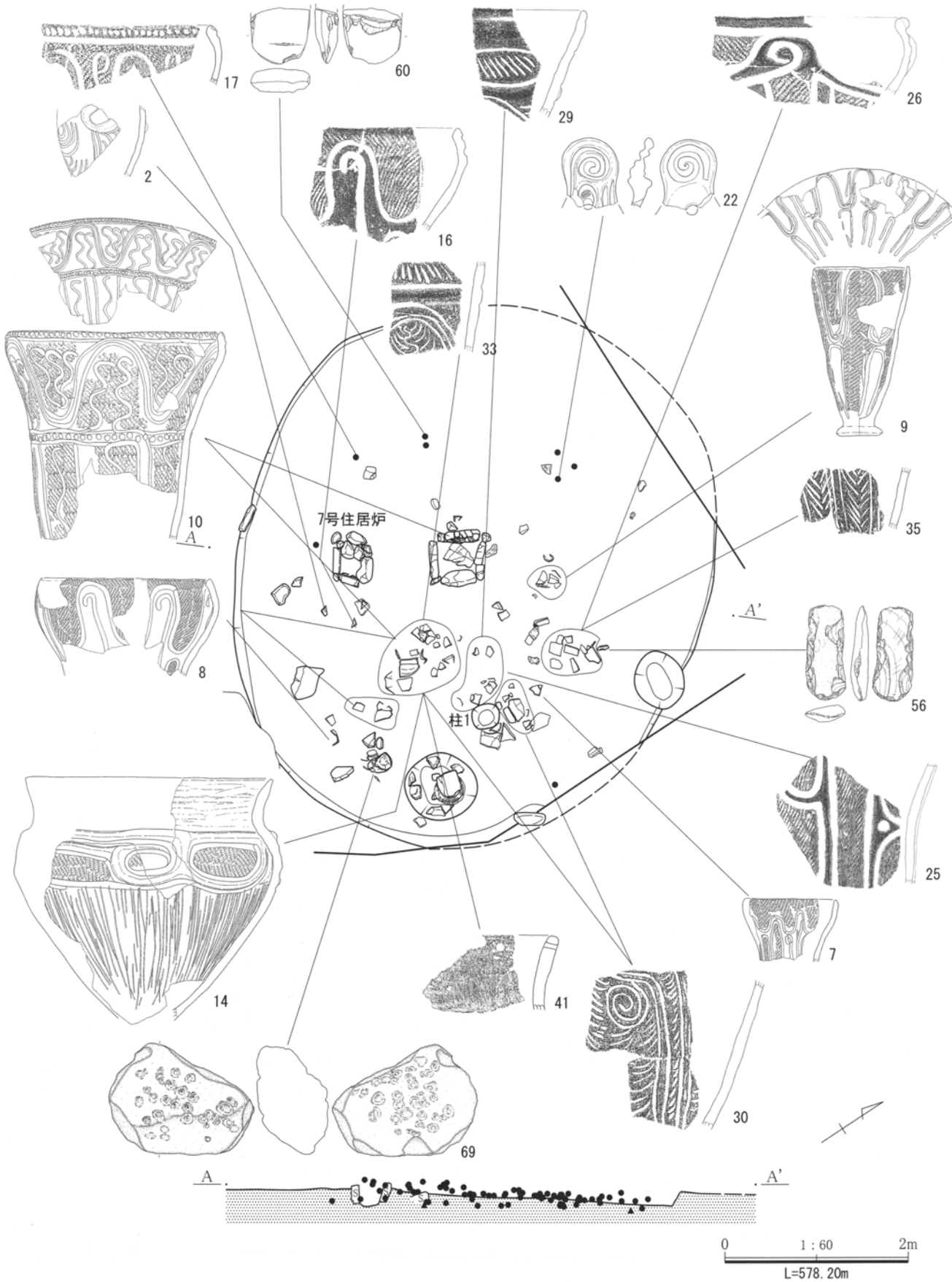
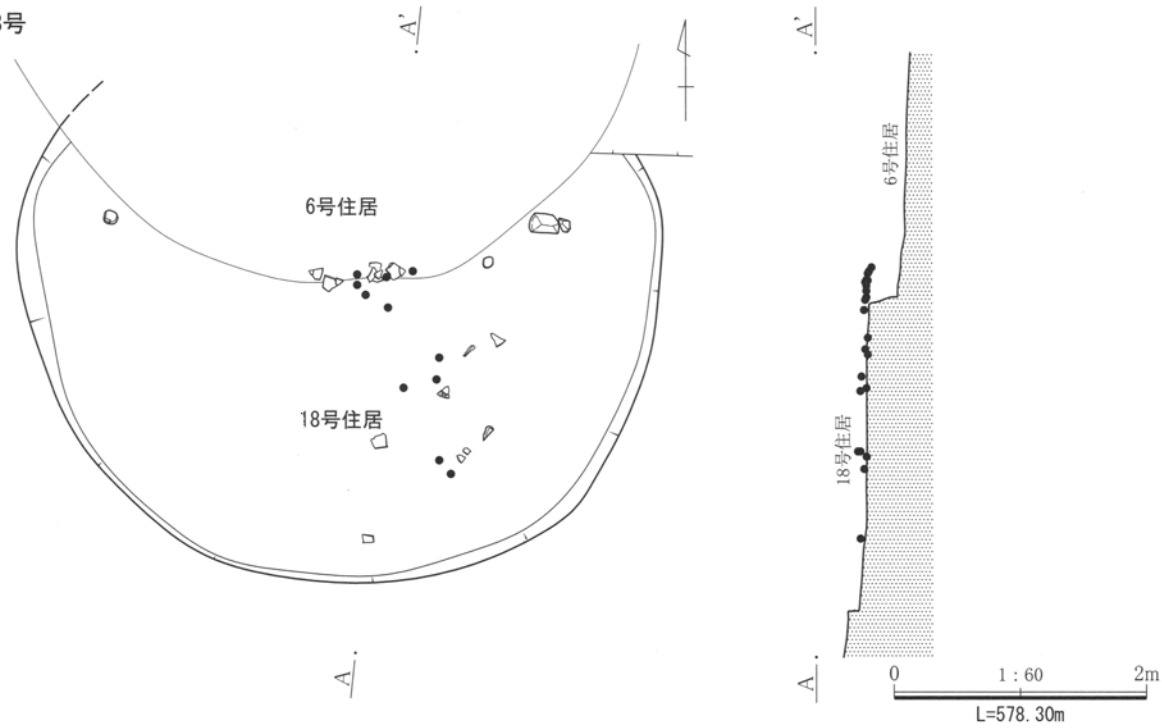


図14　20区　17号住居　遺物出土状況図

18号



21号

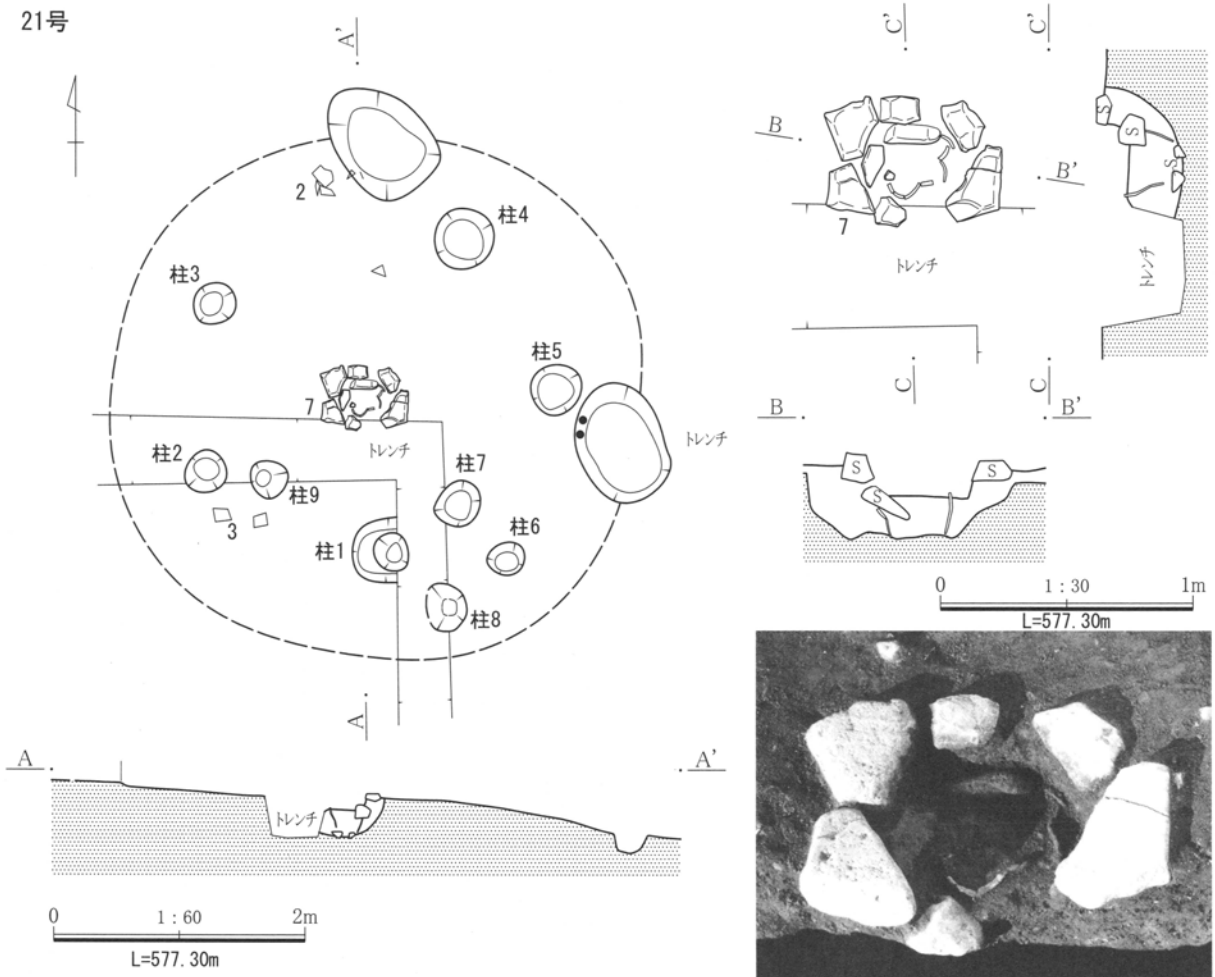
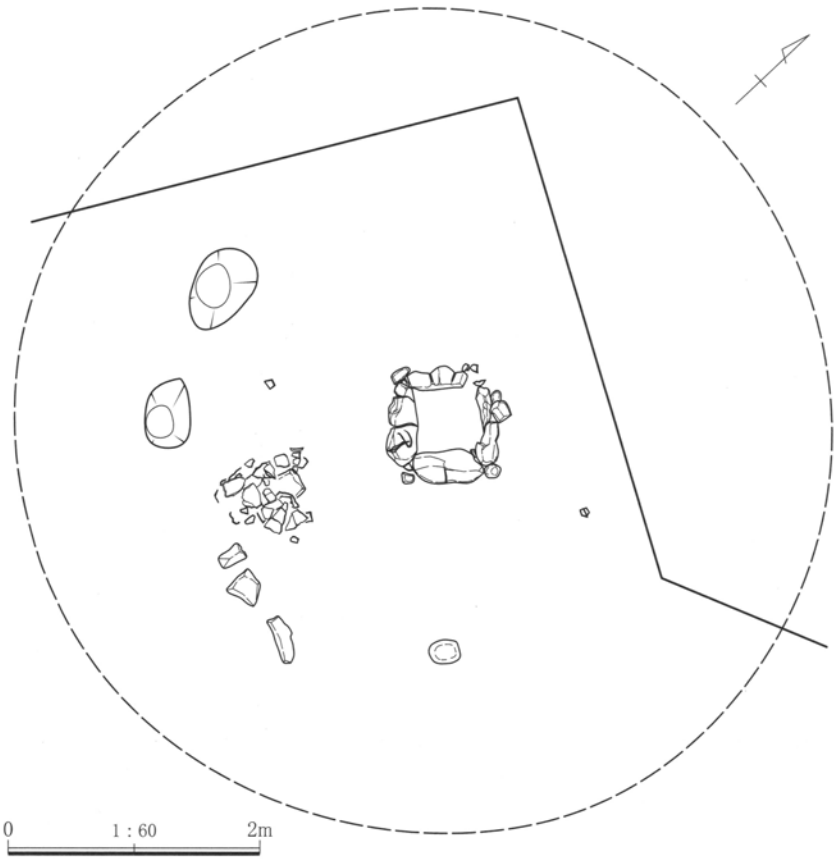
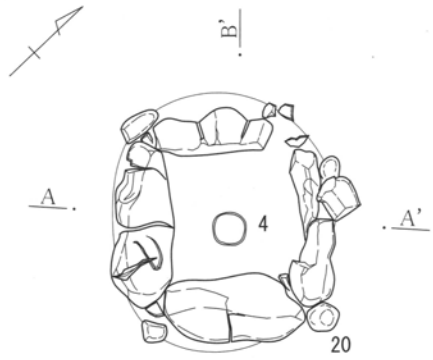
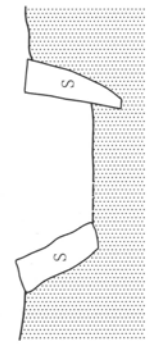
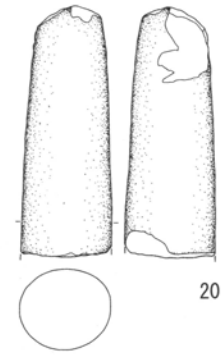


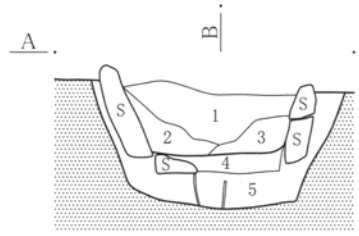
図15　20区　18号・21号住居











1.黒褐色土。 炭化物を含む。
2.暗褐色土。 炭化物・焼土を少量含む。
3.暗褐色土。 焼土を多く含む。
4.黒褐色土。 硬質。
5.黒褐色土。 軟質。

0　1：30　1m

L=576.40m

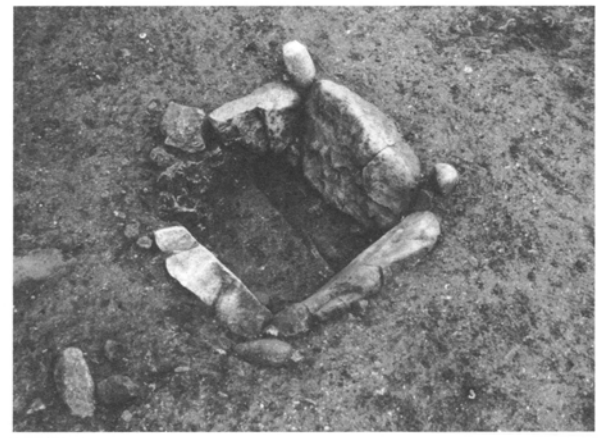


図16　20区　22号住居

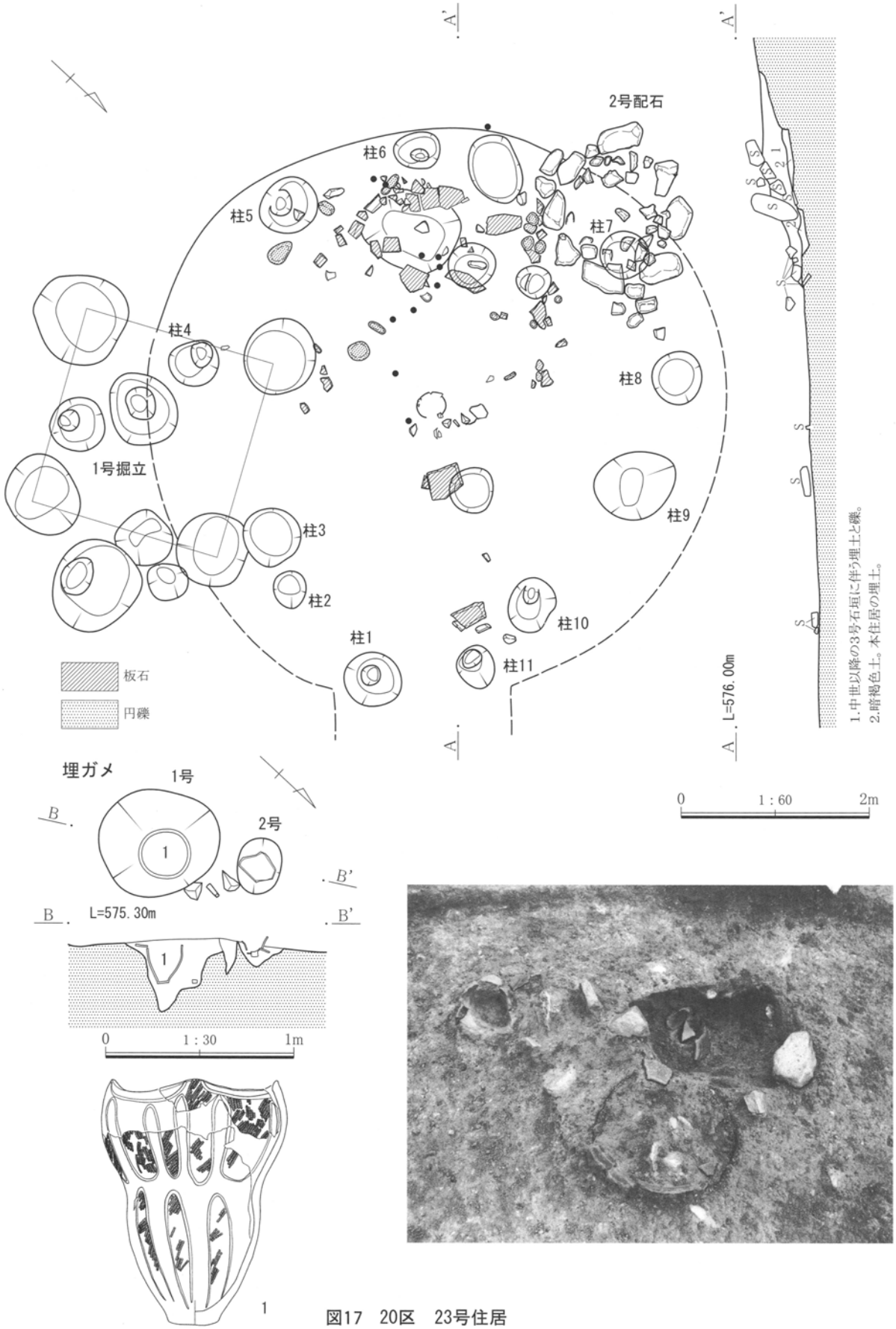


図17　20区　23号住居

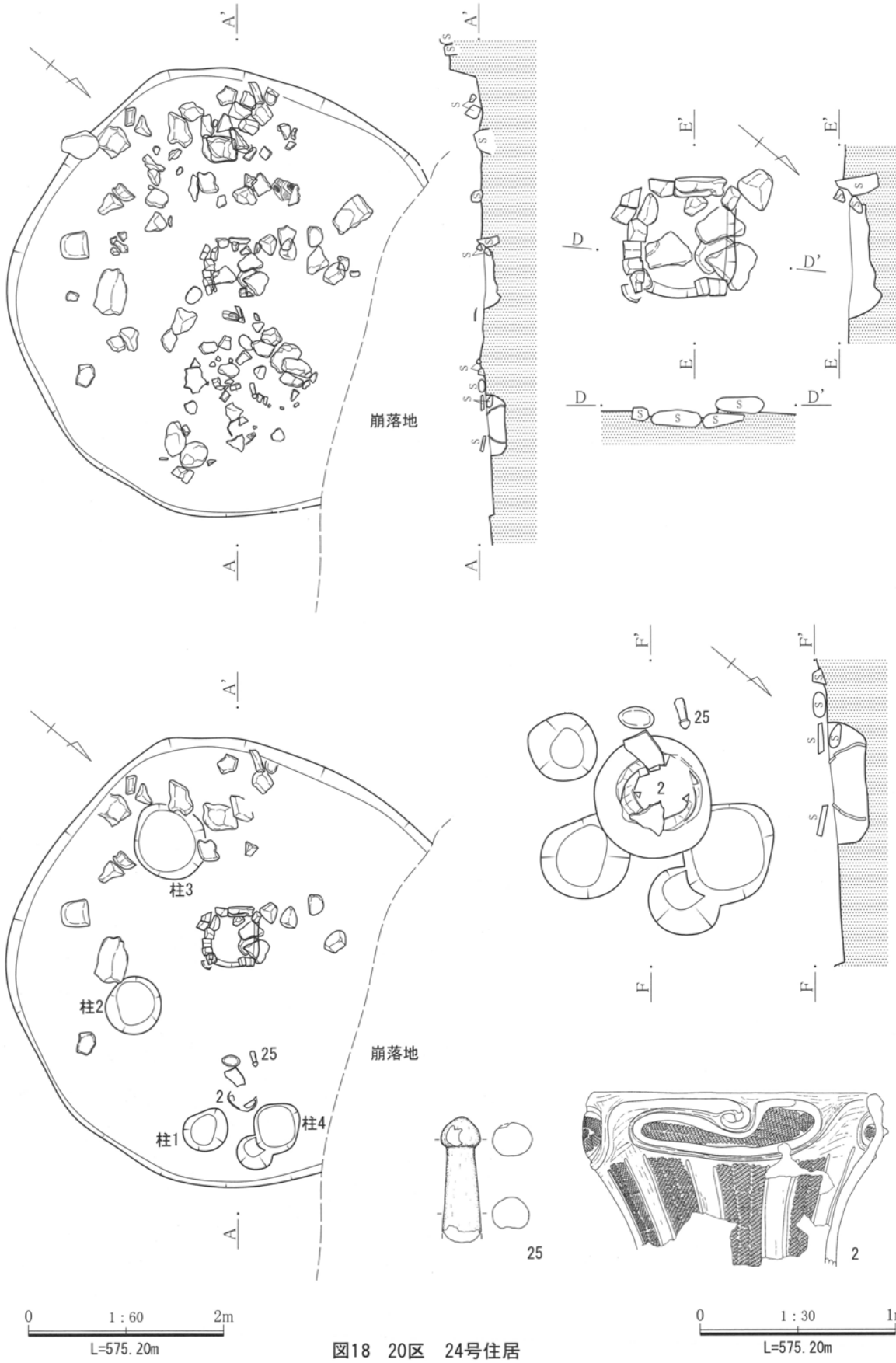


図18　20区　24号住居

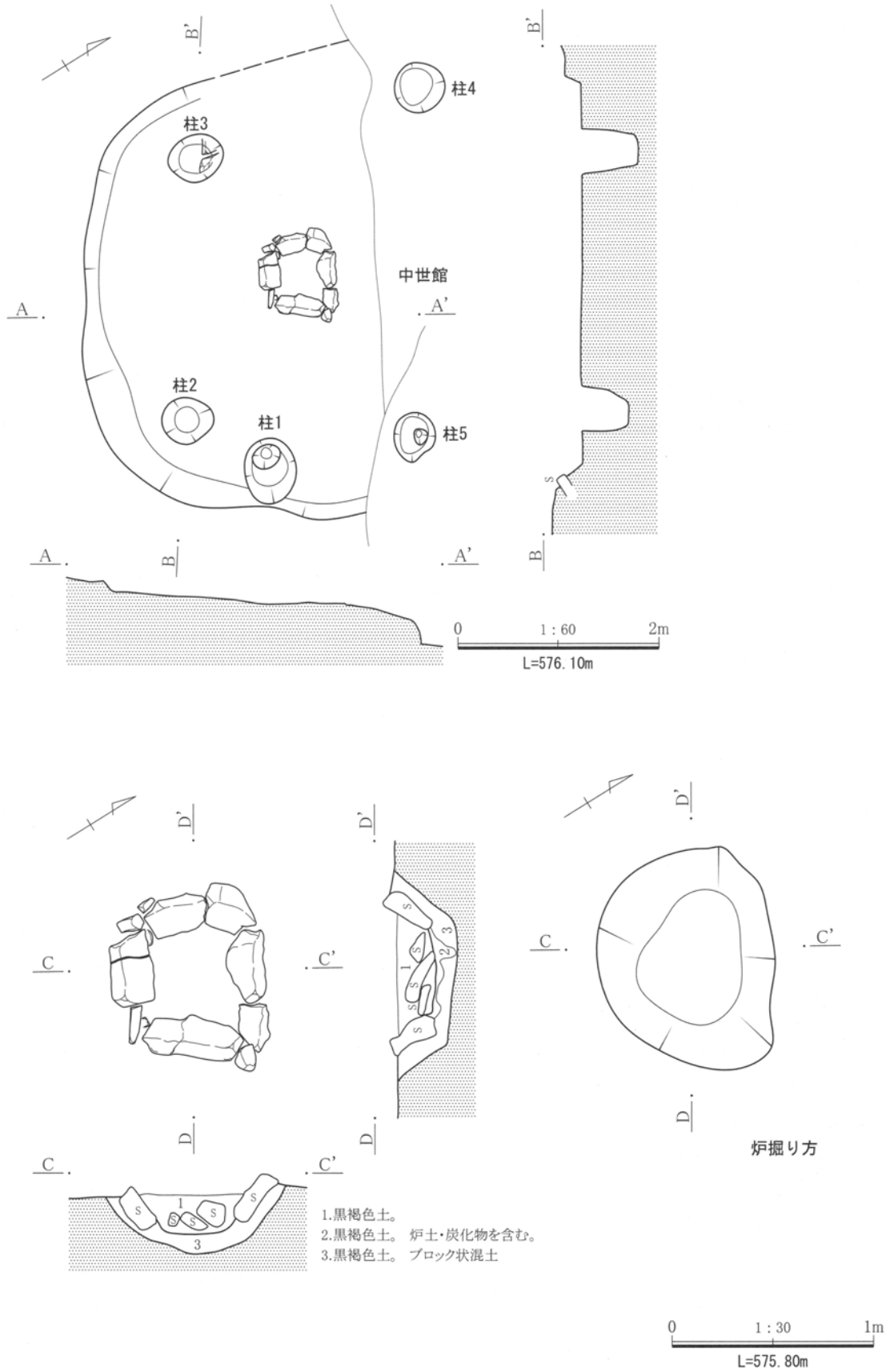


図19　20区　25号住居

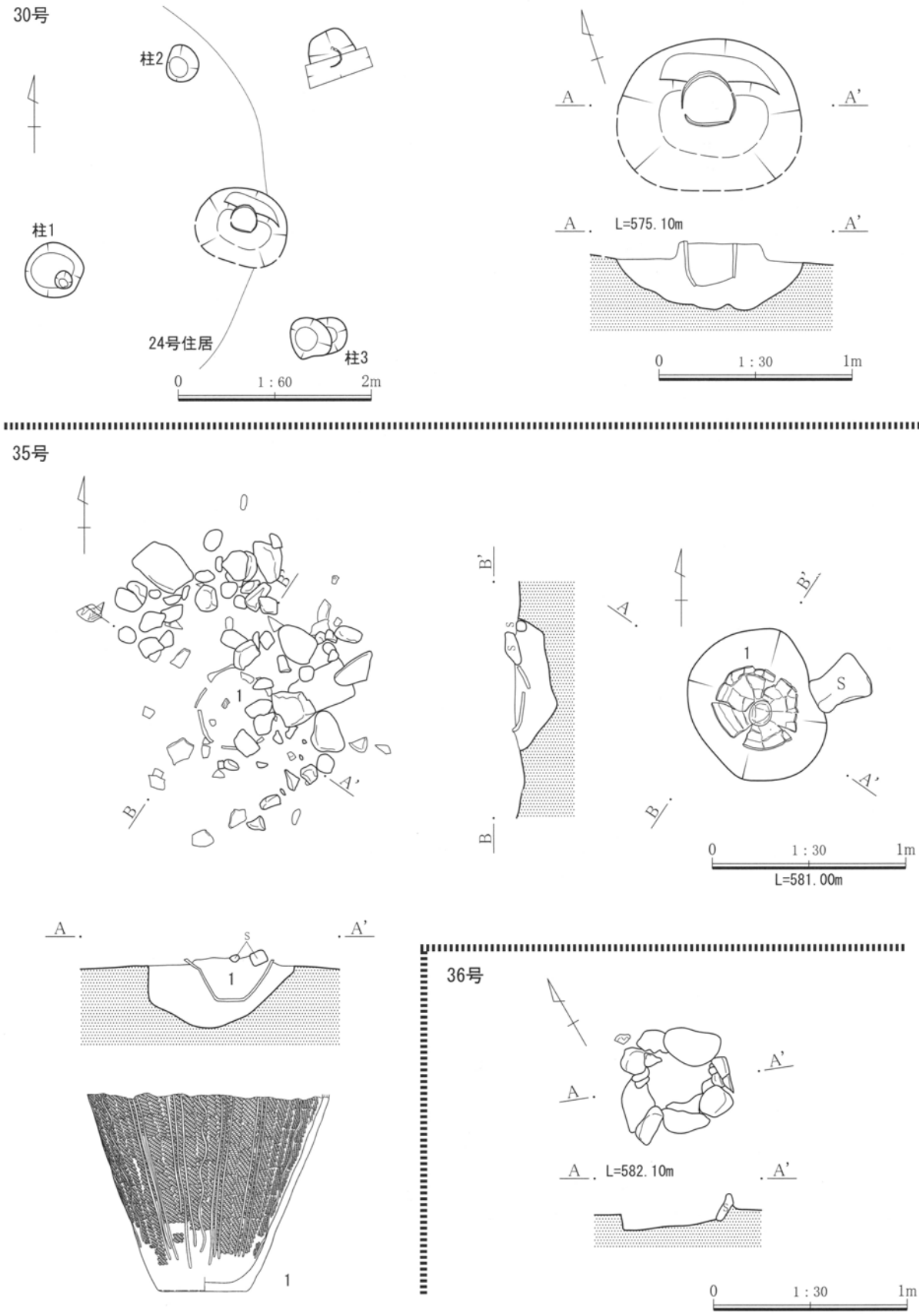
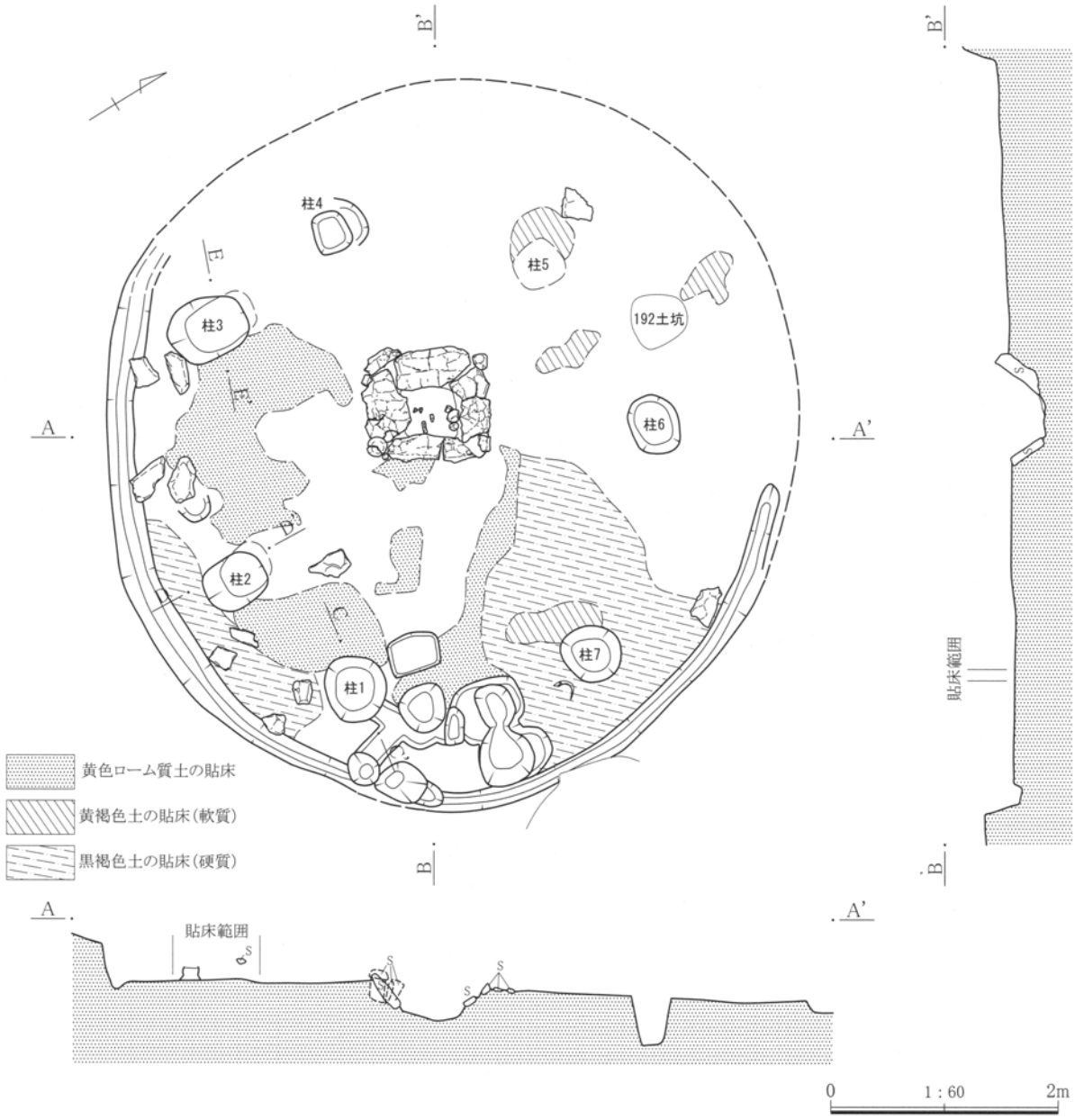


図20　20区　30号・35号・36号住居



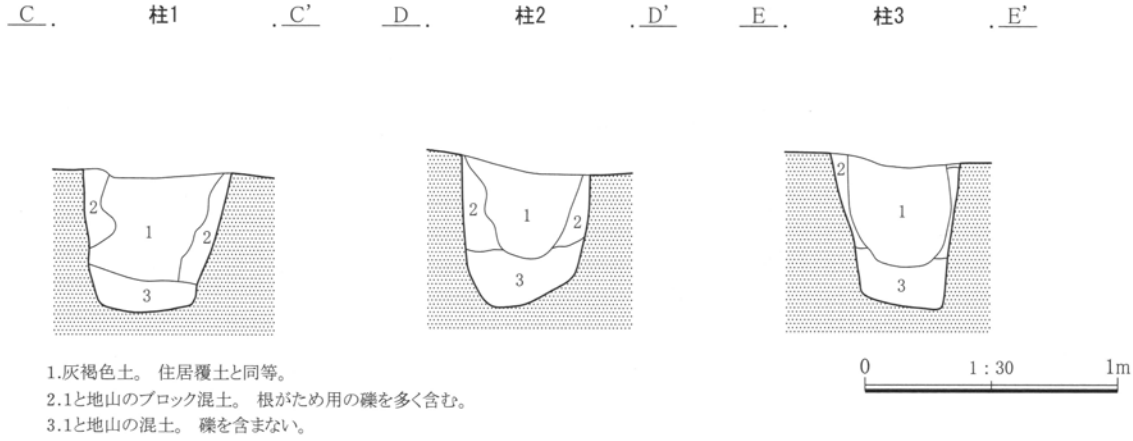


図21　20区　34号住居

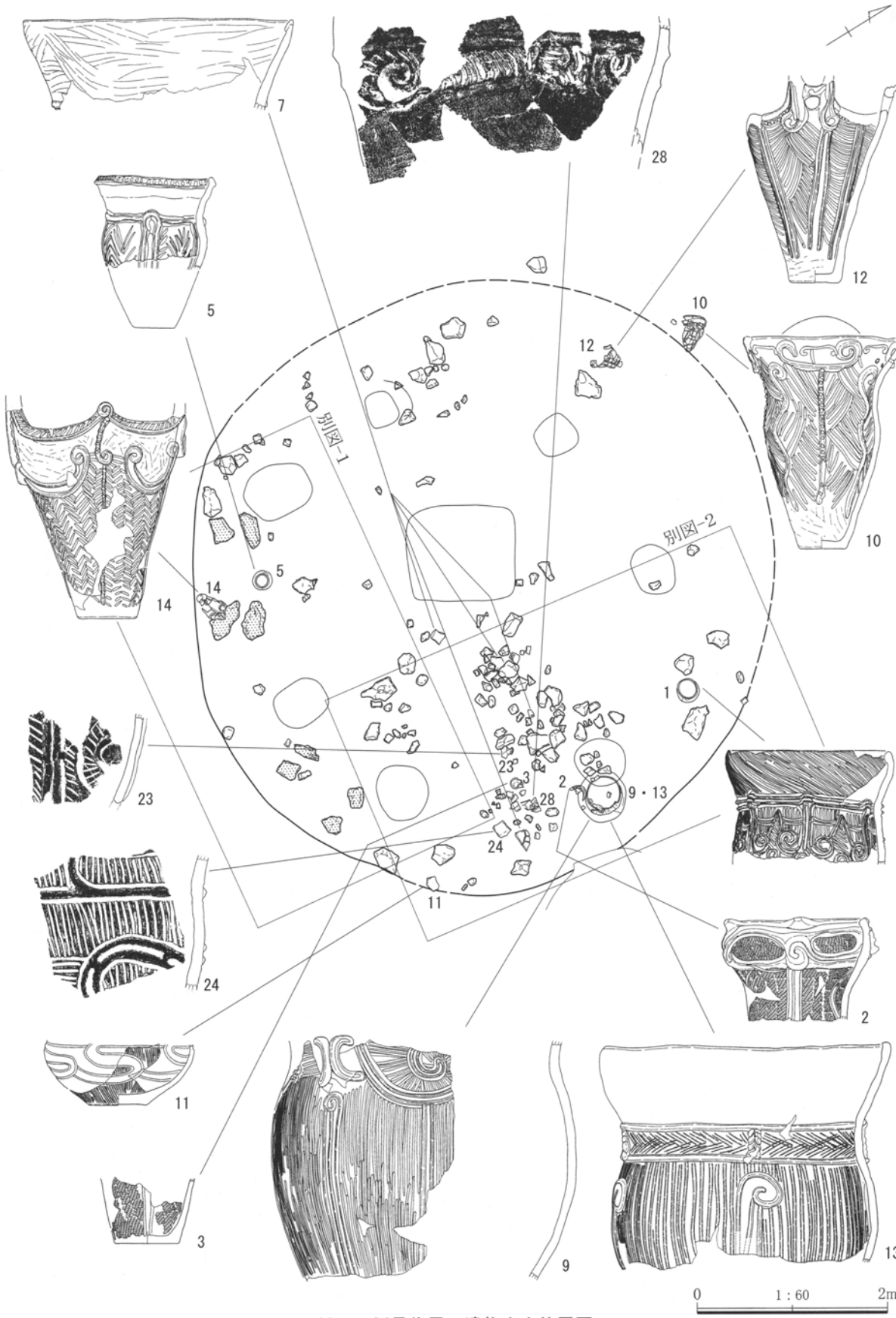


図22　20区　34号住居　遺物出土位置図

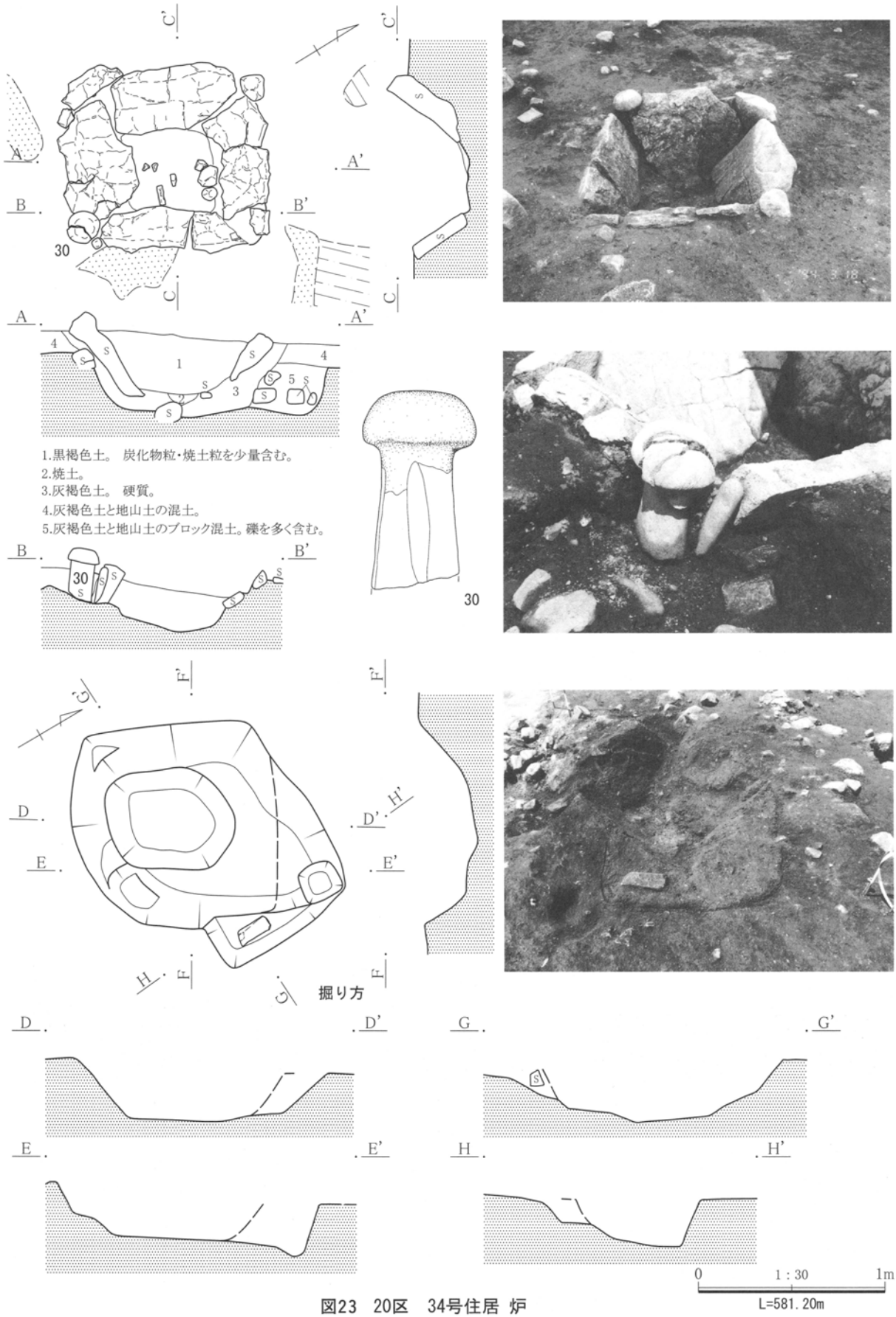
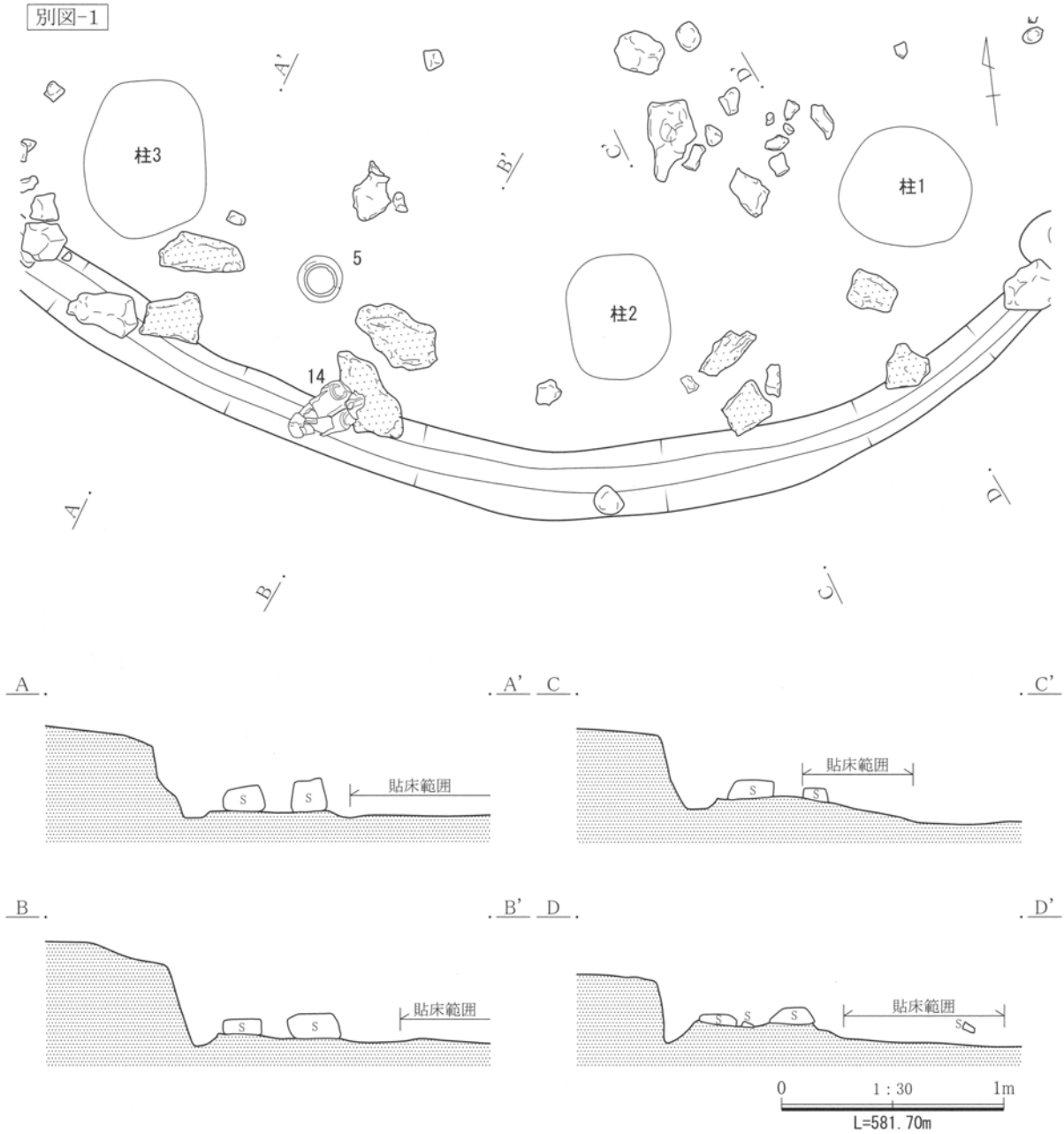


図23　20区　34号住居 炉

別図-1



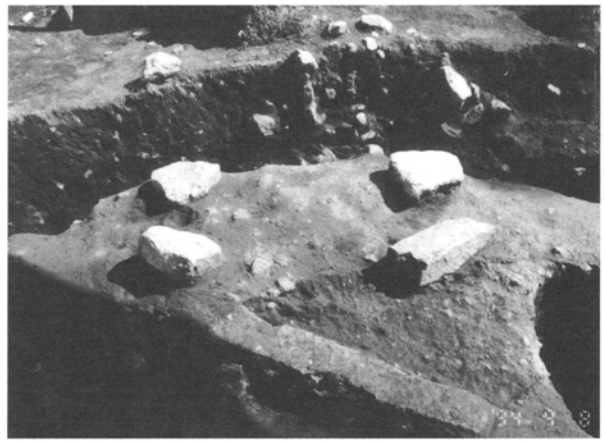
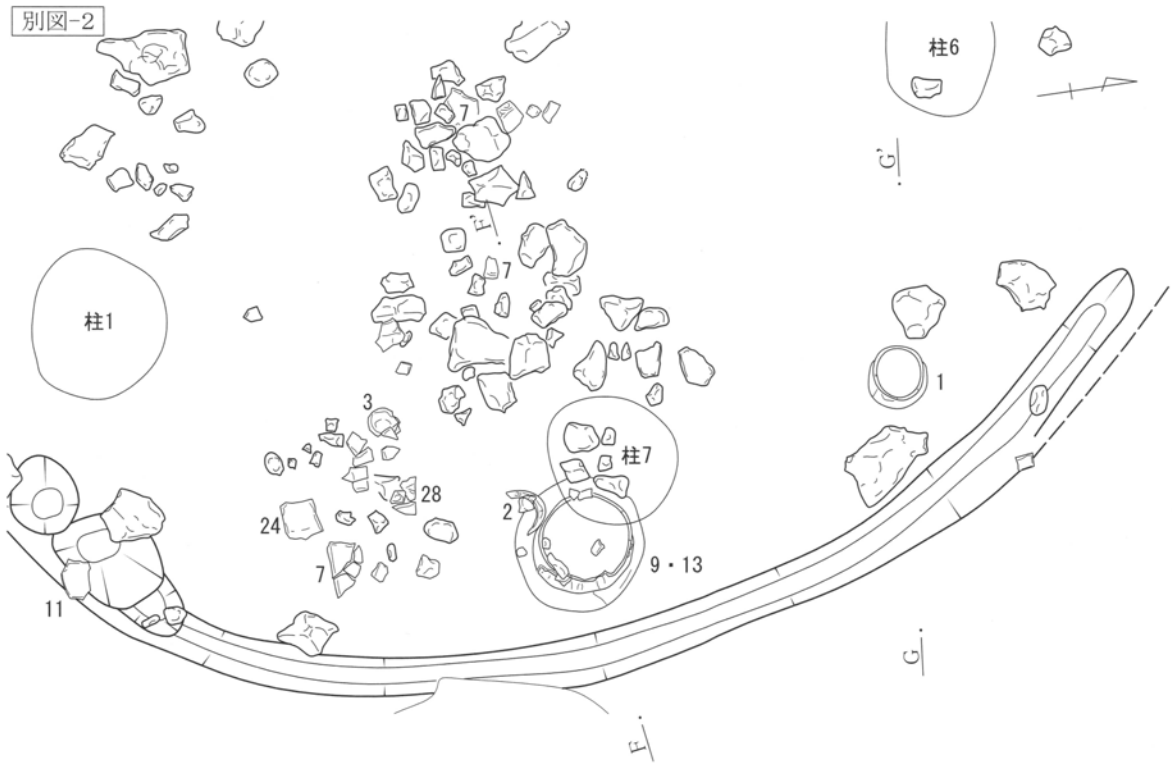


図24　20区　34号住居 配石と伏甕

別図-2



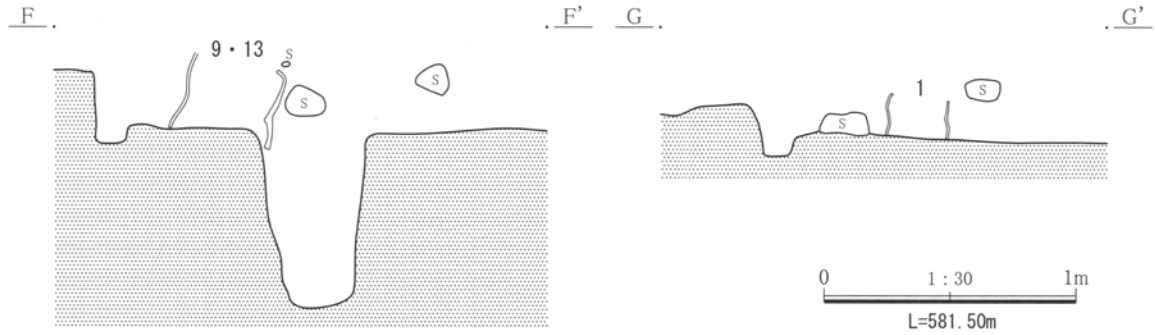


図25　20区　34号住居 配石・柱

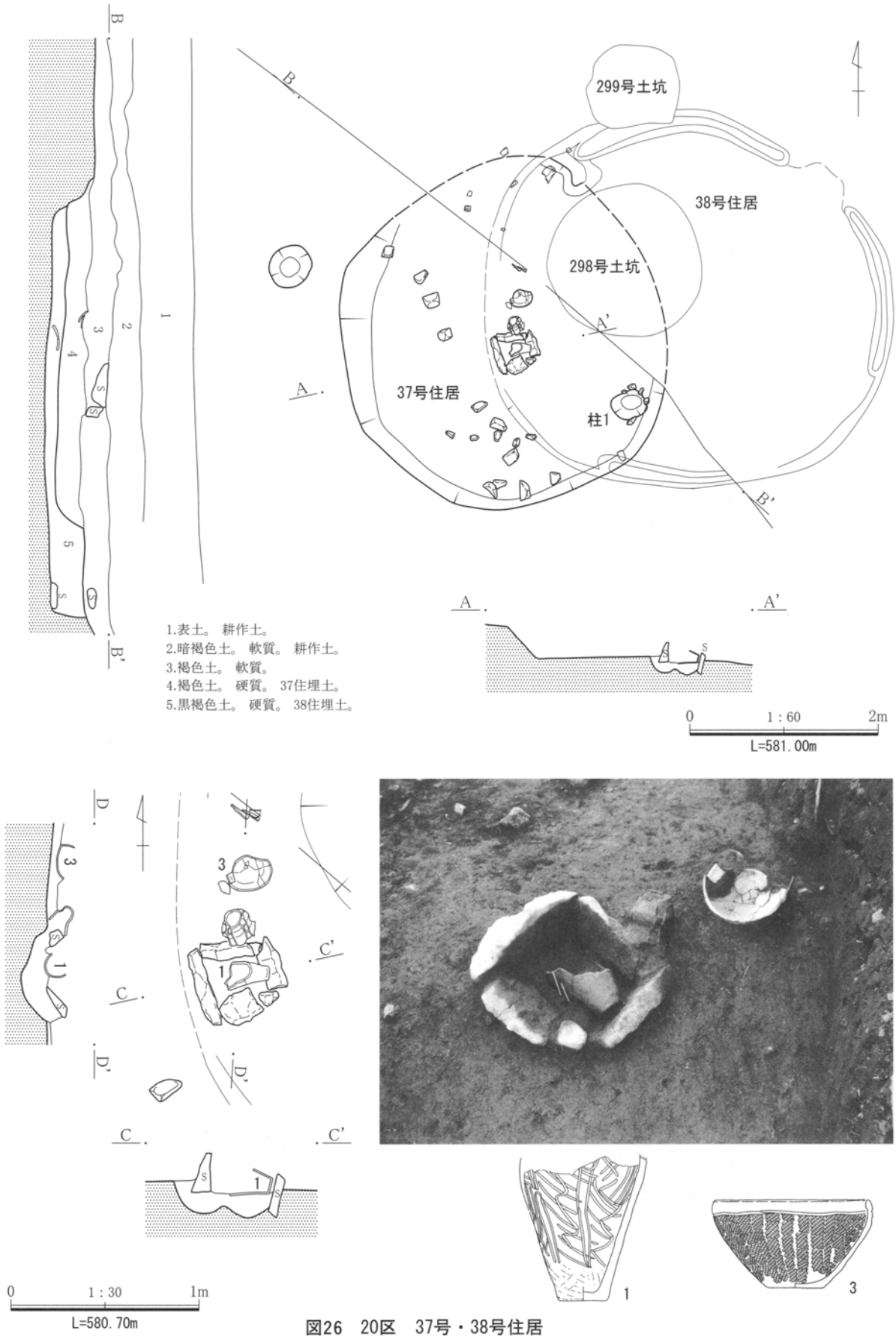
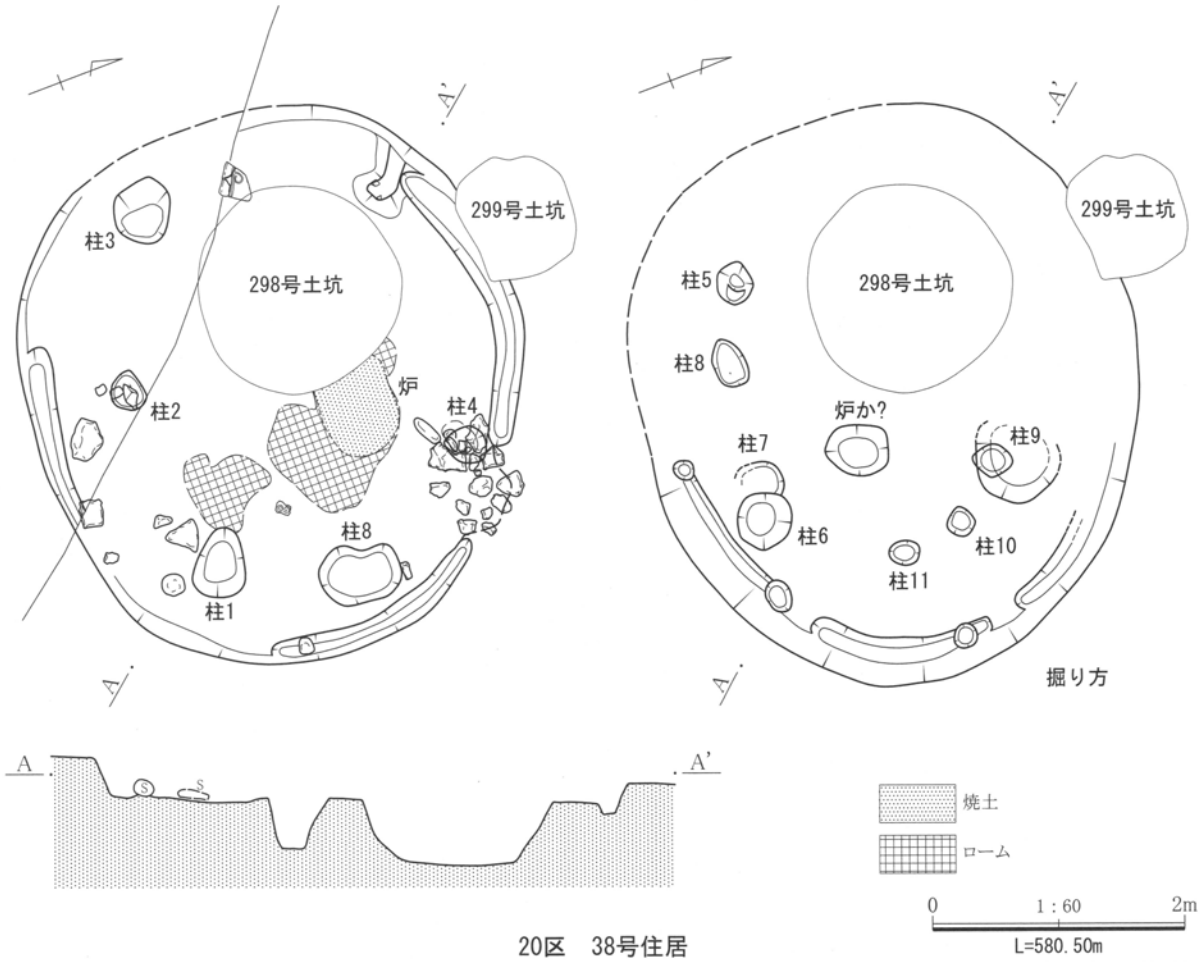


図26　20区　37号・38号住居



20区　38号住居

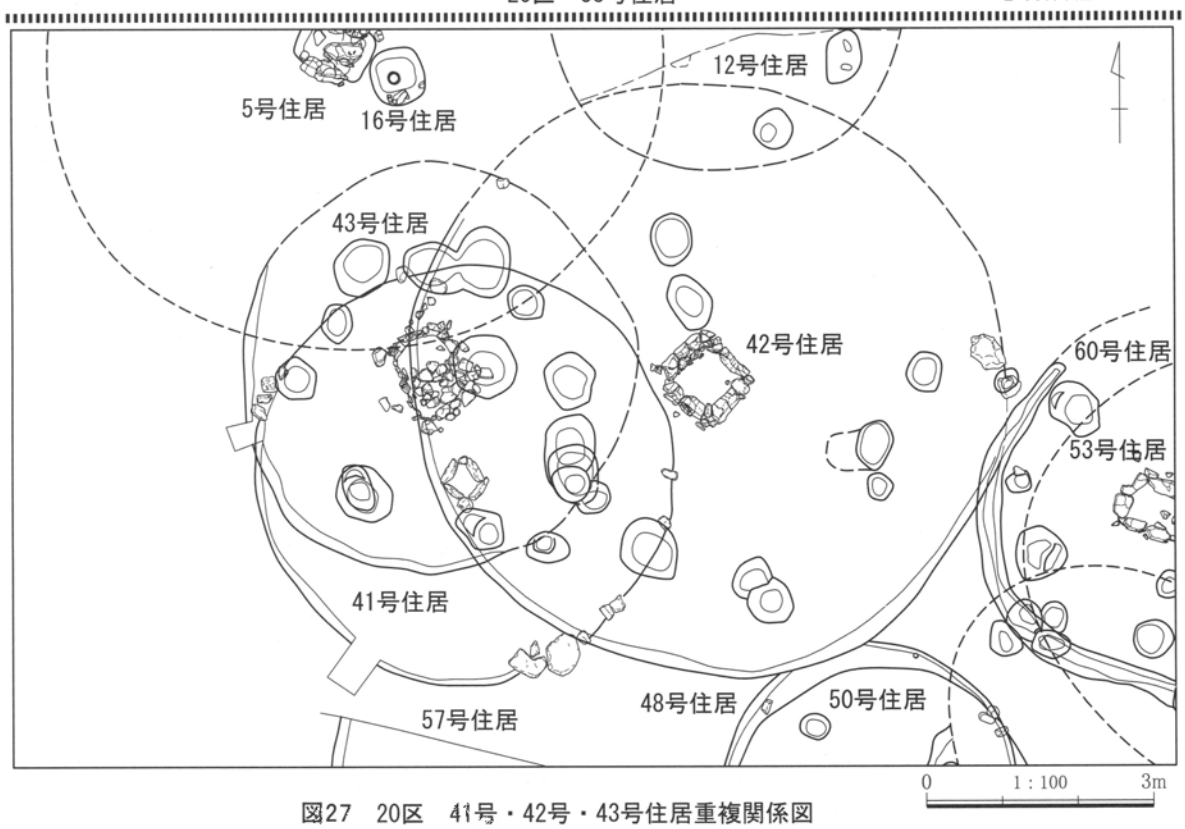


図27　20区　41号・42号・43号住居重複関係図

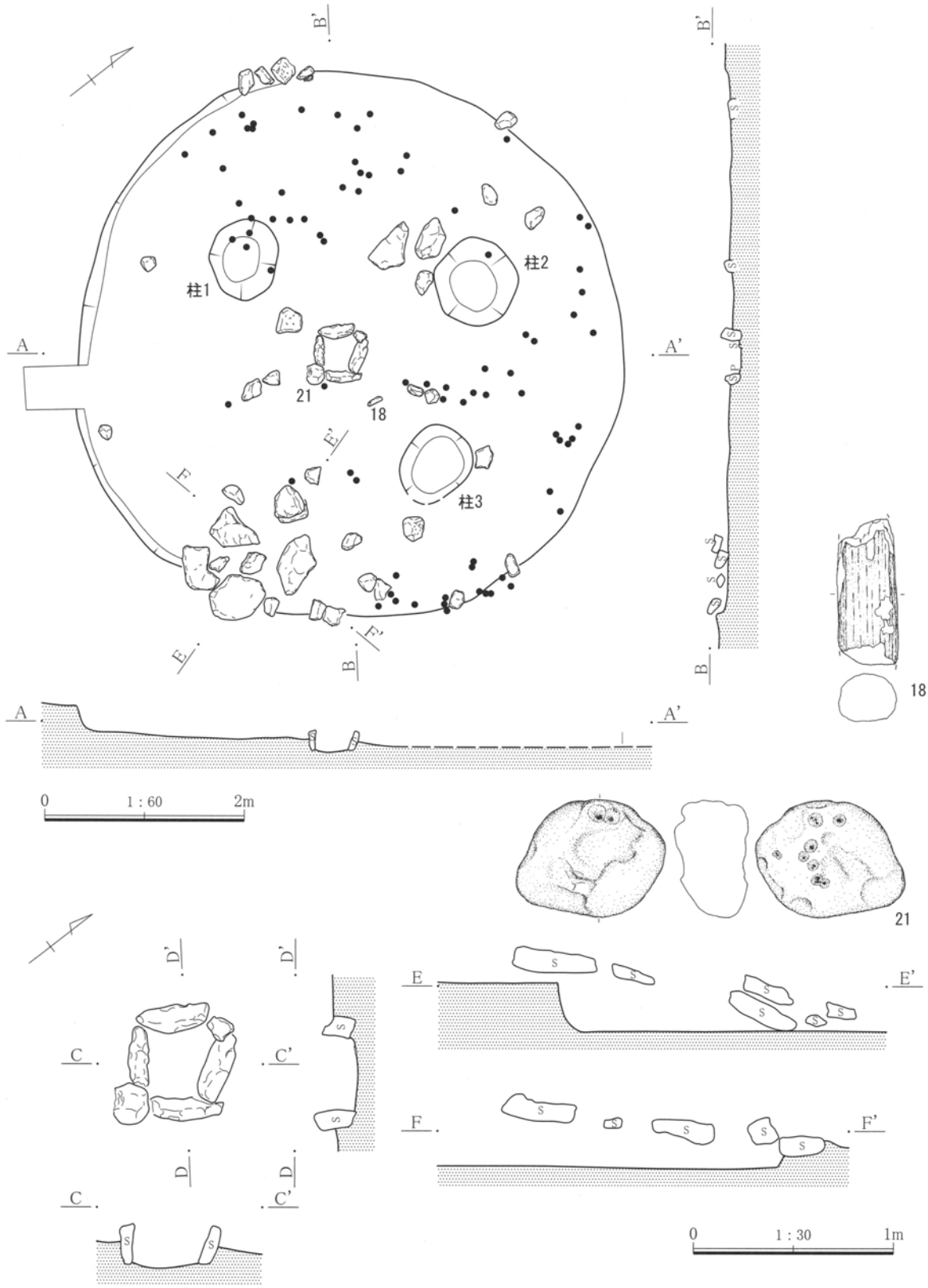


図28　20区　41号住居

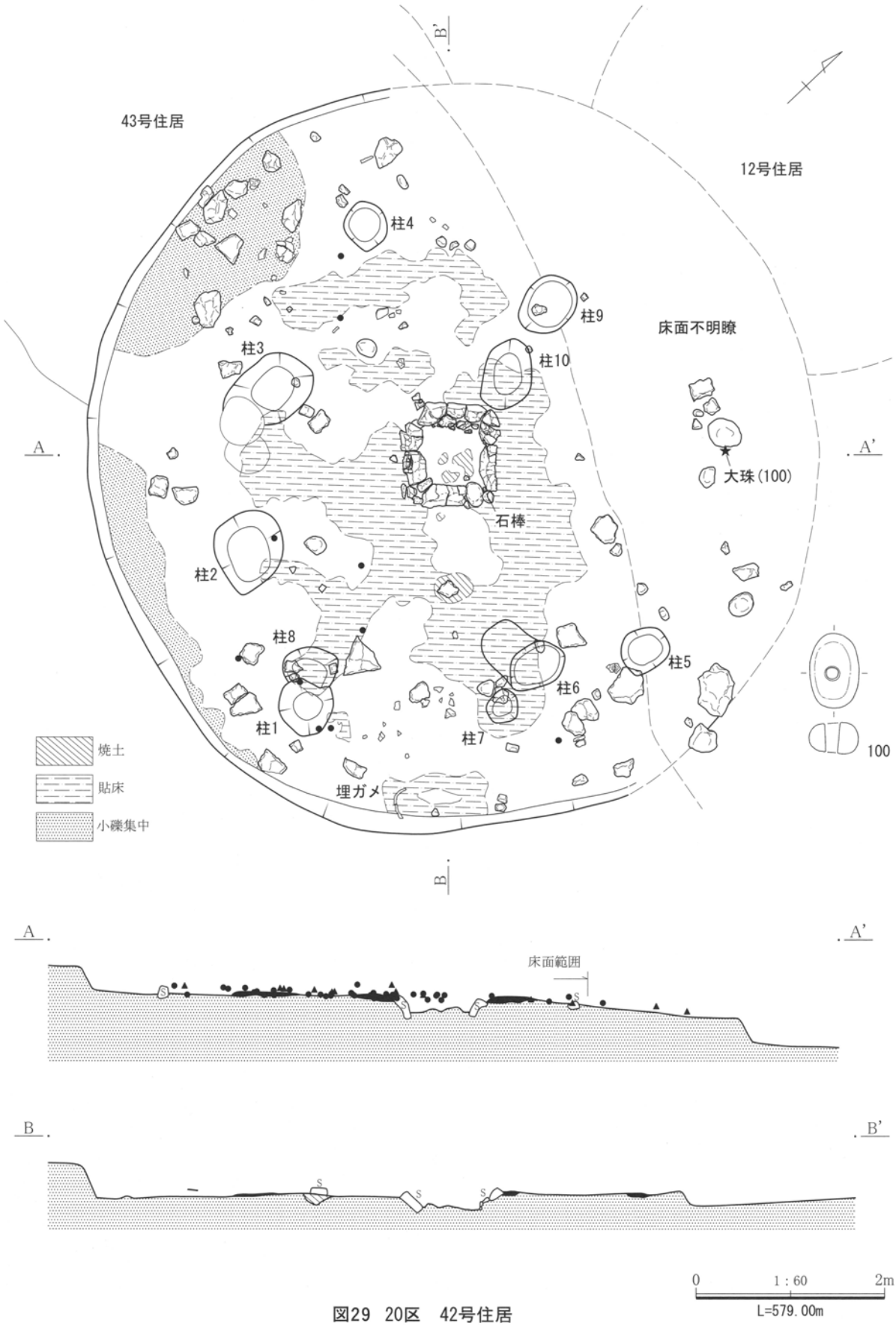


図29　20区　42号住居

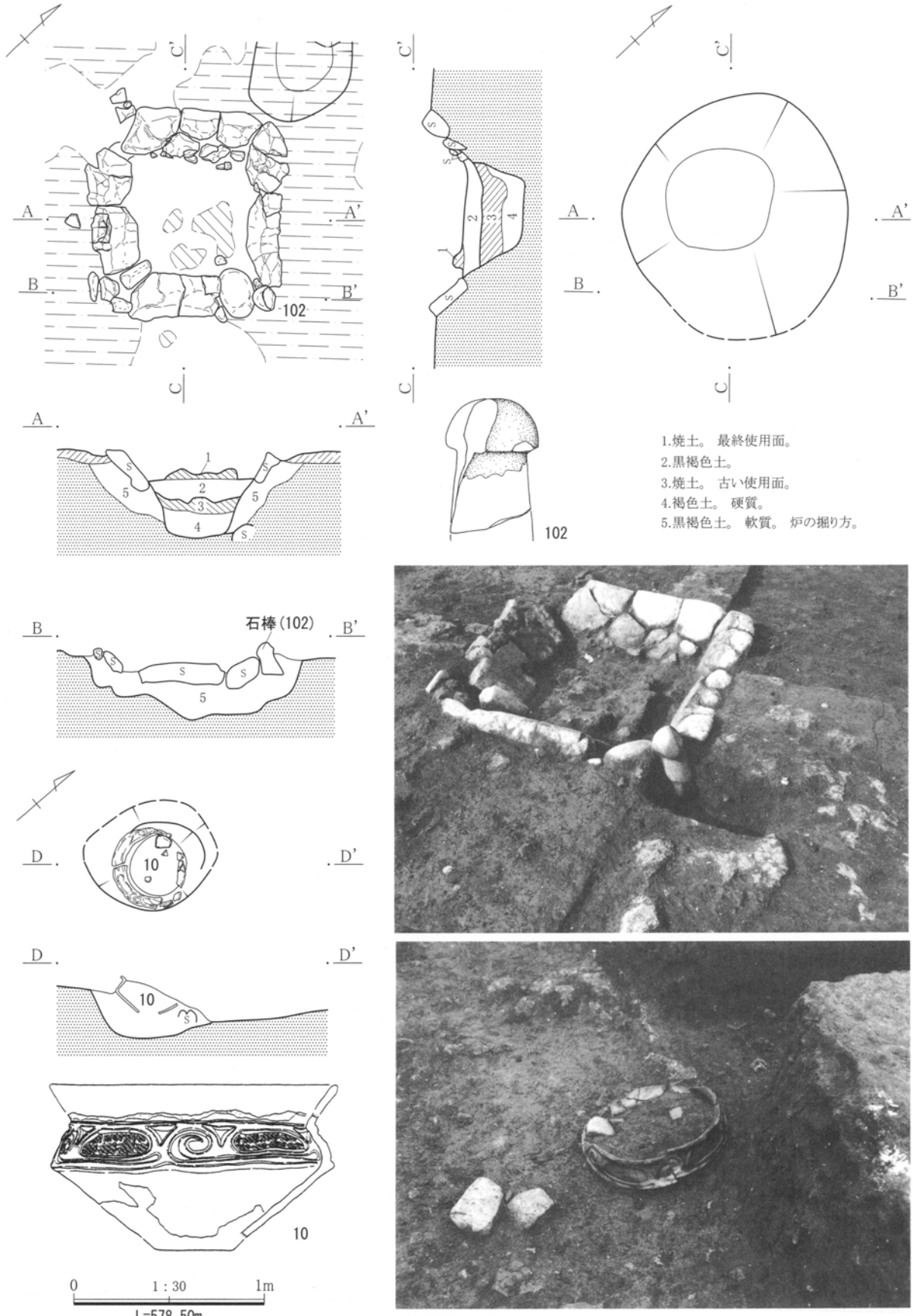


図30　20区　42号住居（ 炉・埋ガメ ）

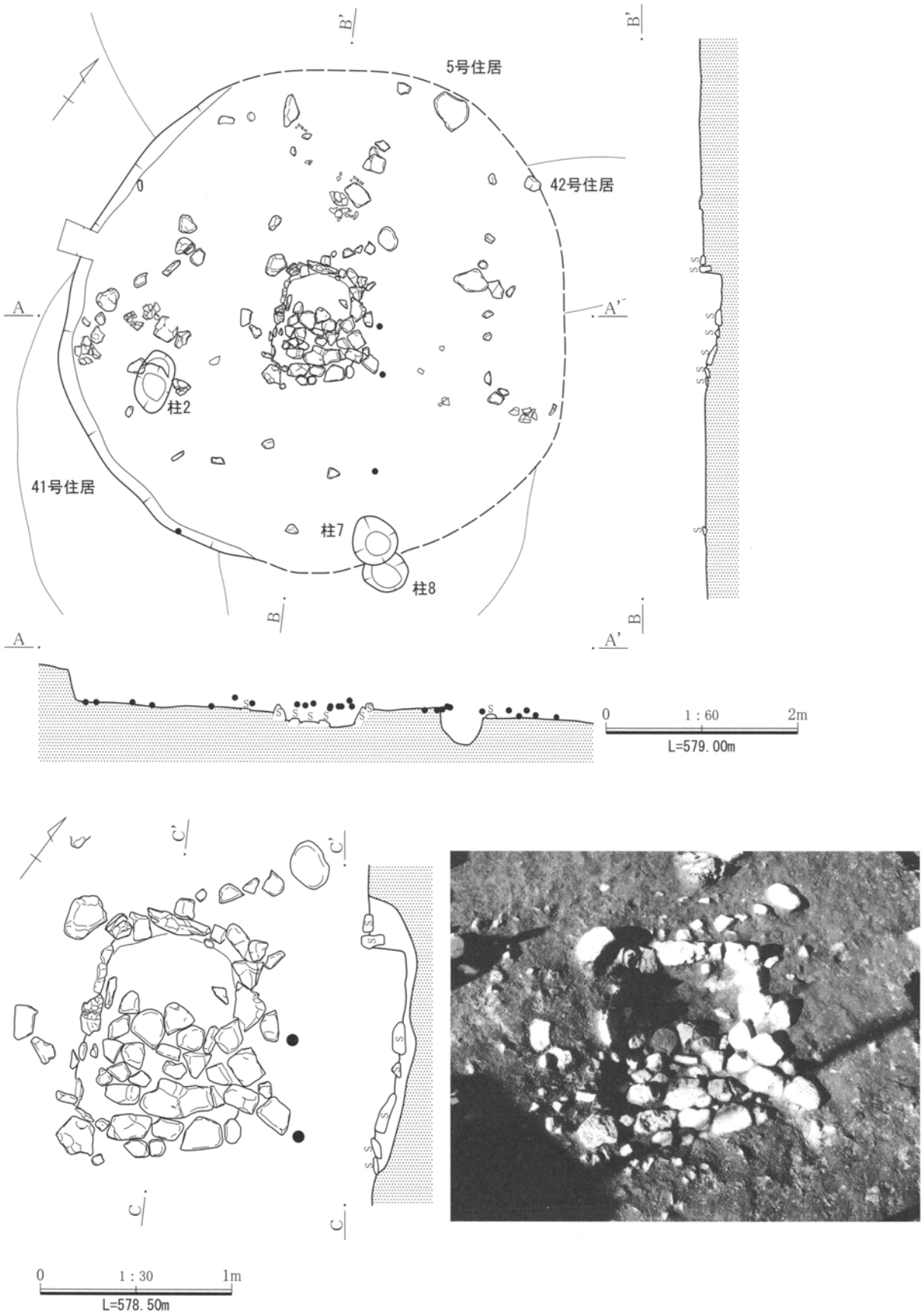


図31　20区　43号住居

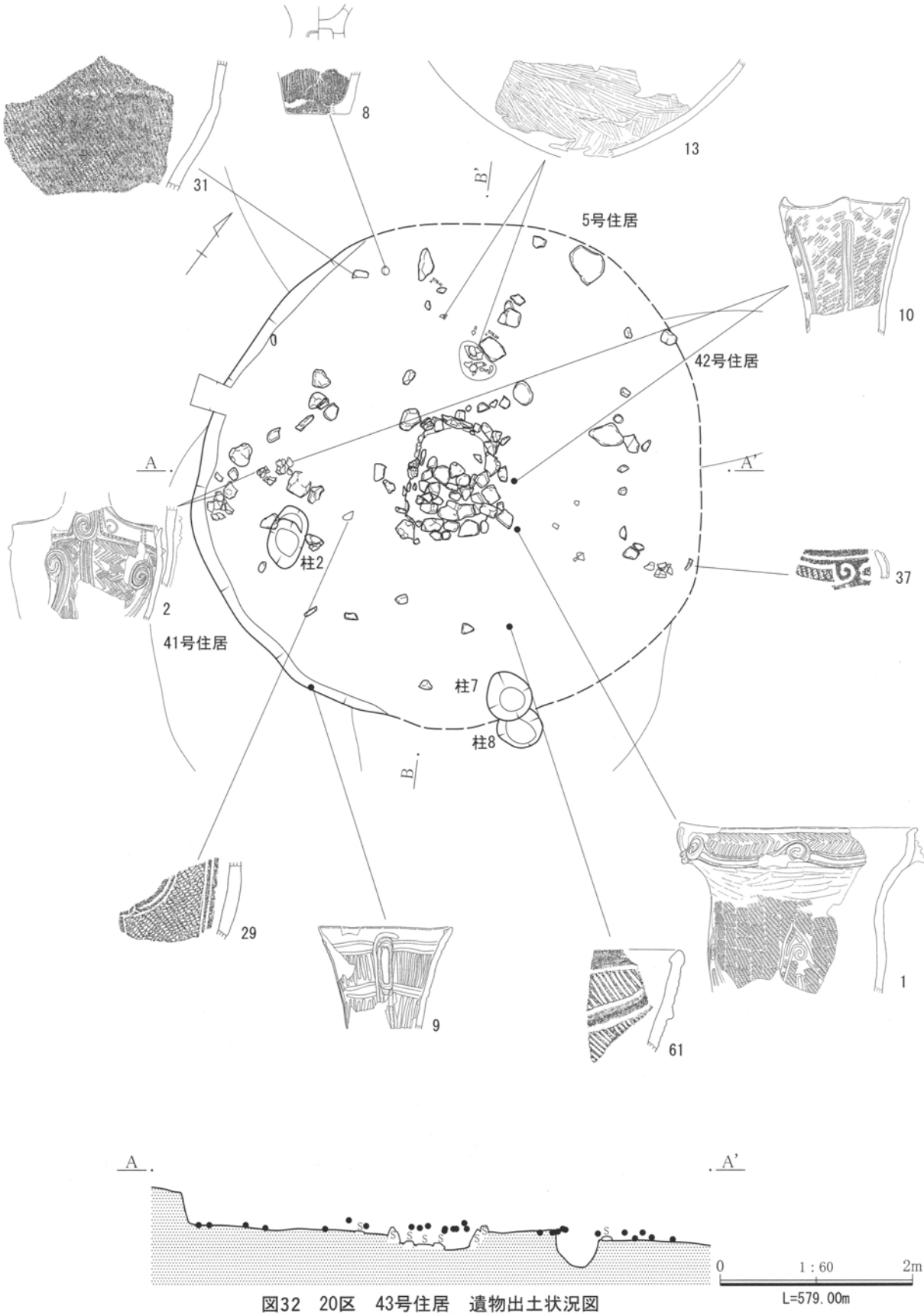


図32　20区　43号住居　遺物出土状況図

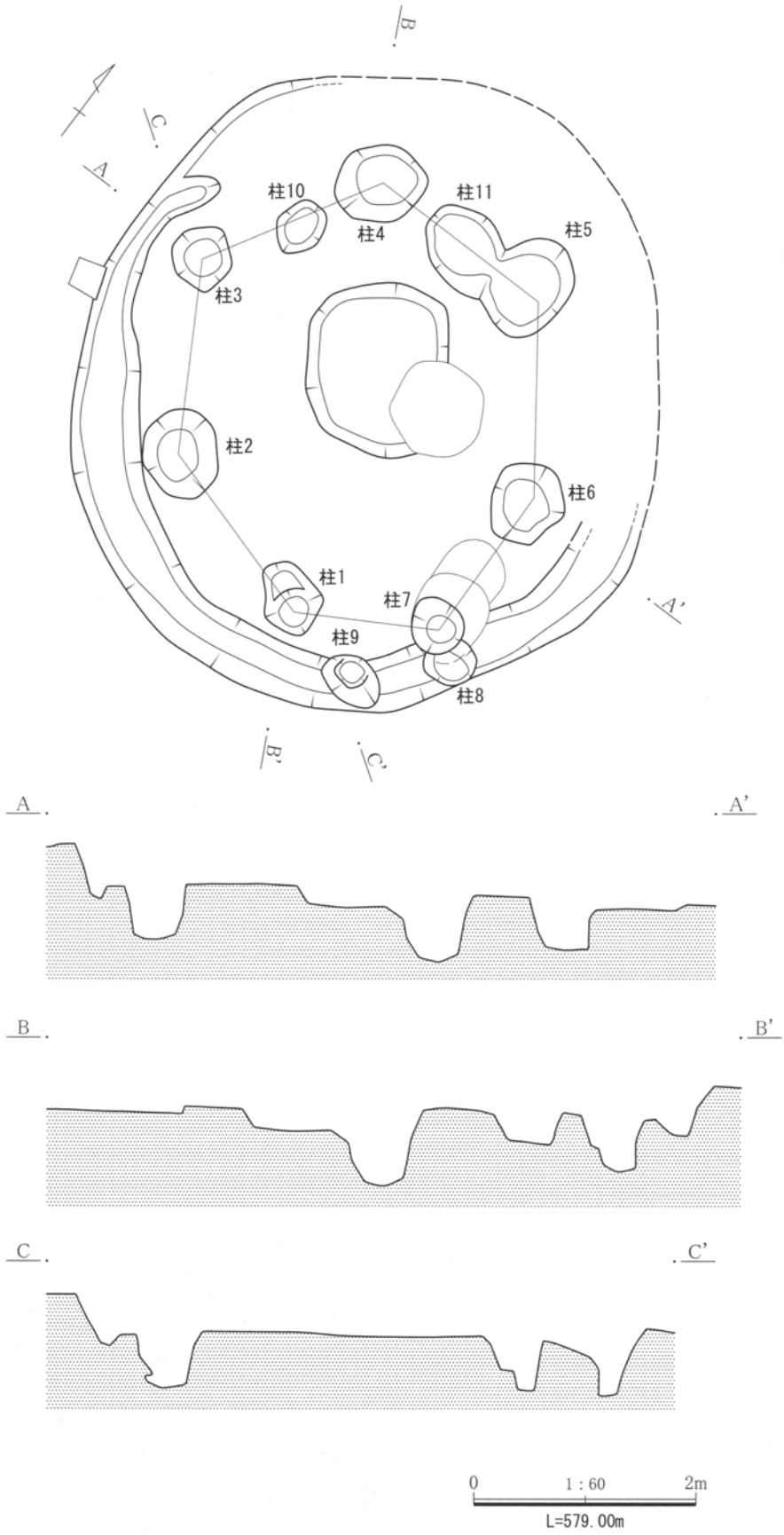


図33　20区　43号号住居　（ 掘り方 ）

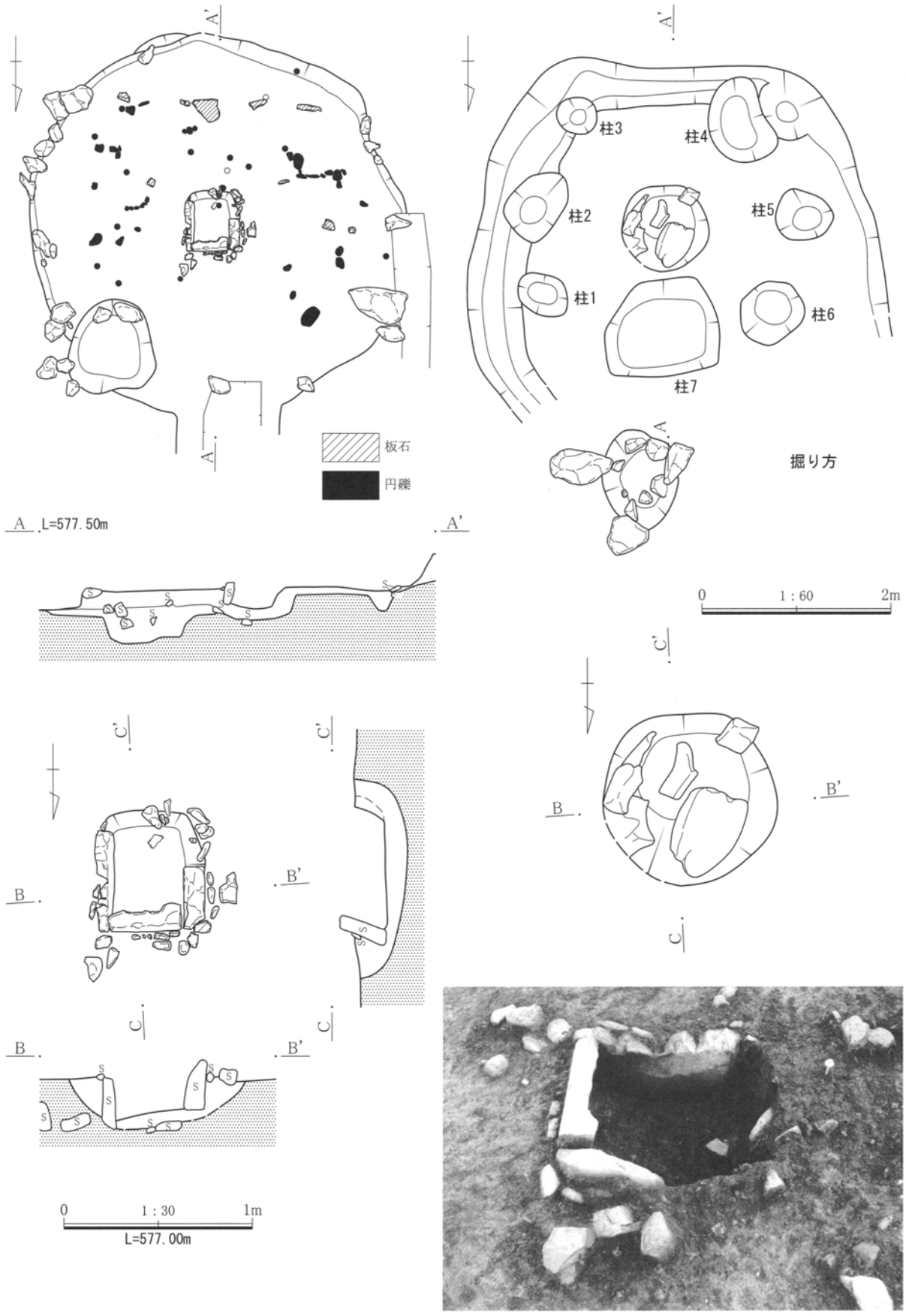


図34　20区　44号住居

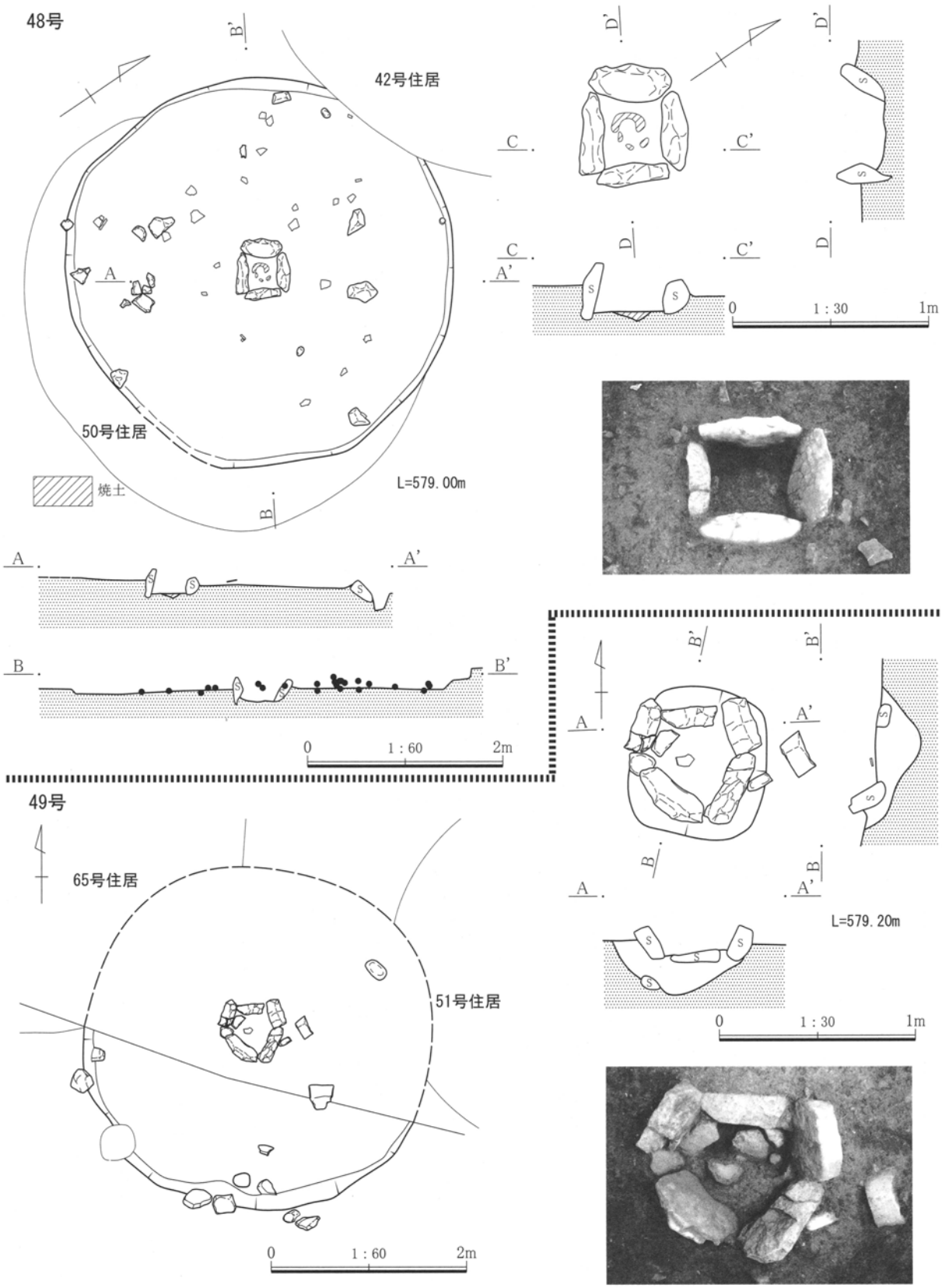
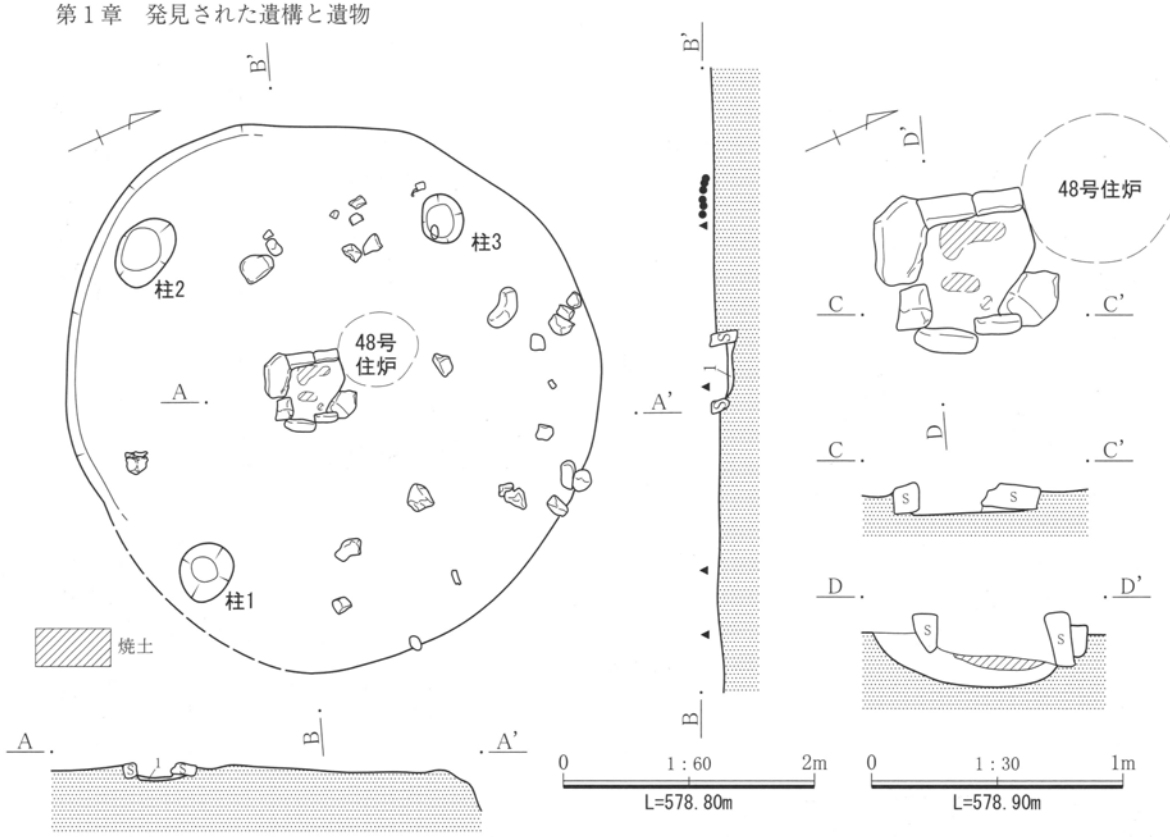


図35　20区　48号・49号住居



20区　50号住居

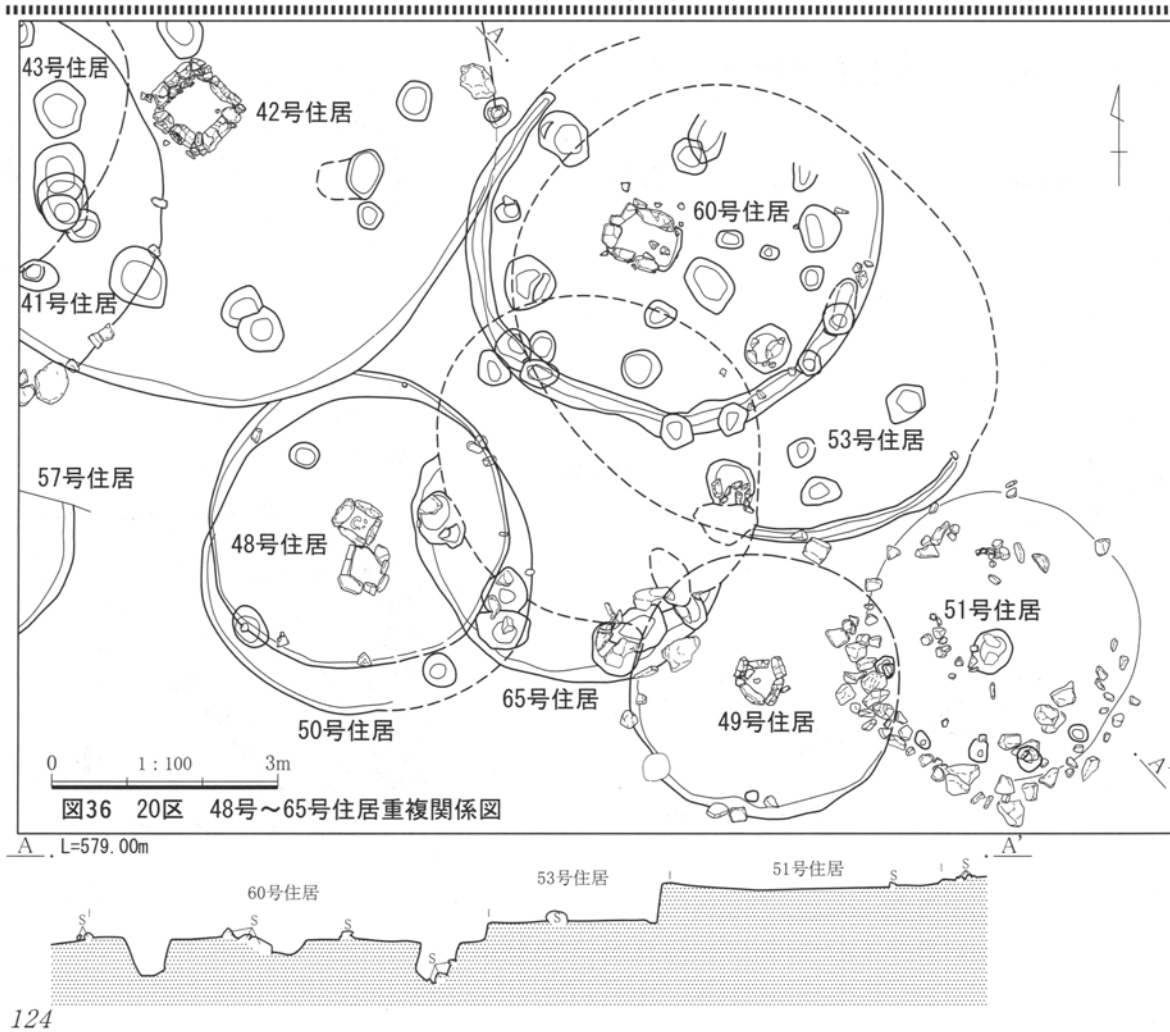
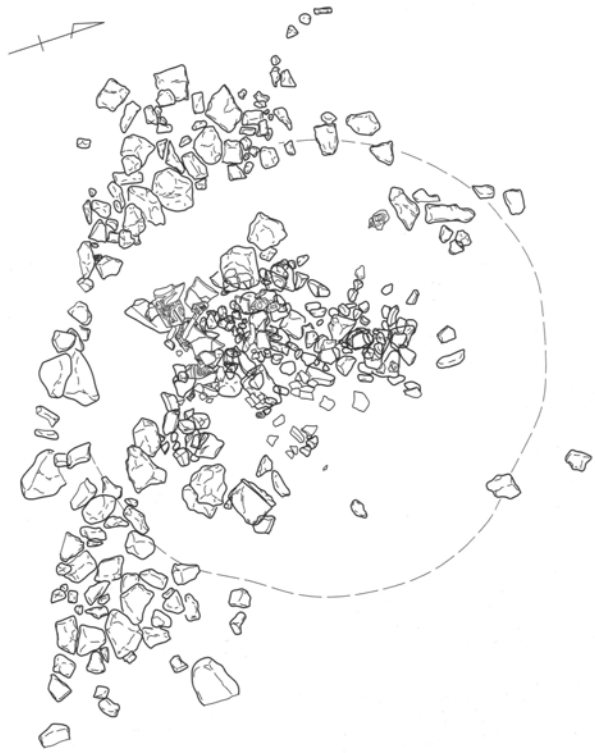


図36　20区　48号～65号住居重複関係図



20区　51号住居遺物出土状況図

0　1：60　2m

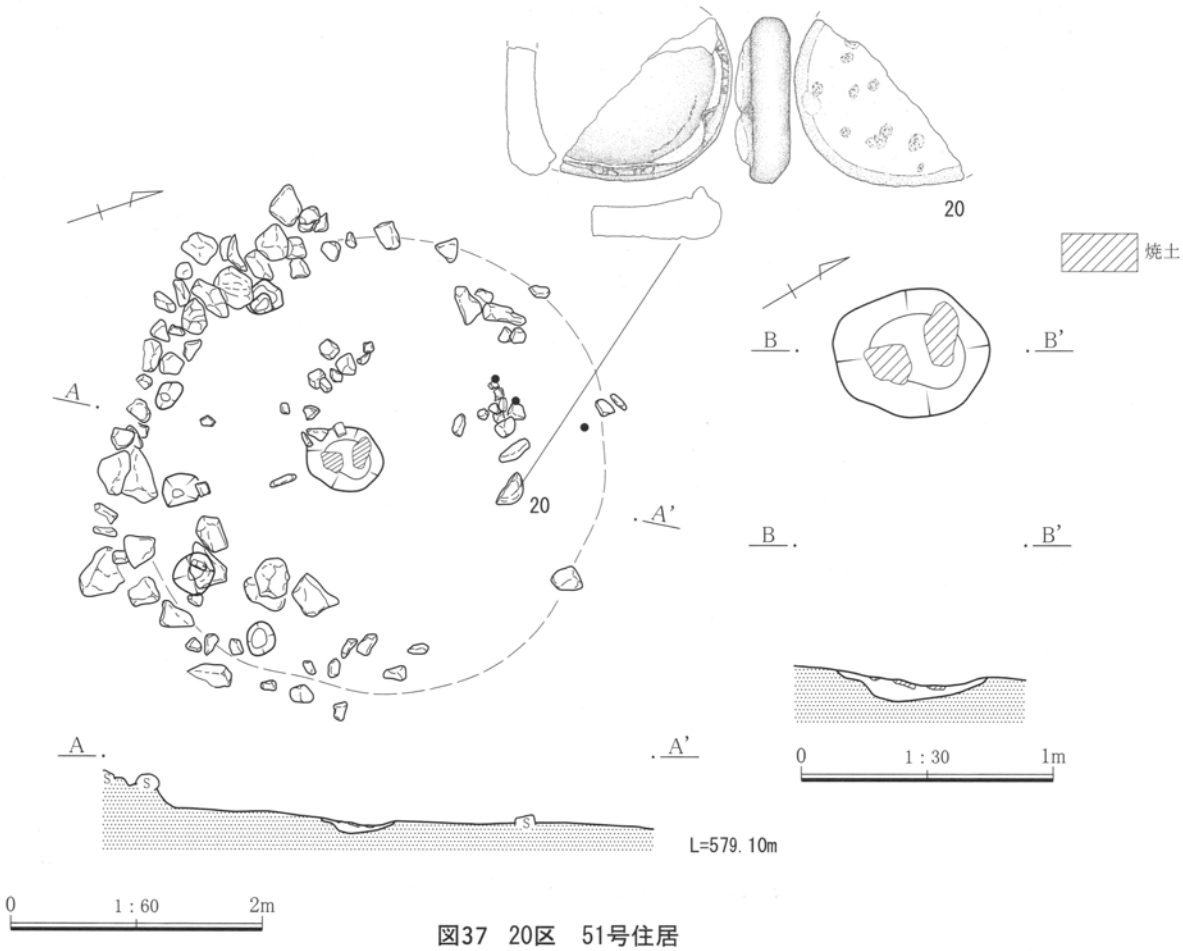


図37　20区　51号住居

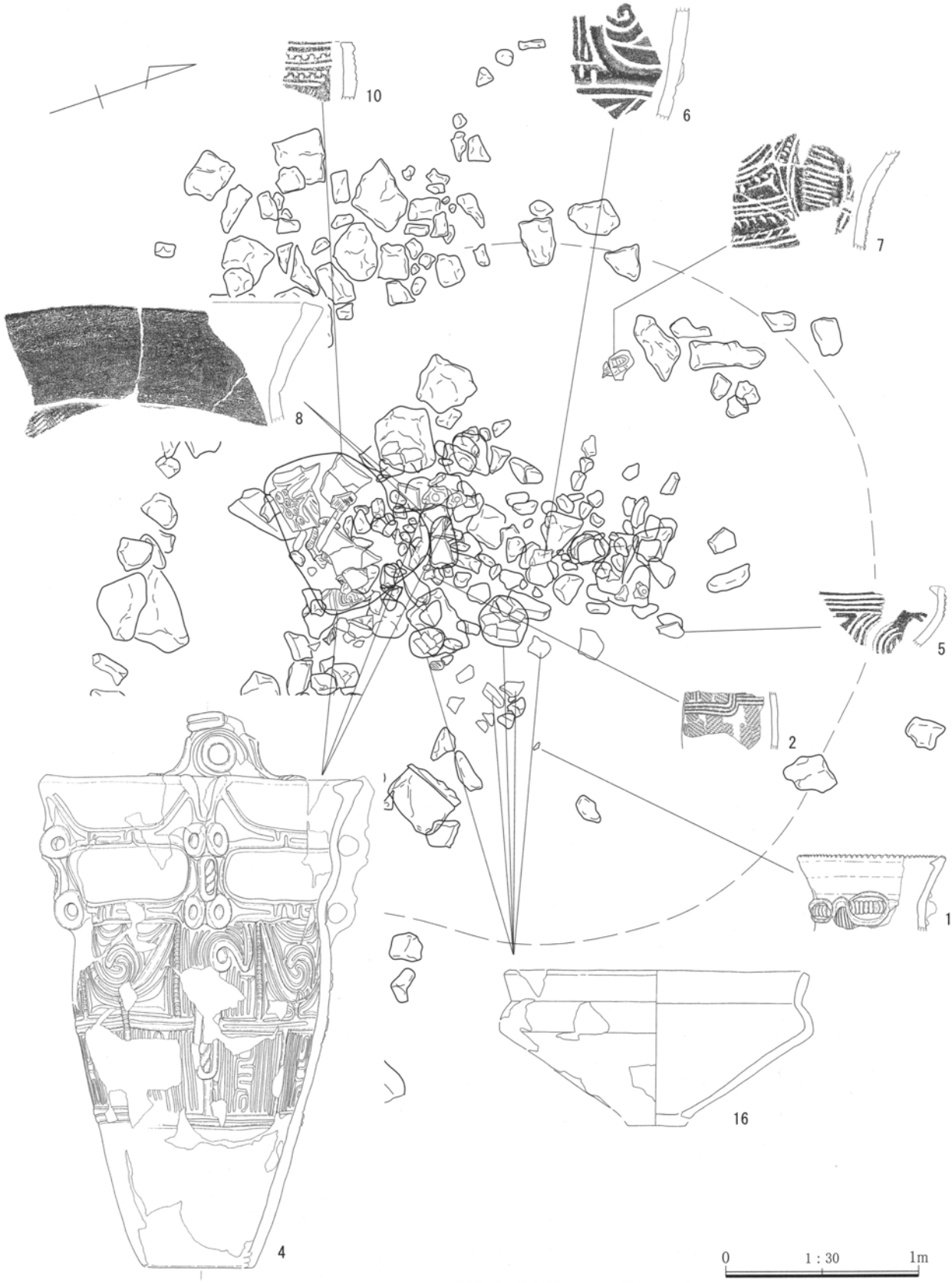
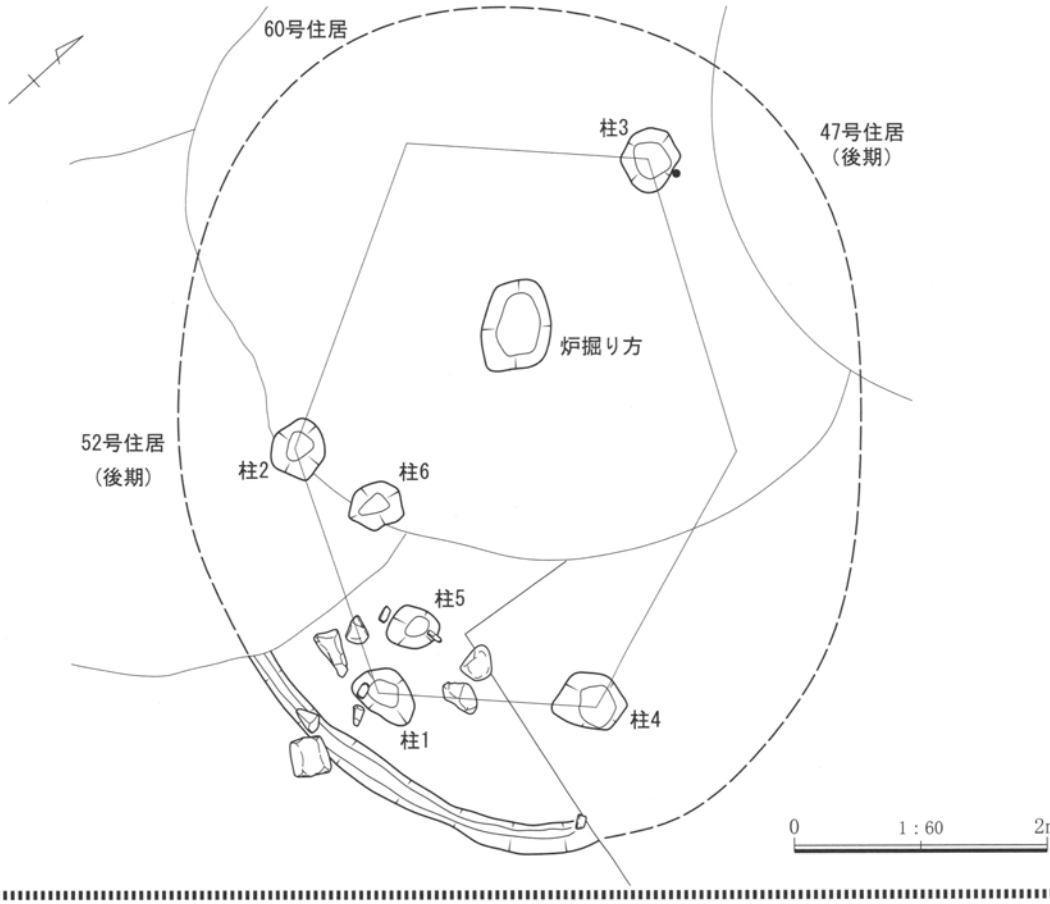


図38　20区　51号住居　遺物出土状況図

53号



54号

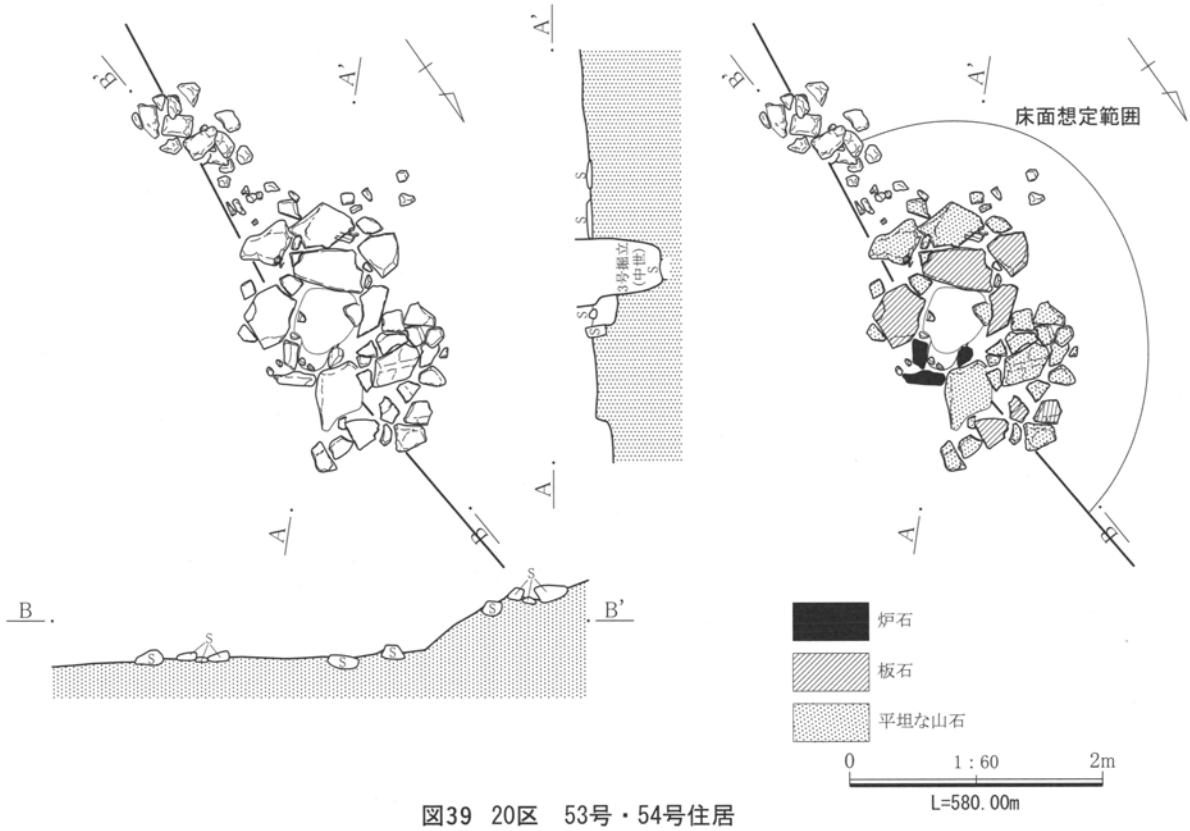
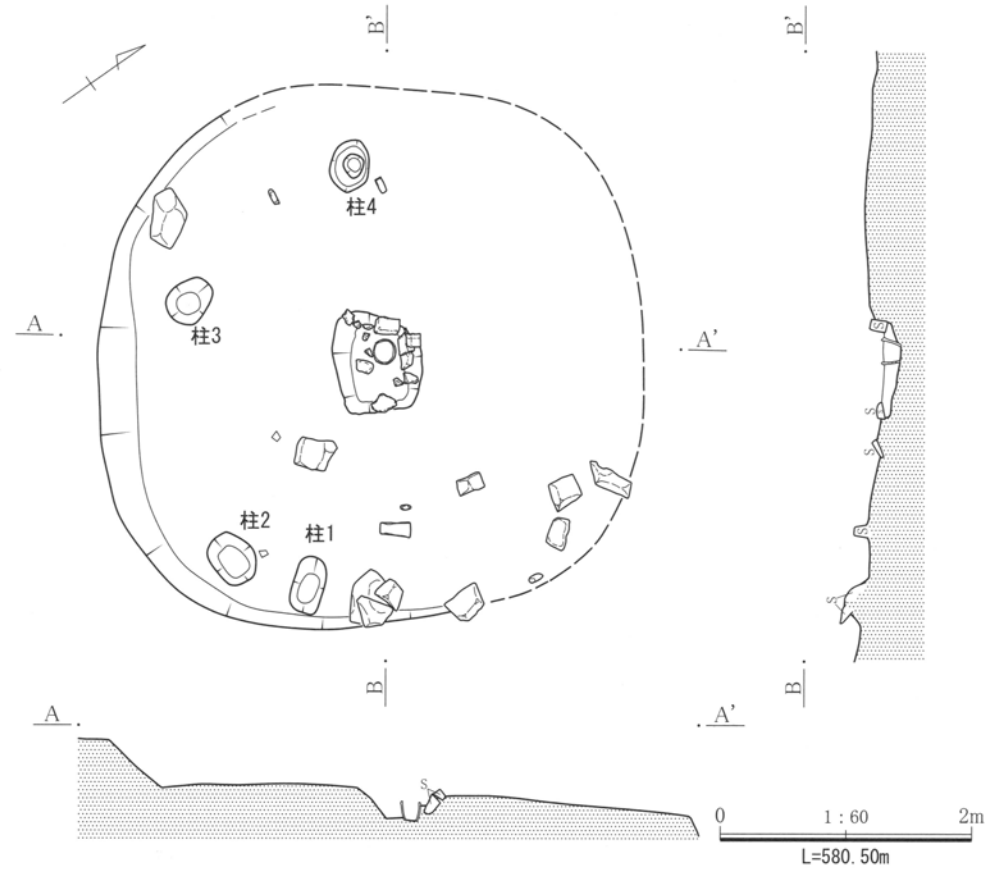


図39　20区　53号・54号住居



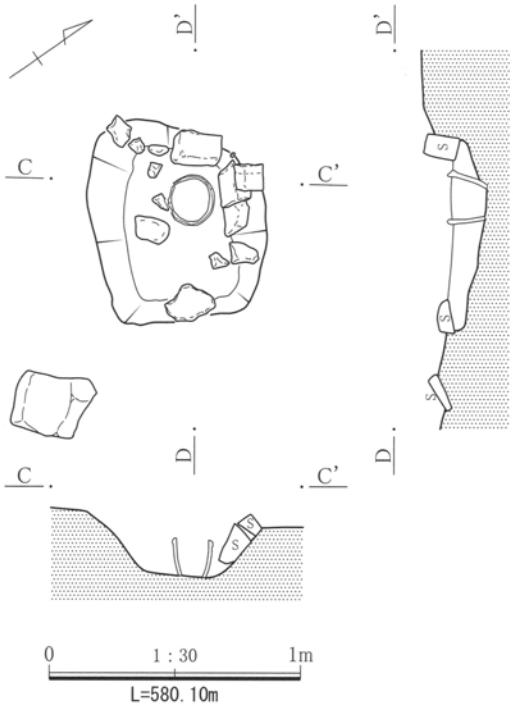


図40　20区　55号住居

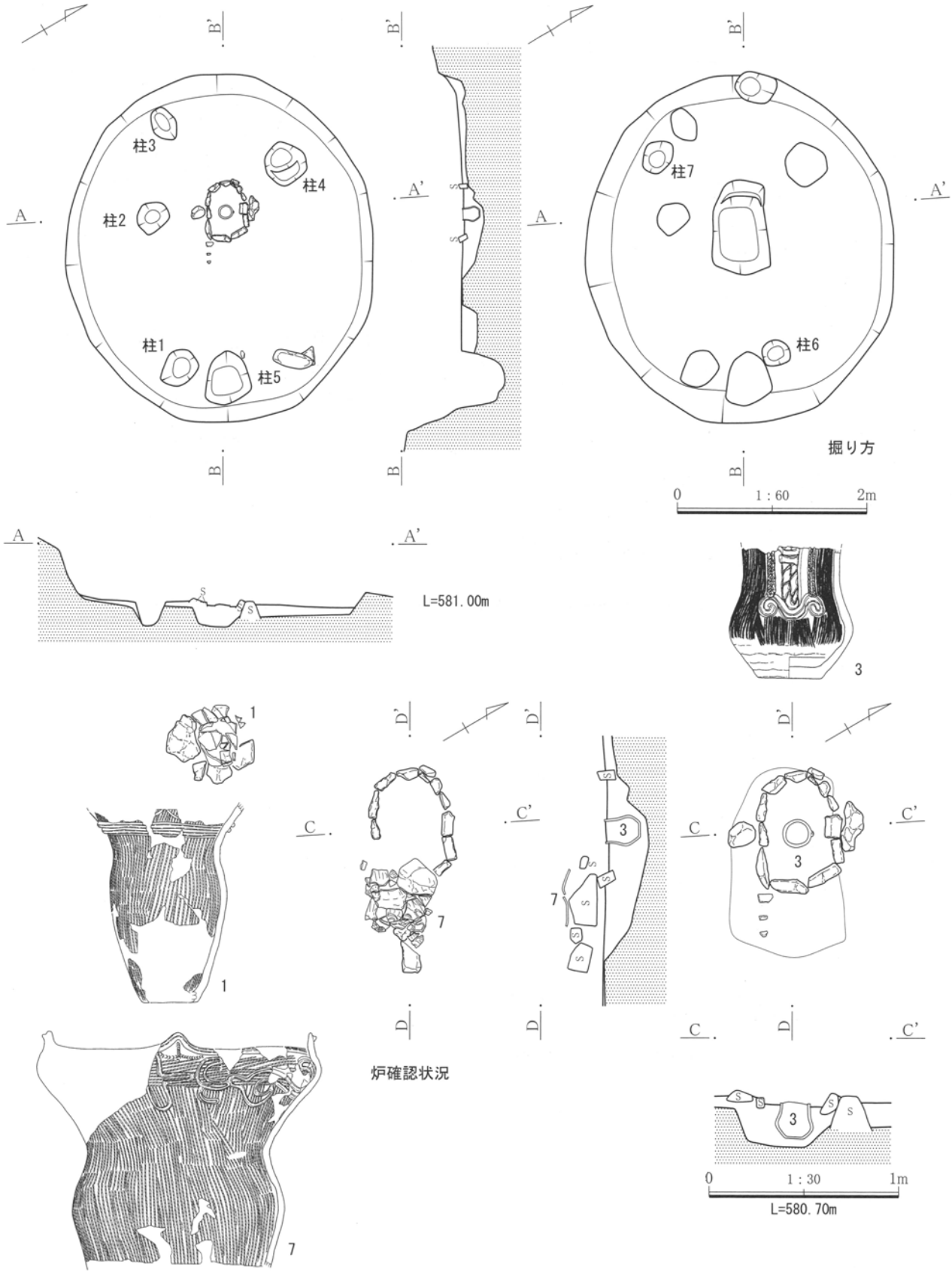
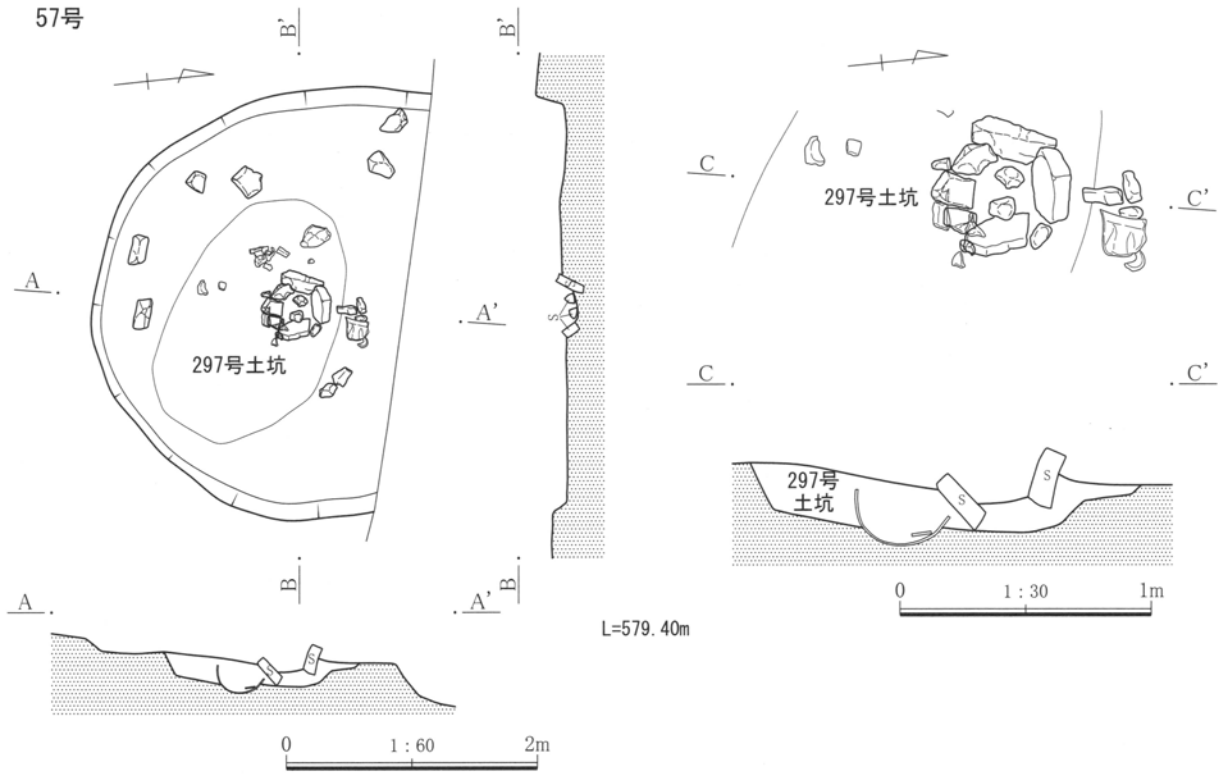


図41　20区　56号住居



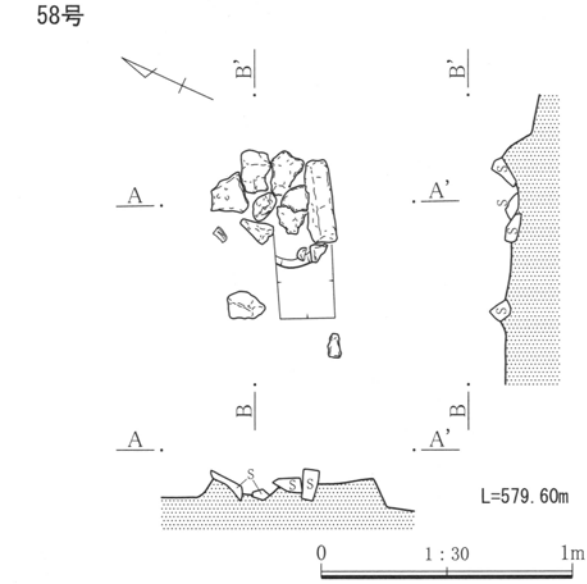


図42　20区　57号・58号住居

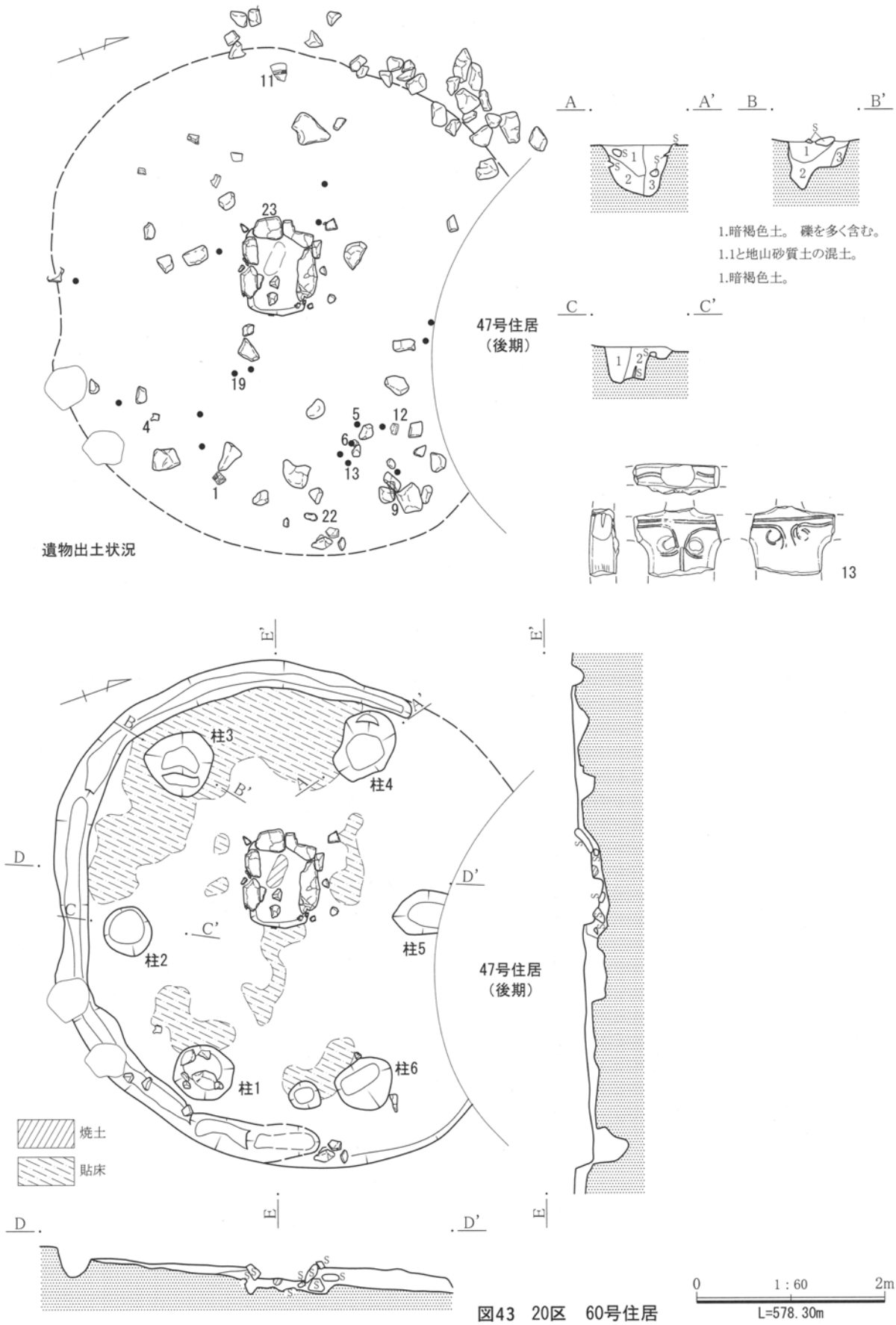


図43　20区　60号住居

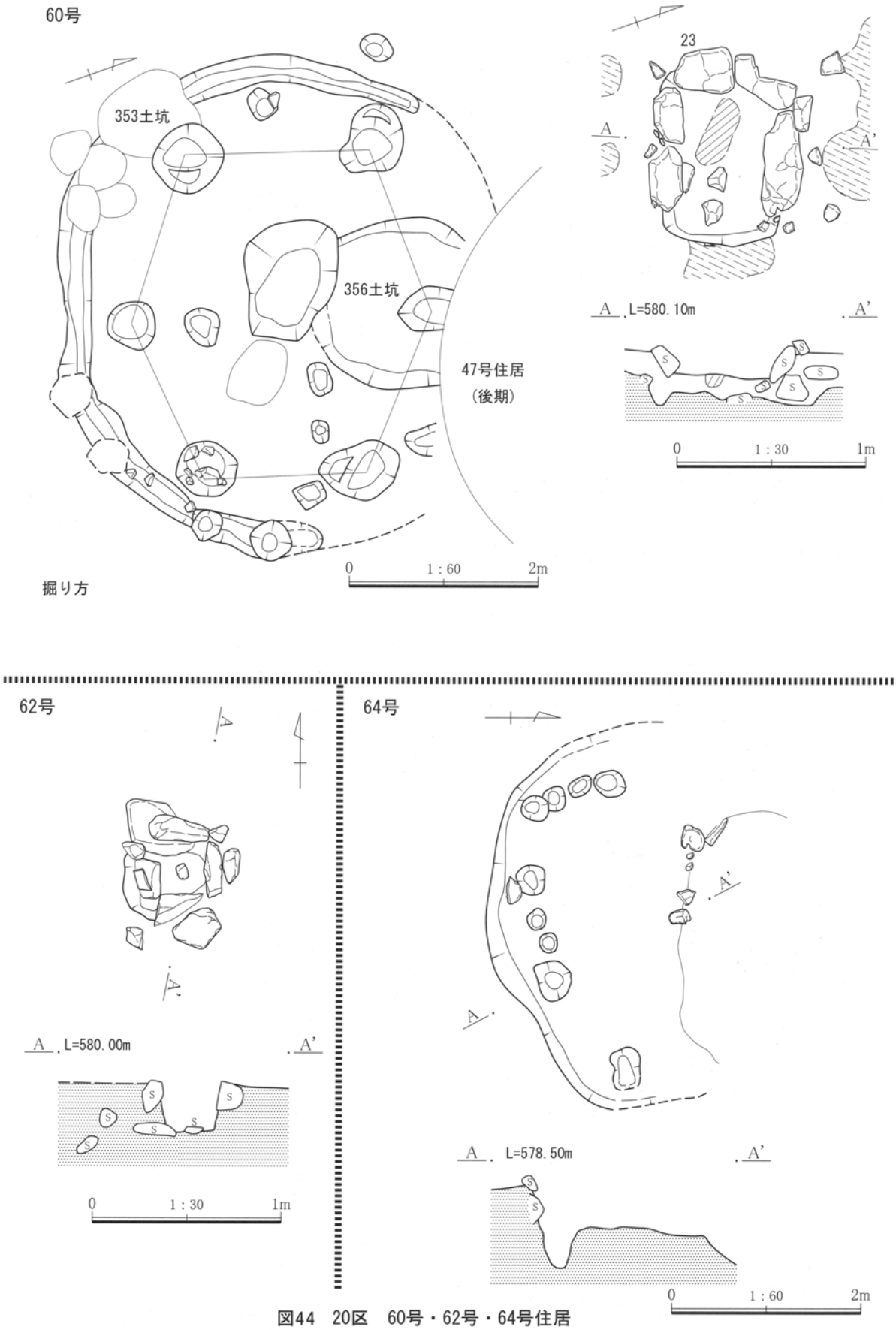


図44　20区　60号・62号・64号住居

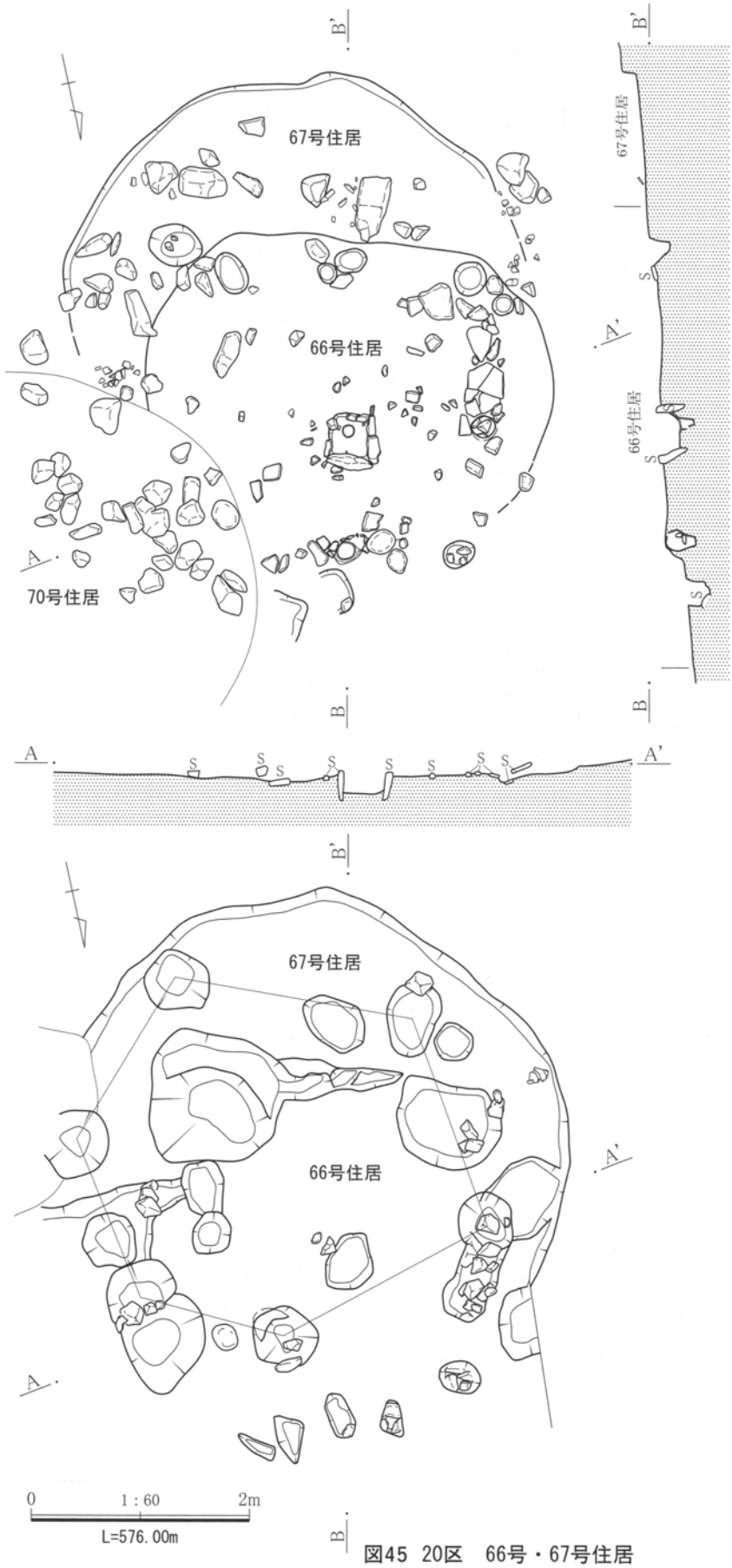


図45　20区　66号・67号住居

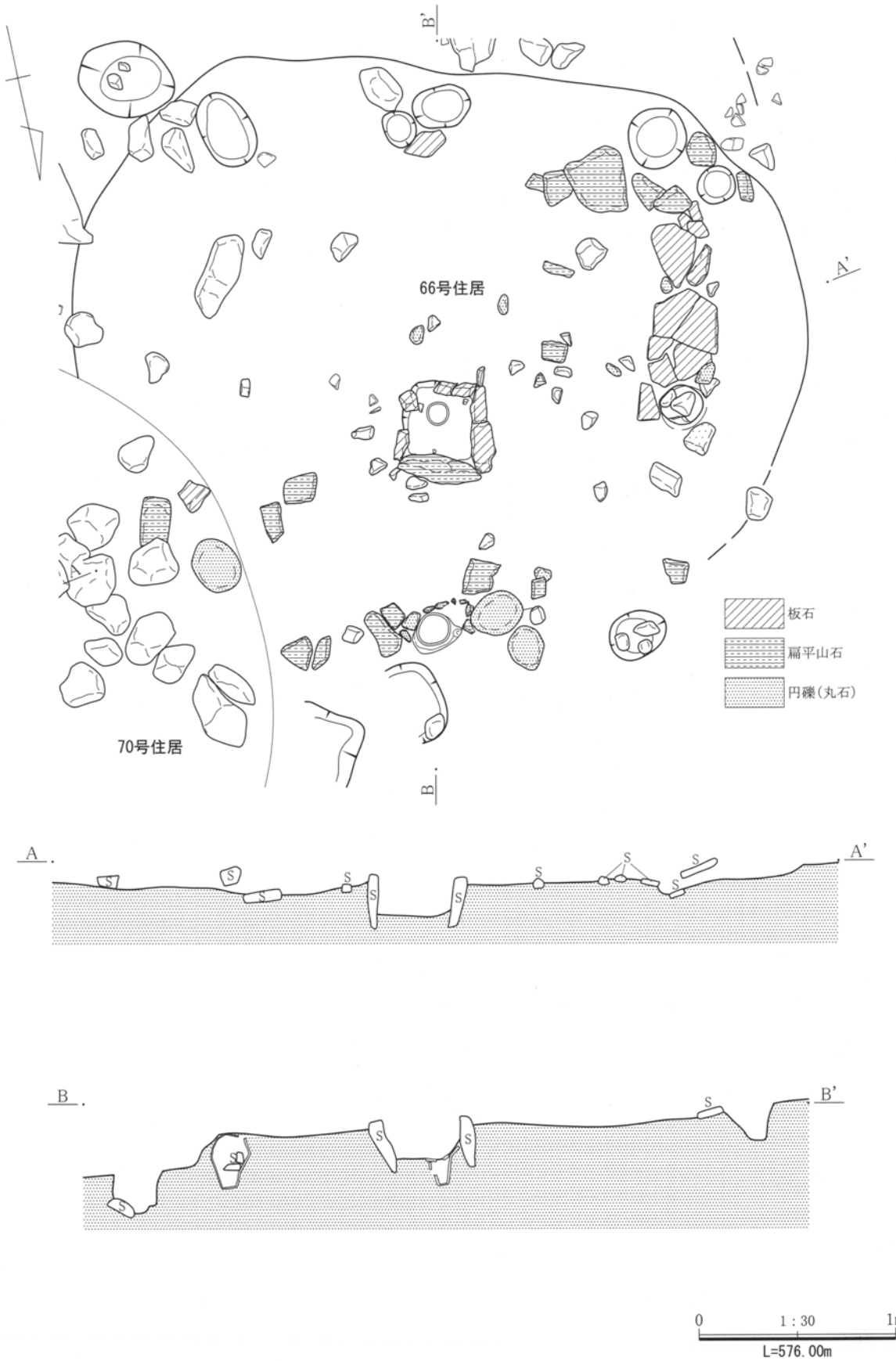


図46　20区　66号住居

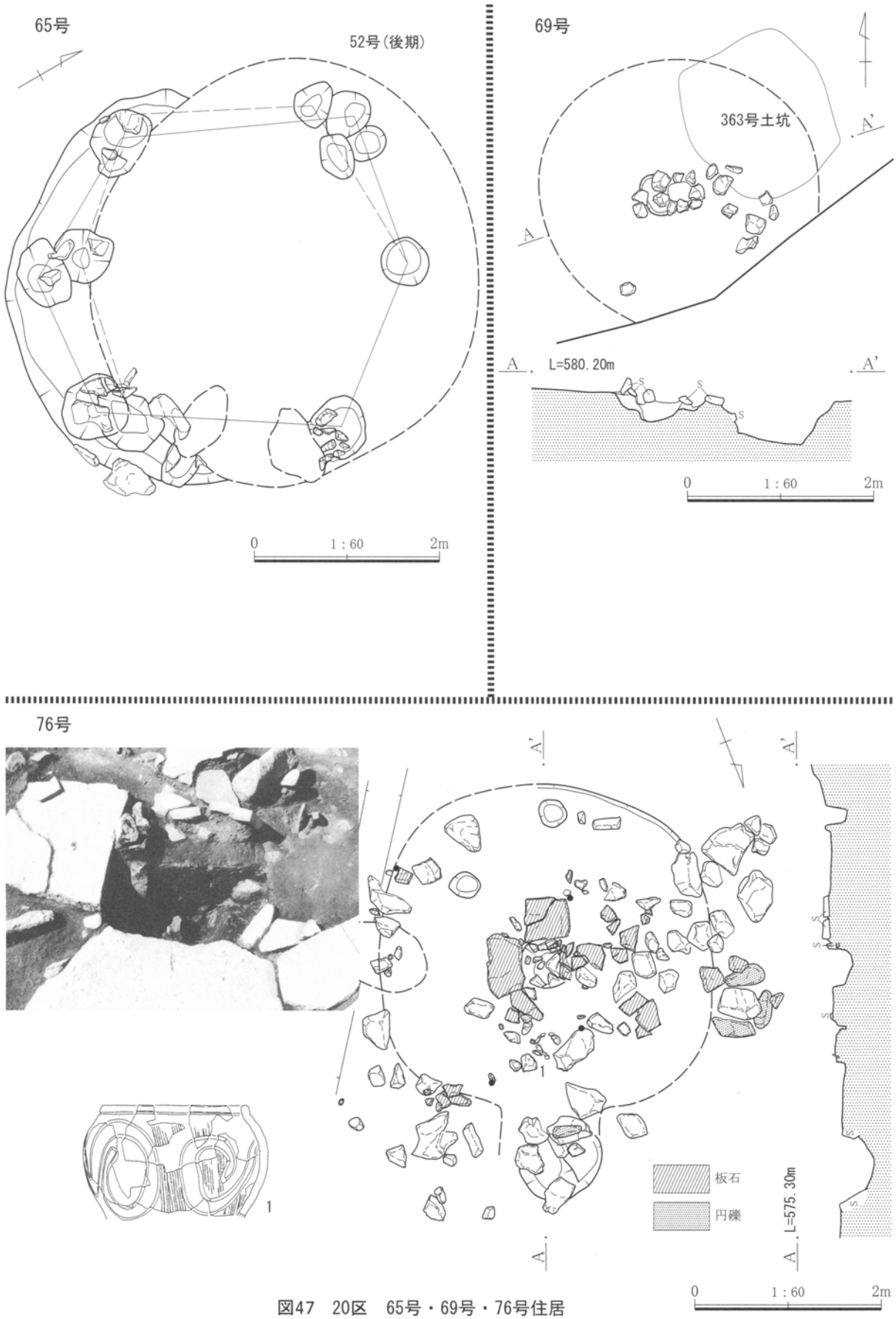


図47　20区　65号・69号・76号住居

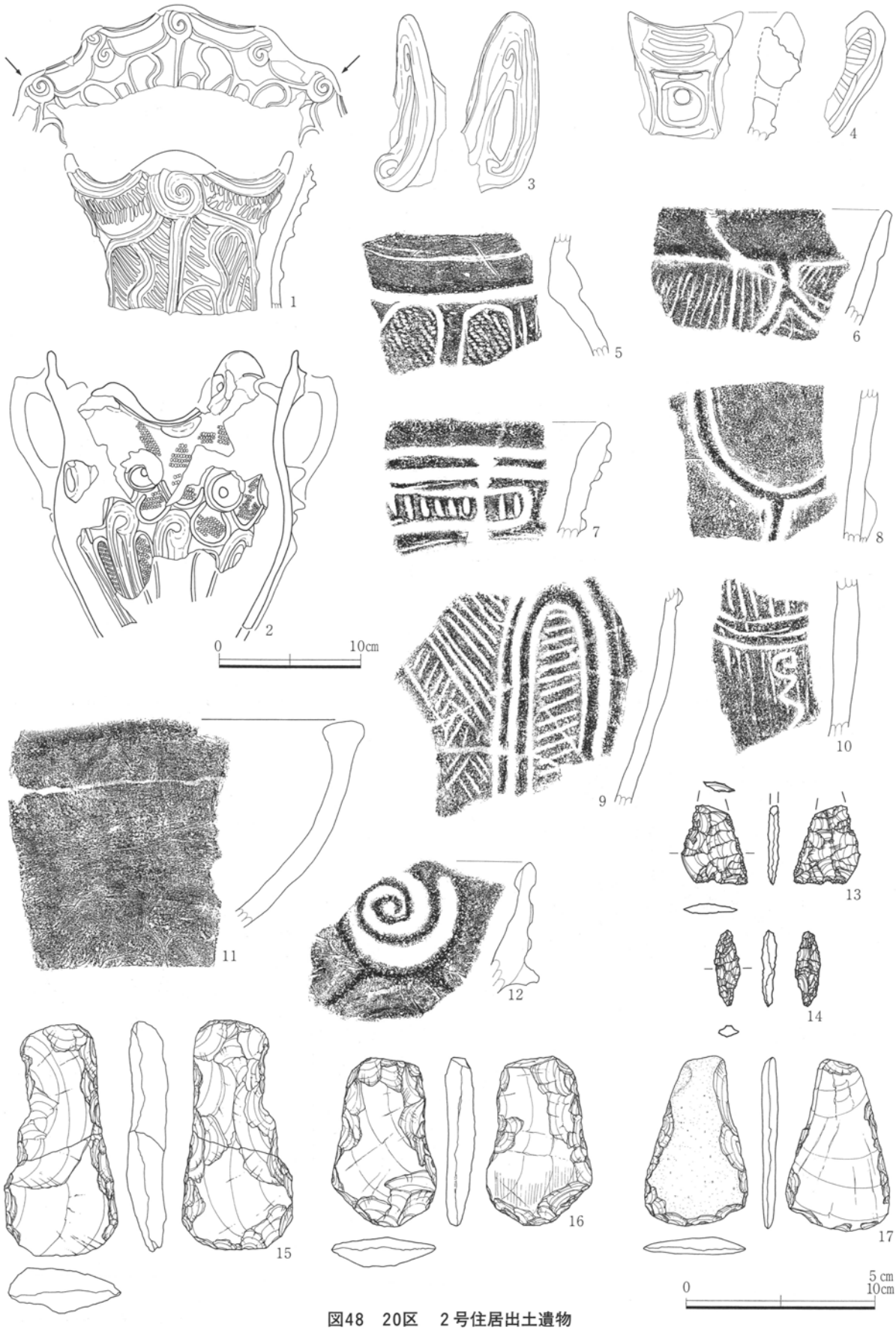
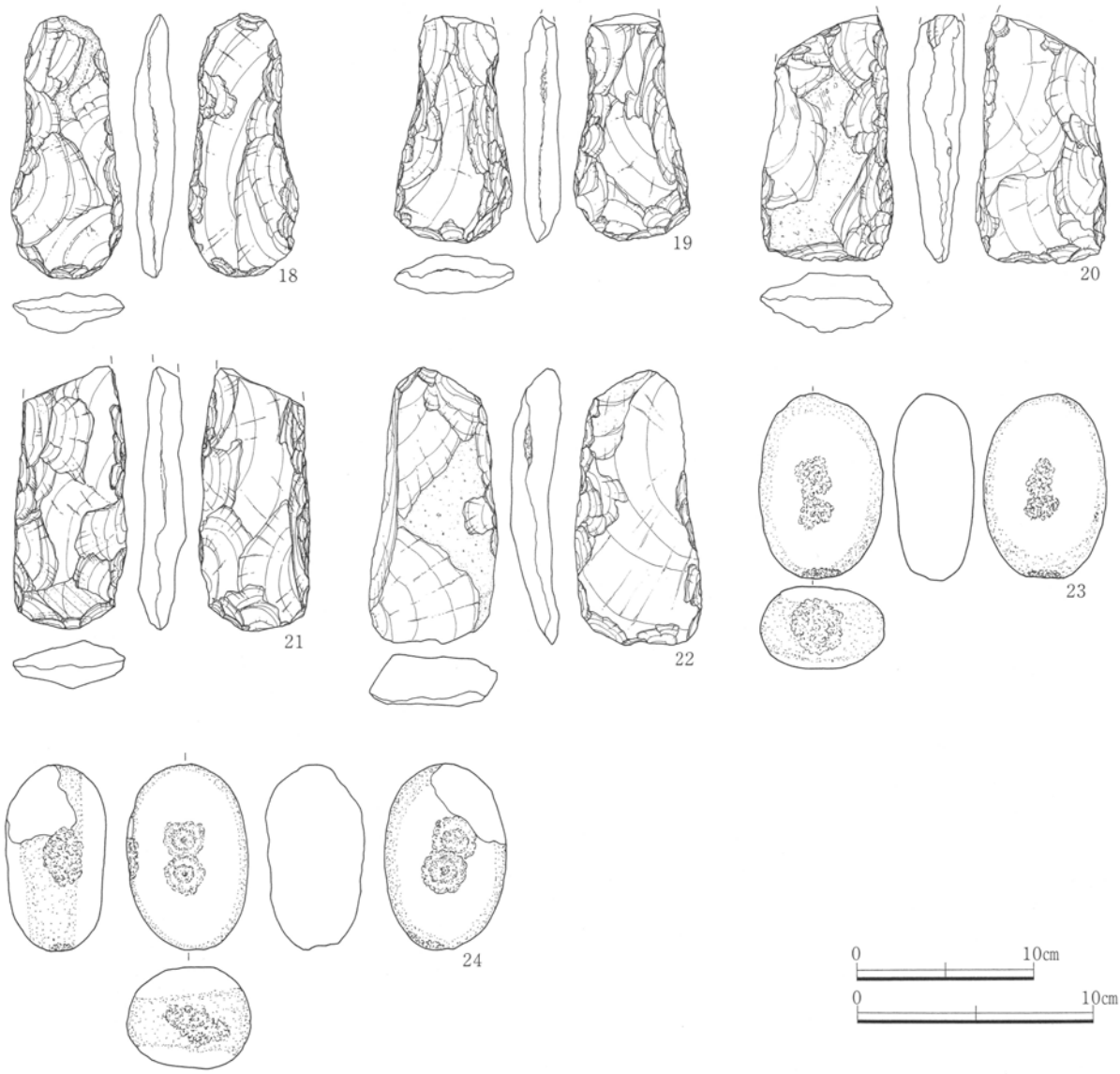


図48　20区　２号住居出土遺物



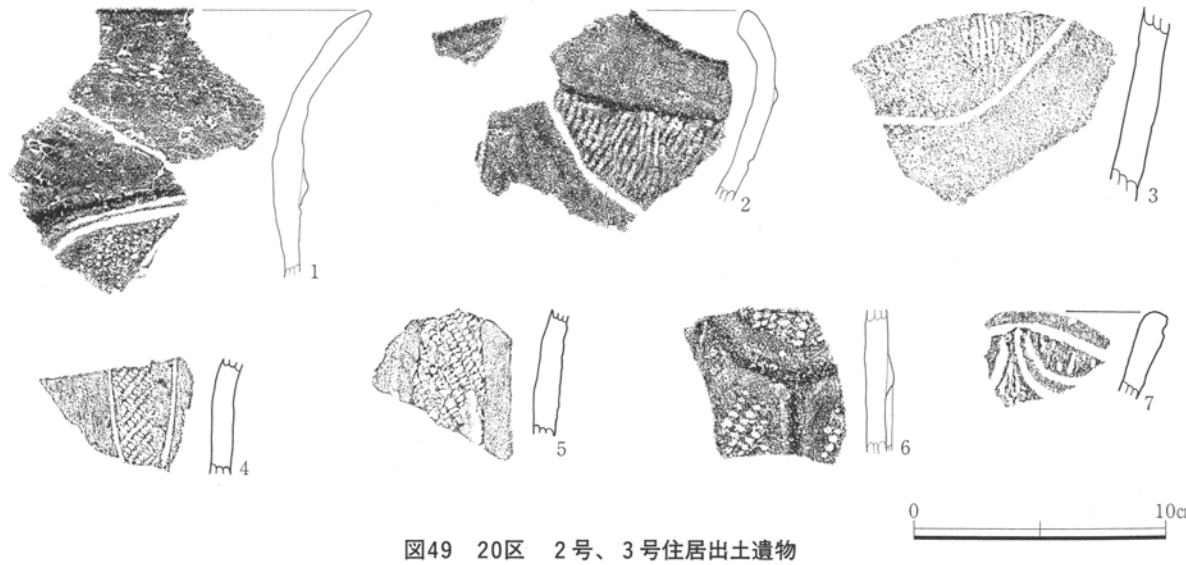


図49　20区　２号、３号住居出土遺物

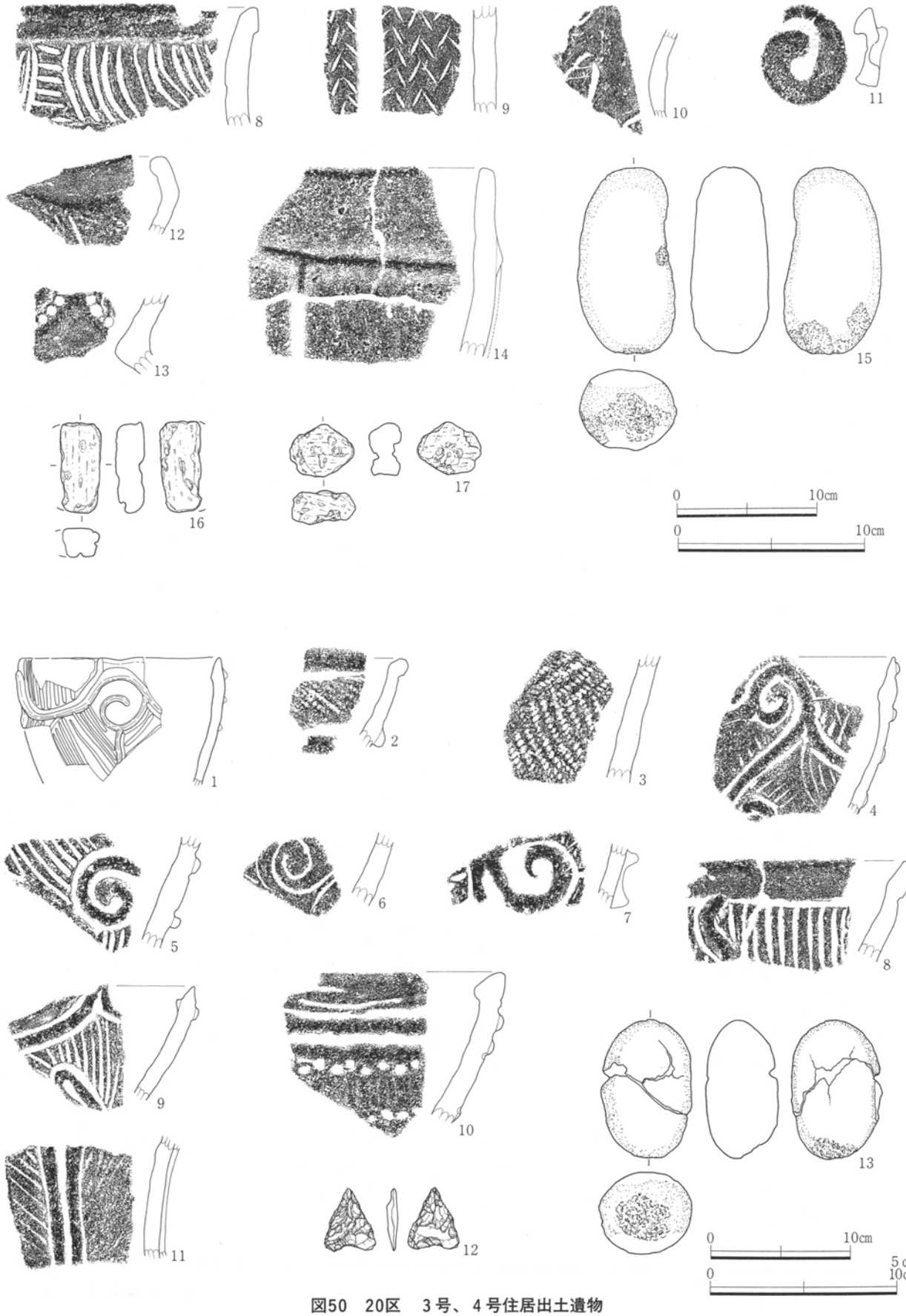


図50　20区　3号、4号住居出土遺物

図51　20区　５号住居出土遺物

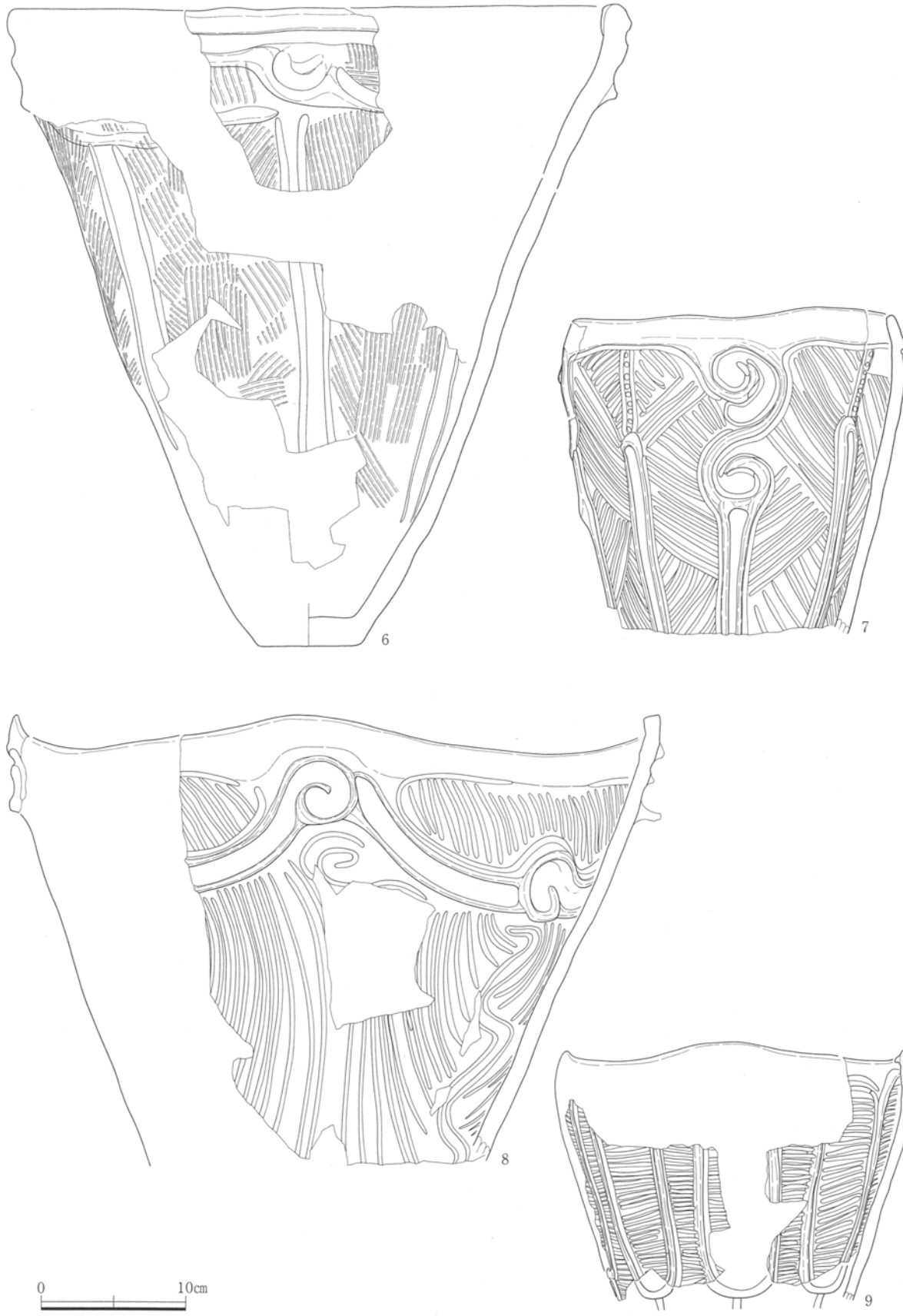


図52　20区　５号住居出土遺物

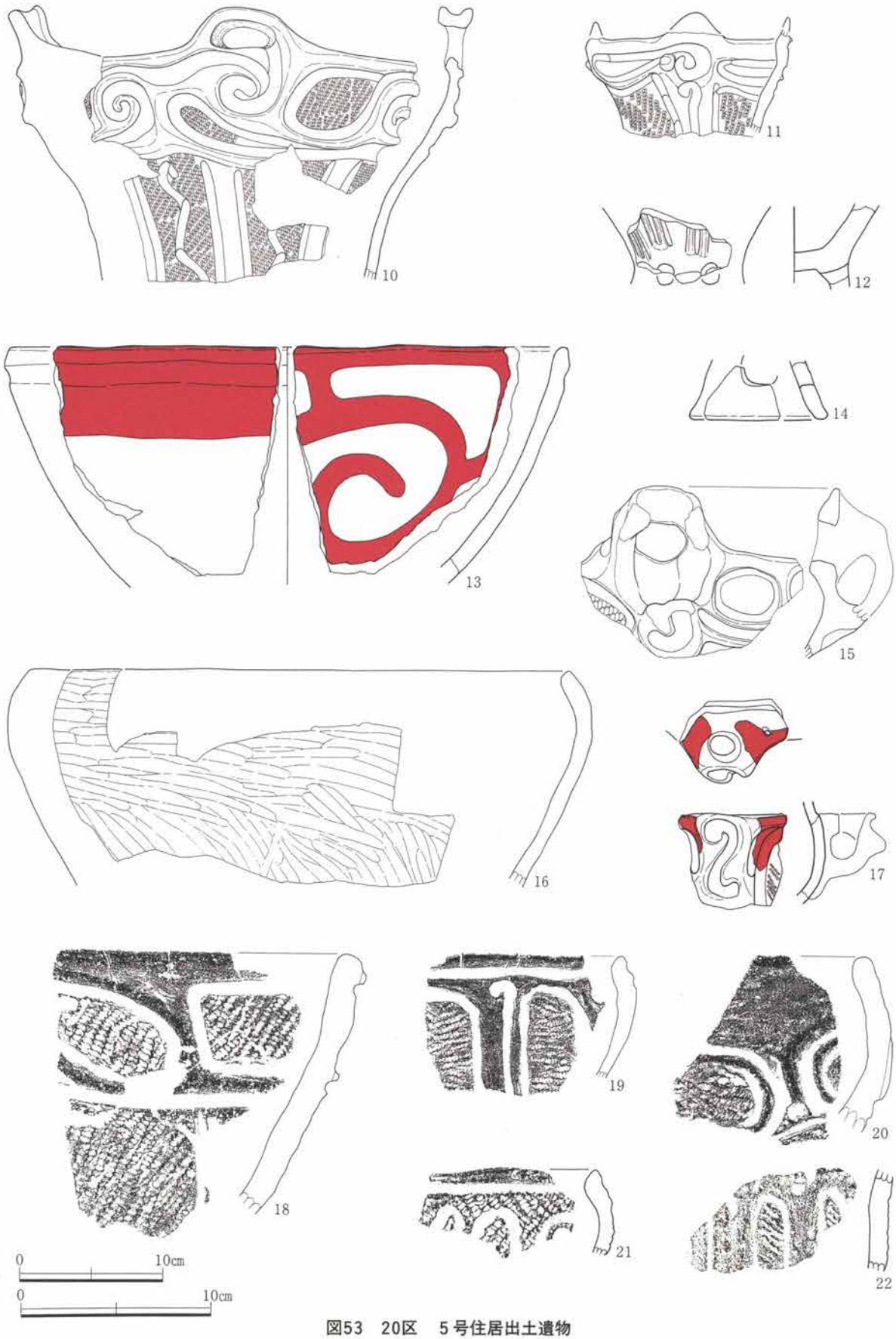


図53　20区　５号住居出土遺物

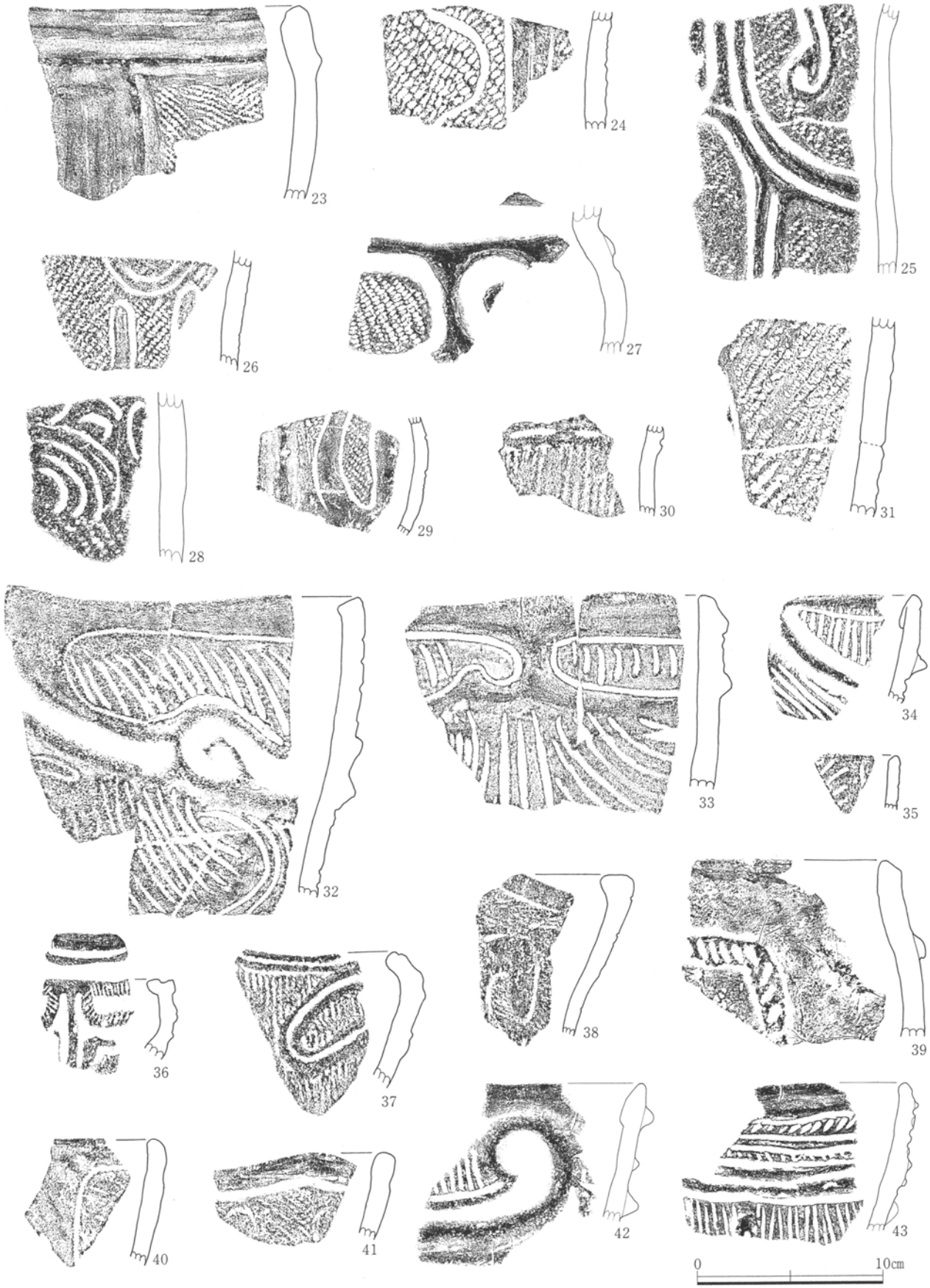


図54　20区　５号住居出土遺物

図55　20区　５号住居出土遺物

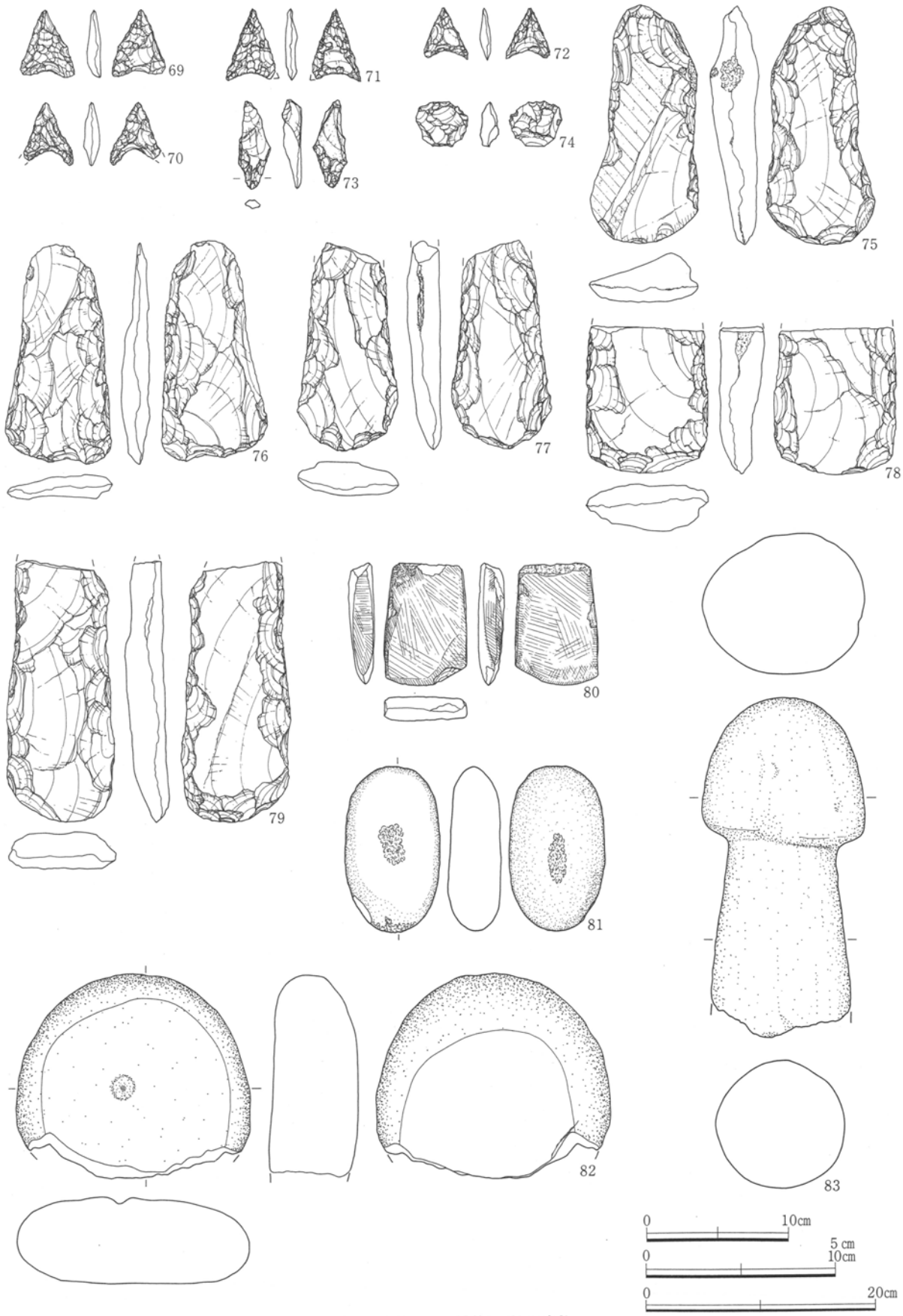


図56　20区　５号住居出土遺物

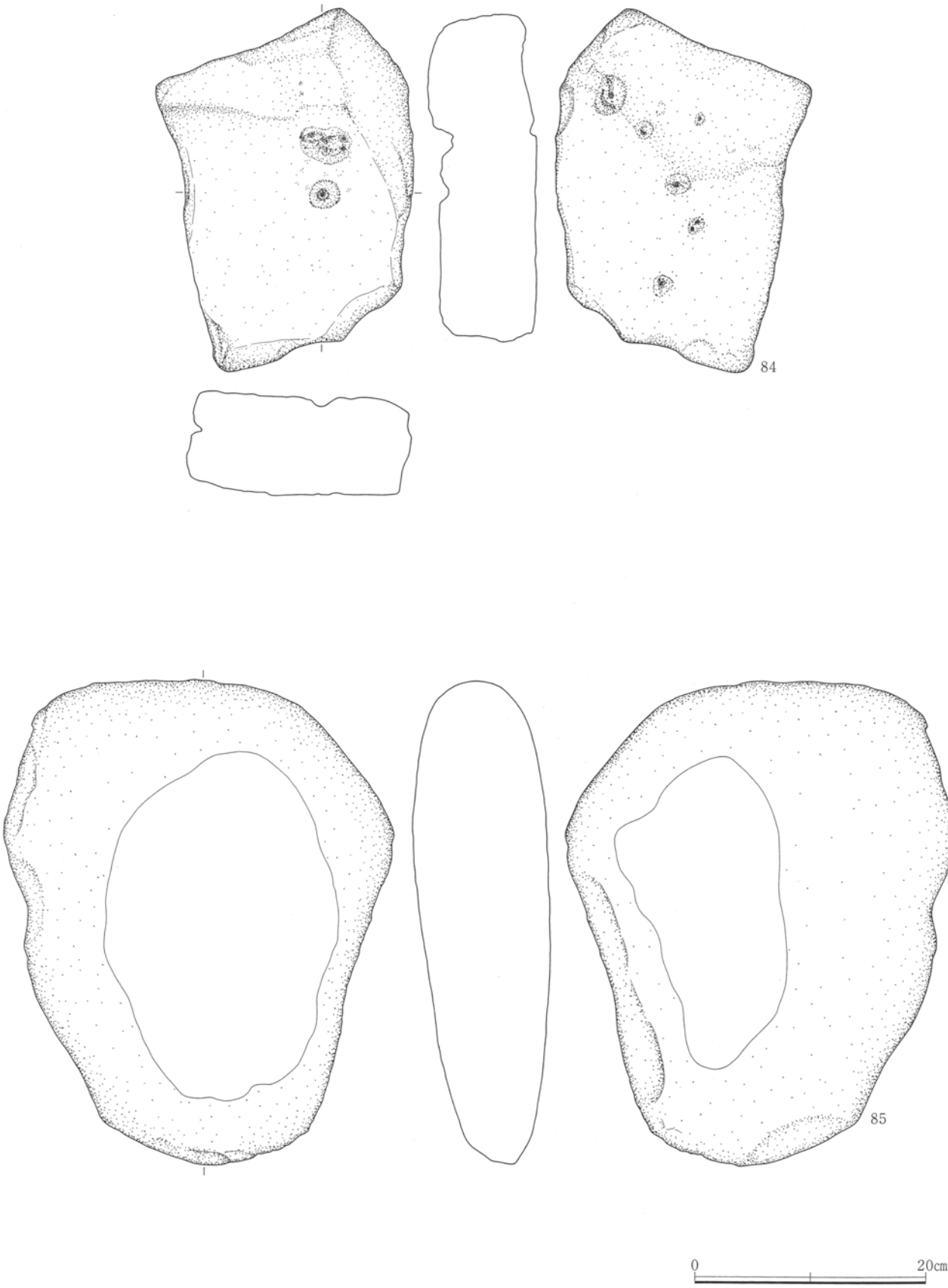


図57　20区　５号住居出土遺物

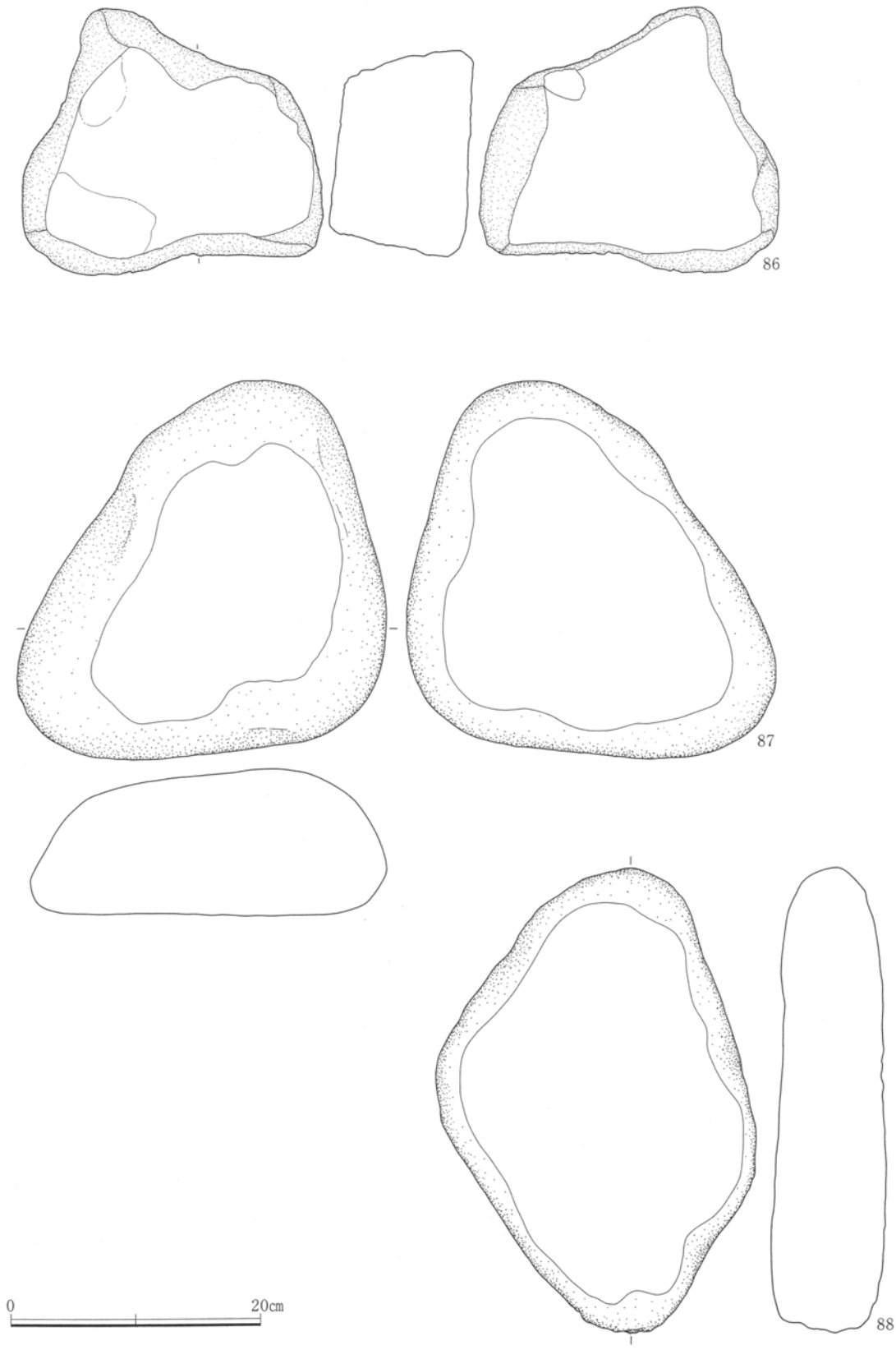


図58　20区　５号住居出土遺物

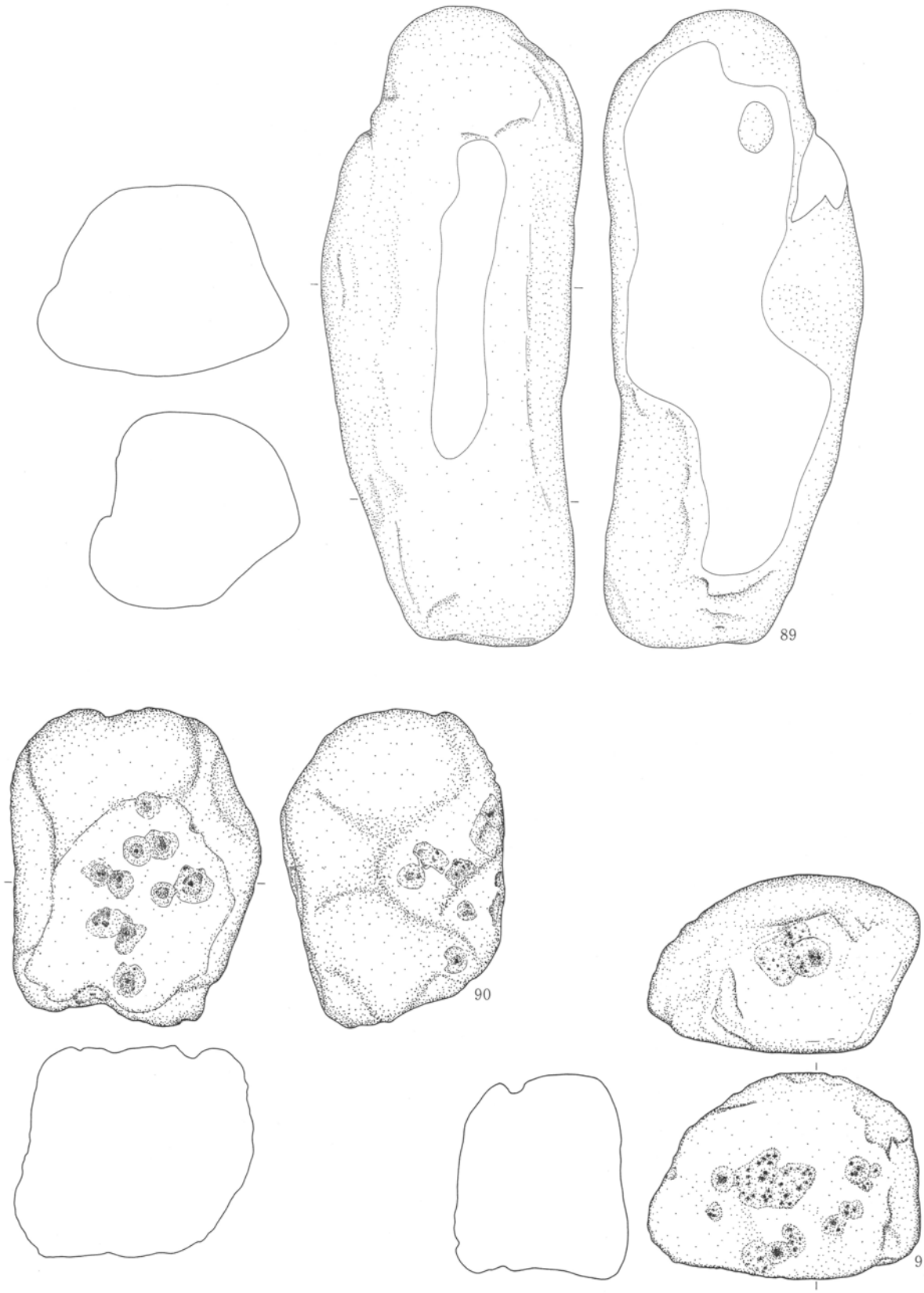


図59　20区　５号住居出土遺物

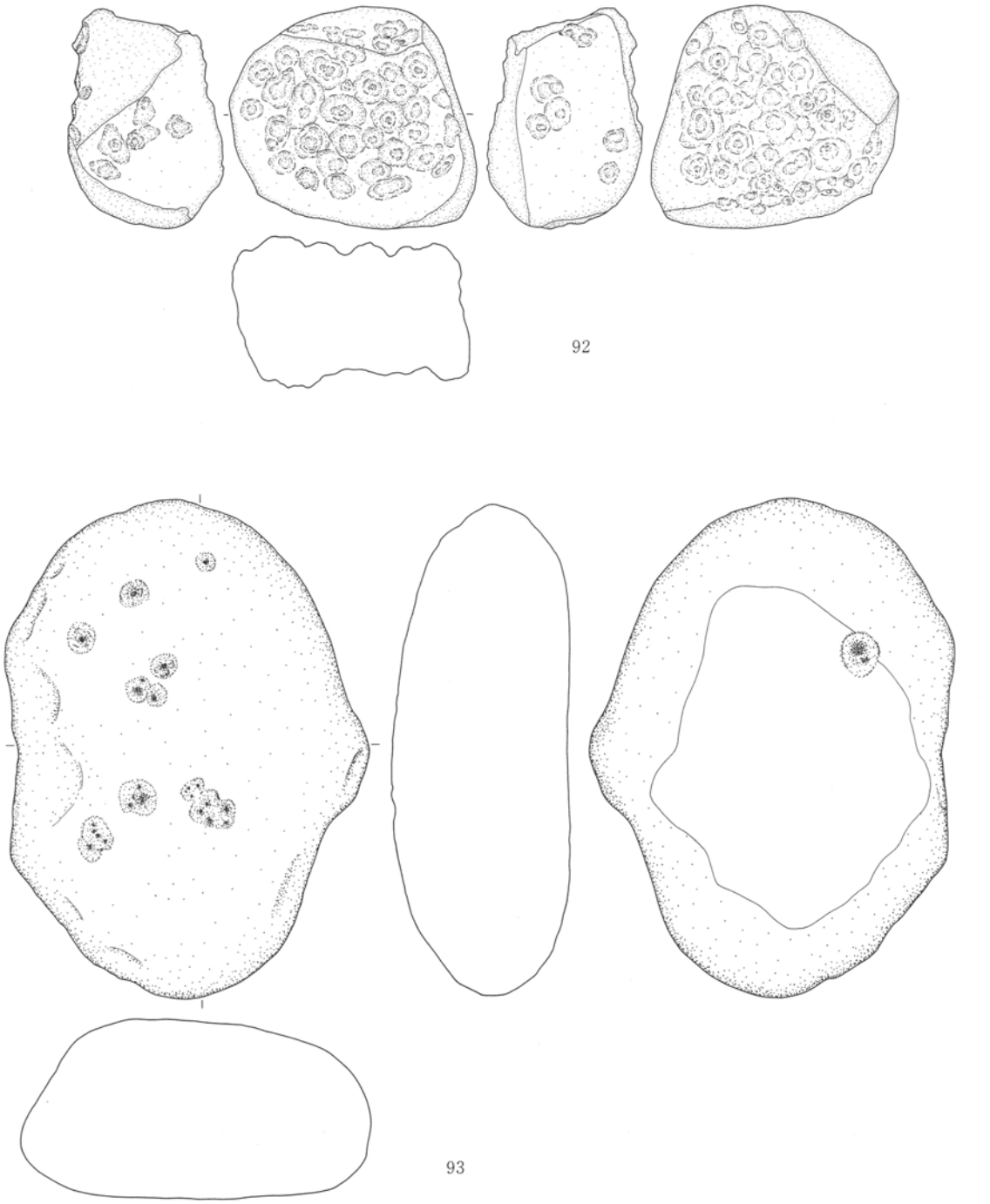


図60　20区　５号住居出土遺物

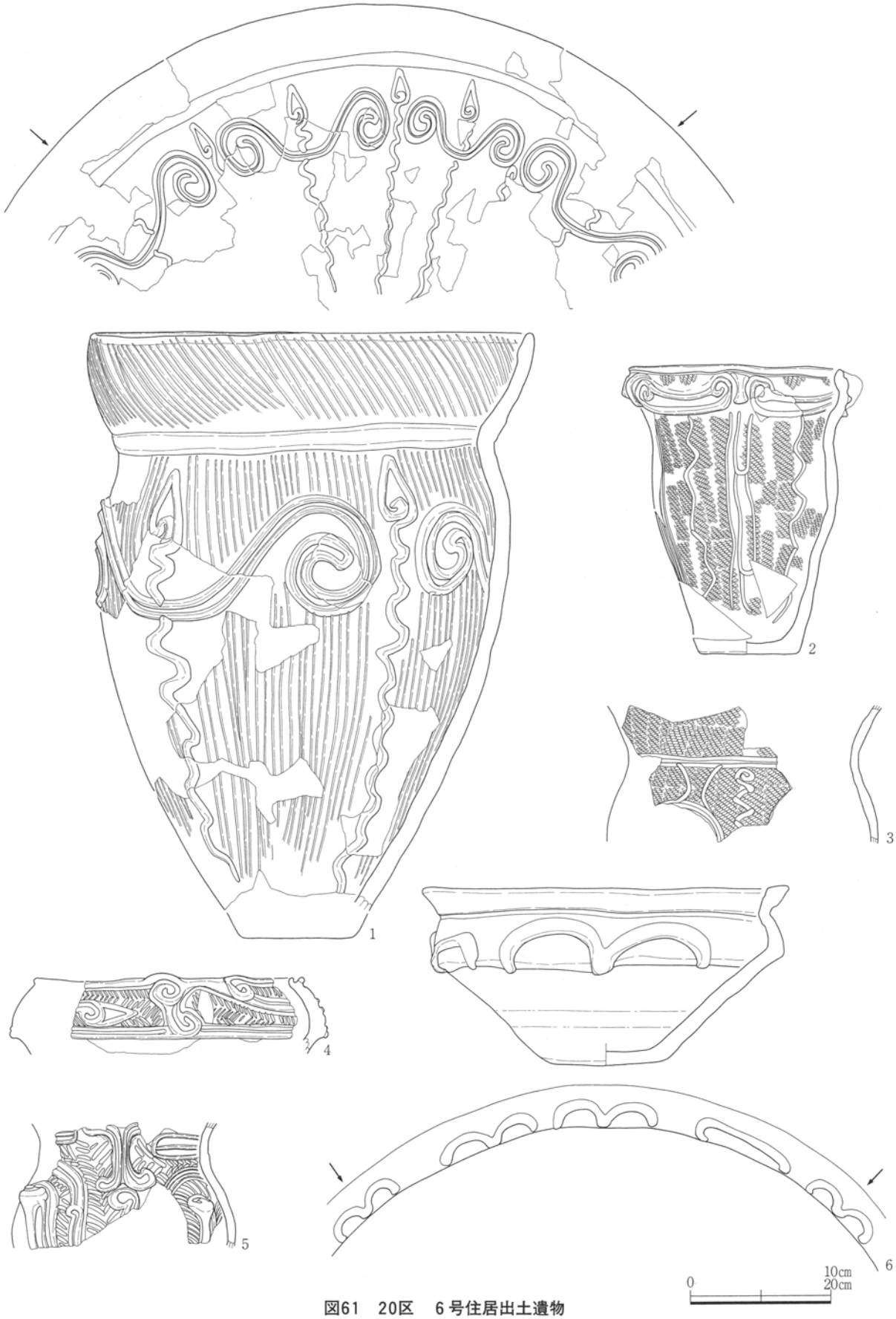


図61　20区　６号住居出土遺物

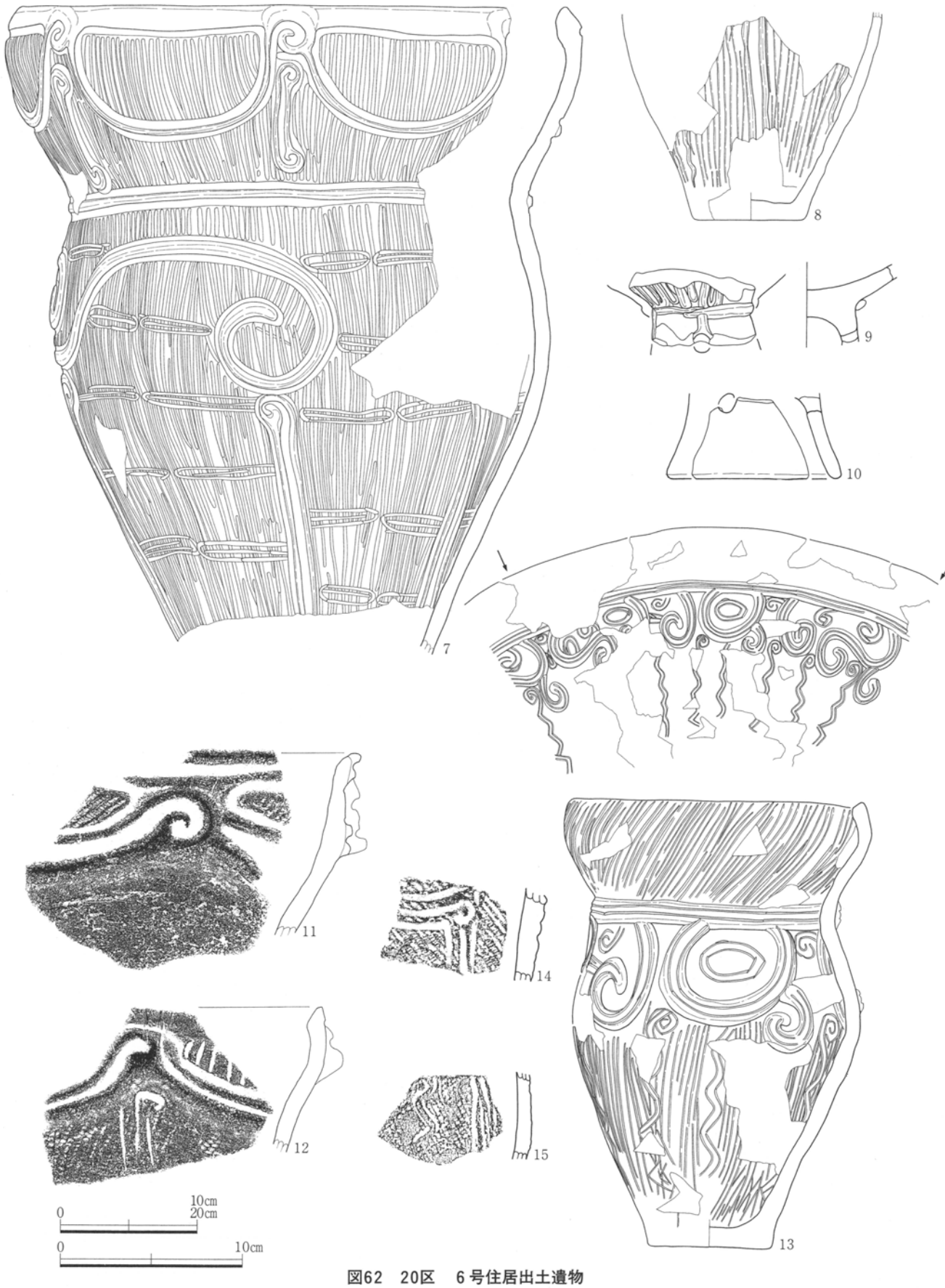


図62　20区　６号住居出土遺物

図63　20区　６号住居出土遺物

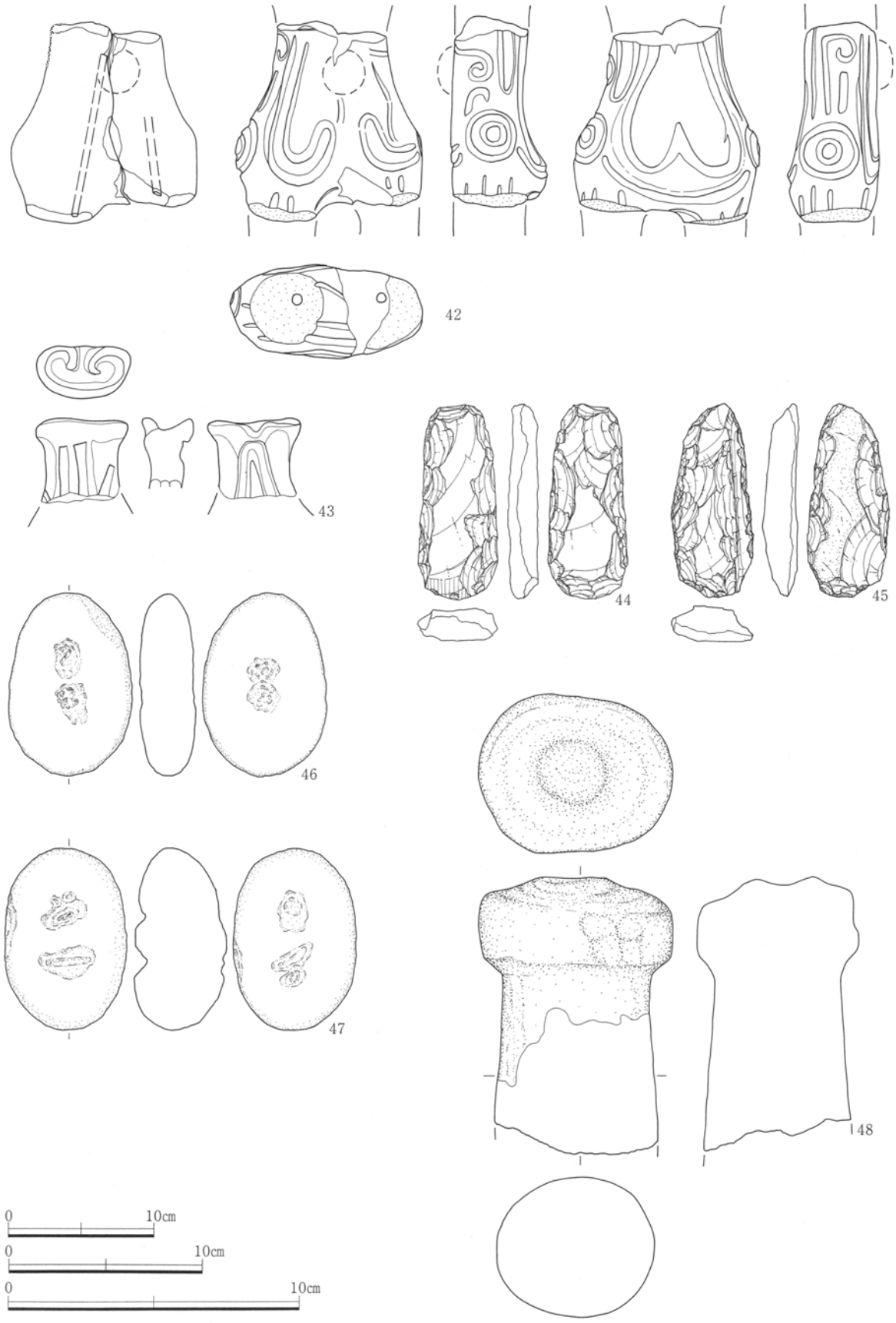


図64　20区　６号住居出土遺物

図65　20区　８号住居出土遺物

図66　20区　８号住居出土遺物

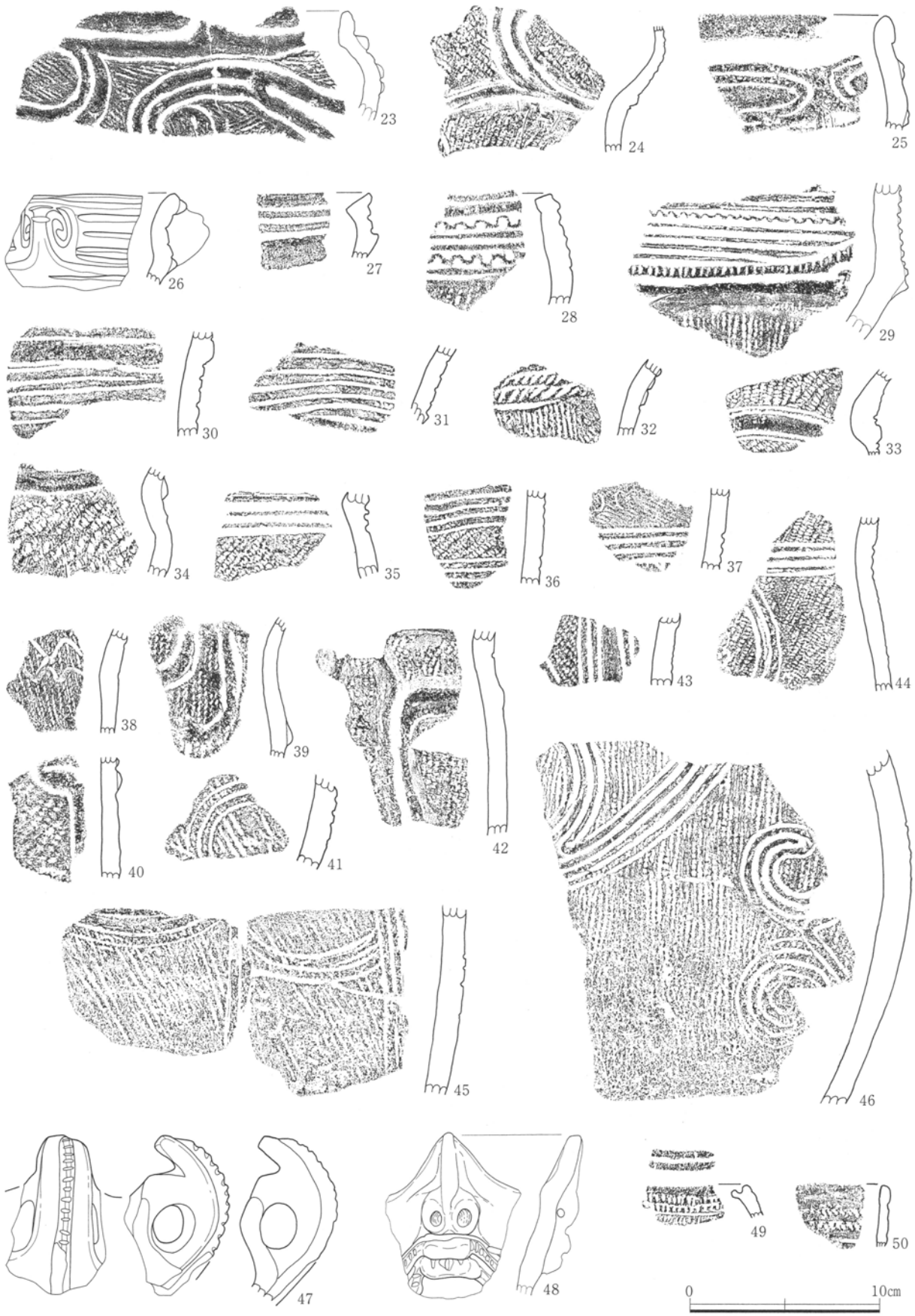


図67　20区　8号住居出土遺物

図68　20区　８号住居出土遺物

図69　20区　８号住居出土遺物

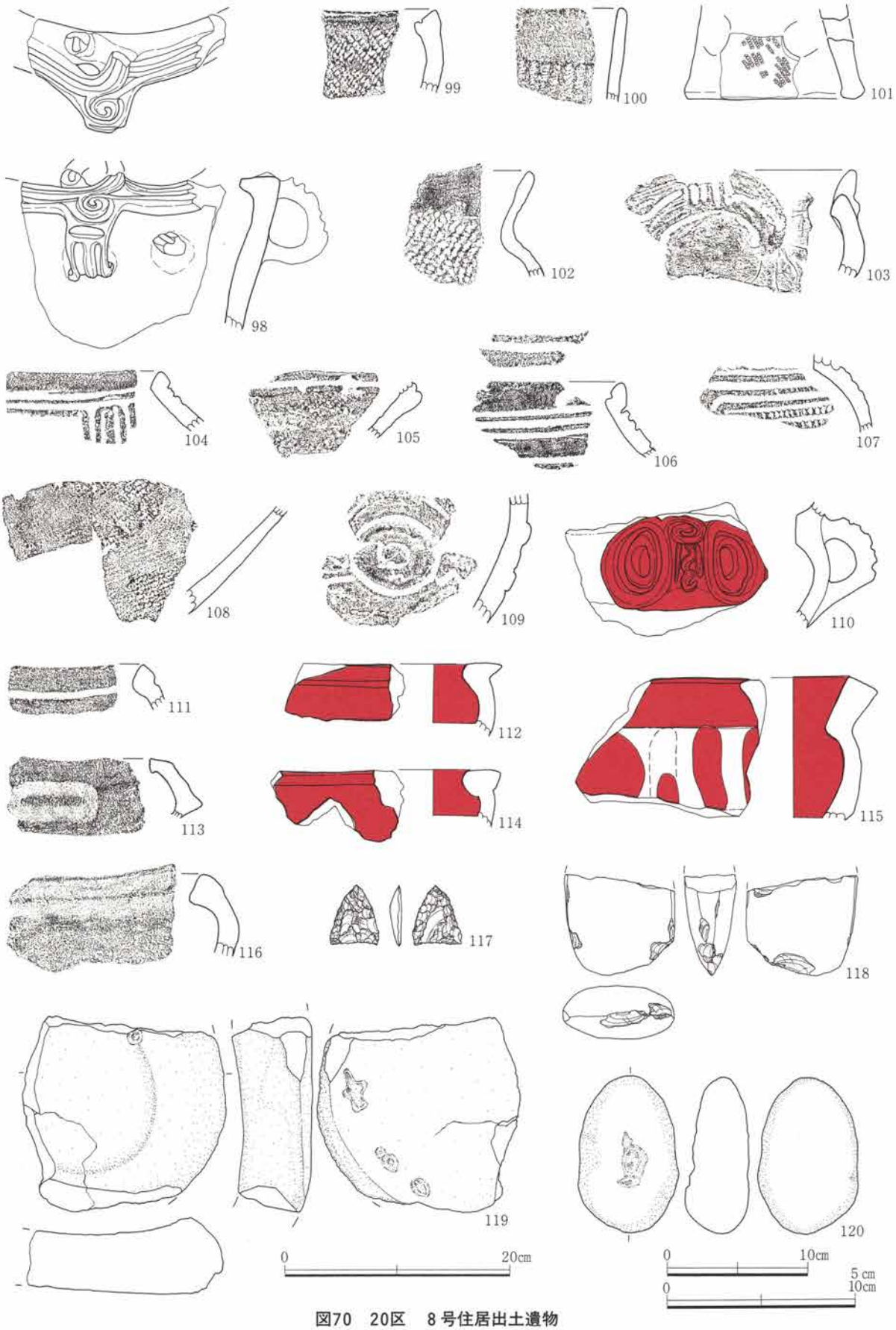


図70　20区　8号住居出土遺物

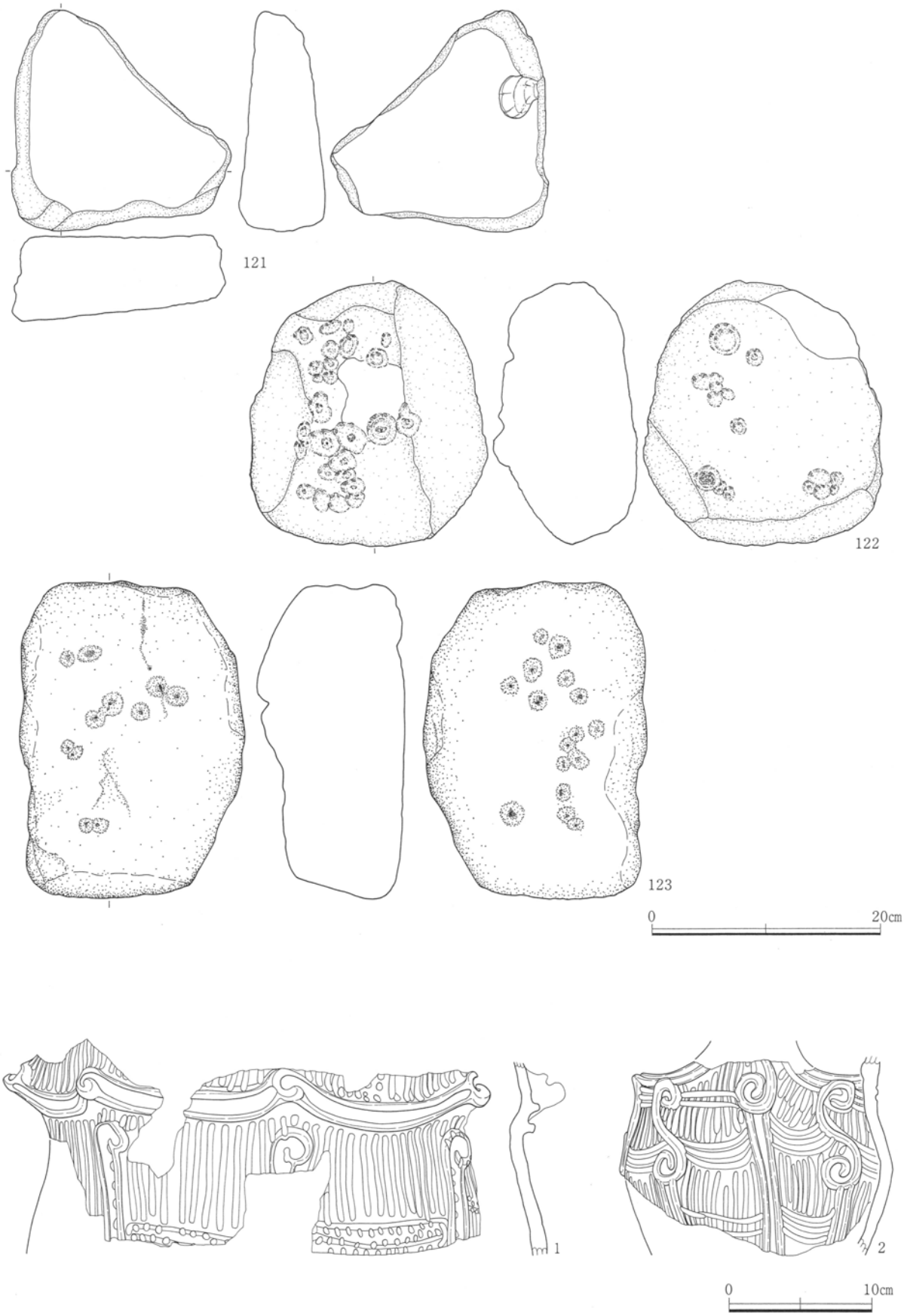


図71　20区　８号、10号住居出土遺物

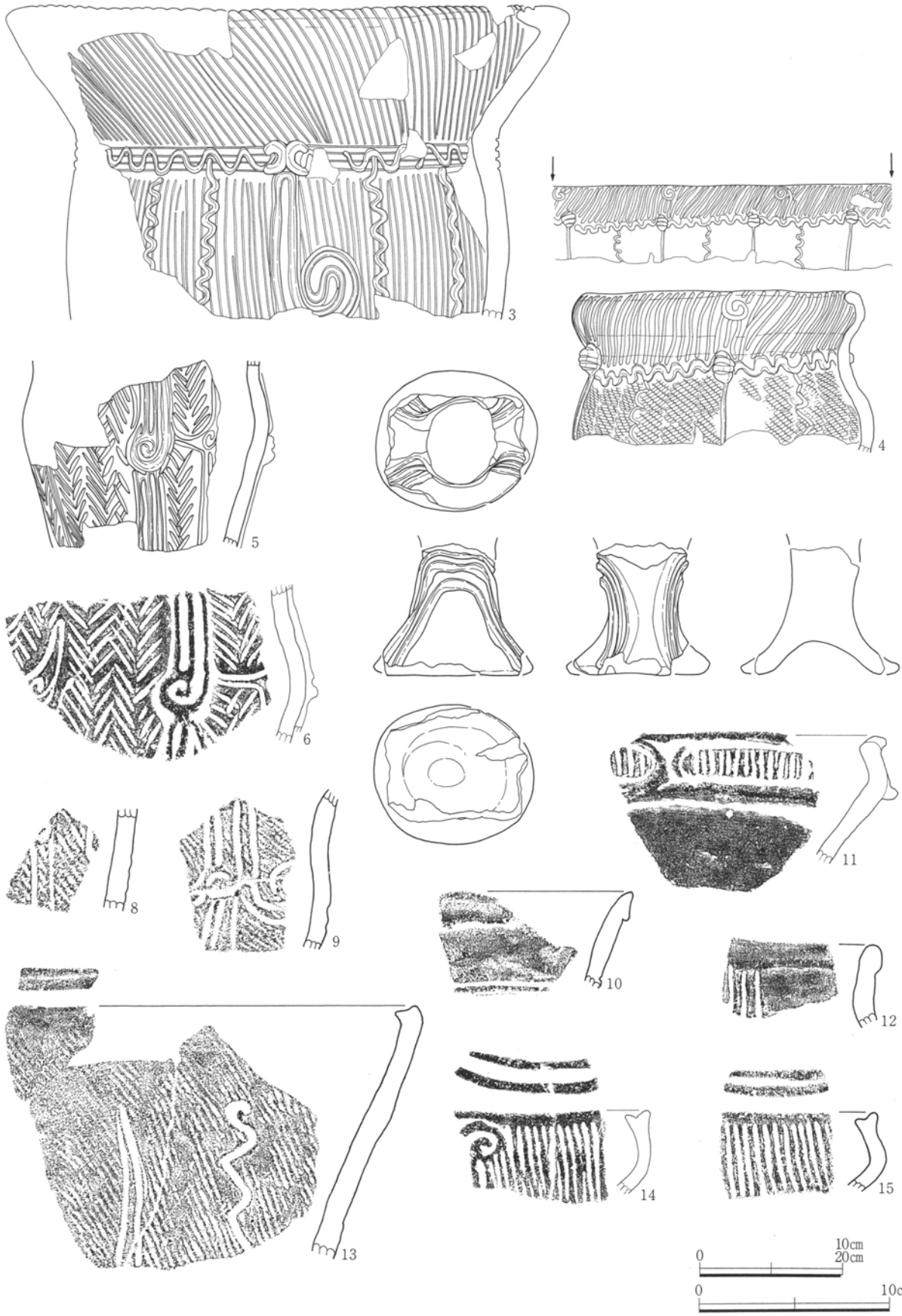


図72　20区　10号住居出土遺物

図73　20区　10号住居出土遺物

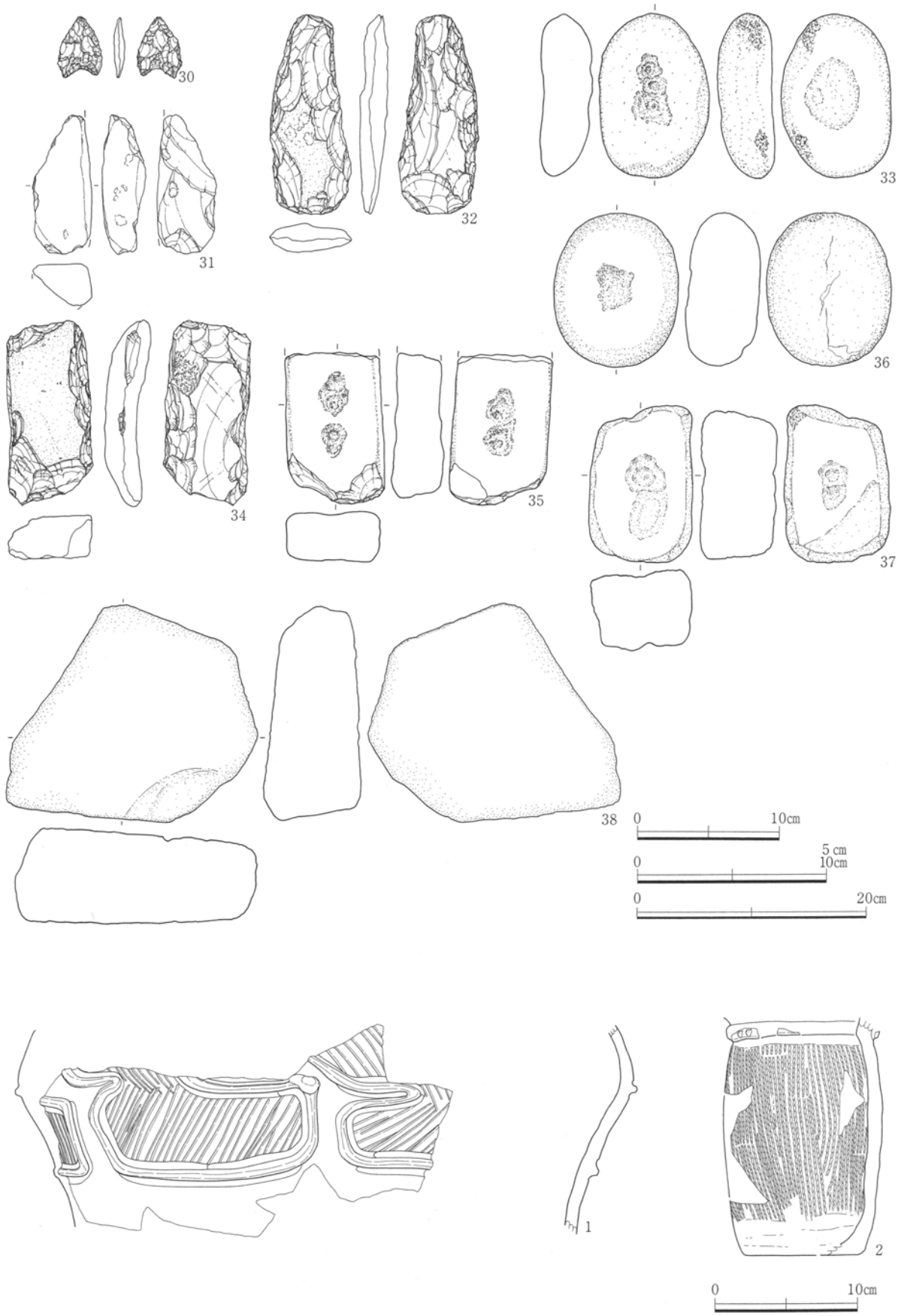


図74　20区　10号、12号住居出土遺物

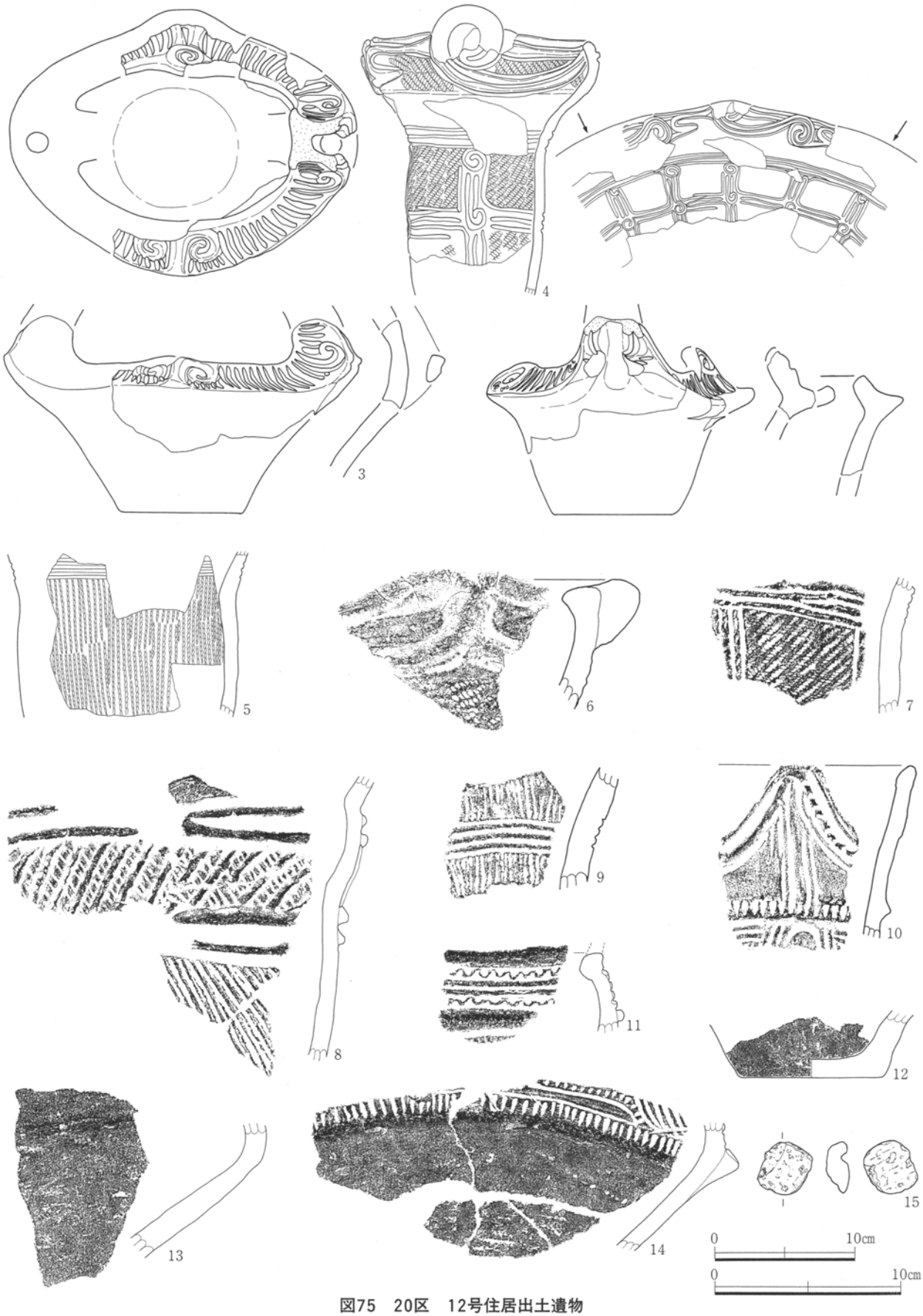


図75　20区　12号住居出土遺物

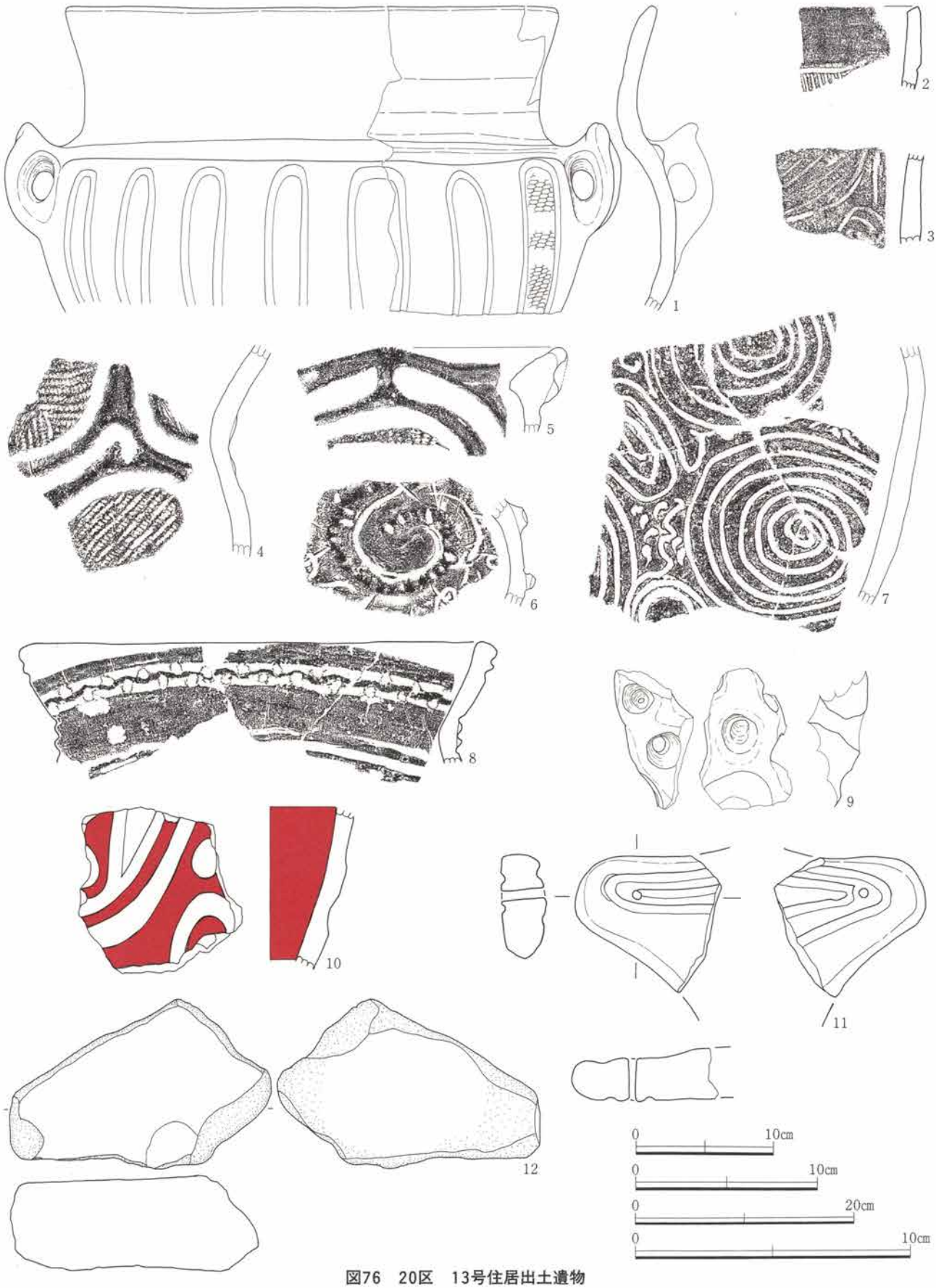


図76　20区　13号住居出土遺物

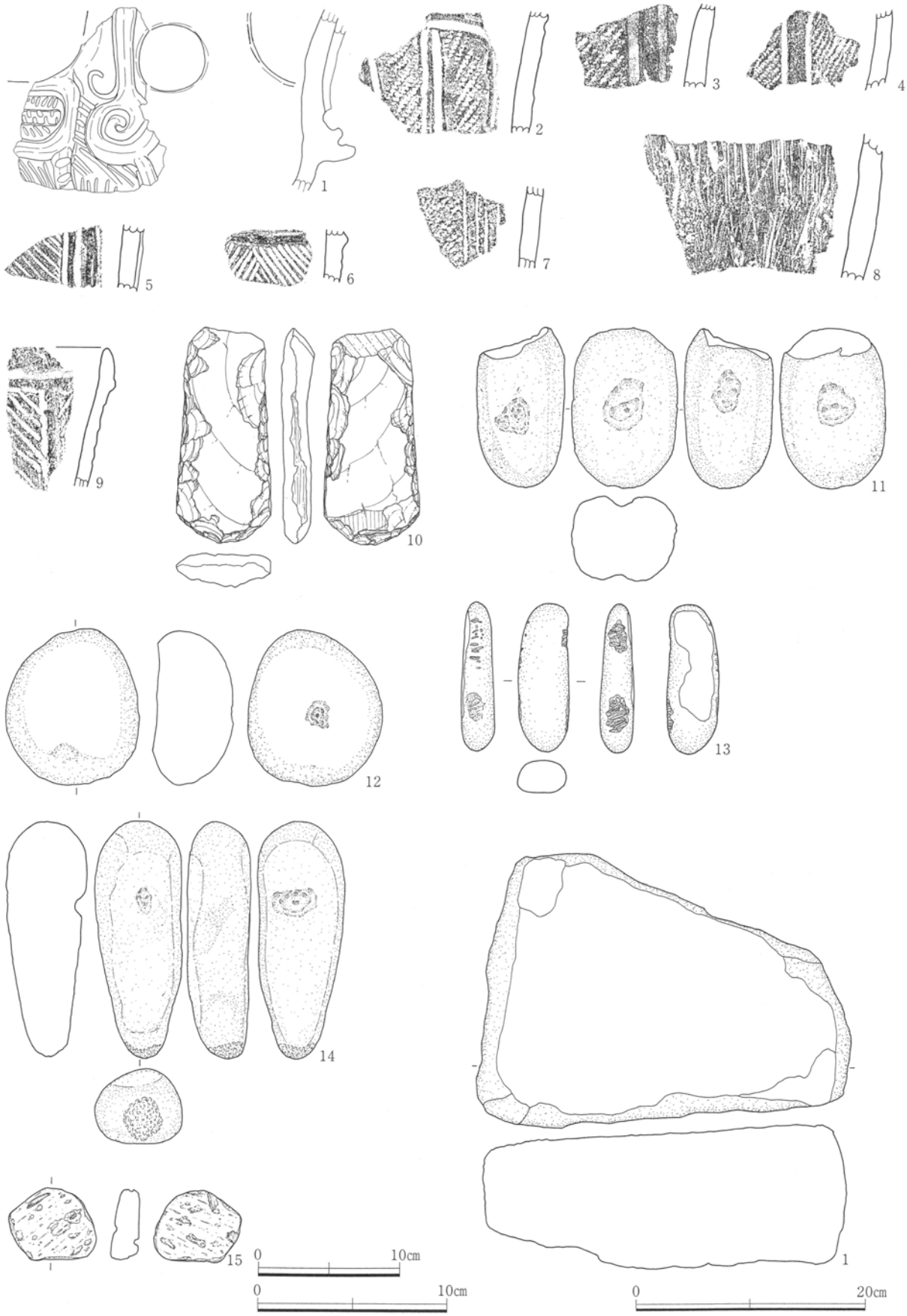
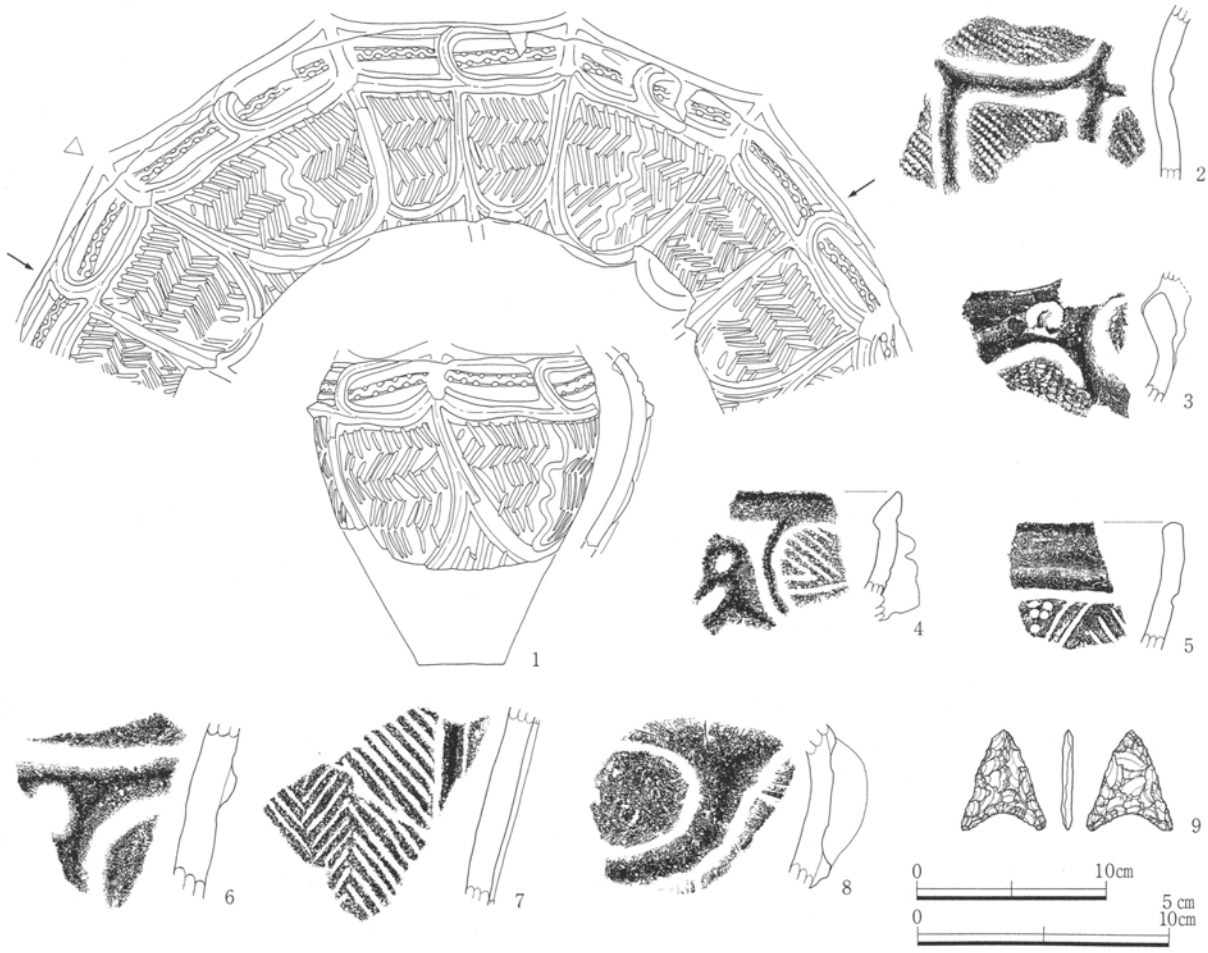


図77　20区　14号、15号住居出土遺物



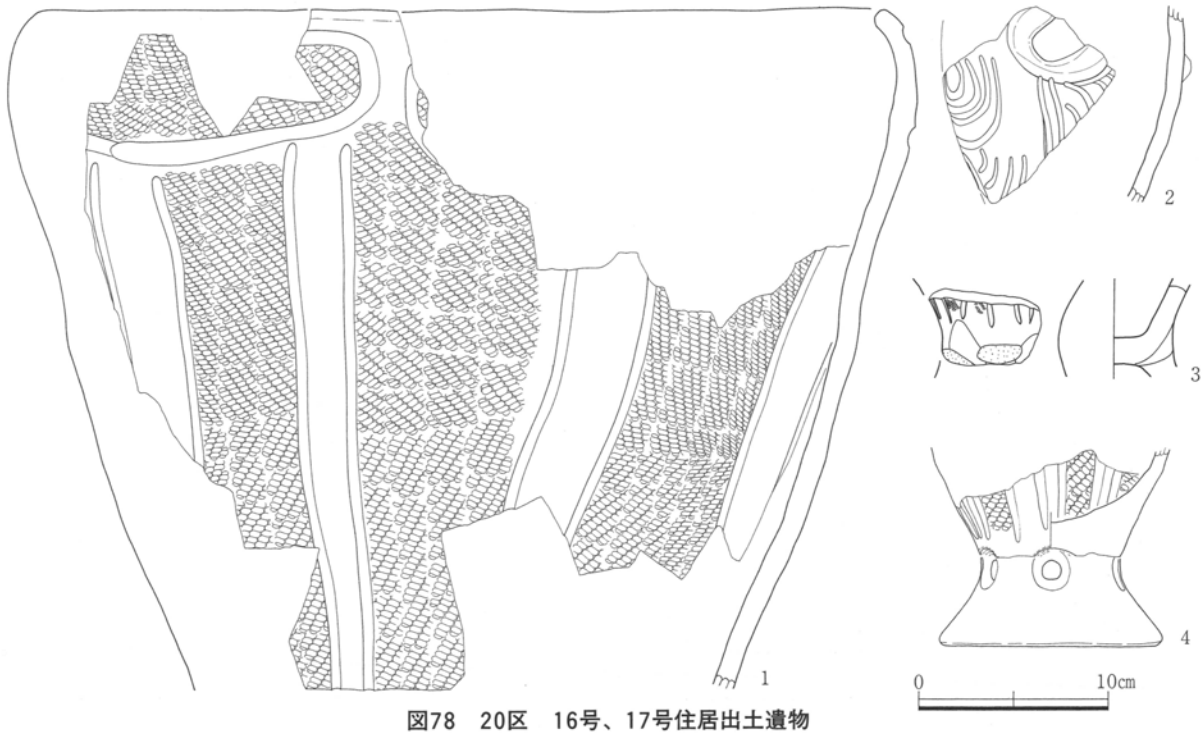


図78　20区　16号、17号住居出土遺物

図79　20区　17号住居出土遺物

図80　20区　17号住居出土遺物

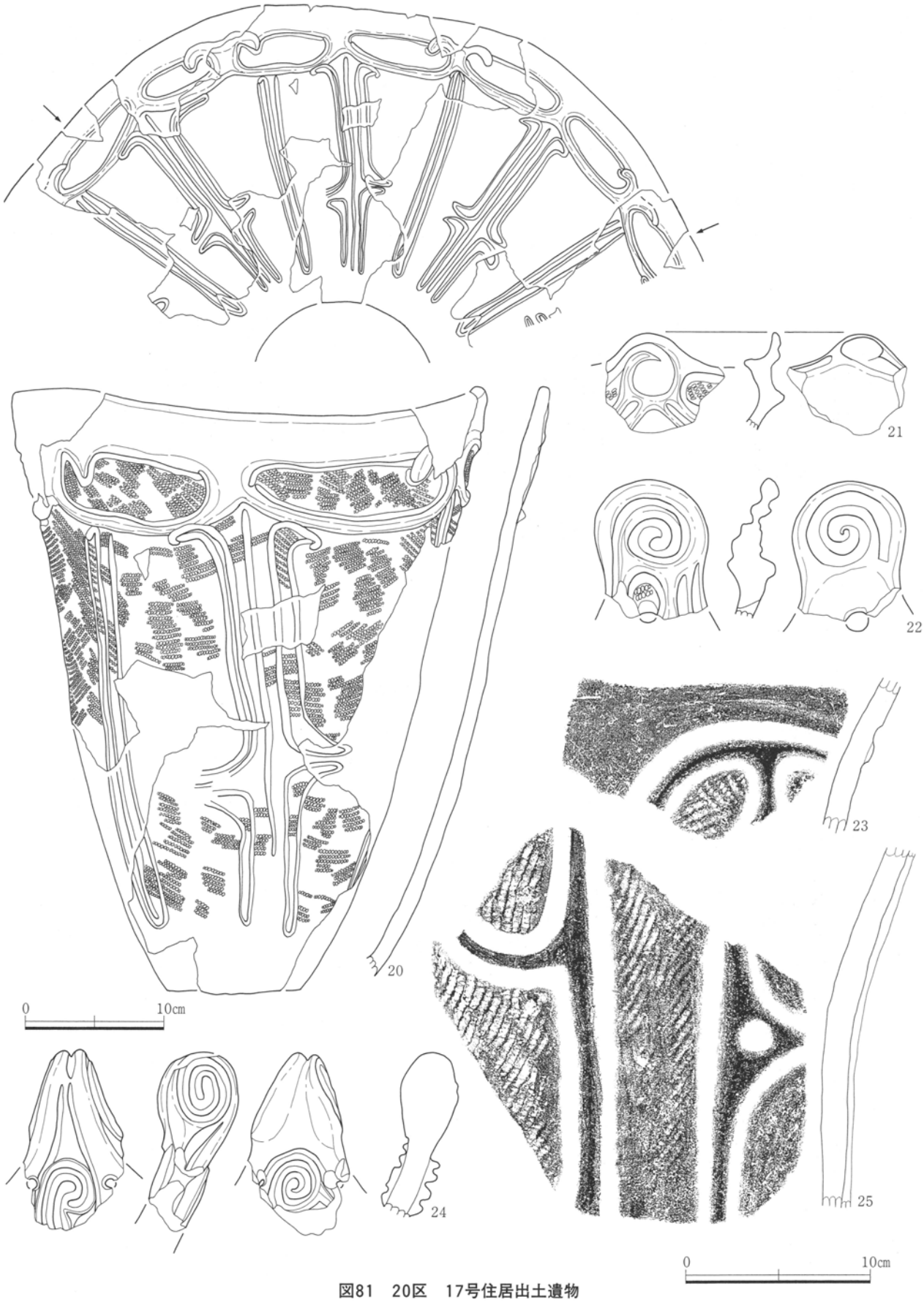


図81　20区　17号住居出土遺物

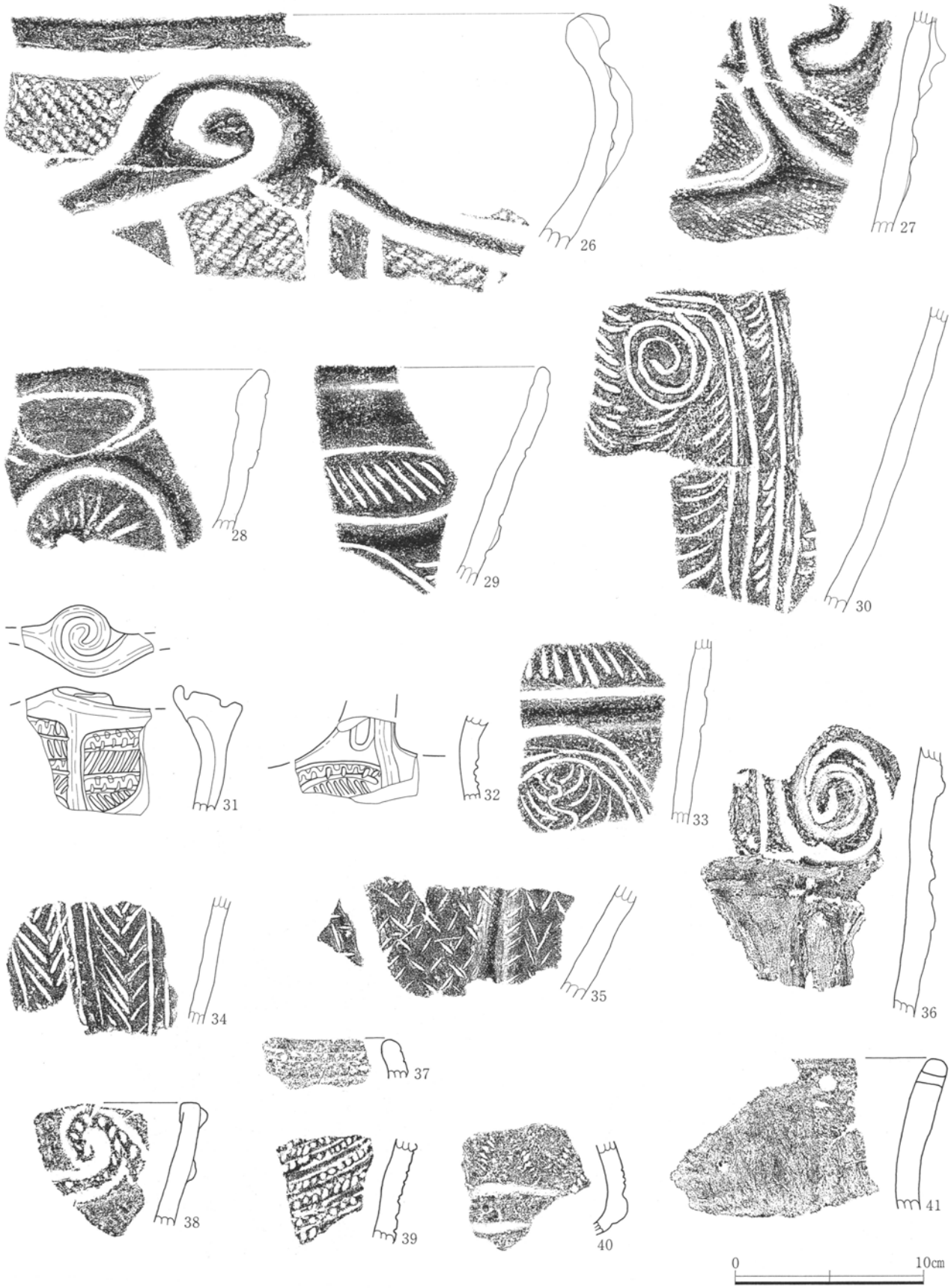


図82　20区　17住居出土遺物

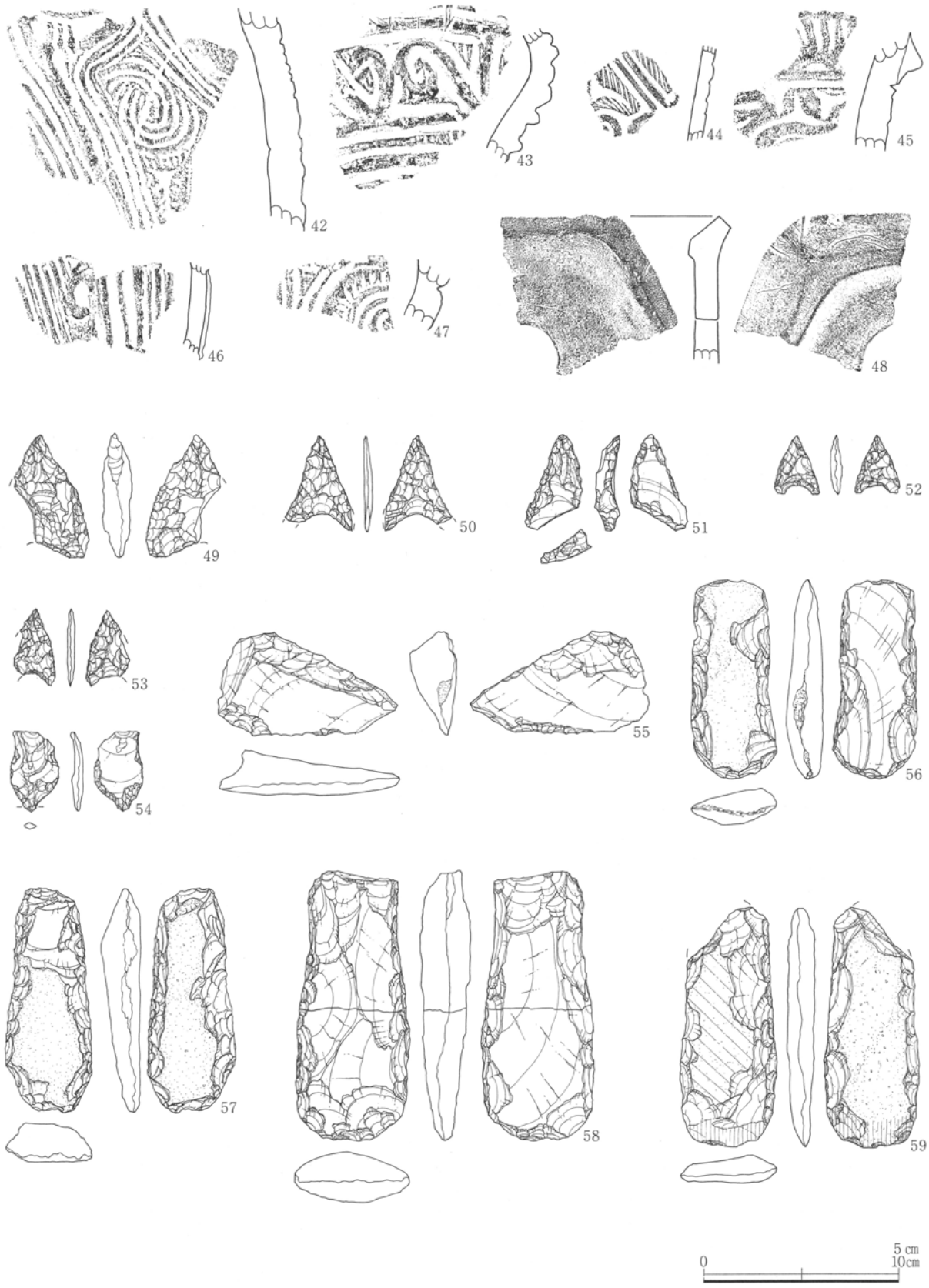


図83　20区　17住居出土遺物

図84　20区　17号住居出土遺物

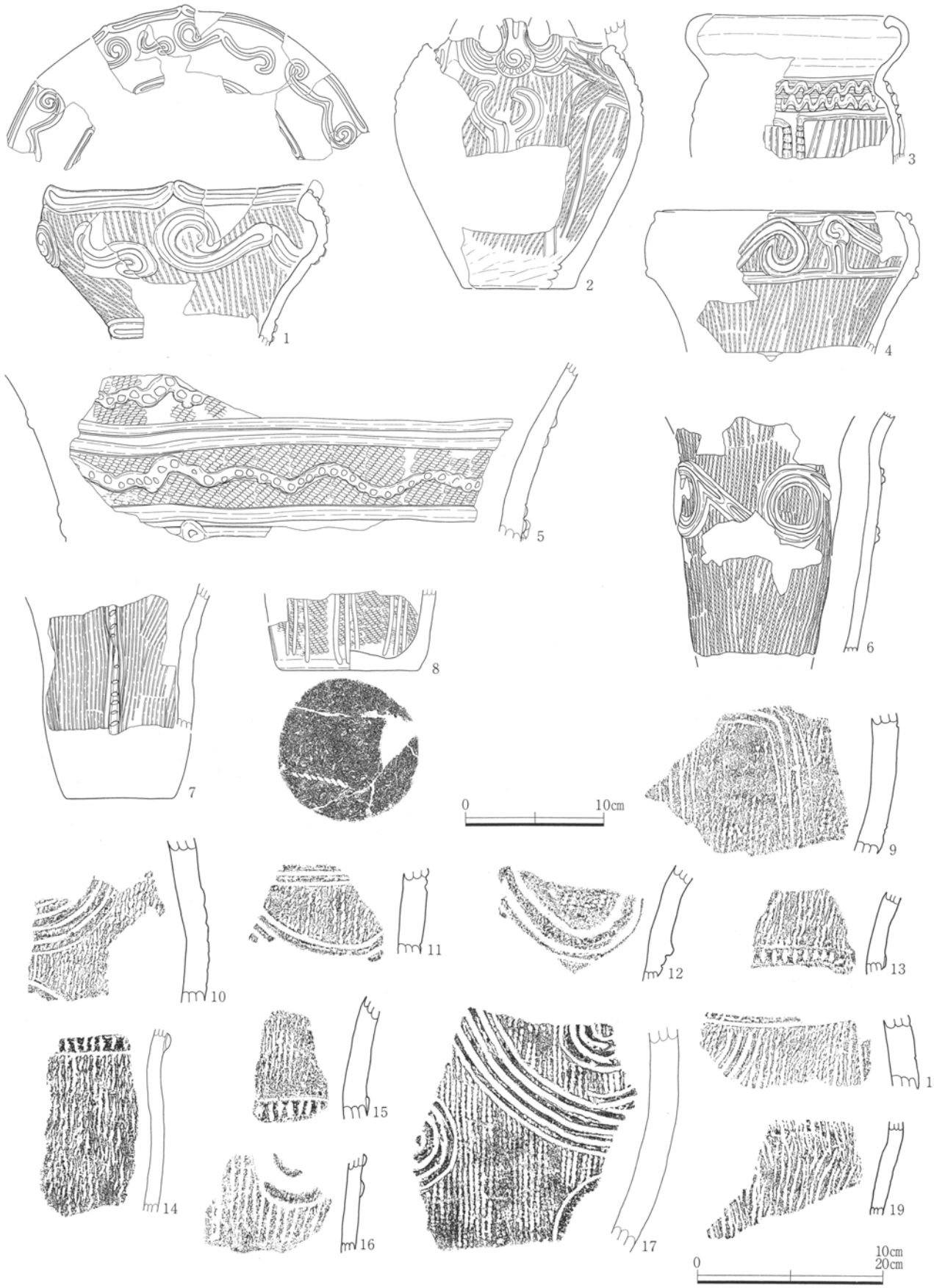


図85　20区　18号居出土遺物

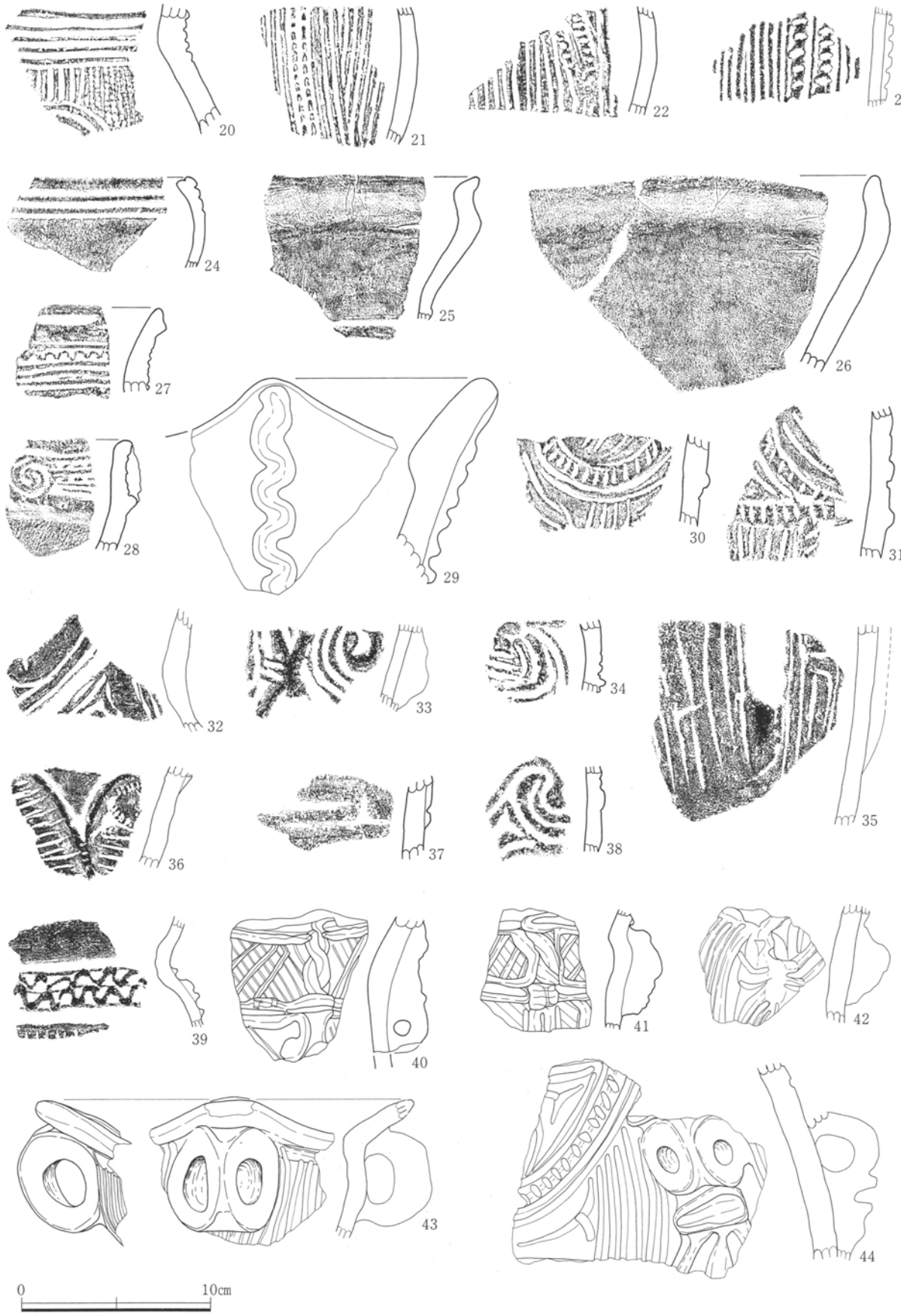


図86　20区　18号住居出土遺物

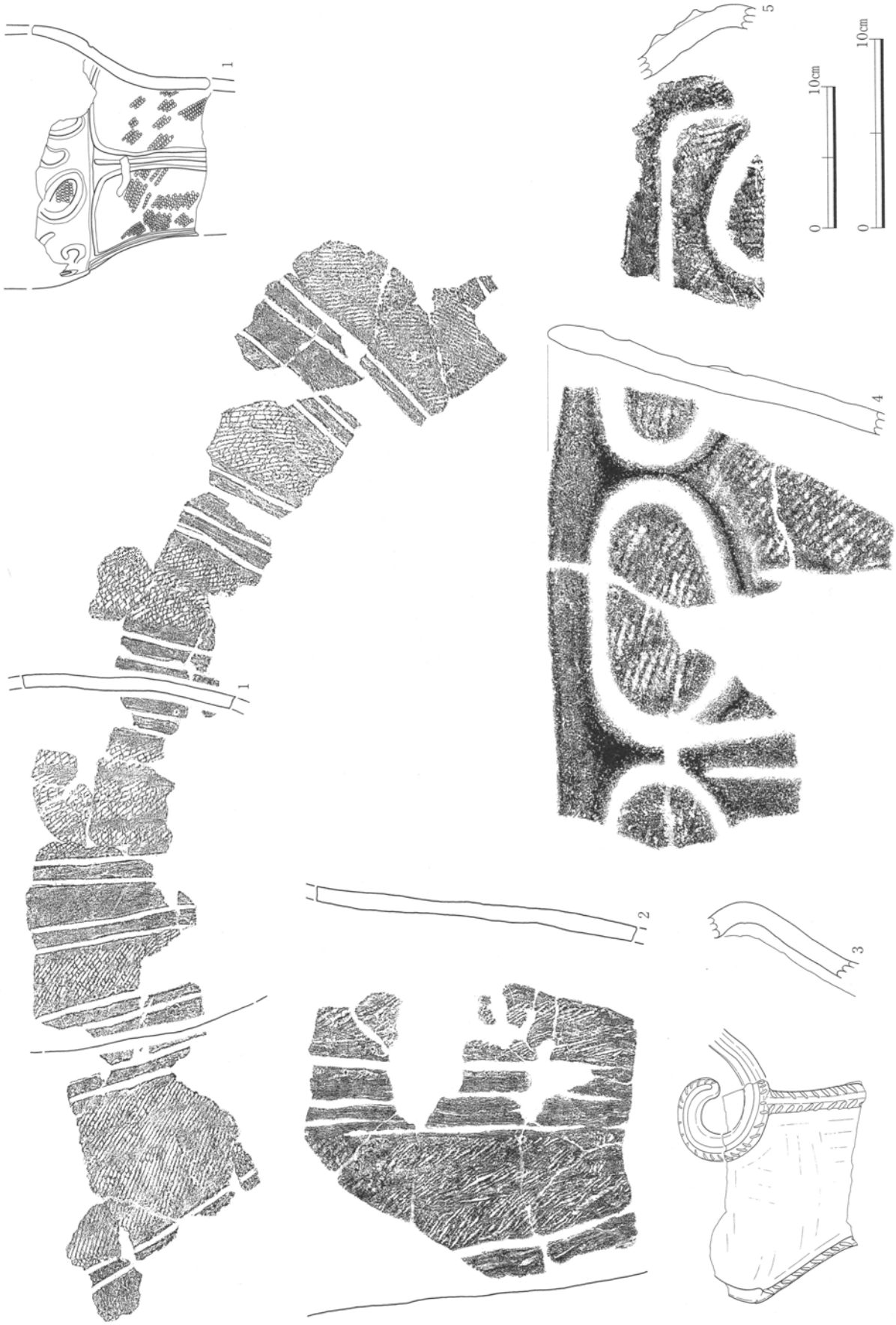


図87　20区　20号、21号住居出土遺物

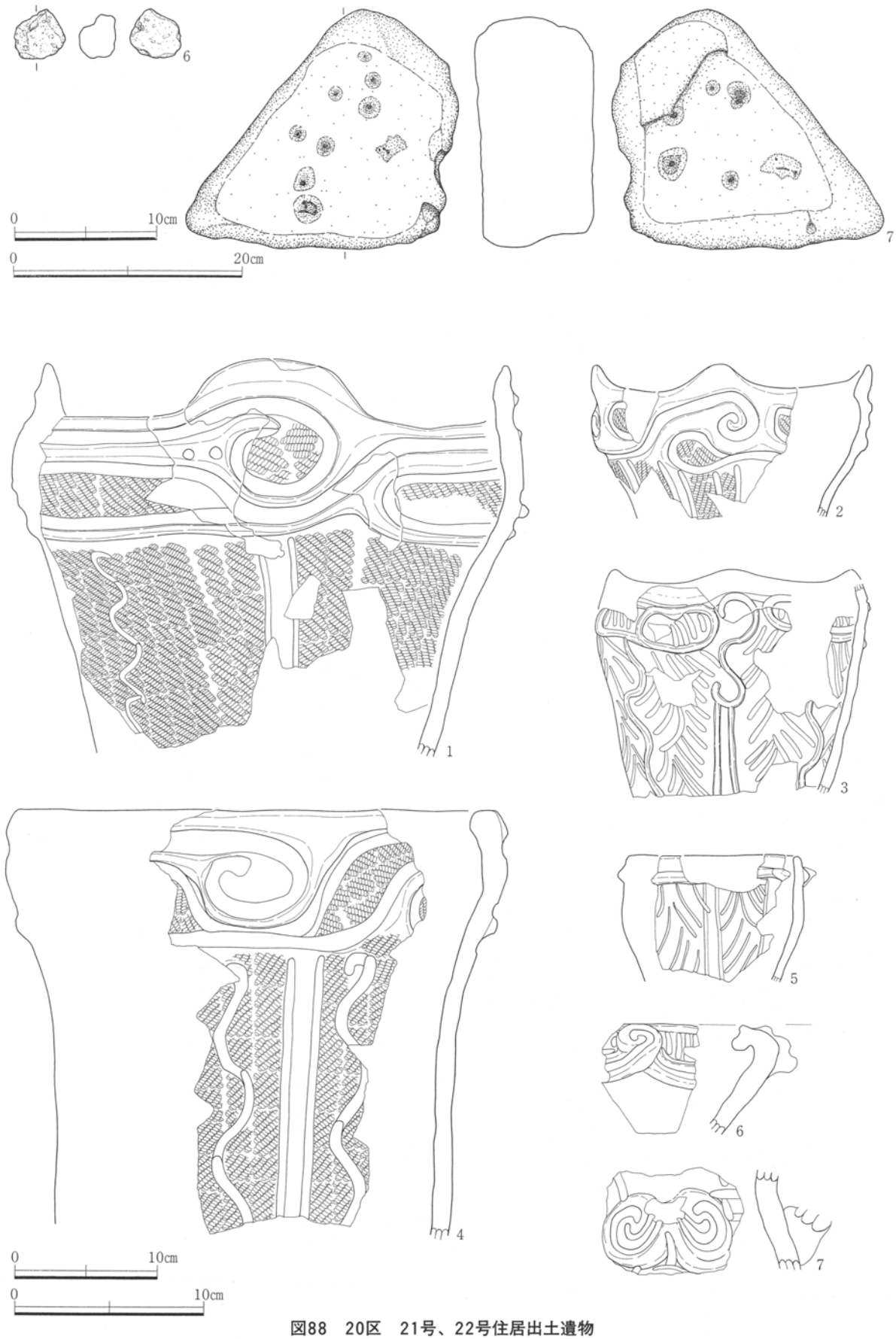


図88　20区　21号、22号住居出土遺物